



Title	圖書寮日本書紀永治二年頃點（本文篇）
Author(s)	石塚，晴通
Citation	北海道大學文學部紀要，27(1)，89-380
Issue Date	1979-03-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33428
Type	departmental bulletin paper
File Information	27-43_P89-380.pdf



圖書寮本日本書紀永治二年頃點（本文篇）

石
塚
晴
通

圖書寮本日本書紀永治二年頃點（本文篇）

石 塚 晴 通

宮内廳書陵部に藏せられる圖書寮本日本書紀卷第十二履中紀反正紀・卷第十三允恭紀安康紀・卷第十四雄略紀・卷第十五清寧紀顯宗紀仁賢紀・卷第十六武烈紀・卷第十七繼體紀・卷第二十一用明紀崇峻紀・卷第二十二推古紀・卷第二十三舒明紀・卷第二十四皇極紀は、卷第二十三舒明紀の奥書

永治二年三月十七日以彈正弼大江朝臣（以下缺）

より平安時代永治二年（一一四二）頃の書寫加點（移點）本と見られてゐる。これ等は、本文・訓點共に一筆ではなく卷により書寫者、加點者を異にするが、同じ頃に分担して書寫・加點したものと見られ、全體を一の國語資料と見做し得るかと考へられる（尚、現在の書陵部藏本は右記十卷に加へて院政後期書寫無點の卷第十應神紀・南北朝時代與國（ミミ）見書寫加點の卷第二神代紀下も含めて一部の本としてゐるが、此の二卷は性格の異なるものであり、本稿の（一）。

本資料と前田本日本書紀とが近い關係にあることは夙に指摘されてゐるが、筆者は前稿『前田本日本書紀院政期點

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

〔研究篇〕（『北海道大學文學部紀要』二十六ノ二、昭和五十三年三月）に於て兩本の共に存する部分の訓點について徹底比較し、全異同を掲げた。その結果、兩本の訓點の相違が明かにされたが、近い閒柄にあることは疑ひ無く、

文法・語彙等共通の問題として論じ得ることも少くないので、前の前田本院政期點に續いて此處に圖書寮本永頃點の全文を掲げる。

〔本文は原本の配行・字詰を保ち、訓點を嚴正に翻刻する釋文とする（漢字は原則として正字體を用ゐる）。訓點は、句讀點・返點・片假名點・ヲコト點・聲點・合符・合點等の總てを翻刻する。片假名點は現行片假名（右訓・左訓の別を保つ）、ヲコト點は平假名にて示す。平假名の右横に「」を附したるは一のヲコト點なることを示す。返點と「テ」との兼用點は漢字の左下に「テ」の如く示す。□にて圍みたる字は部分的に缺損してゐることを示す。（一）にて圍みたる注記等は私に補ひたることを示す。ミセケチ・誤字を示す符號「止印」・「」も、原則として原本の體裁を保つて其の箇所に翻刻する。聲點については、萬葉假名・字音語・破音字等の本文に附されたものは其の箇所に翻刻して左傍に（平）の如く注記し、訓點に附されたものは印刷の都合上省略して次號に一括して抜き出して示すものとする。〕

1 日本書紀卷第十二

2 去來穗別天皇 履 中 天 皇

3 瑞齒別天皇 反 □ 天 皇

4 去來穗別天皇 履 中 天 皇

5 去來穗別天皇大鷦鷯天皇太子 也 此 去來

6 伊母曰磐之媛命。葛城襲津彥女也。大鷦鷯

7 鵜天皇卅一年春正月、立 爲 皇 太子 時 年

8 八十七年春正月大鷦鷯天皇崩。太子、自

9 涼 閼、出之未卽尊位之間、以羽田矢代宿

1 之女黑媛ヒメ欲爲妃ミコ。納采アツフル既訖テ遣住吉スミヤ仲

- 11 皇子 而テ告ツケシメタマフ吉 日ヒ。時 仲皇子、冒タカヘ太子 名ミナ。以テ姦アカシツ
- 12 黑媛クロノミコト。是コト夜、仲皇子、忘ワスレサ手鈴テ於黑媛之家イヘ。而テ
- 13 歸焉。明日クルツヒノ之夜、太子不知シラ仲皇子自セル姦コト。而テ
- 14 到イタリマス之。乃入ミコトノ室、開トヘリマシマス帳テ居ミユカ於玉床。この頭コノカビ有ス鈴ス、オト音ヲ。
- 15 太子、異アハシヒタマ之。問 黑媛ナツノ曰、何鈴ス、ソ也。對曰 昨夜キノ之
- 16 非太子之所賣モチタマヘリシ鈴ニ乎ヤ。何更問トコタマ妾ニ。太子自知ヤツコ仲
- 17 皇子冒タカヘ名ナ。以テ姦ア黑媛。則、默モク之テ。避サリタマヒス也。爰仲皇
- 18 子、畏オソ有コト事コト。將殺太子。密ニ與兵。圍太子宮。時ニ
- 9 下ヘタリ群ノ木菟宿禰、物部オホ大前ヘ宿禰、漢コノ直祖阿ア
- 便主オム、三人、啓於太子。不信ウケタマハス。一云オホ太子故コト

21 三人、扶^{タスケ}太^タ子^シを^て令^{ノセ}乘^マ馬^{ウマ}而^ニ逃^{ニケ}之^ヲ。一^{イチ}云^ク大^{ダイ}前^{ゼン}宿^{シュク}

22 乘^{ノセマツ}馬^{ウマ}仲^{ナカ}皇^{クワン}子^シ、不^フ知^チ太^タ子^シ所^{ショ}在^ニ而^ニ焚^{ヒキ}太^タ子^シ宮^{ミヤ}。通^{トウ}

23 夜^ヤ、火^カ不^フ滅^{セツ}。太^タ子^シ、到^{イダリマシ}河^カ内^ニ。國^{クニ}之^ノ壇^{ダン}生^ハ坂^{サカ}而^ニ醒^{サメタマヒス}之^ヲ。

24 願^{ガン}望^{ボウ}難^{ナン}波^ハ。見^ミ火^カ之^ノ光^{クワ}而^ニ大^{ダイ}驚^{キョウ}。則^{ソク}急^{キウ}馳^チ之^ヲ而^ニ自^ジ大^{ダイ}

25 坂^{サカ}、向^{ムカフ}倭^{ヤマト}。至^シ于^ニ飛^{アスカ}鳥^カ山^{ヤマ}而^ニ遇^{ヘリ}少^{ショ}女^メ于^ニ山^{ヤマ}口^{カウ}。問^{モン}之^ヲ

26 曰^{イハレ}、此^{コノ}山^{ヤマ}有^{アル}人^{ヒト}乎^ヤ。對^{タイ}曰^{イハレ}、執^{シツ}兵^{ヘイ}者^{シャ}多^{サハニ}。滿^{マン}山^{ヤマ}中^{ナカニ}。宜^{イハレ}

27 廻^{メグリカヘ}自^ジ當^{タイマノ}摩^ノ之^ヲ。徑^{ミチ}踰^{コエタマヘ}之^ヲ。太^タ子^シ於^ニ是^ニ、以^{オモホサフ}爲^ス、聆^{リョウ}少^{ショ}女^メ

28 言^{コトヲ}而^ニ得^{ユツト}免^{オホマスカル}難^{ワサハヒ}。則^{ソク}歌^カ之^ヲ曰^{イハレ}、於^ニ朋^{トモ}佐^サ簡^{カン}珥^ニ、阿^ア布^フ

29 夜^ヤ、鳥^{トリ}等^{トウ}謎^メ鳥^{トリ}、彌^ミ知^チ度^{タク}沛^ヘ、麼^ハ、哆^ハ、駄^ハ珥^ニ、破^ハ能^ニ邏^ヲ

(平) 哆^タ (上) 嗜^キ (上) 摩^マ (平) 知^チ (上) 鳥^{トリ} (上) 能^ニ (平) 流^{リウ}、則^{ソク}更^{タラシ}還^{マデ}之^ヲ發^{ハツ}當^{トウ}縣^{ケン}之^ヲ兵^{ヘイ}而^ニて

「今」、「令」

32 追^ヒ來^{クル}。太子遠^{ハル}望^{ミナ}之^ニ曰、其彼來^カ者誰^{タリ}人也。何

34 則遺^{ツカ}一人^{一をトハシメ}問^て曰、曷^ナ人^ソ。且何^{イツチ}處^ニ往^{ユク}矣。對曰、淡^フ

35 路^チ野^ノ嶋^{シマ}之^シ海^ノ人^{アタ}也。阿^ア曇^{ツム}之^ノ連^{レン}濱^{ヘマ}子^コ
連 一
黑 云
友 阿 曇

36 爲^タに仲皇子、令追^{オヘシ}太子^を。於是、出伏^{カクレ}兵^をて圍^ム之。悉

37 得捕トコ當是時倭ヤマト直吾ア子コ籠コ素モトヨリ好仲ウルヘシ皇子ミコ預アザ

38 知其謀一密にシフヘ
聚精兵ヲシラケ
數百をモアヘ
於攪食ハカキ
栗林ハミノ
爲にクルス
仲

子、將^ス拒^{フセキマツラ}太子。時太子、不知^{シロ}兵^{フサカレル}塞^{こと}而^を出^一山^を

40 行^アこと、數^マ里^{サト}。兵^{ヘイ}衆^{シュウ}、多^サに塞^フて不^フ得^{トク}進^ス行^イこと乃^ス遣^ツ使^シ者^{シヤ}を問^{トヒ}て

41 曰、誰一人也。對曰倭直吾子籠也。使還問使

42 者曰誰使焉。曰皇太子之使。時に吾子籠、憚

43 其軍衆多、在乃謂使者曰、傳聞皇太子、有

44 非常之事。將助以備兵待之。然太子、疑其

45 心欲殺則吾子籠愕之。獻己妹日之媛。仍

46 請赦死罪。乃免之。其倭直等貢采女、蓋始

47 于此時歟。太子便居於石上。振神宮。於是、

48 瑞齒別太子、知太子不在此尋之。追詣。然太

49 子、疑弟王之心而不喚。時瑞齒別皇子、令

！ 曰、僕無黑心。唯愁太子不在此而參赴耳。

- 51 爰太子傳告弟王曰、我畏仲皇子之逆獨
- 52 避^レ至^レ於此。何且非疑汝耶。其仲皇子在之
- 53 獨猶爲我病。遂欲除。故汝寔勿異心、更返
- 54 難波而殺仲皇子。然後乃見焉瑞齒別皇
- 55 子、啓太子曰、大人何憂^{（ハヤウス）}之甚也。今仲皇子、
- 56 無道、群臣及百姓共惡怨之。復其門下人
- 57 皆叛爲賊。獨居之無誰識^{（ハカル）}。臣雖知其逆^{（サカス）}、未
- 58 受太子命之。故獨慄^{（オソム）}慨之耳。今既被命^{（ウケタマハリス）}、豈
- 59 惟^{（ハ、カラ）}於殺仲皇子乎。唯、獨懼^{（オソ）}之既殺仲皇子、
- 且、疑^{（ウタガハス）}殺臣^{（ヤ）}。敝^{（ヤ）}翼^{（ハ）}見^{（ミ）}得忠直者^{（オモツ）}欲^{（ホト）}明^{（アハ）}臣之

61 不^{サタカナルコトヲ}欺。太子則^{タタヘ}副木菟宿禰^{ヲカヘ}而^ヲ遣焉。爰瑞別

62 皇子歎^{ニケ}之曰、今太子與仲皇子、竝兄也。誰^{ニカ}に

63 從矣、誰^{ニカ}乖矣。然志無^ニ道、就^ハ有道、其誰^{ニカ}疑^ウ我^ヲを。

64 則^{イタリマン}詣^ニ于難波^ニ而^ニ伺^{タマフ}仲皇子之消^{アルカチ}息^ヲ也。仲皇子思

65 太子已^{ニケ}逃^{イロヒタリト}亡^ニ而無^ニ備。時有[□]近^{ツカマツル}習^{ハヤ}隼^{ヒト}人。曰刺^{サシ}

66 領^{ヒシ}巾。瑞齒別皇子、陰^ヒ喚^メ刺^{サシ}領^{ヒシ}巾而^ニ誂^{アトラフ}之^ヘ曰、

67 爲^{コソマツレ}我殺皇子。必^{フムタイセム}敦^ニ報^{イマシ}汝^ニ乃^{ヌイ}脫^{ニシキ}錦衣^{ヘカマ}禪^{アタヘタマフ}而^ニ與^ニ之。

68 刺領巾、待^{タシム}其誂^{アトラフ}言^ヲ而^ニ獨^{トコ}執^ニ矛^コ以^テ伺^ニ仲皇子之入^ヲを

69 則^ニ而^ニ刺^ツ殺^ス。即^{ツキス}隸^ニ于瑞齒別皇子。於是木菟

禰、啓^{ベシ}於瑞齒別皇子^ニ曰、刺^ツ領巾、爲^ニ人、殺^{サセマツル}

圖書寮本日本書紀永治二年頃點（本文篇）

（「促」、
誤、役、）

- 71 己^カ君^を其^ニ爲^ニ我^ハ、雖^モ有^ル大^{オホ}功^{イサヲ}於^ニ己^カ君^ニ無^ク慈^{ナイ}之^ヲ甚^ウ
- 72 矣。豈^カ得^ル生^ム乎。乃^ハ殺^ス刺^ス領^ヲ巾^を。即^チ日^ヒ向^ム倭^{ヤマト}也。夜^ノ
- 73 半^ニ、臻^ル於^ニ石^{イソノ}上^{カミ}而^テ復^{カヘリ}命^ヲ。於^ニ是^ニ喚^{イロ}弟^の王^{ミコ}以^テ敦^{アツクメ}寵^{ミタマフ}。
- 74 仍^モ賜^ス村^{ムラ}合^ヘ屯^{ミヤケ}倉^を。是^ニ日^ニ、促^{トラフ}阿^ア曇^{トモ}連^{レン}濱^{ハタ}子^を。
- 75 元^ノ年^ノ春^ノ二^ニ月^ニ壬^ニ午^ニ朔^ニ皇^ノ太^ノ子^ノ即^チ位^ス於^ニ磐^{イハ}余^レの
- 76 稚^ワ櫻^{サクラ}の宮^{ミヤ}。●夏^ノ四^ニ月^ニ辛^ニ巳^ニ朔^ニ丁^ニ酉^ニ、召^メ阿^ア曇^{トモ}連^{レン}濱^{ハタ}
- 77 子^ノ詔^{ミコトノ}之^ヲ曰^ク、汝^ニ與^ニ中^ノ皇^ノ子^ノ、共^ニ謀^ハ逆^{サカ}之^ヲ將^ス傾^ス國^ヲ家^ヲ。
- 78 罪^ノ當^{レリ}于^ニ死^{シヌル}。然^{レドモ}、垂^{タレタマヒ}大^{オホ}恩^{オン}而^テ免^ユ死^{コロスヲ}。科^{ナホセ}墨^{ヒタヒキサムツミ}。即^チ日^ヒ黥^{イサキ、タ}
- 9 因^リ此^ノ時^ノ人^ヲ曰^ク阿^ア曇^{トモ}目^メ。亦^モ免^{シタマヘ}從^ニ濱^{ハタ}子^ノ、野^ノ嶋^ノ
- 8 人^ヲ等^ヲ之^ノ罪^ヲ促^{ツカフ}於^ニ倭^{ヤマト}之^ノ蔣^{コモ}代^ノ屯^ノ倉^ヲ。●秋^ノ七^ニ月^ニ己^ノ

81 酉朔壬子立葦田宿禰之女黑媛クロハルノ爲皇妃。

82 〔イ〕レハサカ生磐坂イハサカの市の邊イハサカの押羽イハサカの皇子、御馬皇子、青海

83 皇女ヒメミコ一曰飯次イハサカ妃ミコ幡ハタ梭シの皇女生中磯イハサカの皇女。

84 是年也大歲庚子

85 二年春正月丙午朔己酉立瑞齒別皇子ミナモト

86 爲儲君ヒツキノミコ●冬十月都於磐余イハサカ。當是時ミヤコツクル平群ヘイリの木（誤点）

87 菟宿禰ツツ、蘇賀（平）（上）、智宿禰、物部の伊呂イロ弗フ太連、

88 圓ワツラ豆マメ此云大オホミ使主、共執國事。十一月作磐イハサカ

9 池ミヅウミ

9 三年冬十一月丙寅朔辛未、天皇ミカド泛フタマダ兩枝

（「子」、「午」）

101 五年春三月戊子朔於筑紫所居三神見

（「等」）

102 于宮中言、何舊我民矣。吾今、慚汝於是、禱

103 而不祠。秋九月乙酉朔壬寅、天皇狩于淡

104 路嶋。是日河內飼等從駕執轡先是飼部

（「驛」、「キミ」）

105 之驛皆未差。時居嶋、伊契諾神、託祝曰、不堪

106 血鼻矣。因以卜之。兆云、惡飼部等驛之氣。

107 故自是後、頓絕以不驛飼部而止之。癸卯

108 有如風之聲呼於大虛曰、釵刀太子王也。

109 卜呼之曰、鳥往來羽田之汝妹者、羽狹丹

1 立往汝妹此云亦曰、狹名來田蔣津之

（平）（上）（平）

圖書寮本日本書紀永治二年頃點(本文篇)

「誤」ハ「フ」
カ「ノ」ハ「ミ」
誤

- 111 命^{ミコト}羽^ハ狹^サ丹^ニ葬^{タチス}立^{タチス}往^{タチス}也。俄^{タチ}而使^{ツカヒ}者^{カヒ}忽^{タチ}來^{タチ}曰^{タチ}、皇^{ミコト}
- 112 妃^{ミメ}薨^{カムサリマシス}。天皇^{ミメ}大^{タチ}驚^{タチ}之^{タチ}。便^{タチマツリ}命^{オホムマ}駕^{タチ}而^{タチ}歸^{タチ}焉^{タチ}。丙^{ミメ}午^{タチ}至^{イタリマシ}
- 113 自^{ミメ}淡^{タチ}路^{タチ}。●多^{タチ}十^{タチ}月^{タチ}甲^{タチ}寅^{タチ}朔^{タチ}甲^{タチ}子^{タチ}葬^{タチ}皇^{ミメ}妃^{タチ}。既^{タチ}而^{タチ}
- 114 天^{ミメ}皇^{タチ}、悔^{クイタマヒ}之^{タチ}。不^{フサメタマハ}治^{タチ}神^{タチ}祟^{ホロホセル}而^{タチ}亡^{タチ}皇^{ミメ}妃^{タチ}。更^{タチ}求^{タチ}其^{タチ}咎^{トカ}。○
- 115 或^{タチ}者^{タチ}曰^{タチ}、車^{タチ}持^{モチ}君^{タチ}、行^{マカリ}於^{タチ}筑^{タチ}紫^{タチ}國^{タチ}而^{タチ}悉^{カトリ}校^{タチ}持^{モチ}車^{タチ}
- 116 部^{タチ}兼^{タチ}取^{タチ}充^{カミヘタタミ}神^{タチ}者^{タチ}。必^{ナラ}罪^{タチ}矣^{タチ}。天^{ミメ}皇^{タチ}則^{タチ}、喚^{メシ}車^{タチ}持^{モチ}君^{タチ}
- 117 以^{タチ}推^{トヒタマフ}問^{タチ}之^{タチ}。事^{マコトナリ}既^{タチ}實^{タチ}焉^{タチ}。因^{タチ}以^{タチ}數^{タチ}之^{タチ}。曰^{タチ}、爾^{タチ}雖^{タチ}車^{タチ}
- 118 持^{タチ}之^{タチ}、縱^{ホシマ、}檢^{カトリ}校^{タチ}天^{ミカト}子^{タチ}之^{タチ}百^{オホムタカラ}姓^{タチ}。罪^{タチ}一^{ヒトツ}也^{タチ}。既^{タチ}分^{クハリ}寄^{アツマツル}
- 119 神^{タチ}車^{タチ}持^{モチ}部^{タチ}兼^{タチ}奪^{ハヒトリ}取^{タチ}之^{タチ}。罪^{タチ}二^{タチ}也^{タチ}。則^{タチ}負^{オホセ}惡^{タチ}解^{タチ}
- 1 善^{タチ}解^{タチ}除^{タチ}而^{タチ}出^{イタシ}於^{タチ}長^{オカ}渚^ハ崎^{サキ}。令^{タチ}被^{タチ}禊^{タチ}。既^{タチ}而^{タチ}詔^{ミコトノ}

121 之て曰、自今以後、不得^{ツカサ}掌^ミ筑紫之車、持^ミ部^ミを乃

122 悉收て以更分^{クハリ}之て奉^{タテマツリ}於^ミ三^ミ神^ミ

123 六年春正月癸未朔戊子立草香の幡^{ハタ}梭^ヒの皇^{ヒメミコ}

124 女^メて爲皇后。辛亥始建藏^{クラ}の職^{ツカサ}。因て定藏部^{クラヒトヘ}。二月

125 癸丑朔喚^{メシ}鯽^{フナ}魚磯^シ別^{ワケ}之王^{オホキミ}之女^メ太姫^{イラワメ}郎^ミ姫^メ、高

126 鶴^{ヅル}郎^{イラマ}姫^メて納^{メシイレ}於^ミ後宮^{キヤキノミヤ}て竝^{シタマフ}爲^ミ嬪^{ミメ}。於是、二^{フタ}嬪^{ハシタミメ}恆^ミ歎

127 之て曰、悲哉、吾兄^{イロセノオコ}王^{ヤミ}何處^{イトコカ}去^{サリマシケム}耶。天皇聞其歎^{ナゲ}を

128 而て問之て曰、汝^{イマシ}何歎^{ナケク}息也。對^{コタヘ}曰、妾^{ヤツコカ}兄^{イロセ}驚^{ワシ}住^{スミ}之王^{オホキミ}

129 爲人、強^{コホ}力^ミて輕捷^{カルク}由是^ミ獨馳^ヒ越^{コス}八尋^{ヒヨ}屋^ヤを而て遊^{イユキ}

。既^ミ經^ミ多^{オホ}の日^ミて不得^{アヒカダツ}面^ミ言^ミこし。故歎^{トマウス}耳。天皇悅^{ヨロ}其

圖書寮本日本書紀永治二年頃點（本文篇）

131 強力^{コトヲ}以^テ喚^メ之。不^{アツ}來^コ亦重^カ使^カ而^テ召^メ、猶^ナ不^ス參^{マツ}來。

132 恆^{ツリ}居^リ於^ニ住^ミ之^ノ吉^{ムツ}邑^ツ。自^レ是後廢^レ以^テ不^{セト}求^メ。是讚岐^ハ。

133 國造、阿波國^ノ脚^ヅ咋^ヒ別^ヅ凡^テ二^{フタ}族^{ヤカラ}之始^ハ祖^{オヤナリ}也。●三

134 月壬午朔丙申天皇玉體^{オホムヤマヒシタマヒ}不^{ヤクサミタマフ}念^デ水土弗^フ調。

135 崩^ス于稚櫻^ノ宮^{ミヤ} 七^シ時^{トキ}年^{ネン} ●冬十月己酉朔壬子葬

136 百^{ヒャク}舌^{ゼツ}鳥^{トリ}耳^{ミミ}原^ノ陵^{リョウ}

137 ●瑞齒^{ミズハ}別^{ワケ}天皇^{ミコ} 反^{サカサマ}正^{ただ}天皇^{ミコ}

138 瑞齒^{ミズハ}別^{ワケ}之^ノ天皇^{ミコ} 去^{イサ}來^{キタ}穗^ホ別^{ワケ}之^ノ天皇^{ミコ} 同^{オナシ}母^{ハハ}弟^{イロト}也。去

穗^ホ別^{ワケ}天皇^{ミコ} 二年^{ニニシツネ} 立^{タツ}爲^ニ太子^{ミコ} 時^{トキ}年^{ネン} 天皇^{ミコ} 初^{ハジメ}、

141 生^{セリ}于^ニ淡路宮^{タンロウミヤ}。生^{アソマンナカ}而^ニ齒^{ミハ}如^{ヒツ}一^{ヒツ}骨^{ホネ}容^{ミカ}姿^{ササカダ}美^{ウルハシ}麗^{カミ}。於

141 是、有井。曰瑞^{ミツ}の井。則汲^{アムシマツル}之洗太子。時多^タ遲花^ナ、

142 有井中。因^{ミナト}て爲太子名也。多遲花者^{イタトリ}は今虎杖^{イタトリ}

143 花^ナ也。故稱^{タヘ}謂多遲比瑞齒別天皇。六年春

144 三月^ニ去來穗別天皇崩

145 元年春正月丁丑朔戊寅儲君^{ヒツキノミコ}即^{アマフヒツキンヲシメス}天皇位

146 ●秋八月甲辰朔己酉立大宅臣^{オホヤケ}祖^{オヤ}木事^{コト}之

147 女^{ムスメ}津野媛^{ヒメ}爲皇^{ミコ}大^{オホ}夫人^{フイメ}。生^{アサキ}香火^カ姫^{ヒメ}皇女^{ヒメミコ}、圓^{ツラ}

148 皇女^{ミコ}又^{マシイレ}納^{イロト}夫人^{オト}弟^ニ媛^{ヒメ}爲生財^{イロト}皇女^{ミコ}與高部

149 皇子^{ミコ}。●冬十月都於河内丹比^{タチ}。是^シ謂^{カキ}柴離宮^{カキ}。

是時^{カセ}風雨^{アメ}順時^{イツ}。穀^{タデ}成就^{ミノレリ}。人民^{オホムタカラ}富饒^{トミ}饒天^{ニキヘヒ}

圖書寮本日本書紀永治二年頃點（本文篇）

151 下タヒラカナリ太平。是年也大歲丙午

152 六五年春正月甲申朔丙午瑞齒マシス別天皇崩

153 也于正寢オホトノ

154 日本書紀卷第十二

1 日本書紀卷第十三

2 雄朝津間稚子宿禰天皇 允恭天皇

3 穴穗天皇 安康天皇

4 雄朝津間稚子宿禰天皇 瑞

5 母弟也天皇 岐嶽至於總角、仁惠檢下。及

6 壯篤病容止不便五年春正月瑞齒別天

7 皇崩。爰群卿議之曰、方今大鷦鷯天皇之

8 子雄朝津間稚子宿禰皇子 草香之皇

9 子。然雄朝津稚子宿禰皇子 長之仁孝。郎

吉日一跪上天皇之璽。雄朝津間稚子皇

「亦」ハ「業」
ノ訓

11 子サトリ謝テ曰、我之不一天、久ワトリ離リ篤キ疾ロマヒ不能キ步アルク行こと且ヤツカレ

12 我既ムトシ欲ヤメ除テ病ヲ獨サキノミカト非マウス奏マウス而シカモ□□ヤ□□一治ツサムレトモ病ヲ猶ヲ

13 勿イムルコト差イニス由ニ是ニ先サキノミカトの皇キミ責セ之ヲ曰、汝雖患病、縱ヤフレリ破ヤ身ヲ。

14 不オホニモタヘス孝コ孰イツレカ甚カラム於コレ茲コレ矣ニ其コノカミ長ウマレタ生レトモ之ニ遂シ不マツル得カマヒス繼レル業カマヒス也ニ。業ヲ也ニ。業ヲ也ニ。

15 亦ヒツキ我ヤツカレ兄ヲ二フタヘンテ天オホカナリトシ皇キミ、愚オホ我ナリトシ而ニ輕カサ之ヲ。羣オホ卿イナルコトナリ之ニ共ニ所ナリ知シレリ。

16 夫天下者オホイナ大器也。帝ミカド之位者オホ鴻イナルコトナリ業ヲ也。且民之

17 父カツ母イロニ斯レ則ス賢サカシヒトヒシリ聖ヲカサナリ之ニ職ヲ豈オ下ヒト愚オホ之ニ任ヘム乎。宜更ニ

18 選サカシキ賢キミ王キミ宜テ而ニ矣オノレ。寡オホ人キミ弗シ敢ハ當ア。群オホ臣キミ再ヲ拜カハム言マウサフ、

9 帝ミカド位ハ不レ可レ以レ久ク曠アツ。天アマツ命ミコトノミコト不レ可レ以レ謙ニツリ拒アヘク。今

2 王キミ雷カミ時トキ逆サカサマ衆モロク不レ正タ號ナク位チ臣ヤツカレ等ヲ恐オホム百ヒャク姓セウ望シ

「萬民」ノ「タ」
ニ轉倒符號アリ

21 絶也。願は大王雖勞、猶即天皇位。雄朝津閒

22 稚子皇子曰、奉は宗廟社稷、重事也。寡人篤

23 疾、不以稱猶辭而不聽。於是羣臣皆固、請

24 曰、臣伏て計之、大王奉は皇祖宗廟、最稱。雖天

25 下の萬民、皆以爲宜。願は大王聽之

26 元年冬十有二月、妃忍坂大中姫の命、苦羣

27 臣之憂吟而て親執洗手水、進于皇子之前。仍て

28 啓之曰、大王辭而不即位、空之既經年

29 月、臣百寮愁之、不知所爲。願大王從群望て

即帝位。然皇子、不欲聽而背居不言。於

31 是、大^ナ中^カ姫^{ヒメ}の命^{ミコト}惶^{カシコマリ}之^ヲ不^シ知^シ退^シ而^カ侍^{サフラヒタマフ}之^ヲ經^{ヒトキイツトキ}四^ヨ五^イ

32 剋^セ當^タ于^ニ此^{コノ}時^{トキ}秀^{シホ}冬^{フユ}之^ノ節^{フシ}風^{カゼ}亦^モ烈^{ハヤシ}寒^{サムシ}以^テ大^{オホ}中^{ナカ}

33 姫^{ヒメ}所^コ捧^{サヘケタル}碗^{ハクリ}之^ノ水^{ミヅ}溢^{アツレ}而^{シテ}腕^{タデサ}凝^{コオリ}不^レ堪^タ寒^{サムシ}以^テ將^{マカ}死^シ皇^{ミコ}

34 子^{ミコ}願^{ネガフ}之^ヲ驚^{オドロク}則^{スレバ}扶^{オコシ}起^{タテ}謂^{イハレ}之^ヲ曰^{イハレ}嗣^{スセ}位^イ是^ニ重^{オモシ}事^{コト}不^レ得^ズ

35 輒^{タヘヤス}就^{ツク}是^ニ以^テ於^ニ今^{イマ}不^レ從^フ然^{シテ}今^{イマ}群^{ヒト}臣^{ミコト}之^ノ請^{コトワリ}事^{コト}理^{ツキ}

36 灼^{イハチコナリ}然^{シテ}何^{ナニ}遂^{スヘ}謝^{イナヒムヤ}耶^ヤ爰^{イナヒムヤ}大^{オホ}中^{ナカ}姫^{ヒメ}命^{ミコト}仰^{アツキ}歡^{ウレシ}則^{スレバ}謂^{イハレ}羣^{ヒト}

37 卿^{キミ}曰^{イハレ}皇^{ミカド}子^{ミコ}將^{マカ}聽^{ユル}羣^{ヒト}臣^{ミコト}之^ノ請^{コトワリ}今^{イマ}當^タ上^{ウヘ}皇^{ミカド}之^ノ璽^シ符^フ

38 於^ニ是^ニ群^{ヒト}臣^{ミコト}大^{オホ}喜^{ウレシ}即^{スレバ}日^ヒ捧^{サヘケタル}皇^{ミカド}天^{アメ}之^ノ璽^シ符^フ再^{マタ}拜^{マカ}焉^ヤ

皇^{ミカド}子^{ミコ}曰^{イハレ}群^{ヒト}卿^{キミ}共^ニ爲^{タス}天^{アメ}下^{カミ}請^{コトワリ}寡^{オノ}人^{ヒト}之^ノ事^{コト}

40 何^{ナニ}敢^{タマフ}遂^{スヘ}辭^{イナヒムト}乃^{スレバ}即^{スレバ}帝^{ミカド}位^イ是^ニ歲^{トシ}也^ヤ太^{オホ}歲^{トシ}壬^{ミズノエ}子^ノ

(行末ニ不審アリ)

41 二年春二月丙申朔己酉、立忍坂大中姫ミナトメをて

42 爲ミタメ皇后。是日爲ミタメ皇后、定形部ミナモト。生木梨ナシ輕カホの皇ミコ

43 子、名刑カタ大娘オホイラツ皇女、境黑彦サカヒクロヒコ皇子穴穗アナホ天皇

44 輕カホ大娘オホイラツ皇女八釣ヤツリ白彦シロヒコ皇子大泊オホハセ瀬セ稚武

45 天皇、但馬タマの橘ヒメミ大娘オホイラツ皇女、酒見皇女を。初、皇后

46 隨シタカヒタマヒ母ハハ在マシマス家、獨遊タマフソノミ苑ノミ中ニ時トキに園雞ケ國造ミヤツク從ヨリ傍ホトリ侄ミチ

47 行之。乘馬ニ而テ蒞籬ニ謂皇ミコ后ミコ之ノ能ヲ作ツクル菌キノ乎、

48 汝ナヒト者汝ナヒト此コノ鼻ハナ也ナリ且ヤ曰イハレ、壓イ乞テ戶ドシ母ハハ其アラ蘭キ一ヒト莖ミヅ焉

49 壓イ乞テ此コノ鼻ハナ也ナリ且ヤ曰イハレ、壓イ乞テ戶ドシ母ハハ其アラ蘭キ一ヒト莖ミヅ焉

因ナニ以ニ問カ曰イハレ、何ナニ用セム求カ蘭アラ耶ヤ。乘馬ノレル者ヒト對ヒト曰イハレ、行ユカシ

51 山ヘラム撥マクナキ蟻マクナキ此云摩時ヒト皇后オモヒメスヒタマヒ結ムス之ノ於コノ意ノ裏ノ乘ノレル

(上) (上) (平)

52 馬ヒト者ヒト之ノ辭ハジメ無ナシ禮マツ即ハ謂イフ之ヲ曰ク首オホ也ヒト余オレ不シ忘スレ矣ナ是

53 後ニ皇ミコ后ノ登ナリタマフ一ヒト祚ナリタマフ之ノ事コト年トメ覓モトメ乘ノ馬ウマ乞コヒシ蘭アラ者ヲ而キ數カズ

54 昔ムナシ日ヒ之ノ罪ツミ以モツ欲ホシ殺ス爰コト乞コヒシ蘭アラ者ヲ額ヒタヒ槍ツチ地ツチ叩ノ頭アタて

55 曰マサク臣カ之ノ罪ツミ實マ當アタレシ死スル然ニ當マ其ノ日ヒ不シ知リ貴タマフ者ヲ於カシコキヒトニマシマサヒトイフコトヲ

56 是コト皇ミコ后ノ赦ユルシタマヒ死ス刑オトシ貶オトシ其ノ姓ナリ謂イフ稻イナ置ヲ

57 三ミ年トシ春ハル正タタ月ツキ辛ツカ酉ツカ朔ハシ遣ツカハシ使ツカ求モトメ良タカシ醫ヲ於カ新ニ羅ハシ

58 秋アキ八ヤチ月ツキ醫タスシ至マツタタリ自ヨリ新ニ羅ハシ則スナハチ令ミコトノ治シ天タマ皇ノ病ヤマヒ未ナ經カヘシタマフ

9 幾イヘ時トキ病ヤマヒ已マデ差サ也ナ天タマ皇ノ歡ヨロコビ之ノ厚タマモノ賞ヲ醫ヲ以モツ歸カヘシタマフ于ニ

61 四年秋九月辛巳朔己丑、詔曰、上吉之治タニクサムル。

62 人オホムタカラ一民得所カヘネて姓タカ一名勿錯タカ。今朕アヘ踐祚ヒツキシ於茲四年。

63 上アランヒ下相爭ワホムタカラて百姓不安。或誤失アヘ己姓。或故コトに認ト。

64 高ウチ氏を其不コトは至於治者蓋由是也。朕雖不フサナシ一賢、

65 豈非正其錯乎。群臣議定マウセ奏之。群臣皆言、

66 陛キミ下舉失アヤマテ正枉サダメムヒトハ而カヘネ定ヤツカレ氏姓者ヤツカラ、臣等カム冒死ツカラムト奏マサクに

67 可ユルサレヌ戊申詔曰、群卿百寮及諸國造等、皆各

68 言、或ミコヘナは帝皇之裔アヤシクシ、或ミコヘナ異アヤシクシ之アヤシクシ天降。然三才ミチ顯アラハレ分ワカレて

69 以コノカメ來多歷ヘス萬一歲ヨロツトセ。是以一モノイミシ氏蕃ナレリ息ヨロツカヘネ更爲ナレリ萬一姓。

知其實。敢諸マコト氏姓人等カヘネ沐浴ユカハアミ齋戒モノイミシ各爲ヨロツカヘネ。

「モノイミシ」
次行「齊戒」ノ
訓ノ誤カ

81 息。時諸人悉聚て無闕。唯玉田宿禰ヘムヘラス無之也。

82 吾マウス襲マウス奏言、殯宮大夫玉田宿禰非見殯所ヘムヘラスサカリ。

83 亦遣吾襲マウス於葛城令視玉田宿禰。玉田宿

84 禰方集フナヒ男ヲト女メ而ヲ酒宴焉。吾襲舉狀ノタヒコトノカタチ具告玉

85 田宿禰則畏有事以馬一疋授吾襲ヒトツ爲禮オヤ。

86 幣ヒ乃密シノヒ遮サヤリ吾襲マウス而殺コロシツ于道ミチ路。即逃隱武內

87 宿禰之墓城ハカノウチ。天皇聞キコシメシ之喚オノ玉田宿ミヤノ。

88 禰ミヤノ疑ウタガハシ之（平）甲服ヨロセ襖ウチ中而マウケリ參赴ヨロヒ甲端自衣中、

9 出之。天皇分アホラカ明ミツ欲ムトシ知其狀シロシメセ乃令小獵フヘリ田タ采サヘ。

9 賜酒于玉田宿禰。爰采女アホラカ分明ミツ瞻衣中。

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

- 91 有^{コロヒ}鋸^{ツツサマ}而^{マウス}具^{マウス}奏^{マウス}于^{マウス}天^{マウス}、皇^{マウス}。と設^{トス}兵^{コロシタマハ}而^{トス}將^{トス}殺^{トス}。玉^{トス}田^{トス}
- 92 宿^{シノヒ}禰^{ニヒ}乃^{ニヒ}密^{ニヒ}逃^{ニヒ}出^{ニヒ}而^{ニヒ}匿^{カレス}家^{カレス}。天^{カレス}皇^{カレス}更^{オコシ}發^{イカサ}卒^{カク}而^{カク}圍^{カク}玉^{カク}
- 93 田^{トウ}家^{マウス}而^{トウ}捕^{トウ}之^{トウ}乃^{トウ}誅^{コロス}。冬^{コロス}十^{コロス}有^{コロス}一^{コロス}月^{コロス}甲^{コロス}戌^{コロス}朔^{コロス}甲^{コロス}
- 94 申^{マツル}、葬^{ミツ}瑞^ハ齒^{ミツ}別^{ミツ}天^{ミツ}皇^{ミツ}于^{ミツ}耳^{ミツ}原^{ミツ}之^{ミツ}陵^{ミツ}
- 95 七^{ミツ}年^{ミツ}冬^{ミツ}十^{ミツ}二^{ミツ}月^{ミツ}壬^{ミツ}戌^{ミツ}朔^{ミツ}讌^{ウタケス}于^{ミツ}新^{ニヒ}室^{ミツ}。天^{ミツ}皇^{ミツ}親^{ミツ}
- 96 之^{ヒキタマフ}撫^{ミコト}琴^{ミコト}皇^{ミコト}后^{ミコト}起^{タチマヒタマフ}。既^{ミコト}終^{ミコト}而^{ミコト}不^{ミコト}言^{マウシタマハ}禮^{ミコト}事^{ミコト}。當^{ミコト}
- 97 時^{トキ}風^{ヒト}俗^{ヒト}、於^{ウタケ}宴^{マフ}會^{マフ}、舞^ミ者^ミ之^ミ舞^ミ終^ミ則^ミ自^{ミツカラ}對^{ミツカラ}座^{ミツカラ}。長^{ウラカミ}曰^{ミツカラ}、
- 98 奉^{タチマツル}娘^{フムナ}子^{フムナ}也^{フムナ}。時^{フムナ}天^{フムナ}皇^{フムナ}謂^{マウシタマヒ}皇^{マウシタマヒ}后^{マウシタマヒ}曰^{マウシタマヒ}、何^{ウシナヘル}失^{ウシナヘル}常^{ウシナヘル}禮^{ウシナヘル}也^{ウシナヘル}。
- 9 后^{カシコマリ}惶^{タマヒ}之^{タマヒ}復^{タチマヒシタマフ}起^{タチマヒシタマフ}。舞^{タチマヒシタマフ}。竟^{ノタウヘタ}言^{タチマツル}奉^{マウシタマフ}娘^{ウシナヘル}子^{フムナ}。天^{フムナ}皇^{フムナ}即^{フムナ}
- 11 皇^{ミコ}后^{ミコ}曰^{ミコ}、所^{タチマツル}奉^{フムナ}娘^{フムナ}子^{フムナ}者^ハ誰^{タレン}也^{タレン}。欲^{トモフ}知^{シラム}姓^{カハネ}字^ナ。皇^{ミコ}

- 101 后ヤムコト不獲已マウシタマハク而奏言ヤツコカ妾弟名オト弟ヒメ姫ヒメ焉カホ弟カホ姫カホ容カホ
- 102 姿ナラヒ絶スグ一レ妙ナラヒ無比ナラヒ其ウルウシキ艷色トホリ徹衣コロモヨリ而テ見ミ之レ是以ナレリ時トホリ
- 103 人ナツ號テ曰トホリ衣イフメ通トホリ郎イフメ一レ姫ヒメ也コ、ロヤシ天皇之志カケタマヘリ存衣トホリ通トホリ郎トホリ
- 104 姫イラメ故シ强皇シロシメシ后シロシメシ而テ令タヤスク進タヤスク皇タヤスク后タヤスク知タヤスク之タヤスク不タヤスク輒タヤスク言タヤスク禮タヤスク
- 105 事コト爰コト天コト皇コト歡コト喜コト則タルツ明ヒテ日ツカハシ遣ツカハシ使ツカハシ者ツカハシ一レ者ツカハシ喚ツカハシ弟ツカハシ姫ツカハシ時ツカハシ
- 106 弟イメ姫イメ隨イメ母イメ以ヘリ在ヘリ於ヘリ近アツミ江サカ坂サカ田サカ弟サカ姫サカ畏サカ皇サカ后サカ
- 107 之ミヅノ情ミヅノ而ミヅノ不ミヅノ參マウコサ向マウコサ又カサネ重ナ、タヒ七ナ、タヒ喚ナ、タヒ猶イサヒ固イサヒ辭イサヒ以イサヒ不イサヒ至イサヒ
- 108 於コト是コト、天コト皇コト不コト悅コト而コト復ミコトノリシテ勅ミコトノリシテ一レ舍トネリ人ナカトムノ中ナカトムノ臣イ烏イ一レ賊イ
- 9 使ツノ一レ主オホ曰オホ、皇オホ后オホ所タカマツル進タカマツル之タカマツル娘ツムナ一レ子ツムナ弟ツムナ姫ツムナ喚メサトセ而メサトセ不メサトセ
- 11 汝イハシ自マカリ往マカリ之マカリ召メシ將ナ弟マウコ一レ姫マウコ以マウコ來ハ必ハ敦タマエノセム賞タマエノセム矣タマエノセム。爰タマエノセム

(付)

- 111 鳥^イ賊^カ津^ツ使^オ主^ム承^{オホムコト}命^{ミコト}退^{マカル}之^ヲ。糒^メ裏^サ裯^ノ中^{ナカ}に到^{イデ}坂^{サカ}田^タ。
- 112 伏^フ于^ニ弟^ニ姫^{ミメ}庭^{ニハ}中^{ナカ}て言^{イハ}天^{オホムコト}皇^{ミコト}命^{ミコト}を召^メ以^ヨ之^ヲ。弟^ニ姫^{ミメ}對^{マカ}
- 113 曰^{イハ}豈^{サラムヤ}非^{カシコマリマウサ、}懼^{オホムコト}天^{オホムコト}皇^{ミコト}之^ヲ命^{ミコト}唯^カ不^{ヤアラムコトヲ}欲^{ミコト}傷^{ミコト}皇^{ミコト}后^{ミコト}之^ヲ志^{ミコト}
- 114 耳^{ミミ}。妾^{ヤツカレ}雖^{ヤツカレ}身^{シミ}亡^{シヌ}、不^{マウテ}參^{マウテ}赴^{マウテ}。時^{トキ}に鳥^イ賊^カ津^ツ使^オ主^ム對^{マカ}言^{イハ}、
- 115 臣^{ヤツカレ}既^{ウケタマハリシク}被^{ウケタマハリシク}天^{オホムコト}皇^{ミコト}命^{ミコト}必^メ召^{メシ}率^チ來^{マウコ}矣^{ナリ}。若^シ不^ハ將^{マカ}來^{マカ}、必^メ
- 116 罪^{ツミ}之^ヲ。故^{ユヰ}返^{サシム}被^{ウケタマハリシク}極^コ刑^コ、寧^{ナラニ}伏^フ庭^{ニハ}而^{シテ}死^シ耳^{ミミ}。仍^{マデ}經^{ナス}七^{ナナ}
- 117 日^ヒ、伏^{フセリ}於^ニ庭^{ニハ}中^{ナカ}、與^{アタフ}飲^{レトモ}食^{ミツイヒ}而^{シテ}不^ラ澹^{クラヘシノヒ}。密^{クラフ}食^{フク}懷^{コロ}中^{ナカ}之^ヲ
- 118 糒^{ハシ}於^ニ是^{ニハ}、弟^ニ姫^{ミメ}以^{オモヘク}爲^{ヤツコ}、妾^{ヤツコ}因^{ユヰ}皇^{オホムコト}后^{ミコト}之^ヲ嫉^{ネタムタマハム}、既^{コヘム}拒^{コヘム}天^{オホムコト}
- 19 皇^{オホムコト}命^{ミコト}。且^{ナニ}亡^ハ君^タ之^ヲ忠^{シキヒト}臣^{ミコト}是^{ナリ}亦^{ヤツ}妾^{ツミナリトイヒ}之^ヲ罪^{ツミ}則^{ナラニ}從^{イデ}鳥^イ賊^カ
- 使^シ主^ム而^{シテ}來^{マウ}之^ヲ。到^{イデ}倭^{カス}春^カ日^ニ食^{カレヒクフ}于^ニ櫟^{イチヒ}井^{ナリ}上^{ウヘ}弟^ニ

「適」、「ミオ」
「モヘリ」ハ元
來前行「色」
ノ左訓

「也」ハ「一」
ハ句點ノ綴

合

121 姫ミシカラ親賜酒ヲ于オム使主慰其意ヤスス使主ミヤ即日至京ミヤコニ。

122 畱弟姫ヲ於倭直アタヒ吾子ア籠之家コノミヤ復ニカヘリ命コトマウス天ミカド皇ミコ。

123 大歡オホヨロヒタマヒ之ヲ美鳥イカガ賊津ツ之使オ主ミ而ニ敦寵アウミヤダシ焉。然皇

124 后ミオヘリ之色ミオヘリ不ミオヘリ平ヨクモアラス是ハムシタマハス以ニ勿近ミナ宮中ミヤナカ則ニ別タテ構クリテ殿ミヤ屋ヲ。

125 於藤原ミオヘリ而居也。ミオヘリ適アタリ產大泊瀬アラシマス天皇ヒナ之夕ミ天

126 皇始イタマ於幸藤原宮。皇后ヤツコ聞之ニ恨曰ハツ、妾ヤツコ初ハツ自結ハツ。

127 髮カミナ陪ヘルコト於後宮キヤキノミヤ既ヘス經多年カネ。甚カモ哉カモ、天皇也。今ヤツコ妾

128 產コウ之ヲ死生相半。何故アタリナモ當今コノヒ夕ヨ必カナラシ幸藤原イタマストイヒ之ニ乃

129 自出ミデ之ヲ燒ウツ產殿ウツ而ニ將死トス。天皇ミカド聞之ニ大驚オドロイ曰

アヤマチ
過也アヤマチ因ニ慰ヤスス諭コシラ皇ミカド后ミコ之意ヲ焉

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

允恭天皇

131 八年春二月幸于藤原。密シノヒ察ミル衣トホリ通郎イラツメ一姫之

132 消息アルカタナ。是夕コホヒ、衣通郎シノヒ姫ミル、戀シノヒ天皇タチマテ而セ獨居ハムヘリ。其不

133 知天皇之臨イデマセルコト而歌曰、和平餓カ勢セ故コ餓カ勾平倍ヘ枳チ

134 豫上臂上奈ナ利リ佐サ瑤上餓平泥ニ能平區ク茂モ能ノ於上虛上奈上比上

135 虛上豫上比上辭上流ル辭上毛上天皇キコシメシ聆上是歌オヘシマス則メタマテ有上感上情上

136 而歌ミウタ之ミ曰、佐上瑤上羅上餓カ多上邇上之上枳上能上臂上毛上弘上

137 等上枳上舍サ氣ケ帝テ阿上麻上多上絆ハ泥ニ受ス邇上多上饒上比上等上

138 用上能上未上明ミル旦上天皇見井傍ミル樓ミル華ミル而歌之曰、

140 波上椰ヤ區ク波上梅上溫上孺上和我上梅上豆上畱上古羅上皇上后上
(上)那具波辭佐區羅能梅溫許等梅溫麼

141 聞^キ之^ヲ大^ニ恨^ミ也。於^ニ是^ニ衣^ツ通^ト郎^{イラツメ}一^ニ姫^{マウシ}奏^{マウシ}言^{コト}、妾^{ヤツコ}常^ニ近^キ

142 王^{オホミヤ}一^ニ宮^{ミヤ}而^ニ晝^{ヒル}一^ニ夜^{ヨル}相^ム續^ツ欲^ム視^ミ陛^{キミ}一^ニ下^タ之^ヲ威^{ミヨソホヒ}一^ニ儀^ノ。然^シ皇

143 后^{ヤシロ}則^カ、妾^{ヤシロ}之^ノ姊^{イロホ}也。因^ニ妾^ヲ以^テ恨^ム陛^{キミ}下^タ亦^モ、爲^ニ妾^ヲ苦^カ。
(上)

144 是^{コト}以^テ冀^{ハナレ}離^ヲ王^{オホミヤ}居^ヲ而^ニ欲^ム遠^{トオモフ}居^ヲ。若^{ホトタマフミロ、}嫉^ミ意^ヲ少^シ息^カ歟^カ。

145 天^タ皇^テ則^カ更^{タチ}一^ニ興^{ツクリク}造^ヲ宮^{ミヤ}一^ニ室^{ミヤ}於^ニ河^カ內^ノ茅^チ渟^ス而^ニ衣^ツ通^ト

146 郎^{タマフ}姫^ハ令^ハ居^{ヘラシム}。因^ニ此^ヲ以^テ屢^{シヘク}遊^{カリシタマフ}獵^ヲ于^ニ日^ヒ根^ネ野^ノ

147 九^{イデマス}年^チ春^ス二^マ月^ス幸^マ茅^マ渟^ス宮^ス●秋^マ八^マ月^ス幸^マ茅^マ渟^ス●冬^マ

148 十^{マウス}月^ス幸^マ茅^マ渟^ス

149 十^{マウス}年^ス春^マ正^マ月^ス幸^マ茅^マ渟^ス。於^ニ是^ニ、皇^{マウス}后^{マウス}奏^{マウス}言^{マウス}、妾^{ヤツコ}如^ク

毛^{ネタム}、非^ハ嫉^{スメラミ}弟^ニ姫^ヲ然^ハ恐^{スメラミ}陛^ニ下^ニ屢^{シヘク}幸^{イデマス}於^ニ茅^マ渟^ス。是^{コト}

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

151 百姓ヒトコ之ノ苦ク歎カ仰ホカヘ願ハ宜イ除ヤメ車クルマ駕メ之ノ數カ也ヤ。是コノ後ノチに

152 希マレニ有リ之ノ幸イササニ焉ヤ

153 十一年春三月癸卯朔丙午幸於茅渟宮。

154 衣ヒ通トホリ郎イラサメ之ノ曰ク、等ト、虛コ辭シ陪ヘ、通トホリ、枳キ、彌ミ母モ阿ア

155 閑ヘ、椰ヤ毛モ、異イ舍サ儼ナ等ト、利リ、宇ウ彌ミ能ネ波ハ摩マ毛モ能ネ余ヨ

156 畱ヘ等ト、枳キ等ト、枳キ弘コ時トキ天皇テウ謂カダリ衣ヒ通トホリ郎イラサメ曰ク、是

157 歌ウタ不フ可カ一ヒト聆シ他タ人ヒト皇ミコ后ミコト聞ク必カナラ大オホ恨ミヤム。故ユヘ時トキ人ヒト號

158 濱ハマ、漆シ謂イフ奈ナ能ネ利リ曾ソ毛モ也ヤ。先マヅ是コノ衣ヒ通トホリ郎イラサメ居イ

藤原時フジワラトキ天皇テウ詔ミコトノリ大伴オホトモ室ムロ屋ヤ連ツグ曰ク、朕ミコノコロ頃トキ得エタリ

161 美ミ麗リ孃ヲムナ子ナ。是コノ皇ミコ后ミコト母ハハ弟ケイ也ヤ。朕ミコトニ心ココロ異ヘタ愛メクシ之ノ。翼

(「漆」、「藻」誤)

161 其名トモフコト欲ホシ傳ツタヘム于後ノチの葉ハ、奈何。室屋連ムロヤヅミ、依ヨ勅カサシ而シテ奏マウス

162 可。則オホセ科クニ諸國造等ニ爲ニ衣通郎キナツラ姫、藤原部

163 十四年秋九月癸丑朔甲子、天皇カミ獵リツ于淡

164 路嶋。時トキ麋シ鹿カ獐サシ猪イノ莫アリノマカヒ一ヒト紛マギ于山ホノ谷コ。歟

165 起タチ蠅ハエ散サ然終一日、以不サハク獲ハク一ヒト獸シ於ニ是コノ、獐カ止

166 以テ更ニ下ウラナフト矣ナリ。嶋神シマノカミ崇タカ之ノ曰イフ、不得エズ獸シ者、我之

167 心也。赤石アカイシの底ソコに有アル眞マコト珠タマ。其珠タマを祠ミヤ於我、則悉

168 當ニシム得エ獸シ。爰コノ更集處タガヒ之白シロ水ミヅ郎ヲ以テ令ササケ探サグ赤

169 石イシの海ウミの底ソコに海深不能至フカシニ底ソコに唯有一ヒト海人ウミノヒト。曰イフ男ヲ

磯イソ。是阿波國アハノクニの長チカ邑ムラ之人也。○勝マカレタリ於諸モロモロ白水

或本モト
上有能字

「白水」
「フ」
「ノ」
「フ」
「マ」
「ニ」
「ア」
「後筆ノ注アリ」

「崇」
「崇」
「誤」

171 郎也。是(訓)腰ハハに(訓)繫ツケ繩ヒをテ入ル海底ソコに。差シ須臾ジュウ之ヲ出デ曰ク於

172 海底、有大アヘ一ヒ蜺ヒ。其處アレリ光也。諸人皆曰、嶋神コヘスル所ヲ一

173 請之珠(訓)、殆ホト有是蜺アヘの腹ハに乎カ。亦入テ而探カツ之。爰ニ男ヲ

174 狹サ磯シ、抱大蜺アヘ而泛テ出之。乃息オキ絶タニ以テ死シ浪ウの上ヘに。

175 既而(訓)下オロシ繩ナ測ヘカに海ノ深ム六ム十ソ尋ヒロ。則割サ蜺アヘ實マに真シラ珠タマ。

176 有(有…其ミ)腹(セケチアリ)中其大オホサ如桃モ子ノミ。乃祠ミヤ神カミ而猶之。獲シ獸ノ

177 也。唯悲カナシヒ男ヲ狹サ磯シ入ル海ニ死シ之ヲ則作ハカ墓ヲ厚葬ヲ。其

178 墓猶今存之

9 十三年三月甲午朔庚子、立木キ梨ナシ輕カホク皇子ミコて

1 太子。容カホ姿ハカ佳キ麗ラン。見者、自メ感カン同ナカシ母ハハ妹イモト輕カホク太タ

「同」ハ「オ」
「シ」ハ「ノ」
「ヤ」ハ「カ」
「誤」

181 娘の皇女、亦艶カホ一妙コシ也。太子恆マクハムコト念念こと念合合こと合をを大娘皇女。

182 有モむモ罪アリて而モ默アリ。然イタタマフ感情感情既盛サカて殆ホト將至死。爰以オホホサク爲爲。

183 徒イタシラに非非空コリハ者、雖有刑コ、ロ、何得エ忍シノブルこと忍乎。遂ソヒタヘテス竊タヘテ通通乃ナ悒イ悒イ。

184 懷オモヒ少息仍歌曰、阿資シ臂ヒ紀キ能能。椰ヤ摩マ娜ナ鳥ツ菟ツ。

〔「斯」上ノ片假名
一字擦消〕

185 勾ヰ利リ。椰ヤ摩マ娜ナ箇カ彌ミ斯シ哆タ媚ヒ烏ウ和ワ之シ勢セ志シ哆タ。

186 那ナ企キ貳ニ和ワ儼ナ餓ガ勾ヰ菟ツ摩マ箇カ娜ナ儼ナ企キ貳ニ和ワ餓ガ。

187 儼ナ勾ヰ菟ツ摩マ去コ去コ曾ソ椰ヤ主ヌ區ク泮ハ娜ナ布フ例レ。

188 廿四年夏六月御膳オホ羹シ汁ル凝コホレリ以コ作氷。天皇、

189 異アイ之シト其マ所ヨ由ウラナセ者、曰、有内亂ミヤ。蓋親ヘラフラトサ相相。

乎ル。時時有人曰、木梨ナシ輕カガ太子、姦タヘケタヘリ同母妹ヘラノイモト輕カガ。

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

200	若干於是、新羅王、聞天皇既崩而驚愁	198	幡 ^ハ 舍 ^サ 能 ^ノ 夜 ^ヤ 摩 ^マ 能 ^ノ 波 ^ハ 刀 ^ト 能 ^ノ 資 ^シ 哆 ^ト 儺 ^ナ 企 ^キ 邇 ^ニ 奈 ^ナ 勾 ^コ	197	雷 ^{ライ} 惋 ^{ワン} 等 ^ト 賣 ^{マイ} 異 ^イ 哆 ^ト 儺 ^ナ 企 ^キ 介 ^ケ 麼 ^ハ 臂 ^ヒ 等 ^ト 資 ^シ 利 ^リ 奴 ^ヌ 陪 ^{ハイ} 彌 ^ミ	196	和 ^ワ 餓 ^ガ 菟 ^ツ 摩 ^マ 烏 ^ウ 由 ^ユ 梅 ^{メイ} 又歌之曰、阿摩儺霧簡	195	彌 ^ミ 由 ^ユ 瑋 ^ヱ 去 ^コ 等 ^ト 烏 ^ウ 許 ^コ 曾 ^{ソウ} 哆 ^ト 多 ^タ 彌 ^ミ 等 ^ト 異 ^イ 泮 ^{ハン} 梅 ^{メイ}	194	利 ^リ 布 ^フ 儺 ^ナ 阿 ^ア 摩 ^マ 利 ^リ 異 ^イ 餓 ^ガ 幣 ^ヘ 利 ^リ 去 ^コ 牟 ^ム 鋤 ^コ 和 ^ワ 餓 ^ガ 哆 ^ト	193	時太子歌之曰、於哀企彌烏志摩珥波夫	192	儲君、不得加刑。則移太娘皇女於伊豫。于	191	大娘皇女。因以推問辭既實也。太子、是爲
-----	-------------------	-----	---	-----	--	-----	--	-----	---	-----	---	-----	-------------------	-----	---------------------	-----	---------------------

201
之^テ貢上調^{ツキ}船^{ミツキフネ}
八^ヤ十^ソ艘^{フネ}、乃種^{ナニ}と
樂^{ウタマヒノ}一^{ヒト}人^{ヒト}八^ヤ十^ソ。是

202 泊^{トマリ} 對^ツ馬^マ而^{ニテ}大^ニ哭^{ミナマツル}到^ル 筑^{ツク}紫^{ムラサキ}亦^モ大^ニ哭^{ミナマツル}。泊^{トマリ}于^ニ難^{ナニ}波^ハ

203 津て則皆、素服之。悉捧御調^{フキ}て且張^{ソナハ}種^コの樂器^{ウタマヒノウツバモノ}て

（「京」
「墨消」
「ミ」）

205 殘^{モカリ}の宮^{ミヤ}に也^ニ。●冬十一月新羅^{ミヤコ}の弔^{トフ}使^シ等^{トウ}喪^{モウ}禮^{レイ}既^{スデ}闕^{ケツ}

204 自難波^{ミナト}、至于^{ミツ}京^{キョウ}、或^{ミヤコ}哭^{ナク}泣^{ナク}或^{イサナ}舞^{マヒ}歌^{ウタフ}、遂^{スデ}參^{マカ}會^{マフ}於^{トフ}

206
而^{カヘリマカル}還[○]爰[○]新羅[○]の人、恆^ニ愛^{メツ}京^{ミヤコノ}城[○]傍^{ホトリ}の耳^{ミミ}成^{ナシ}山[○]敵^{ウネ}・傍^ヒ―

（
到則
缺ノ下ニ
）

208	207
(上) 椰 ^ヤ 。	山 ^キ 。則
是、未	琴 ^{コト}
習	引 ^{ヒキ} の
風 ^{クニ} 俗 ^{ヒト}	坂 ^{サカ} に
之	顧 ^ミ 之
言 ^{コト} 語 ^ヘ 。	曰、字
故	(上) 泥 ^ニ
訛 ^{コナヘリ}	(上) 咩 ^ヤ
畝	(上) 巴 ^ハ
傍	(上) 椰 ^ヤ
山 ^{ヤマ} に	(上) 彌 ^ミ
謂	(上) 々
字	(平) 巴 ^ハ

209 泥^ニ咩^メ訛^メ耳^{ミミ}成^{ナシ}山^{ヤマ}謂^{イフ}瀾^{ラン}耳^{ミミ}。時^{トキ}倭^{ヤマト}飼^ケ部^ベ、從^ス新

聞是辭而疑之、以爲新羅人、通采女耳。

211 乃返マウス啓オホ之大泊シ瀬セ皇ミコ子ミコ。則ミ悉カサ禁イトラヘ固マフ新新

212 羅ツカヒ使マウス者マウス啓マウス之マウス曰マウス無マウス犯マウス采マウス女マウス唯マウス愛マウス京マウス傍マウス之マウス兩マウス

213 山マウス而マウス言マウス耳マウス。則マウス知マウス虛マウス言マウス皆マウス原マウス之マウス。於マウス是マウス、新羅人

214 大恨オトス減ミツキ貢ミツキ上ミツキ之物ミツキ色ミツキ、及ミツキ船ミツキ數ミツキ。

215 十月庚午朔己卯、葬天皇ミコ於河內長野原ミコの

216 陵

217 ●穴穗天皇ミコ安康天皇ミコ

218 穴穗ミコ天皇ミコ雄ミコ朝ミコ津ミコ間ミコ稚ミコ子ミコ宿禰ミコ天皇ミコ第ミコ二ミコ一ミコ云ミコ第三ミコ子ミコ也ミコ

19 子也ミコ一ミコ云ミコ第ミコ母ミコ曰ミコ忍ミコ坂ミコ大ミコ中ミコ姬ミコ命ミコ稚ミコ淳ミコ毛ミコ

岐ミコ皇ミコ子ミコ之ミコ女ミコ也ミコ●冊二年春正月天皇ミコ崩ミコ。

221 ●多十月葬禮畢之。是太子行暴虐于婦。

222 女。國人謗之。群臣不從。悉隸穴穗皇子。爰

223 太子欲襲穴穗皇子而密設兵。穴穗皇子、

224 復興兵將戰。故穴穗括箭、輕括箭、始起于

225 此時也。時太子知群臣不從。百姓乖違。乃

226 出之。匿物部大前宿禰之家。穴穗皇子聞

227 則圍之。大前宿禰出門而迎之。穴穗皇子

228 歌之曰、於朋摩幣。烏摩幣。輸區泥。餓訶那。

(「社」、「杜」誤敷)

229 社加礙訶區多智豫羅泥。阿梅多知夜梅

(上) 大前宿禰答歌之曰。彌。椰。比。等。能。阿。由。

231 臂能古輸^ス。於智珥岐等^ナ。瀾^ス。椰比等^ナ。豫^ス。

232 牟佐社^ト。珥^ヒ等茂由梅^メ。乃啓皇子^{ミコ}曰。願^ナ勿^ナ害^ナ。豫^ス。

233 太子。臣將議^{ヘカラム}。由是太子自死于大前宿禰

234 之家。一云流^イ。豫國^コ。十二月己巳朔壬午、穴穗皇

235 子即天皇位。尊皇后曰皇^{ミヤ}太^{ミヤ}后。則遷都^{ミヤコ}石^{イソノ}

236 上^{カミ}。是謂^ニ穴穗^{アナホ}宮。當是時^{オノトキニ}大泊瀬^{オホセ}皇子^{ミコ}欲聘^{アトヘ}

237 瑞齒^{ミズハ}。別^{ワケ}天皇之女^{ミスメタメ}等^ヲ。見^ミ諸^{シロ}記^キ。於是皇女等

238 皆對曰。君王恆^{ヒト}暴強^{コハクマシマシキ}也。儵^{タチマニ}忽^ニ起^キ。則朝^{アサヒ}見^ミ

9 夕^{ユフ}被殺^ス。夕見者^{ユフミヤ}朝被殺^ス。今妾^{メケメ}等顏色不

24 加^{マタ}以^ニ情^{ヒト}性^{ナリ}拙^{ツタナシ}之。若威儀^{フルマ}言^{コト}語^ハ如^{ヨカリ}豪毛^{ノスチヘカリセ}、不

241 似^{カス}王^{ミコ}之意^{ミコロ}、豈爲親乎。是以不能奉^{ウケタマハルコト}命^{ミコト}。遂^{ノカ}以て

242 不聽^{ウケ}矣

〔爲、去聲ハ破音〕

243 元年春二月戊辰朔天皇爲^{ミコ}大泊瀬皇子、

〔援、日校ノ誤。ハ衍字〕

244 欲^{アトヘム}聘^{アトヘム}大草香皇子之妹^{イモト}幡^{ハタ}援^{ハタ}日皇女則遣^{ツカハス}坂

245 本臣祖根使^{キリ}主^{オモ}請^{コハシム}於大草香皇子曰、願^{コハシム}得

246 幡^{ハタ}援^{ハタ}皇女以て欲^{アヘセ}配^{アヘセ}大泊瀬^{ハタ}皇^{ミコ}子。爰大草香

247 皇子對言、僕頃患^{オホキヤマヒシテ}重病^{オホキヤマヒシテ}不得^{イユル}愈^{イユル}。譬^{オホキヤマヒシテ}如物積

248 船^{フネ}以て待^{シホ}潮^{シホ}者^{モノ}。然死^シ之命^{イナノカサリ}也^{イナノカサリ}。何足惜^{タラム}乎。但以

49 未^{イモト}幡^{ハタ}援^{ハタ}皇女之孤而^{フマ}不能^{ニヤスラカニシナサラナシ}易^{ヤスク}死^シ耳^{ノミ}。今陛^{ミカド}下^{サミ}

2 嫌^{ヒタマハ}其配^{ツカヒタマハム}將^{ツカヒタマハム}滿^{ツカヒタマハム}苜^{ツカヒタマハム}菜^{ツカヒタマハム}之數^{カス}。是甚^{オホイフル}之^{オホイフル}大恩^{オホイフル}也^{オホイフル}。

- 251 何イナヒタマハム辭オホコト命ミコト辱カシケナシ故ムトシ欲アラヘサム呈マコトノコト丹マコトノコト心ココロ捧テ私シ寶タカラ名ナ押オシ木キ珠タマの
- 252 纒イト云イナヒタマハム一ヒト意イ纒イト又マタ附ツケ所シ使ササヘ臣ミコト根ネ使ササヘ主ヌシ而ニ敢カハレ奉タテマツル獻マツル
- 253 願イハ物モノ雖モトモト輕ヤシ賤セニ納ウケ爲タマヒ信シルシ契セ於オ是コノ根ネ使ササヘ主ヌシ見ミ押オシ
- 254 踈カマケ木キ纒イト其カマケ麗ウルハシキ美ミ以オモヘタ爲イフハリ盜セム爲タマヒ己ミ寶タカラ則イフハリ詐マツル之ノ
- 255 奏マウシ皇ミコト天アメ曰イハレ大オホ草クサ香カ皇ミコト子コ者ナリ不オホコト奉マツル乃マタキミ謂イハレ臣ミコト曰イハレ、
- 256 其オノ雖モトモト同シ族ウケカラ豈イハレ以オモヘタ吾ミ妹イモト得エ爲タマヒ妻メケ耶ヤ既マタ而ニ畱イダシ纒イト之ノ
- 257 入イリ己ミ而ニ不オホコト獻マツル於オ是コノ天アメ皇ミコト、信ウケタマ根ネ使ササヘ主ヌシ之ノ讒コソシマ言コト。○
- 258 則スレバ大オホ怒イカリ之ノ起タチ兵ヒコ而ニ圍イロ大オホ草クサ香カ皇ミコト子コ之ノ家イヘ而ニ殺コロシ之ノ。○
(訓)
- 9 時トキ難ガタシ波ナミ吉キチ師シ日ヒ香カ蚊カ父カ子コ竝ツカマツル仕シ于ニ大オホ草クサ
- 2 皇ミコト子コ共イツム傷イタム其ソノ君ミコト无ナシ罪ツミ而ニ死シ之ノ則スレバ、父カ抱カキ王ミコト之ノ

261 頸^{ミクヒ}を二^{フタ}の子各執^{トク}王足^トて而唱^{ナゲ}曰吾君无罪^{シタマフコト}以^{シテ}死^シ

262 之悲^{カナ}乎我父^カ子^コ三人^{ミタリ}生^{イク}に事^{コト}之^シ死^シ不^シ殉^シ是^{コト}不^シ

263 臣^{ヤツ}矣^{ニモ}即^ニ自刎^{タヒヘネテ}之^ニ死^シ於皇^{ミカ}戸側^ヘ軍^{イク}衆^サ悉^ニ流^{カナ}涕^{シフ}

264 爰取^ヱ大草香皇子之妻^{フマ}中^{ナカ}蒂^シ姫^{ヒメ}納^{メシ}于宮中

265 因^{シタマフ}て爲^シ妃復^{マシ}遂喚^{ヘタ}幡^{フタ}援^{ヒタ}の皇女^{アハ}配^セ大泊瀬王子^{ヒタマフ}

266 是年也太歲甲午

267 二年春正月癸巳朔己酉立中蒂^{ヒメ}姫^{ヒメ}爲^{キサキ}皇

268 后甚寵^{オホミタマフ}也初中蒂^シ姫^{ヒメ}命^{ウム}生眉輪^{メイリン}王^{オホキ}於大草

9 皇^{ミコ}子乃依^{イロハ}母^ハ以^{シテ}得^{マス}免^{カル}罪^{ツミ}常^ニ養^{シタマフ}宮中^{ヒタマフ}

2 三年秋八月甲申朔壬辰天皇^{ミコ}爲^ニ眉輪^{メイリン}王^{オホキ}

圖書寮日本書紀永治二年頃點

271 シセツ 殺 辭 具 在 大 伯 ツ 瀬 キ
マサマツラレタマヒス 天皇 記 マキニ 三 年 の 後 乃 イマシ 葬 マツル 菅 スガ 原 の 伏 フシ 見 ミ の

272 陵

273 日本書紀卷第十三

1 日本書紀卷第十四

2 大泊瀬幼武天皇 雄略天皇

3 大泊瀬幼武天皇は雄朝婦稚子宿禰の天皇

4 第五子也天皇產而神光滿殿長而仇健

5 過人。三年の八月、穴穗の天皇、意將沐浴、幸于

6 山の宮に遂に登樓、今遊目。因て命酒、今肆宴。爾乃

7 情盤樂極閑。言談。謂皇。后去來。別

8 中帝。天皇。皇女。更名。長田。大皇。皇女也。大鶴

9 輪王也。於後穴穗。天皇。用根臣。讒殺。大草

天皇子而立。中蒂。皇女。爲皇。后。語在穴

氣也。天皇曰。吾妹。古稱之。俗乎。蓋汝。雖親昵。朕

「娘」、左訓
「イツラ」
「ラ」ニ轉倒
符アリ

「親」、
「と」存

今案瀬下不可加之辭下
又云大泊瀬
天皇又云幼
武天皇也

11 畏 眉 マイ 輪 マロウノオホキミ 王 ミコ 幼 ワカシ 年 トシ 遊 アソビ 戲 タカトノ 樓 シ 下 シ 悉 ツ 聞 モノカダリコト 所 ヲ

12 談。既 而 穴 穗 天 皇 枕 皇 后 膝 晝 醉 眠 於 ミネフリシタマヘリ

「睡」
「マセハ」
「ハ」
「ル」

13 是 眉 輪 王 伺 其 熟 睡 而 刺 殺 之。是 日 大 舍 ミセマツリ

「爲」
「ハ破音

14 人 關 姓 驥 言 於 天 皇 曰、穴 穗 天 皇 爲 眉 輪 而 モツセリ

15 見 殺 天 皇 大 驚 即 猜 兄 等 被 甲 帶 刀 率 兵 而 シセサレ

16 自 將 逼 問、八 鈎 白 彥 皇 子 見 其 欲 害 之 モタマヒキ

17 嘿 坐 不 語。天 皇 乃 拔 刀 而 斬。更 逼 問 坂 合 の マシテ

18 黑 彥 皇 子 亦 知 將 害 坐 不 語。天 皇 モタキ

「復」
「爲」
「ハ破音

20 怒 彌 盛 乃 復 并 爲 欲 殺 眉 輪 王 案 劾 所 ミイカリ

由 眉 輪 王 曰、臣 元、不 求 天 位 唯 報 父 之 仇 而 ヤツカレモトヨリ

- 139 -

圖書寮日本書紀永治二年頃點

31 曰臣雖被戮、莫敢聽命ことを古人有云こと、匹夫之

志、難^は可^{こと}奪^と、方^に屬^ぞ乎^や臣^に。伏^こ願^は大^い王^を奉^た獻^げ臣^か女^を。

33 韓媛與_を葛城宅_七區_て請_以贖_{ことを}罪。天皇不許_て

34 縱火宅。於是大臣與黑彥皇子眉輪王

35 俱被燔死。時坂合部の連贄の宿彌抱子皇屍を

而見燔死。其舍人等トモ收取所を燒て遂雖擇こ

37 骨^を盛^る之^の一^つ 棺^{にて}合^は 葬^す 新^の漢^の擬^し本^の南^の丘^に 蓋^す 是^を 槻^の 乎^に

38 ● 冬十月癸未朔天皇恨穴穗_の天皇_の曾欲_を以

邊の押磐皇子^を傳國^を而遙^に付屬^を後^の事^を乃使

41 人^ヲ於^ニ市邊^ノ押^シ磐^ノ皇^ノ子^ヲ陽^ニて期^ニて
アサミイチキリカリセムトハカルマネシデ
校^ニ一^ニ獵^ニて勸^ニて遊^ニ郊^ニ一^ニ野^ニて

41 曰^レ近江^ノ狹^ニて城^ノ山^ノ君韓侂^{フクロ}言^フ、今於近江^ノ來^ク。

42
 (平)田
 (平)綿ワタの
 蛟カ屋ヤ
 野ノに猪イノ
 鹿
 多サヘに有アリ。其
 戴サヘ角ケツをツノ類ニ
 角ツノ一ヒトて類ニ
 枯樹コジュの末ハタチ

43 其 ツトヘタル聚アツマル脚カウを、如ニホフ弱シモトヘラ一木カヤノ一株イフク。呼イキ一吸タリ氣ミセケチ一息ミセケチ，似ミセケチ於ミセケチ朝霧ミセケチ願ミセケチは

44 與皇子、孟^一冬^の作^{ス、キ}陰^{カムナツキノス、シキツキ}之月、寒^{サムカセノカス}風^{カナルトキ}肅^一然^ニ之晨^{トキ}將^ニ

45
 追^{アツヒテ}遙^{ハシ}於^ニ郊^ノ野^ノ聊^ニ娛^タ情^ヲ以^テ騁^{ヘシム}射^ヲ市邊押箸皇

46 子乃隨^テ馳^{カリヌ}獵^ス。於是大泊瀨天皇
鸞^{ニギハヤヒ}弓^{ユミ}之^ヲ驟^{ハセ}馬^{ウマ}。

47 而陽呼て曰の猪一有て即射殺^{給フ}市邊の押磐皇子^を。

48
こ
帳^{トナリ}内 舍人^{ウツ}也
佐 伯 部の
賣^上 輪^{ウル} 更^{マシ} 手^テ 子^コ 名^ナ 仲^{ナカ}
抱 屍^ミ 駭^{イワケ} 惋^{アテ} 不^{フツカヒ}
アツカヒヌスヘラス

49
 解 所^{オハスヘ} 由^を 反^{コイマロヒ} 側^ヲ
 呼^{オハヒ} 號^{オハラヒ}
 往^カ 還^{マフ}
 頭^{アトヲダラニ}
 脚。天
 皇
 尙^{皆也}
 誅^{給ツ}
 之^ヲ

「曾」ハ元「い」イ、

月御馬の皇子以曾^{ハムサ}より善^{ウルワシカシ}三輪君身^ム！狭^{サシニ}て故^ニに思^オオモホス

- 51 欲^{ヤラム}遣^コ慮^ロ而^{イテ}往^マ不^思意^{ホカニ}道^ニ逢^ニ邀^{タフル}軍^ニ於^ニ三輪^ノ磐井^ノの
- 52 側^ワ逆^フ戰^ハ不^ト久^ハ被^{トラハ}捉^ツ臨^ミ刑^ニ指^ミ井^ニ而^ニ詛^フ曰^フ此水^ハは
- 53 者^ナ百^ナ姓^{タカ}唯^{タカ}得^ミ飲^ミ焉^ニ王^{ヒト}者^ハ獨^ニ不^レ能^レ飲^ミ矣^ニ●十一
- 54 月^ナ壬子^ニ朔^ニ甲子^ニ天皇^{コト}命^{オホホセ}有^ニ司^ニ設^{タカ}壇^ヲ於^ニ泊瀨^{ヘセノ}の
- 55 朝^{アサ}倉^{クラ}一^ニ即^{アマツヒツキシロシメス}天皇^ニ位^ニ遂^ニ定^ニ宮^ヲ焉^ニ以^ニ平羣^ニ臣^ニ眞鳥^ニ爲^ニて
- 56 爲^ニ大臣^ニ以^ニ大伴連室屋物部連^{モルヤ}目^ニ爲^ニ大連^{オホイムラ}の
- 57 元^ナ年^ニ春^ニ三月^ニ庚戌^ニ朔^ニ壬子^ニ立^ニ草香^{ヘタ}幡^{ハタ}校^ニ姫^ノの
- 58 皇^ナ女^ニ爲^ニ皇后^{ミタハナ}更^{ミタハナ}名^ツ橘^ニ是^ニ月^ニ立^ニ三^{タリ}妃^{ミコ}元^ノ妃^{ミコ}葛^ノ
- 59 城^{ツツ}の圓^{ラン}大臣^{オホキミ}の女^メ曰^フ韓媛^{ハニ}生^リ白髮^{シラカミ}武^タ廣^{ヒロ}國^{クニ}押^{オシ}稚^{ワカ}の
- 本根^ネ子^ノ天皇^ニ與^ニ稚足^{タラシ}姫^ノ皇女^{ヒメミコ}更^{ミタハナ}名^ツ栲^{ハナ}幡^{ハタ}の
- 姫^{ミコ}皇女^{ヒメミコ}更^{ミタハナ}名^ツ栲^{ハナ}幡^{ハタ}の

- 61 是^ス皇女侍伊勢大神^{オホムス}祠^{イハヒ}次^{ヘムヘリ}有吉備上道^{ミチ}之臣^ノ
- 62 女^{メス}稚^{ワカ}姫^{ヒメ}一本^{イツポン}云^{クモ}吉備^{キヒ}生^{ナマ}二男^{ニコ}長^{コノガミ}曰^{イハレ}磐城^{イハナギ}之皇^{ノミコ}
- 63 子^コ少^{オホ}曰^{イハレ}星川^{ホシガハ}之稚宮^{ワカミヤ}皇子^{ミコ}子^コ見^ミ下^{シタ}次^{ツギニ}有^{アル}春日^{カスカ}之和^ニ
- 64 珥^ニ之臣^{ノミヤ}深^{フカ}目^メ女^メ曰^{イハレ}童^{ワナキミ}一^{イツ}女^メ君^{ミコ}生^{ナマ}春日^{カスカ}之^ノ大娘^{オホナギ}皇女^{ミコ}也
- 65 橋^{ハシ}更^{マシ}名^ナ高^{タカ}童女^{ワナキミ}君^{ミコ}者^{ナリ}本^ホ是^シ采女^{サメノ}天皇^{テンノウ}與^{ヨリ}一^{イツ}夜^ヨ
- 66 而^{シテ}脈^{ハナメリ}遂^ス生^{ナマ}女^メ子^コ天皇^{テンノウ}疑^{ウタガハシ}結^{ムス}不^フ養^{シヤウ}及^キ女^メ子^コ之^ノ行^{ユキ}步^フ一^{イツ}夜^ヨ
- 67 天皇^{テンノウ}御^ミ大殿^{オホシマ}之^ノ物部^{モノベ}目^メ大連^{オホムス}侍^{サフラフ}焉^ニ女^メ子^コ過^{ワタル}庭^ニ也
- 68 目^メ大連^{オホムス}顧^ミ謂^{イハレ}羣^{グン}臣^シ曰^{イハレ}麗^{カホキ}哉^{ナリ}女^メ子^コ古^コ人^{ヒト}有^{アル}云^{イハレ}也
- 69 娜^ナ毗^ヒ騰^ト耶^ヤ幡^{ハン}麼^マ珥^ニ未^ミ此^{コノ}古^{コノ}語^ゴ徐^{シメ}行^{ヤカニ}步^フ清^{イサ}庭^ニ者^{ヒト}是^シ
- 誰^{タレ}女^メ子^コ天皇^{テンノウ}曰^{イハレ}何^{ナニ}故^{ナニ}問^ト耶^ヤ目^メ大連^{オホムス}對^{コタヘ}曰^{イハレ}

71 臣ヤツコ視ミ女メ子コ行アリ步フ、容スカ儀タ能タ似タウヘレリ天皇ミコ曰ハ見

72 此コ者ヒト、咸ミナ言コト、如イマシカ卿ノ所イフ導ミツ。然シカバ朕ミコ與アタハシ一宵ヒトヨ而シテ脈メリ產ウマヒ。

73 女メ殊アヤシ常ヨリ由ヨリ是ニ生ミ疑ウタガハシ大連オホムラタリ然シカバ則シテ一宵ヒトヨ喚メシ二ニ幾イタダヒ廻マヒ。

74 乎ヤ。天皇ミコ曰ハ七廻メシキ喚メシ之ヲ。大連オホムラタリ曰ハ此コノ娘イラス子コ、以モツキ清キヨキ

75 身ミ一ヒト意イ奉ツカマツレリ與ニ一宵ヒトヨ安アタハシタマフ輒ナシ給生ミ疑ウタガハシ嫌ダマフ他ヒトノ有アルミツ二ニ潔キヨク一ヒト臣ミコ聞ウケタマハル、

「易」
破音、去聲ハ

76 易（去）產ハラヤス腹スハ者ヒト以モツキ禪ハカマ觸カ、ラフ體ミ、即スナハチ便スナハチ懷ハラミヌ脈ミ。況シテ與アタハシ終ヨモツカ一宵ヒトヨ。

77 而シテ妄ナシ生ミ疑ウタガハシ也ナリ。天皇ミコ命ノリ大連オホムラタリ以モツキ女メ子コ爲シ皇ヒメミコ女メ一ヒト

78 以モツキ母イロハ爲シ妃メギ。是シテ年トシ也ナリ。大歲オホトシ丁酉テイシュ

9 二ニ年トシ秋アキ七ナナ月ツキ百濟ヒヤクサイ池（平）津（平）媛メノ違タ天皇ミコ之ノ將マシム幸メタムト一ヒト始（平）（メサム）（セケチ）

8 葉タムラ於ニ石イシ川カハ之ノ楯タテ舊キウ本ホン、云イフ石イシ河カハ之ノ天皇ミコ大オホ怒イラダケ詔ミコトノリ大オホ

幸吉野宮
疑止

81 件室屋大連ニテ使來目部ニテ張夫婦ノ四の支ニテ於木ニテ

82 置假サスキノ廐ウヱ上ニテ以火ヲテ燒死シ百濟ハ新撰ニ云己巳年（平）

83 禮人（平）奴（平）跪ミテ來テ索コハシム女（平）郎（平）百濟ハ莊ニ師（平）慕（平）尼（平）夫（平）多（平）十（平）

84 月辛未朔癸酉幸マス于吉野宮ニ丙子幸野宮吉

85 疑止（上）御馬ミマノセ瀬（平）命ヤモノツカサ虞（上）人（平）縱マ、カリ獵（平）凌重ノホリ嶮（平）赴（平）長（平）莽（平）未（平）

86 及移影ヒモカタフ綱（平）什（平）七（平）八（平）每（平）獵（平）大獲（平）鳥獸（平）將盡（平）遂（平）

87 旋メクリ憩イコフ乎林泉相（平）羊乎（平）藪（平）澤（平）息行（平）夫（平）展（平）車馬（平）

88 問群臣曰獵場ニハ之樂（平）使膳夫（平）割鮮（平）何與（平）自（平）

群臣忽（平）莫能對（平）申（平）於是天皇大怒（平）拔刀（平）

御者大津馬飼是日（平）車駕（平）至自吉野宮（平）

91 國內フル居民タミ威に皆振フ怖ッ由是に皇太后與皇后、

92 聞ミ之大懼結使和の采女（平）日ヒノ媛ヒメ舉サハケ酒サカベ迎オホキ進奉天皇

93 見采女の面カホ端ハナ麗シタ形シカ容タ溫ミヤヒカナル雅を乃を和ウレシ顏に悅タマフ色で

94 曰の朕ミコ豈ヤトノタマ不欲マクニセイマシカ覩ヨキニマヒ汝の妍ハ咲エミ乃を相タツサハ携ウツカラヒ手を入イリマシス於タマフ後ササノ

95 宮ミヤ語コ皇太后ミコ曰ミコ今日イマ之遊ノ獵リ大オホ獲タリ禽獸トリシ、ヲ欲ヲシ與

96 羣臣ウチツミヤノアヘムトナヘ割鮮ナマツタテ野饗ノアヘセムト歷ト問ト群臣群臣莫能モトメ有（答申人）對コタヘ故朕ソレ

97 嘖イカフ焉ヤ皇太后知斯コトノリノ詔ミコトノシゴ情ハ奉トヤスメ慰メ天皇ミコ曰ミコ群臣、

98 不悟シ陛下キミノ下ノ因サ遊カリニ獵ハ場アツヒ置オイタマヘムトシ穴アナ人ミ部ベ降カ問六群臣群臣曰ミコ

99 群臣群臣待タテリタルコトハ
○嘿カミミナリ申ケム然カミミナリ申ケム理カミミナリ申ケム且カミミナリ申ケム難カミミナリ申ケム對カミミナリ申ケム今カミミナリ申ケム貢カミミナリ申ケム未カミミナリ申ケム晚カミミナリ申ケム以オノレ我オノレ爲セ初ハツメ膳カシハテノ膳オム臣オム

野、能、作ル穴ナマス膾ハス願ヲ、以此ヲ貢ラム。天皇ミコ跪ヒヤヒ禮レ而タマフ受テ

101 曰善哉、鄙^{イヤシキ}人の所の云、貴^{ト云}相^ニ知^ニ心、此之謂也。皇

102 太后、觀^{ミソナハシ}天皇^給悅^{エラ}歡^{キマス}喜^ニ盈^ニ懷。更欲^コ貢^{タテマツリ}人^ヲ曰、我

103 之^{クリヤ}厨^{ウタノミトヘノマヤキタ、カメ}人^ミ菟^ミ田^ミ御^ミ戶^ミ部^ミ眞^ミ鋒^ミ田^ミ高^ミ天^ミ、以此二

104 人^ミ請^{コヒ給}將^ミ加^ヘ貢^ミ爲^{セム}穴^ミ人^ミ部^ミ自^ミ茲^ミ以後、大倭の國

105 造^ミ吾^ミ子^ミ籠^ミ宿^ミ禰^ミ貢^ミ狹^サ穗^ホ子^コ鳥^{トリ}別^{ワケ}爲^ミ穴^ミ人^ミ部^ミ。

106 臣^{オム}之^ミ連^ミ伴^ミ之^ミ造^ミ國^ミ之^ミ造^ミ又^ミ隨^ミ續^ミ貢^ミ。是月置^ミ史^{フムヒト}戶^ミ河^{カハ}

107 上^{カミ}之^ミ舍^{トネリ}人^ミ部^ミ。天皇以^ミ心^ミ爲^ミ師^{シタマフサカシ}誤^ミ殺^ミ人^ミ衆^シ。天^ミ下^ミ

108 誹^ミ謗^ミ言^ミ大^ミ惡^ミ天^ミ皇^ミ也。唯^ミ所^ミ愛^{メタミタマフ}寵^ミ、史^ミ部^ミ身^ム狹^サ

109 村^{ムラ}主^リ青^{アヲ}檜^ヒ隈^{クマ}民^{タミ}使^{ツカヒ}博^{ハカ}德^{トコ}等^ミ

年夏四月阿^ア閑^{コト}臣^ミ國^ミ見^ミ更^ミ名^ミ磯^シ語^{コト}栲^{カク}幡^{ハタ}

(「四」
「キ」
「元」
「エ」
「キ」
「ヨ」
「ツ」)

- 111 皇子與湯^{ユヱノ}人^{ヒト}廬^{イホ}城^キ部^ベ連武彥^{ムロハヒ}曰武彥^{ムロハヒ}汗^{ケカシマツリ}皇^{ミコ}
- 112 女^メ而^ニ使^{シメ}任^{ヘラマ}身^ミ云^{クハ}湯^{ユヱ}人^{ヒト}是^{コノ}武彥^{ムロハヒ}之父^{チチ}、枳^キ一^{ヒト}苜^モ喻^{コト}聞^ク
- 113 此^{コノ}流^リ言^{コト}而^ニ恐^{オソ}禍^{ワザ}及^ニ身^ミに[○]誘^{アトヘタシヒ}率^{ソル}武彥^{ムロハヒ}於^ニ廬^{イホ}城^キ河^{カハ}に[○]偽^{アサミ}口^ク
- 114 使^{ウカハスルマヘシテ}廬^{イホ}城^キ一^{ヒト}沒^シ水^{ミヅ}捕^ツ魚^{イサ}因^{ユヅリモナクシテ}其^{コノ}不^レ意^ミ而^ニ打^ツ殺^ス之^ヲ天^{アメノ}
- 115 皇^{ミコ}聞^ク遣^ツ使^シ者^ヲ案^{カヘ}問^{トハ}皇^{ミコ}と女^メと對^ツ言^{ハシ}妾^{メカ}不^レ識^ス
- 116 也^{ナリ}俄^ニ而^ニ皇女^{ミコノメ}齋^{イハヒ}持^テ神^{カミ}鏡^{ミタマ}詣^{イデマ}於^ニ五十鈴^{イソナガ}河^{カハ}上^ノに[○]て
- 117 伺^{ウカヘ}人^{ヒト}不^レ行^ク埋^{フナキ}鏡^{ミタマ}經^ス死^シ天皇^{ミコト}疑^{ウタガハシ}皇女^{ミコノメ}不^レ在^ルに[○]恆^{コト}
- 118 使^シ闇^{ヤミ}夜^ヨに[○]東^{ヒガシ}西^{ニシ}に[○]求^{モトメ}覓^ミ乃^{ソレ}於^ニ河^{カハ}上^ノに[○]虹^{ニジ}の^ノ見^ミを^ヲ如^ス蛇^{ヘビ}に[○]四^{ヨロ}
- 9 丈^{イサエハカリ}者^ヲ掘^{コヅ}虹^{ニジ}起^{タツ}處^{トコロ}而^ニ獲^ツ神^{カミ}鏡^{ミタマ}移^{コト}行^ク未^レ遠^{コト}得^ル
- 1 女^メ屍^シ割^カ而^ニ觀^ミ之^ヲ腹^{ハラ}中^ノに[○]有^ル物^{モノ}如^ス水^{ミヅ}中^ノに[○]有^ル

大武彦紀日本
武尊對蝦
夷曰吾是
現人神子

121 石。枳 莒 喻 由 斯^ニ得 雪^{ヤマトノ}子^{コトノ} 罪^ヲ。還^{マシ} 悔 殺^ス子^ヲ 報^{タム}殺^ス。
タムカヒコササムト
タムカヒニコロシ

122 國^{クニ} 見^ミ。逃^ニ 匿^ス 石 上^ノ 神^ノ 宮^ニ。

123 四 年 春 二 月 天 皇 射^{カリシ} 獵^シ 於 葛 城 山^ニ。忽^ニ 見 長^{タキタカキ}。
タキタカキ

124 人^ヲ。來^テ 望^{メリ} 丹^{タニ} 谷^ニ。面^ニ 貌^{カホ} 容^ス 儀^タ 相^{タウ} 似^{ヘリ} 天 皇。 知^{給トモ}。
シロシメセレトモ

125 是^レ、神^{ナリト}、猶 故^{コトタヘ} 問^テ 曰、何^{イツ} 處^{コノ} 公 也。長 人 對^テ 曰 現^{アラ} 人^{ヒト}。
ウラヒト

126 之 神^ツ。先、稱^{ナシ} 王^ミ 諱^{ミナブ}。然 後^ニ 應^{イハム} 天 皇 答^テ 曰 朕^{オノレ} 是^レ。

127 幼^コ 武 尊 也。長 人 次^ニ 稱^{ナノリ} 曰 僕^{オウカレ} 是^レ 一 事^{ヒトコト} 主^ノ 神 也。

128 遂^ニ 與^{カリタノシム} 盤^ニ 于 遊^ニ 田^ニ。駟^ニ 遂^{オヒ} 一 鹿^ニ。相^{コモ}、辭^{コフリ} 發^{ハナツ} 箭^ニ。竝^{ナラ} 轡^{マナタチ}。
マナタチ

9 一 騁^{コト}。言^ハ 詞^ハ 恭^{キヤク} 恪^ツ、有 若^ニ 逢^{ヒシリ} 仙^ニ。於 是 日 晚^タ 田 罷^{カリ}。

11 一 侍^{オウリタテ} 送^{アツリタテ} 天 皇^ヲ 至^マ 來^{クメ} 目^ハ 水。是 時 百 姓 咸^ク 言^{ハス} 有^{アル} 二^ニ。
オウリタテマタマヒ

徳天皇
オムくシクマシマス

宮。庚戌。

射^オて而^フ待^マ。虻^ア

然に飛一來て嚙ク

日、
(去)爲
朕
讚ホ

天皇乃
口
クチツ
クチツ

(上) 爾。
 (平) 之。
 (平) 之。
 (平) 符

(平) 陞へ
 (平) 僦。
 (平) 麻
 (平) 鳴ヲ

飫
(平) 裒
(上) 枳
(上) 瀾

(平)。¹
(平)阿。
(平)娛。
(上)°羅。

(「日」
誤「因」)

北大文学部紀要

1	9	148	147	146	145	144	143	142	141
ろ。其	年	地 ^{トコロ} て爲	鳴 ^平 蘇	乎。斯	上。僂	乎。婀	乎。陀	上。我	乎。魔
太 ^カ 如	春	蜻	阿 ^平 羅	乎。麻	上。麼	乎。枳	乎。俱	乎。伊	乎。枳
雀 ^ノ 尾	二	蛉 ^ノ 野 ^ヲ	岐 ^平 淵	乎。野	上。都	乎。豆	乎。符	乎。麻	乎。能
長、曳 ^{ケリ}	月		豆 ^平 豆	乎。麻	上。羅	乎。波	上。羅	上。西	乎。阿
地 ^{ツチ} 而	天		樹 ^平 野	上。登	上。符	乎。野	上。爾	上。麻	乎。娛 ^ヲ
且 ^ツ 鳴 ^ツ	皇		平。麻 ^平 上。麻	一	上。儺	乎。俱	乎。阿	上。佐	上。羅
曰、努 ^{ツトメ}	校 ^{カリシ} 給		平。登 ^上 上。等	本	上。我	乎。臂	乎。武	上。謂	上。僂
力 ^{ツトメ}	獺 ^ヲ 于		上。以 ^平 能	以	上。柯	乎。波	上。柯 ^カ	上。麻	上。陀
	葛		上。符 ^上 上。矩	婆	上。陀	上。賦	上。枳	上。都	上。伺
	城		上。符 ^上 上。矩	賦	上。播	上。武	上。都	上。倭	上。斯
	山 ^ト 靈 ^{アロキ} 鳥		曰 ^テ 讚 ^{ホメ}	武	上。於	上。志	上。曾	上。我	上。磨
	忽		蜻	志	上。柯	上。謀	上。能	上。陀	上。都
			蛉 ^テ 名	謀 ^{ト云リ}	上。武	上。飲	上。阿	上。西	上。登
			此	以	上。婀	上。哀	上。武	上。麼	上。倭
				下 ^下	上。岐	上。枳	上。鳴		
				易 ^{カヘタリ}	上。豆	上。彌			

〔性〕、去聲ハ
破音、加點位
置下レリ

- 151 め。俄ニ而見遂イカリキ嘖猪、從草中、暴アカラサマ出ニハカ遂カリヒト人を。獨徒
- 152 緣ノホリ樹ニ大懼。天皇詔舍人ニ曰猛獸シモ逢テ是人則止ヤム。
- 153 宜逆マテイテ射テ而刺。舍人サツト、メシメヨ性ヒトナリ、懦弱ヲチナクロヘク緣ホリ樹ニ失ム色オモリアヤマリ五コ、ロガソケナリ情マト情ホヒオロケタリ
- 154 无主。嘖猪直來奉クヒマツラ欲噬天皇天は皇用弓ミタラシ刺ツキ止ノホリ。
- 155 舉脚ミアシ踏ツ殺給ツ。於是田罷テ欲斬舍人を。と臨コロサ刑ニ。
- 156 而作歌曰野須彌ノホリ斯シ志シ倭我ニ飫シ哀ニ枳シ彌シ能シ
- 157 阿蘇アソ麼マ斯シ志シ能シ宇ウ挖カ枳シ舸カ斯シ固コ彌シ倭ヤ
- 158 我ニ尼ニ導ケ能シ哀ニ利リ志シ阿ア理リ鳴ニ能シ宇ウ陪ヘ能シ婆バ利リ
- 9 曳ヒキ陀タ阿ア西シ鳴ニ皇ミコ后ミコト聞キコ悲カミ與ヨ感カン心ココロ止トメ之ノ詔ミコトノミコト
- 11 皇ミコ后ミコト不フ給タマフ與ヨ天ミコ皇ミコト而ニ顧ミ舍人を對カミ曰ミコトノミコト國人ミコトノミコト皆ミコトノミコト

〔「君」、(平輕)
存疑〕

161 謂、^イ陛下^{キミ}下^下安^給野^{カリ}而^而好^{シ、コノム}獸^{タマフ}無^{マウ}乃^{サム}、不^{ヒカラ}可^{サル}乎^カ。今陛下

162 以^以順^順猪^猪之^之故^故而^而斬^斬舍^舍人^人之^之陛^陛下^下。○譬^譬無^無異^異於^於豺^豺狼^狼也^也。天皇乃與皇后上車^{タテマツテ}而^而歸^給。

163 呼^呼萬^萬歲^歳曰^曰、樂哉^哉。人^人皆^皆獵禽獸^禽。朕^朕得^得善言^言而

164 而^而歸^歸。夏四月百濟^百加^加須^須利^利君^君王^王也^也。飛^飛聞^聞池

165 津媛^津之^之所^所燔^燔殺^殺適^適稽^稽而^而籌^籌議^議曰^曰、昔貢女^昔人^人之

166 爲^爲采^采女^女而^而既^既无^无禮^禮失^失我^我國^國之^之名^名。自今以後不

167 合^合貢女^貢。乃告其第^第軍^軍君^君也^也。昆^昆支^支曰^曰、汝宜往^往日^日。

168 本^本以^以事^事天皇^天軍^軍君^君對^對曰^曰、上^上君^君之^之命^命不^不可^可奉^奉。

169 違^違願^願賜^賜君^君之^之婦^婦而^而後^後奉^奉遣^遣。加^加須^須利^利君^君則^則、以^以孕^孕。

與^與軍^軍君^君曰^曰我^我之^之孕^孕婦^婦既^既當^當產^產月^月若^若於^於

171 路ミチ産ウツマ翼ハネ載ノセ一ヒト船フネ隨ツグ至至ル何ナニ處トコロ速速ク令ミコト送オモセ國クニ遂遂ニ與ユ

172 辭ワカレテ訣ハカレテ奉タテマツル遣タテマツル於ミカト朝ミカト六ムツ月ツキ丙ノボロ戌ツキ朔ツキ孕ハラム婦メノ果ハル如カ加カ

173 須ス利リ君ミコ言コト於ニ筑ツク紫ムラサキ各カラカラ羅ノ嶋シマ産ウツマ兒コ仍ナニ名ナ此コノ兒コノて

174 日ヒ嶋シマ君ミコ於ニ是コノ軍イクサ君ミコ即ツレ以テ一ヒト船フネ送オモセ嶋シマ君ミコ於ニ國クニに

「嶋君」
「マキシ」
「セ」ハ古體

175 是コノ爲ナリ武ムス寧ニギハヤヒ王ミコ百ヒャク濟セ人ヒト呼ヨブ此コノ嶋シマ日ヒ主ヌリム嶋シマ也ナリ秋アキ

176 七シチ月ツキ軍イクサ君ミコ入イル京ミヤ既スデ而シテ有アル五イヒ子コ百ヒャク濟セ新ニギハヤヒ撰セン云イフ

177 王ミコ遣オモセ弟イモ昆ミコ支ササ君ミコ向ムカフ大オホ和ニギハヤヒ也ナリ

侍ツカサマ天アメ王ミコ以テ脩ツク兄ケイ王ミコ之ノ好ヨロヒ也ナリ

178 六ムツ年ネン春ハル二ニ月ツキ壬ミヅノエ子ノ朔ツキ乙ヲ卯ウ天アメ皇ミコ遊アソブ乎ニ泊ツク瀬セ

野ノ觀ミツナヘ山ヤマ野ノ之ノ體ナリ勢セ慨ナケイテ然シテ興ミオモヒ感ヒラガコシ歌ウタ日ヒ舉コ暮ヤ

又說波介牟天

18 利リ矩コ能ノ播ハ都ツ制セ能ノ野ノ麻マ播ハ伊イ麻マ柁タ智チ能ノ與ユ

- 181 慮^(上)斯^(上)企^(平)野^(平)麻^(平)和^(平)斯^(上)里^(上)底^(平)能^(上)與^(上)盧^(上)斯^(平)企^(平)夜^(平)麻
- 182 能^(平)據^(平)暮^(平)利^(平)矩^(平)能^(上)播^(上)都^(上)制^(上)能^(上)夜^(平)麼^(上)播^(上)阿^(平)々^(平)野^(平)
- 183 々^(上)爾^(上)々^(平)于^(平)々^(平)羅^(平)々^(平)虞^(平)々^(平)波^(平)々^(平)斯^(平)々^(平)於^(平)是^(平)名^(平)
- 184 小^(上)野^(上)て曰^(上)道^(上)の^(上)小^(上)野^(上)。●三月辛巳朔丁亥天皇欲^三
- 185 使^二后^一妃^一を親桑^{ミツカクハコカシメテ}以^テ勸^{フトム}蠶^{コカヒ}事^{コト}を爰^{コト}に命^メ螺^{スカ}贏^ルに名^ナ。此^{コノ}曰^{イハレ}人^{ヒト}
- 186 須^(上)我^(上)聚^(上)國^(上)內^(上)の蠶^{コカヒ}於^ニ是^(上)螺^(上)贏^(上)誤^{アヤマ}て聚^{ツカ}嬰^コ一^(上)兒^(上)を奉^{ホウ}獻^(上)
- 187 天^(上)々^(上)皇^(上)。々^(上)大^(上)に咲^{ウケ}て賜^メ嬰^コ兒^(上)於^ニ螺^(上)贏^(上)て曰^{イハレ}汝^ニ宜^{ヨシ}自^ミ
- 188 養^{ヤシナヘ}螺^{ヒテ}贏^(上)即^(上)養^{ヒタ}嬰^コ兒^(上)於^ニ宮^{ミヤ}牆^{カキ}之^ノ下^ノに。仍^モて賜^メ姓^{セイ}を爲^{ナシ}
- 189 少^{チヒサコハ}子^(上)部^(上)連^(上)。●夏四月吳國遣^{ツク}使^シを貢^{モノダケマツル}獻^(上)也
- 年 秋 七 月 甲 戌 朔 丙 子 天 皇 詔 少 子 部 の

〔定〕〔山之〕

191 連螺スカル 羸ルて曰、朕、欲オホセ見三諸サの岳ツカ之神之形を。或レ神を云此
定。爲大

192 物主ス之神也。或云汝チカラ臂力過スベタリ人。自行トテ捉ヘ來キ螺

菟ス田ス墨ス坂ス神也

193 羸答レ曰試ニ往マカ捉ミ之。乃登三諸之岳ト捉ミ取大蛇をて

194 奉示タテマツル天皇ニ。天皇不レ齋ヲ戒。其雷カミ應ヒカリと目マナ精コ、赫カバヤク

195 天皇畏給。蔽ミマフ目ヲ不レ見給。却カクレ入マヒス殿中ニ。使放給於岳ニ

196 仍改テ賜名を爲雷イカツチ。八月トネリ官舍人也者吉備ノ弓削部ノ虛ホソツラ

197 空、取アカラサマニ急歸マカリカヘル家ニ。吉備ノ下道ツ臣オム前津屋サキツヤ或本云

198 備ノ臣ツカフ甕メ使虛空ソラ。經月ヲ不レ肯ミヤコニルンマツ聽上京ミヤコ都ニ。天皇

身毛ムケ之君マストラフ大ヲノコ夫ヲ召シム名焉。虛空被召サメ來言マウキ前上

200 津屋上以ハ小女トメ爲レ天皇人ミヒト。以ハ大女オホメノコ爲レ己カ人ニ競ト

201 令相鬪。見^{ヲトメノ}幼女^{ヲトメノ}之勝^をて即拔刀^をて而殺^す。復、以小^{スコンキナル}雄

202 鷄^{ニハトリ}呼^を爲^す天皇^{ミコニハトリ}之鷄^をて拔毛^を、剪翼^をて以^テ雄^{大オ}鷄^をて呼^を爲^す己

203 鷄^{ニハトリ}着^を鈴、金^{アコユ}之距^をて競令鬪^を之。見^{ツフレナル}禿鷄^を之勝^をて亦拔刀^をて

204 而殺^{コロストマツス}天皇^を聞^を是^を之語^をて遣物部^{イタサヒト}之兵士^を卅人^をて誅^{コロサシム}殺^を

205 前津屋并^{ヤカラ}族七十人^を是歲吉備^を之上道^を之臣^を田^{（平）}

206 狹^{（上）}侍於殿^{オホトノ、ハトリ}之側^を盛^{ホメ}稱^{ホメ}稚媛^{ヲナリヲ}於^ヲ朋^{トモ}友^{トモ}曰^を、天下^{カホキ}之麗^{カホキ}

207 人莫^モ若^{カハ}吾婦^{モロク}之茂^{カハ}矣^ヲ、綽^{アカラカニ}矣^ニ。曄^ニ矣^ニ、溫^ニ

208 矣^ヲ、種^{タネ}、相足^{カタチ}矣^ヲ。鉛^{イロモノ}花^ヲ、弗^ナ御^ヲ。蘭^{カモノヅク}澤^{フルコトナシ}無^{ソフル}加^ヒこと。曠^{ヒサシキ}世^{ヨニセタヒ}。罕^{マレシアラム}

209 壽^{イマノ}。當^ハ時^ニ獨^ス秀^{スグレタル}者^{ヒト}也^{ト云}。天皇^{ミコ}傾^ミ耳^ヲ一^ニ遙^ヲ聽^キ而^ヲ心^{ココロ}悅^{ハシム}

使^{オホ}、欲^ス自^ヲ求^ミ稚媛^ヲ爲^ス女^{メイト}御^ヲ。拜^{コトヨサセ}田狹^ヲ爲^ス任^{ミナノクニノミコトモヂト}那^ヲ

「使」
「便」
ノ誤

〔媛〕、〔援〕
ノ誤

- 211 國の司に。俄アて而天皇幸メシツ稚媛を。田狹の臣、聚稚媛をて而
- 212 生兄君、弟君を別コト本フミに云田狹の臣ノ婦ノ名ハ毛ク媛トイフ者ハ也。葛
- 213 天皇聞ミナリ體キヲ一レ貌シ閑レト田狹ノ既ニ之ノ任ニ所ニ聞ミ天皇之
- 214 幸ツカ事ハシ其婦を思オモフて欲求媛ヲ而レ入新羅ニ。于時新羅不
- 215 事ツカ中ミカト一國ニ。天皇詔田狹臣の子、弟君與ニ吉備の海アヲノ
- 216 部ヒミ直赤尾ヲ曰汝宜往テ新羅ヲ。於是西アヤ漢の才アヒト
- 217 伎（平）歡（平）因（平）知利（平）、在ヘリ側ニ。乃進テ而奏マウ曰巧タク於ナル奴ヤツカレハ、者モノ
- 218 多サハ在ヘリ韓カラ國ニ。可召テ而使。天皇詔羣臣ニ曰然則
- 19 以歡因知利ヲ副ソノ弟君等ニ取道ヲ於百濟ニ、并テ
- 2 勅御言ノリノフミ書ヲ令獻タクミナルモノ巧ノ者ヲ。於是弟君承給銜命（命）ヲ率モロク衆ヲ行テ

221 到百濟ニテ而入其國ツ。と神化ナリ爲老オム女ナ。忽ニテ然ヘリ逢

222 路ニ弟君就テ訪國之遠サ。近サ老女報コ言、復ニキ、行ヒトヒ一一

223 日而後可到。弟君自思路遠コトヲ。不伐ニテ而還ツトヘ。集

224 衆百濟所貢、今來才イマキノチ伎ヲ於大嶋ノ中ニ託ケ稱サモラフ候カセサモラフ。一

225 風ヒサシト淹マレ。數月ツキヘズ任那國ミコトモチ司田狹ノ臣乃喜弟君カ

226 不伐而還コトヲ。密シノヒ使人ヲ於百濟ニテ戒弟君ニテ曰、汝之

227 顧タビ項アリテカ有何金也。率カタイ鋼コト而伐人ヲ乎。傳ヤ聞天皇幸吾

228 婦メ遂有タモフ兒コトモ息息ハ見ミ上ウヘ。今恐コホシ禍ノ及ニ於身ニ。可立也蹠

229 足ヲ待。吾兒汝ハ者跨コエ據カサ百濟ニテ勿ナ使ナ通ニテ於日本ニ。

者ハ據カサ有タモ任那ニテ亦勿カサ通ニテ於日本ニ。弟君之婦メ

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

231 樟クス媛ミコトメ、國家オホキタ情深コトシカ、君ミノミヤコノコトワリタシカナリ吾ミ臣ミヤコ義ミヤコ切ミヤコ忠ミヤコ踰ミヤコ白ミヤコ一日ミヤコ節ミヤコ冠ミヤコ

232 青アヲ松マツ惡アク斯ミヤコ謀ミヤコ叛ミヤコ盜ミヤコ殺ミヤコ其ミヤコ夫ミヤコ隱ミヤコ埋ミヤコ室ミヤコ內ミヤコ乃ミヤコ與ミヤコ

233 海ウミ部ベ直ヒユ赤アカ尾ビ將シラ百ヒヤク濟セ所ショ獻ケン手テ末マタ才サイ伎キ在在於於

234 大オホ嶋シマ。天アメ皇ミコ聞ミコ弟ニギハヤヒ君ミコ不フ在在遣タマフ日ヒ鷹タカ吉キチ士シ堅カタ磐イハ、

235 固コ安ヤス錢セン堅カタ磐イハ。此コノ云イハレ阿ア使シ共ニ復タマフ命ミコトノ遂ハハシ即ス安ヤス置シ

236 於オ倭ヤマト國クニ吾ミヤコ礪ト廣ヒロ津ツ廣ヒロ津ツ比ヒ慮リ岐キ津ツ邑ムラ而ニ病シ死シ者モノ

237 衆シヤ。由ヨリ是コノ天アメ皇ミコ詔ミコトノ大オホ伴トモ大オホ連タテ室ムロ屋ヤ今イマ東ヤマト漢ミヤコ直シラ

238 陶ハタ部ベ新ニホ漢ミヤコ陶ハタ部ベ高タカ貴キ鞍カサ部ベ堅カタ貴キ書シ部ベ因ユ斯シ

239 我ミヤコ綿ワタ部ベ定サダメ安ヤス那ナ綿ワタ譯ワタ語コト卯ウ安ヤス那ナ等ナニ遷ウツリ居イ

240 于オ上ウヘ桃モモ原ハラ下シタ桃モモ原ハラ真マコト神カミ原ハラ三ミ所トコロ或ナニ本ホ云イハレ吉キチ

「汝國」「ア
シマニ」ハ元
來246「取假」
左訓。爲、
去聲ハ破音

241 還自百濟獻漢部手人
部、衣縫部突人部

242 八年春二月遣身狹村主青檜限民使博
(上)(平)(入)

243 德使於吳國自天皇即位至于是歲、新羅
(入)

244 國、背誕苞苴不人、於今八年而大懼中國
ツムキイツハテミツキサルことタチマツラヤトセ

245 之心脩好於高麗由是、高麗王遣精兵一
ミコハ、ロ心てて脩好を於高麗に由是に高麗の王、遣精兵一

246 百人守新羅有項高麗軍士一人取假歸
百人をて守新羅を。有項高麗の軍の士一人取假に歸
アカシマニ

247 國時以新羅人爲典馬此云而願謂
國に。時に以新羅人をして爲典馬此云而願謂
(平)(平)(平)

248 之曰、汝國爲吾國、所破非久矣國一本云汝
之曰、汝國は爲吾國、所破、非久矣國一本云汝
(去)

9 土非其典馬聞之陽患其腹退而在後遂
土に非其典馬聞て之陽て患其腹退て而在後。遂に
タリ

25 是入國說其所語。於是新羅王乃知高麗
是入國に。説其所語。於是新羅の王乃知高麗の

高麗以雉
爲祖故云爾

〔樂〕「ノ」「キ」「ハ」「エ」
誤

251 僞（平）守（平）遣使（平）馳（平）告國人（平）曰人殺家（平）內所（平）養（平）鷄（平）

252 之雄（平）者（平）國人知意（平）盡（平）殺（平）國（平）內所（平）有（平）高麗人（平）也。

253 惟（平）有遺（平）高麗人（平）一人（平）乘（平）閒（平）得（平）脫（平）逃（平）入（平）其國（平）皆（平）

254 具（平）爲說（平）之。高麗王、卽發兵（平）屯（平）聚（平）筑（平）足（平）流（平）城（平）

255 或（平）本云都（平）遂（平）歌（平）舞（平）與（平）樂（平）於新羅王夜聞高（平）

256 麗（平）軍（平）四面（平）歌（平）舞（平）知（平）賊（平）盡（平）入（平）新羅地（平）乃使人（平）

257 於任那（平）王（平）曰高麗王征（平）伐我國（平）當此之時（平）

258 若（平）綴（平）流（平）然國之危（平）殆（平）過（平）累（平）卵（平）之命（平）之脩（平）短（平）

259 所（平）不計（平）伏（平）請救（平）於日本（平）府（平）行（平）軍（平）元帥（平）等（平）由（平）

任那王、勸膳（平）之臣斑鳩（平）、斑鳩（平）此云吉備臣小（平）

伊柯（平）屢（平）俄（平）

〔軍〕
〔二字上ノ〕
〔點ノ誤〕

261 梨^シ、難^ナ波^ハの吉士^{キシ}赤^セ目^メ子^コ往^ユて救^ス新羅^{シンラ}も膳^{テン}臣^{シン}等^ト未^ミ

(上) (上) (上)

262 至^シて營^{エイ}止^シ高麗^{コリ}の諸^{シヨ}將^{シヤウ}未^ミ與^ユ膳^{テン}臣^{シン}等^ト相戰^{ソウケン}て皆怖^{オソ}。

263 膳^{テン}臣^{シン}等^ト乃^ソ自^ジ力^{リキ}て勞^{ロウ}軍^{クン}令^{レイ}軍^{クン}を中^{チュウ}に促^{ソク}爲^ス攻^ク具^グ忽^{コト}に

264 進^{シン}て攻^ク之^シ。與^ユ高麗^{コリ}、相^{ソウ}守^{シュ}十餘^{ジュ}日^{ニチ}。乃^ソ夜^ヤ鑿^{ソク}險^{ケン}て爲^ス

265 地^チ道^{ダウ}悉^{シツ}に過^カ輜^シ車^{チュ}重^{ジュウ}疑^ギ奇^キ兵^{ヘイ}會^{カイ}明^{メイ}高麗^{コリ}謂^{イフ}膳^{テン}

266 臣^{シン}等^ト爲^ス遁^{トン}也^ヤ。悉^{シツ}に軍^{クン}を來^{ライ}追^{ツイ}。乃^ソ縱^{ジュウ}奇^キ兵^{ヘイ}て步^フ騎^キ夾^カ一^{イチ}歩^フ兵^{ヘイ}馬^バ相^{ソウ}

267 攻^クて大^{ダイ}に破^パ二^ニ國^{コク}之^シ怨^{オン}自^ジ此^{コノ}而^{シテ}生^ナ言^{コト}は二^ニ國^{コク}者^{シャ}高^{コウ}

268 膳^{テン}臣^{シン}等^ト謂^{イフ}新羅^{シンラ}に曰^{イフ}汝^ニ以^テ至^スて弱^{ジュウ}て當^{タウ}至^スて強^{キョウ}官^{カン}一^{イチ}軍^{クン}

269 不^フ救^{キウ}、必^{カナラシ}、爲^ス、所^{コロ}乘^{シヨ}將^{シヤウ}成^{セイ}人^ニ地^チ一^{イチ}殆^{タリ}於^ニ此^{コノ}役^{エキ}に自^ジ今^{イマ}

後^{ノチ}豈^{ソム}背^セ天^{テン}朝^{テウ}を也^ヤ

271 九年春二月甲子朔遣凡河內直ヒユ香カ賜ヲ與ニ

272 采女マツランメタマフ祠ムナナフ胷方マツランメタマフ神カミ香賜カミ與ニ采女カミメ祠ムナナフ既カミ至カミ壇カミ所カミ

273 香賜カミ此コノ云イハレ及カ將マシ行ユク事コト姦シカス其ソノ采女カミメ天皇カミ聞キ之ヲ

274 曰イハレ祠ムナナフ神カミ祈イノ福フク可カ不レ愼シ歟ナ乃ソノ遣ツク難波ナニハ日ヒ鷹タカ吉キチ

275 士シ將シム誅コロ之ヲ時トキ香賜カミ退ヒク逃ニグ亡シ不レ在ヘム天皇カミ復タビ遣ツク

276 弓削ユキサキ連ムラサキ豐穗トヨホ普フ求モトメ國クニ郡クニ縣ノ遂ツキ於ニ三嶋ミナト郡ノ藍アヲ

277 原ハラ執テ而ニ斬キ焉ヲ●三月ミヅノエ天皇カミ欲ホシ親ミ伐キ新羅ニハ神カミ戒イ

278 天皇カミ曰イハレ無ナシ往ツク也ナ天皇カミ由ヨリ是コノ不レ果セ行ユク乃ソノ勅ツケ紀キ

279 小弓コユキ宿禰スミ蘇我スミヤケ韓カ子コ宿禰スミ大伴オホトモ談カタリ連ムラサキ云イハレ簡カン此コノ日本人娶ユメ蕃フキ子コ

利リ小コ鹿カ火ヒ宿禰スミ等ナリ曰イハレ新羅ニハ自ミナ居ス西ニ土ツチ果カ葉ハ之ヲ

291 爲イ給隨ヘ身ミて視ミ養ヤウ。遂スエ推アヒタス一ヒト轂ハス以ツカ遺ハス焉ヲ。紀キ小弓宿禰

292 等則入新羅ニク。行ユク屠ハフル傍ト郡ノ。行ユク屠ハ竝ニ擊ツ新羅之王夜

293 聞ミ官ミカ一軍ノ四面ニハ鼓ツ聲ヲ知チ盡ヘ得コト。喙ノ地ヲ與トクノチ數モ百ハ騎リ馬車イササト。(擦消)

294 馬車イササト亂マヒ走ハシ。是以大敗。小弓宿禰追アタリ斬キ敵ノ將ヲ。

295 陣イササ中ニ喙ノ地ヲ悉ス定マ遺ト衆カラ不レ下シタカハ。紀小弓宿禰亦

296 收兵ヲ與ト大伴談カタリ等ヲ會ア兵復ヲ大ト振フ與ト遺ト衆セカ戰ハ。

297 是夕カタリ是大伴談カタリ連ニ及ツ紀ノ前サキ來ク目メ連ニ皆ハ力チカラ闘カヒ。ツト

298 而ス死ス。談ノ連ニ縱トモヒト人ヲ同姓カヘネ津麻呂ノ後ニ入リ軍ノ中ニ尋ミ。

299 覓モトメ其ノ主ヲ。從アホシ軍ヲ覓モト出デ問ヒ曰ク吾アルシ主ヲ大伴公何處

也。人告ツ之ヲ曰ク汝主等ハ果ニ爲ル敵ノ手ヲ所レ殺ト云。指シ。

〔爲、去聲
破音〕

〔覓出、覓
ハ元、不見〕

301 示屍の處を津磨聞て之踏一叱て曰主既一已に^{死也}陷^{シタリ}何^シ用てか

302 獨^{イケラム}全。因て復^(去)赴敵^{ユキアタノナカ}同^{モロトモニ}時殞^{シズ}命。有頃^{シヘラク}遺^{トモカラ}衆自退^{マカ}。

303 官^{ミイサ}軍亦隨て而却。大將^{オホイ、クサノヤミ}軍紀の小弓宿禰、值^{ヤマヒシテ}病て

304 而薨^{ミウセヌ}。夏五月紀大磐^{オヒヘ}宿禰聞父既薨^トて乃向^{ユキ}。

305 新羅^{ニテ}執小鹿火の宿禰^(上)所^(上)掌^レ兵^ツ馬船の官及諸の

306 小官^{コロタサス}專一用一威命。於是小鹿火の宿禰^{ニホム}深^{ニクム}怨^ム乎

307 大磐^{オヒヘ}宿禰^モ乃^{カサ}詐^{マテ}告於韓子の宿禰^{ニテ}曰大磐の宿

308 禰^{ニテ}曰^(イ)大磐の宿禰^(イ)謂^(イ)僕^{ヤツカレ}曰我當^ニ復^{ニテ}執^(去)韓子宿

309 所掌之官、不久也。願^シ固守^レ之由是^{ニテ}韓子

310 禰與大磐宿禰有隙^{ヒマ}。於是、百濟王^{コスシ}聞日^{ヤマト}

「禰」(第一字)
朱點「て」ラ
墨ニテ消セリ

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

- 311 本の諸將、緣小事有隙。乃、使人於韓子宿禰の
イサノキミトモ イサ、ケサ
- 312 等て曰、欲觀國の界を請垂降臨。是以韓子宿禰
モト ミセマヅラム イケマサヘ マセロ
- 313 竝轡而往。及至於河、大磐宿禰飲馬於河。
馬ノロウ ユ ユ 水カフ
- 314 是時韓子宿禰從後而射大磐宿禰の鞍、几の
ウシ ホホ
- 315 後橋を大磐宿禰愕然て反視て射墮韓子宿禰を
シリフクラホネ シツクラムテ オトロキモトカヘリテ イ シツ
- 316 於中流而死。而是三臣由前相競行、亂於道、
河中也 カハナガ シ 大夫 モトヨリ サイタテ ミダレテミチニセルニアリテ
- 317 不及百濟王宮、而却還矣。於是采女大海、
コキシ オホミ
- 318 從小弓宿禰、喪到來日本。遂憂、諮於大伴の室
禰 マウケリリ 申
- 9 大連曰、妾不知葬所。願占良地。大連、爲
ミ ミ ム シメ給 トコロ 去
- 3 奏之、天皇勅大連曰、大將軍紀小弓宿
アリ 轉倒

321
 禰、龍タツノ如アカリ、
 驥、虎、
 視カダクて
 旁アマホナに
 眺ミ
 八ヤ
 維モツ。
 掩オ一
 討ウチ
 逆ソムク
 節モノノヅ
 一エテ
 折シキヤツ
 衝ツク
 四ヨロノクニ

322
海を○然
クニ
則、身勞
萬一里に命
トホキニ
墜
三の韓に○宜
カクニ
致哀
メクミ
矜て宛
ア

323
視^{ツカヒ}葬^{マフチキミ}者^{マフチキミ}を。又汝大伴卿^{マフチキミ}與紀卿^{マフチキミ}等、同國近隣

324
之
人^シに^テ由^リ來^ル尙^ハ矣。於^レ是^ニ大^ニ連^ル奉^ム勅^ヲて^モ使^ス土^ノ師^ヲ連^ル

由是
脱ノ上ノ

325 小鳥をて依家一墓を於田(上)身(上)輪(平)邑に而葬之也。是て大

「連・鳥」
ミセケチ

327
以
韓^{カラヤツコ}奴^ヌ室^{ヌムロ}、兄^ニ
奴^ヌ名^ナ(去)
麻呂、弟
麻呂、御^ミ倉^{クラ}
(上)
(上)
(上)
(上)
針^チ六^{ムロ} 奴^ヌ名^ナ(去) 六人也

口をて送大連に吉備の上道の蚊嶋田の家人部是

也。別ニ小鹿カ火宿禰ミ從紀ノ小弓コ宿禰ミ之喪ノ來キ時ニ

(上) 角ツルカ 國くに 使し
 周方地
 (上) 和
 (上) 子
 連を 連
 何
 姓 未
 人 詳
 奉
 八ヤ 咫ヤ 鏡の 於 大

- 170 -

341 乃赤駿、超コエ一ヒ據ケ絕マ於タル埃コトク塵モノミチ、驅コエ一ヘ迅ル滅ナル於コト是流母可爾シクウセヌ

342 驄オウノ馬ウマ沒オクレ而後怠オソシ足テ不可復（去）追カ其レ乘トキムマ駿ウマ者ノ知伯

（ハ、□ノ位置）
343 孫カ所カ欲テ仍テ停カヘ換カヘ馬ウマ相サリ辭ワカレヌ取ハス別ハス伯トキムマ孫トキムマ得トキムマ駿ウマ甚トキムマ

344 歡ヲトシ驟ヲトシ而入廐オロシ解マカ鞍マカ秣マカ馬ウマ眠ネヌ之ノ其明旦トキムマ赤駿

345 變カヘ爲レリ土ヘニマ馬ウマ伯ハス孫ハス心ココロ異アラヤシム之ノ還マカ覓マカ田タノ陵リョウ乃ハス見

346 驄オウノ馬ウマ在ニ於タル土チ馬ウマ之ノ聞ナカ取カヘ代カヘ而置所ス換シ土チ馬ウマ

347 也

348 十年秋九月乙酉朔戊子身狹サカ村ムラ主ヌシ青等

（「馬」去聲ハ）
349 將タラシ吳ウ所タラシ獻ケン二ニ鵝カモ到キタ於タル筑チク紫シ是ハス鵝カモ爲（去）水ミ聞（去）君キミ

所レ嚙クハ死シ。別（平）本（平）云（平）是（平）爲（平）鵝（平）筑（平）紫（平）嶽（平）由（平）是（平）水（平）

「點」「默」

351 間、君、恐一怖、憂一愁て不能自點^(ト)獻^(ト)鴻^(カ)十^(ト)隻^(ツ)與^(去)養^(上)

(一)

352 鳥^(トリ)人^(ニテ)請^(申)以贖^(ト)罪。天皇許^(フ)焉。●冬十月乙卯朔

○辛丑^(ト)水開君^(ニ)所獻^(タテマツル)養鳥^(ニ)人等^(ヲ)安^(ヤス)置^(ヘ)於輕^(カ)村^(ニ)、磐^(イ)余^(ヘ)村^(ニ)二^(フ)所^(ト)也

353 十一年夏五月辛亥朔近江國の栗太郡言、

354 白^(キウ)鷺^(ル)鷺^(ル)、居于谷^(タニ)上^(ノ)濱^(ヘ)。因て詔て置川瀬^(ナノリ)の舍人^(ヲ)を。

355 秋七月有從百濟國、逃^(ニ)化^(マウケル)來者。自稱^(ナノリ)名て

356 曰貴信。又稱、貴信^(キヒノ)は吳國^(コト)の人^(ニ)也。磐^(イ)余^(ヘ)の吳^(コト)の琴^(コト)彈^(ヒキ)、

357 壇^(サカ)呼^(カチ)の屋^(ヤカ)形^(カタ)麻呂^(マロ)等是其後也。●冬十月鳥の官

「爲」去聲
破音

358 之禽^(トリ)菟^(ウ)田^(ト)、人^(ニ)の狗^(イヌ)、所^(ニ)嚙^(カミ)て死^(シ)。天皇腹^(ハラ)て黥^(シ)面^(オモ)て而

鳥養部。於是信濃國^(ツカノノミナト)直^(ナホ)丁^(チヨウ)武藏國直^(ムサシノナホ)丁^(チヨウ)

「侍」「へ」
「リ」「ノ」「ア」
ニ轉倒符アリ

360 侍宿^(サヘ)。相語曰嗟^(ア)乎我國^(ウチノミコケル)積^(ツミ)、鳥之高^(サ)、同於小^(コ)

361 墓^ト且^ツ暮^テ而^ヲ食^{ヘトセ}尙有其餘。今天皇由^{ヨリ}一^ノ鳥之

362 故^ニ而^{キヤム}黥^人の面^ヲ太^ヘ無^{コトワリ}道^一理^{。アシクマシマス}。惡^キ一^ノ行之^主也。天皇、

363 聞^{タマフツ}而使^{タマフツ}聚積之。直丁等不能忽^ニ備^{。仍テ詔テ爲}

364 鳥養部

365 十二年夏四月丙子朔己卯身狹^サ村^ス主^リ青^{ワケ、}

366 與^ヲ檜限、民^ヲ使^{ハシ}博^{ハク}德^{トク}、出^{ツカハス}使^{ハシ}于吳^ニ。●冬十月癸酉

367 朔壬午天皇命木工^{コタタミ}鬪^ツ鷄^ケ御田^ニ一^本云^猪御田^ハ

368 蓋誤也。始^{ツケル給}起^ル樓^{タカトノ}閣^ヲ於^ニ是御田、登^ニ樓^ニ疾^ニ走^{コト}四面^ニ、

369 有若^{コト}飛^ハ行^ハ時^ニ有伊勢、采女^ニ仰^テ觀^ル樓^ノ上^ニ恠^テ彼

行^ハて願^{タフレタ}一^ツ於^ニ庭^ニ覆^{コホシツ}所^ノ擊^{ヤケ}饌^{ミツケモノ}饌^ヲ者^ハ御膳^{イツケモノ}天皇

371 使^ニ疑^レ御^田田^ヲ姦^{セリト}其^采采^女女^ヲ自^コ念^サ將^刑刑^ヲ而^付付^物物^部部^ニ。

372 時^ニ秦^ノ酒^ノ公^侍侍^一坐^ニ坐^{ヘリ}欲^以以^琴琴^ノ聲^ヲ使^悟悟^於於^天天^皇皇^ニ横^ハ。

373 琴^ヲ彈^テ曰^コ柯^武武^柯柯^筵筵^能能^伊伊^ミ制^ミ能^ミ奴^ヤ奴^能能^平。

374 婆^上柯^上曳^上鳴^上伊^上哀^上甫^上流^上柯^上枳^上底^上志^上我^上都^上矩^上屢^上。

375 麻^平泥^上爾^上飫^上哀^上枳^上瀾^上爾^上柯^上陀^上俱^上都^上柯^上陪^上麻^上都^上。

376 羅^上武^上騰^上倭^上我^上伊^上能^上致^上謀^上那^上我^上俱^上母^上鵝^上騰^上伊^上。

377 比^上志^上陀^上俱^上彌^上幡^上夜^上阿^上陀^上羅^上陀^上俱^上彌^上幡^上夜^上於^上。

378 是^給是^給天^給天^給皇^給皇^給悟^給琴^給琴^給ノ聲^給而^給赦^給其^給罪^給。

9 三^年年^春春^三三^月月^狹狹^穗穗^彦彦^女女^孫孫^齒齒^田田^根根^命命^竊竊^ニ。

38 采^女女^山山^邊邊^小小^嶋嶋^子子^天天^皇皇^聞聞^以以^齒齒^田田^根根^命命^ヲ。

「カ」
「ラ」
「ハ」
「チ」
「イ」
「カ」
誤

381 收^{サツ}付^ツ於^ニ物^{モノ}部^ノ目^メ大^{オホ}連^{レン}而^ニ使^シ責^セ讓^{ジヤウ}。齒^シ田^{テン}根^ネ命^{メイ}、

382 以^{ヨリ}馬^バ八^ハ疋^{ツツ}大^{オホ}刀^{タウ}八^ハ口^コ而^ニ使^シ除^ス罪^{ヰミ}過^ヲ而^ニ歌^カて曰^{イハレ}、

383 耶^ヤ麼^マ能^ネ謎^ミ能^ネ故^コ思^シ麼^マ古^コ俞^ユ衛^ヱ爾^ニ比^ヒ登^{トウ}但^ダ羅^ラ

384 賦^フ宇^ウ麼^マ能^ネ耶^ヤ都^ト擬^ギ播^ハ鳴^{メイ}思^シ稽^キ矩^コ謀^モ那^ナ斯^ス目^メ

385 大^{オホ}連^{レン}聞^ク而^ニ奏^{ソウ}之^ヲ。天^{テン}皇^ス使^シ齒^シ田^{テン}根^ネ命^{メイ}而^ニ資^シ財^{サイ}露^ロに

386 置^{オキ}於^ニ餌^エ香^{カウ}市^{イチ}邊^ヘ、橘^{キツ}本^{ホン}之^ノ土^{ツチ}。遂^{スエ}以^{ヨリ}餌^エ香^{カウ}長^{チヤウ}野^ノ

387 邑^{ムラ}賜^{ミタフ}物^{モノ}部^ノ目^メ大^{オホ}連^{レン}秋^{シュ}八^{ハチ}月^{ゲツ}播^ハ磨^マ國^{クニ}御^{ミコ}井^イ限^{リミ}

388 人^{ヒト}、文^{モン}石^{シツ}小^コ磨^マ有^{アル}力^{リキ}強^{キヤウ}、心^{シン}肆^シ行^{コウ}暴^{ボウ}虐^{ゲツ}路^ロ中^{チュウ}抄^{セウ}、

389 却^{ケツ}不^フ使^シ通^{ツウ}行^{コウ}人^{ニン}又^{マタ}斷^{タン}商^{シャウ}客^{キヤク}之^ノ船^{セン}而^ニ悉^{シツ}以^{ヨリ}奪^{ダツ}取^ク兼^{ケン}て

國^{クニ}の法^{ホウ}不^フ輸^{シュ}進^{シン}也^ヤ祖^ソ賦^フ於^ニ是^{コト}、天^{テン}皇^ス、遣^ツ春^{シュン}日^{ニチ}小^コ野^ノ

御調

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

391 臣 大^{オホ}樹^{タケキヒト}一^上敢^ハ死^シ士^シ一^セ百^{ヒト}竝^ニ持^テ火^ヒ一^ヒ炬^キ而^ニ圍^ミ宅^ヤ而^ニ

392 燒^{ヤク}。時^{トキ}自^{ヨリ}火^ヒ炎^{ホノ}中^ノ、白^{オホ}狗^{ヘリ}暴^{カハラ}出^{マシテ}逐^{オク}大^{オホ}樹^{タケ}臣^{キミ}。其^{ソノ}大^{オホ}

393 如^{タマシヒ}馬^{ウマ}。大^{オホ}樹^{タケ}臣^{キミ}神^{カミ}色^{イロ}、不^{オモヘリ}變^{カハラ}拔^{マシテ}刀^{ヤタガヒ}而^ニ斬^ツ之^ヲ。卽^{ソレ}化^{ナリ}爲^ス

394 文^{フヤシノ}石^{イシ}小^コ鷹^{マロ}●秋^{アキ}九^ク月^{グツ}木^キ工^コ韋^{カエ}那^ナ部^ベ眞^マ根^ネ以^{ヨリ}石^{イシ}而^ニ

395 爲^{タカ}質^{アテ}揮^{トリ}斧^テ而^ニ斷^ツ材^{ツグ}終^ハ日^ヒ斷^ツ之^ヲ不^ア誤^マ傷^ヤ刃^{ヤタガヒ}天^{アメノ}皇^{ミコ}遊^{イダシ}

396 詣^{ヨリ}其^{ソノ}所^{トコロ}而^ニ恠^{イデ}問^ト曰^{イハレ}恆^{トコロニ}不^シ誤^マ中^{ナカニ}石^{イシ}耶^ヤ眞^マ珠^{スサナヒ}根^ネ答^{コタヘ}

397 曰^{イハレ}竟^{ツヒ}不^シ誤^マ矣^{ナリ}。乃^{ソレ}喚^{コト}集^ツ采^ツ女^{メノ}而^ニ使^シ脫^{ヌケ}衣^{キヌ}裙^{モツ}而^ニ着^キ

398 憤^{イデ}鼻^{ハナ}而^ニ露^ス所^{トコロ}相^{アイ}撲^ツ。於^{コノ}是^{トキ}眞^マ根^ネ暫^シ停^{トモ}仰^{オホムス}視^ミ而^ニ斷^ツ

トホニシテ
オロニテ
覺^{オロ}手^テ誤^{アヤマ}傷^ツ刃^{ヤタガヒ}。天^{アメノ}皇^{ミコ}因^{ユヅリ}嘖^{メセ}讓^{ヤメ}曰^{イハレ}何^{ナニ}處^{トコロ}奴^{ヤツ}不^シ

400 畏^{オソ}朕^{ミナモト}用^{ヨウ}不^シ貞^{マコト}心^{ココロ}而^ニ妄^{マダラニ}輒^{タラシ}輕^{カサニ}答^{コタヘ}。仍^{タラシ}付^{ツキ}物^{モノ}部^ベ而^ニ使^シ刑^{コロサ}

「廣」「に」
ハ「呂」ニ
點セシ形、
来二字歟
元加點

「中」
去聲ハ
破音

4	109	408	407	406	405	404	403	402	401
四年春正月丙寅朔戊寅身狹村主青	麼（平）云（平）伊（平）志（平）歌（上）孺（平）阿（平）羅（平）麻（上）志（上）也	枳（上）制（上）播（平）伊（上）能（上）致（上）志（上）儺（上）麼（上）志（上）柯（上）比（上）能（平）俱（平）盧（上）古（上）	歌（上）曰（上）農（上）播（上）挖（上）麼（上）能（上）柯（上）彼（上）能（平）矩（上）盧（上）古（上）麼（上）矩（上）羅（平）	黑（上）駒（上）馳（上）詣（上）刑（上）所（上）止（上）而（上）赦（上）之（上）用（上）解（上）微（上）纏（上）復（上）作（上）	然（上）て、顔（上）歎（上）曰（上）幾（上）に失（上）人（上）を哉（上）乃（上）以（上）赦（上）使（上）乘（上）於（上）甲斐（上）の	阿（上）挖（上）羅（上）須（上）儺（上）幡（上）天（上）皇（上）聞（上）是（上）歌（上）て反（上）て生（上）悔（上）惜（上）こと（上）を唱（上）	彌（上）儺（上）潘（上）旨（上）我（上）那（上）稽（上）麼（上）挖（上）例（上）柯（上）該（上）武（上）預（上）	阿（上）挖（上）羅（上）斯（上）枳（上）偉（上）儺（上）謎（上）能（上）陀（上）俱（上）彌（上）柯（上）該（上）志（上）須（上）	於（上）野（上）爰（上）有（上）同（上）伴（上）巧（上）者（上）歎（上）惜（上）眞（上）根（上）て而（上）作（上）歌（上）て曰（上）、

411 等、共に吳國使、將吳の丙^ク一^テ獻^マ手^{ヒト}末、才^イ伎^リ漢^ハ一^ク織^リ吳^ニ ^(上)

412 織^キ及^ツ衣^キ縫^ミ兄^ニ媛^ニ弟^ニ媛^ニ等^ト泊^マ於^ニ住^ミ吉^ノ津^ニ是^レ月 ^(平)

413 爲^ツ吳客^ノ道^ヲ通^ス磯^シ齒^ハ津^ッ路^ニ名^ニ吳坂^{サカ}●三月命臣 ^{(平)(上)}

414 連迎吳使^ニ卽安^ヘ置^{シム}吳人^ノ於^ニ根^ノ野^ニ因^テ名^ニ吳原^{ハツ} ^(平)

415 以衣縫兄^ニ媛^ニ奉^マ大三輪^ノ神^ニ以^テ弟媛^ニ爲^ス漢^ノ衣

416 縫部^ト也。漢^ハ織^リ吳^ノ織^リ衣縫^ニ是飛鳥^ノ衣縫部[、]伊

417 勢衣縫^{キヌヒラカ}之先^{オヤ}也。夏四月甲午朔天皇欲^{オホ}設^{アヘタマハムトシテ}

418 吳人^{トナヘ}歷^{トナメ}問^{トヒ}羣臣^ニ曰^ハ其共^{アヒタケヒト}食^{イヒタケヒト}者^ニ誰^カ好^ク乎。群臣^カ

419 僉^ニ曰^ハ根^{ネノオヤ}使主^ヲ可^{ヨケム}天皇卽命根^{ネノオヤ}使主^{オムシタマフ}爲^ス共^{イヒタケヒト}食

遂於石上^ノ高^{アカ}拔^{スクル}原^{アヘタマフ}饗^ニ吳人^ニ時密^{シノヒ}遣舍人^ヲ ^(上)

「泣」ハ「イナ」
「チ」ハ「イサ」
「チ」ハ「イサ」
誤

421 視^ミ察^サ装^{ソウ}飭^{シウ}舍^{シャ}人^ニ服^{カヘリ}命^{コトマツ}曰^{イハ}根^ネの使^{オム}主^ヌの所^セ着^{ケル}玉^{タマ}纓^{ヅラ}

422 大^{ハナハタ}貴^{ケイ}最^{モト}好^{ウルワン}又^{モロト}衆^{モロ}人^ニ云^{イハ}前^{マヘ}に迎^{ムカフ}使^{オム}を時^{トキ}に人^ニ亦^{モト}着^{セリキ}之^ヲ。

423 於^オ是^{コノ}天^{テン}皇^{ノウ}欲^シ自^ミ見^{ミタマハム}命^メ臣^シ連^{ツグ}装^{ソウ}如^{アヘセシ}纓^{ヅラ}之^ノ時^{トキ}引^{ヒキ}召^{メカス}

424 見^ミ殿^{テン}前^{マヘ}に皇^{ノウ}后^{クイ}仰^{アツ}天^{テン}に獻^{ナケキ}歎^{ナキ}泣^{ナキ}泣^{ナキ}傷^{カナシヒタマフ}哀^{アハレ}天^{テン}皇^{ノウ}問^トて

425 曰^{イハ}何^{ナニ}由^ユて泣^{ナキ}乎^ヤ。皇^{ノウ}后^{クイ}避^サ床^{トコ}を而^{シテ}對^{マツカフ}曰^{イハ}此^{コノ}玉^{タマ}纓^{ヅラ}は者^{モノ}

426 昔^{ヤツコカ}妾^{メカ}兄^イ大^{オホ}草^{クサ}香^カ皇^{ノウ}子^コ奉^{ウケ}穴^{アナ}穗^ホ天^{テン}皇^{ノウ}の勅^{オホム}を進^{タナマツリシ}妾^{メカ}

427 於^オ陛^キ下^ミに時^{トキ}に爲^{ナリ}妾^{メカ}所^{タマツレル}獻^{ナケキ}之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}。故^{ユヘ}致^{チカ}疑^{ウタガハシ}於^オ根^ネの

428 使^{オム}主^ヌに不^{オロカニ}覺^{サト}に涕^{ナミダ}垂^リ哀^{イサナラル}泣^{ナキ}矣^{ナリ}。天^{テン}皇^{ノウ}聞^ク驚^{オドロク}大^{オホ}怒^{ドコロ}。深^{コソコソ}

429 責^{ツグ}根^ネの使^{オム}主^ヌに對^{マツカフ}言^{コト}死^シ罪^{ツミ}。こゝ實^{サニ}臣^シ之^ノ

詔^{ミコトノコトヲ}曰^{イハ}根^ネ使^{オム}主^ヌは自^ミ今^{イマ}以^{ヨリ}後^{ノチ}子^コ孫^{ソノ}八十^{ヤチ}

- 431 聯ナフカラシメツ綿ナクハラシメツに、莫ナク預ハラシメツと群臣之側ソバに。乃將欲斬之。根使主
- 432 逃カ匿カて至カ於カ日ヒ根ニて造稻城カ而待戰。遂爲ミイリ官軍ミイリの、
(上)(平)
- 433 見殺。天皇命ミ有フカサク司ニ分ニ子孫ナカハツて一分爲大草
- 434 香部の民ト以封皇ミサス后ニ一分ミ賜茅淳チ縣主ニ爲カフキ負カフキ
- 435 囊フクロ者ヒト。即求難波ニ吉士ヒ日ヒ香カ子孫ミ賜姓カヘネ爲大
(平)(平)(上)
- 436 草香部の吉士ニ其日香ミ等ヲカ語ハ在穴穗天皇
- 437 紀ミヤキ事之後ニ小根ツ使オミ主オム小根ミ使ミ主ミ夜臥テ謂人ニて
- 438 曰天皇之城不堅。我父城カツ堅。天皇傳聞是語ミて
- 39 見ミ根使主ミ宅イヘ實ニ如其言。故、收トラヘ殺ス之。根ミ使主
- 後ノ爲坂本臣、自是始焉

441 十五年 秦の民を分^{アカサ}散^サ臣連等^{ニテ}各隨^ア欲^{ホカヒノマエ}、駟^{シム}使^{シム}勿^ス

442 委^{ユタニス}秦^{ニタニス}の造。由^ユ是^{ニテ}秦の造酒、甚^シ以^テ爲^ス憂^{ウレ}。而^{シテ}仕^シ於^ニ天

443 こ 皇^ニに。愛^{ウツクシヒメタム}寵^ム之^ヲ。詔^テ聚^{トリ}秦民^ヲ於^ニ秦^ノ酒^ノ公^ニに。

444 仍^ヒ領^キ率^キ百八十種^{カサ}勝^{カサ}奉^{ニテ}獻^{ミツ}庸^{ミツ}調^{御調也}絹^ヲ縑^ヲ充^ツ積^ツ朝^一

445 庭^{ミカト}因^ニ賜^ニ姓^ヲ曰^ク禹^ウ豆^ツ麻^マ佐^サ一^一云^云禹^禹豆^豆母^母利^利麻^麻

446 十六年 秋七月 詔^テ宜桑國縣^{ウエシム}殖^殖桑^桑又^又散^{ウツシ}遷^{アカサ}

447 秦の民^ヲ使^シ獻^{ツクリモノミツキ}庸^ヲ調^ヲ。●冬十月 詔^テ聚^{アヤ}漢部^{漢部}定^定其伴^伴の

448 造者^ハ賜^ニ姓^ヲ曰^ク直^直一^一云^云賜^賜漢^漢使^使主^主等^等也^也

9 七年 春三月 丁丑朔 戊寅 詔^テ土師連等^等ニテ

45 進^進應^應盛^盛朝夕^ノ御膳^{ミケツモノ}清^キ器^器者^者。於^ニ是^是土師連^連の

〔ノ「ケ」ハ「ヘ」〕
〔ノ「ケ」ハ「ヘ」〕
〔ノ「ケ」ハ「ヘ」〕

〔チ「朝」ミセケ〕
〔チ「朝」ミセケ〕
〔チ「朝」ミセケ〕

451 祖、吾^ア。箭^ケ。仍^{（平）}。進。攝津國^ノ。來^{（平）}。狹^サ。ミ。村、山背國^ノ。內^{（上）}。

452 村、俯^フ。見^ミ。村、伊勢國^ノ。藤^フ。形^カ。村、及丹波但馬因^{（上）}。

453 幡^フ。私^シ。民部^ノ。名^ナ。贊^ニ。土師部^ト。

454 十八年秋八月己亥朔戊申遣物部^ノ。菟^ウ。代^{（平）}。宿^{（上）}。

455 禰、物部目連^ニ。以^{（平）}。伐^{（上）}。結^{（平）}。朝伊勢^ノ。朝^{（平）}。日^{（上）}。郎^{（平）}。朝^{（上）}。日^{（上）}。郎^{（上）}。

456 聞官^ミ。軍^{（平）}。至^{（上）}。即^{（平）}。逆^{（上）}。戰^{（上）}。於伊勢青墓^ノ。自^{（平）}。矜^{（上）}。能^{（平）}。射^{（上）}。能^{（上）}。射^{（上）}。

457 謂官^ミ。軍^{（平）}。日^{（上）}。朝^{（上）}。日^{（上）}。郎^{（上）}。手^{（平）}。誰^{（上）}。人^{（平）}。可^{（上）}。中^{（上）}。也^{（上）}。其^{（上）}。所^{（上）}。發^{（上）}。

458 箭^ヤ。穿^{（平）}。二^{（上）}。重^{（上）}。甲^{（平）}。官^{（上）}。軍^{（上）}。皆^{（上）}。懼^{（上）}。代^{（上）}。宿禰^{（上）}。不^{（上）}。敢^{（上）}。進^{（上）}。

459 擊。相^{（平）}。持^{（上）}。二^{（上）}。日^{（上）}。一^{（上）}。夜^{（上）}。於^{（上）}。是^{（上）}。物部目連^{（上）}。自^{（上）}。執^{（上）}。大^{（上）}。

使^{（上）}。筑紫^{（上）}。聞^{（上）}。物部大^{（上）}。斧^{（上）}。手^{（上）}。執^{（上）}。楯^{（上）}。叱^{（上）}。於^{（上）}。軍^{（上）}。中^{（上）}。以^{（上）}。

- 461 俱進ス、マシム朝日イラツ郎乃遙見イ而射穿大斧手ナカ楯タテ
- 462 二重ヘの甲ヨを并テ入ミ身シの肉ニ一寸大斧手、以楯サシカク翳物ス
- 463 部目、と連ミ。と即獲トクヘ朝日郎コロシツを斬之。由是ニ薨代
- 464 宿禰羞ハチ愧不ミ克カて七日ミカヘリに不服命コト申。天皇問侍臣オホト大夫にオツモトマシキミて
- 465 薨代宿禰何ナトカ不服命カヘリコトウサ。爰ニ有讚岐タムシワケ田ワケトイフ蟲人別ミ進ミて
- 466 而奏テ曰薨代宿禰ツタナ怯フチナシ也二日一夜不能トラフル擒ミ
- 467 執ト朝日イラツ郎而物部目連率筑紫ヤクサ聞物部大
- 468 斧手ヲ獲トラヘ斬朝日郎ツ矣。天皇聞之怒。輒奪薨
- 469 宿禰タモテル所有猪井使部名ナ賜物部目連
- 4 九年春三月丙寅朔戊寅詔テ置穴穗部ヲ

471 廿年冬高麗王大に發軍兵を伐て盡百濟を。爰に有

472 有小許の遺の衆聚一居倉下兵糧既に盡て憂泣こと茲に

473 深。於是高麗の諸將言於王に曰百濟の心許、非

474 常に臣毎見之不覺自失を恐は更に夢生。請、遂に除

475 之。王の曰不可矣。寡人聞、百濟の國は者爲日本の

476 國之宮家所由來、遠久矣又其王入て仕す天

477 皇に四隣之所共に識也。遂止之。百濟記云蓋

478 冬、大軍來て攻大城、七日七夜。王の城降、陷

479 遂失尉禮國。王及大后、王、子等皆沒敵の手に

廿一年春三月天皇聞百濟爲高麗所破て

久麻那利て賜汶洲王て救興其國を。時人皆

「降陷」
「ア」
「レ」
「ハ」
「ヤ」
「ノ」
「誤」

- 481 云百濟の國雖屬ヤカラ既亡イハレ聚憂ウレフ倉下ヘスオト實賴スメラミ於天ミタマノアヲロ
- 482 皇、更成也造其國ミ舊ミ洲王ミ蓋ミ幽王ミ母弟ミ也。日。本。
- 483 王ミ蓋是誤也。久ミ麻那利ミ者任那ミ
- 484 廿二年春正月己酉朔以白髮皇子ミ爲皇
- 485 太子。秋七月丹波國後カ餘社サ郡ミ管ミ川人ミ、瑞江ミの
- 486 浦嶋の子乗舟ミ而釣ミ遂得ミ大龜ミ便ミ化ミ女ミ爲ミ於
- 487 是浦嶋の子ミ感ミ以爲婦ミ相逐ミ入海ミ到蓬萊山ミにて
- 488 歷ミ觀ミ仙衆ミ語ミ在別卷
- 489 廿三年夏四月百濟ミ久ミ斤王ミ薨ミ天皇以昆
- 王ミ五子ミ中ミ第二ミ末ミ多王ミ幼年ミ聰明ミ勅ミ喚ミ

491 内^シ裏^{大内}親、撫頭^{カウヘ}一面^を誠勅^{ネムコロニシ}慰^を勲^を使王^{コキシ}其國^に乃^仍賜

492 兵^ツ器^{ハモノ}并^を遣筑紫國^{イタサ}軍士^{イホ}五百人^を衛^{シム}送^を於國^に

493 是^を爲東城王^{ミツヘモノ}。是歲百濟^{ミツヘモノ}調^{御調物}賦^{レリ}益^を於常例^{アト}。筑

494 紫^をの安^ア致^チ臣、馬飼^{ウマ}の臣等、率^ヒ船^{フナ}師^イ以^を擊高麗^を。●秋

495 七月辛丑朔天皇^{御病}寢^を疾^を不預^を。詔^{諸政ス、メ退ケ謀事}賞^を罰^を支^を度^を、
マツリコト オキタ

496 事^ヲ無巨細^{オホキナナル}、竝^{チヒヤキト}付皇太子^{ユタニタマフ}。●八月庚午朔丙子

497 天皇^{オホキナナル}疾^ヲ、彌^{オモシ}甚^シ。與百寮^{オホキナナル}辭^{ヲカレ給}訣^ヲ、竝^ヲ握手^{ヲケキ}、獻^ヲ秋^ヲ。崩^ヲ

498 于大^{ミコトノシ}殿^{ミコトノシ}遺^ヲ詔^ヲ於大伴室屋大連^{ミコトノシ}、與^ヤ東^{ミコトノシ}漢^{ミコトノシ}掬^ヲ。

〔萬里〕止^ヲ、
〔遠事〕ノ^ヲ
アタヒ
日^ヒ方^ハ今^{イマ}區^{アメノシタ}一^ニ家^ヲ煙^{ケフリニ止事}火^{トホシ}萬里^ヲ。百姓^{ヒヤクシヤ}又^{マタ}安^{ヤス}

50 匹^{ヒナ}夷^{ヒナ}寶^{カナヒマツル}服^ヲ。此^{コノ}又^{マタ}天^{アメノミ}意^ミ欲^ヲ寧^{オホスセリ}區^{ヤスラカニセムト}夏^{クニノナツ}。所以^{ソノ}小^コ心^{ココロ}、

〔爲、去聲ハ〕
破音

501 勵ヘケ己オ一ヒニヒニ日ミツ慎ヒトヒラツ、シムコトヘ一御叔日オホムタカラ蓋爲、百オホムタカラ一姓、故也。臣の連伴の造

502 每日ミカトマイリシ朝ミカト參ミカト國ミカト司率也郡司、○隨御叔時マウチコヘ一マウチキウコヘレリ朝マウチコヘ參マウチコヘ集マウチコヘ、何マウチコヘ、不マウチコヘ聲マウチコヘ一マウチコヘ竭マウチコヘ心マウチコヘ一

503 府ヤミ一ヤミ誠ヤミ勅ヤミ一ヤミ殷ヤミ勸ヤミ義ヤミ乃ヤミ、君ヤミ臣ヤミ情ヤミ兼ヤミ父ヤミ子ヤミ庶ヤミ藉ヤミ臣ヤミ

504 連ヤミ智ヤミ力ヤミ、內ヤミ外ヤミ的ヤミ勸ヤミ心ヤミ一ヤミ欲ヤミ令ヤミ普ヤミ天ヤミ之ヤミ下ヤミ一ヤミ永ヤミ、保ヤミ安ヤミ一

505 樂ヤミ一ヤミ不ヤミ謂ヤミ、違ヤミ疾ヤミ彌ヤミ畱ヤミ至ヤミ於ヤミ大ヤミ漸ヤミ一ヤミ此ヤミ乃ヤミ人ヤミの生ヤミ常ヤミの

506 分ヤミ何ヤミ足ヤミ言ヤミ一ヤミ及ヤミ。但ヤミ朝ヤミ野ヤミの衣冠、未得鮮ヤミ一ヤミ麗ヤミ一ヤミ教ヤミ化ヤミ一

507 政ヤミ刑ヤミ、猶ヤミ未ヤミ盡ヤミ善ヤミ一ヤミ與ヤミ言ヤミ一ヤミ念ヤミ此ヤミ、唯ヤミ以ヤミ畱ヤミ恨ヤミ一ヤミ今年、

508 踰ヤミ若ヤミ一ヤミ干ヤミ不ヤミ復ヤミ、稱ヤミ天ヤミ筋ヤミ力ヤミ精ヤミ神ヤミ一ヤミ時ヤミ一ヤミ勞ヤミ一ヤミ竭ヤミ如ヤミ

509 此之事、本、非ヤミ爲ヤミ止ヤミ、欲ヤミ安ヤミ養ヤミ百ヤミ姓ヤミ一ヤミ所ヤミ以ヤミ致ヤミ此ヤミの

子ヤミ孫ヤミに、誰ヤミか不ヤミ屬ヤミ念ヤミ一ヤミ既ヤミ、爲ヤミは天下、事須割情ヤミ一ヤミ今

511 星 川の王 心に懷悖惡行、闕友^{コノカミオトヒト}于^ニ古人有言、知^{こと}は

512 臣^{ヤツコ}莫^{シツ}若^シ君^{ミコ}、知^チ子^{ミコ}を莫^{シツ}若^シ父^{カフ}に。縱^{タトヒ}使^シ、星川得志^{ミコ}て共^ニ

513 治^{ミチ}國^{クニ}家^{イヘ}を必^{カナラ}當^{トク}戮^{ハチ}辱^{ハチ}、遍^ヘ於^ニ臣^{ミコ}連^{ツラ}て、酷^{カラキコト}毒^{ドク}流^{ハナ}於^ニ民^{タタ}御^{ミコ}財^{サハ}也^{ナリ}

514 庶^{シヤ}夫^コ惡^{ワル}、子^{ミコ}孫^{ノミコ}已^ニ有^{アル}百^{ヒャク}姓^{セイ}、所^{トコロ}憚^{オソ}。好^{ヨク}、子^{ミコ}孫^{ノミコ}足^{タリ}堪^{タリ}

515 負^{タモツ}荷^{ノミ}符^フ大^{オホ}業^{ノセ}此^{コノ}、雖^{モトモト}朕^{ミコ}家^{イヘ}の事^{コト}、理^{マコト}不^レ容^ス隱^{カク}。大^{オホ}連^{ツラ}等^{ナリ}、

516 民^{タタ}部^ベ廣^{ヒロ}大^{オホ}充^{ミツ}盈^{ミツ}於^ニ國^{クニ}。皇^{ミコ}太^タ子^シ、地^チ、居^イ儲^{ミツ}君^{ミコ}於^ニ人^{タタ}ヲメクミヤニ^{シタカフミヤニ}

517 上^{ウヘ}一^{ヒト}嗣^ス仁^ニ孝^{コウ}、著^{タリ}聞^ク。以^モ其^{ソノ}行^{ユク}業^{ノセ}、堪^{タリ}成^ニ朕^{ミコ}志^シ。以^モ此^{コノ}一^{ヒト}て

〔復〕、
破音、
去聲ハ

518 共^ニ治^{ミチ}天^{アメノコト}下^{シタ}を朕^{ミコ}雖^{モトモト}瞋^{イラ}目^メと、何^{ナニ}所^{トコロ}恨^{ウラム}一^{ヒト}本^ホ云^{イハ}星^{シヤ}

心^{ココロ}鹿^カ天^{アメノコト}下^{シタ}に著^シ聞^ク。不^レ幸^{シヤク}朕^{ミコ}崩^{シム}之^ノ後^{ノチ}當^{トク}害^{ヤウ}皇^{ミコ}太^タ

520 是^{コノ}時^{トキ}に征^{セウ}新^{シン}羅^ラ將^{シヤウ}軍^{クン}、吉^{キチ}備^ヒの臣^{ミコ}尾^ビ代^{ダイ}行^{ユク}至^ニ吉^{キチ}備^ヒ

〔前〕
誤
〔箭〕

521 國^ニ過^リ家^ニ後^ニ所^ニ率^ス五^百の蝦夷等、聞^ク天皇崩^ニ乃^レ

522 相謂^テ之曰、領^ス制^ス吾國を、天皇既崩^ニ時、不可失

523 也。乃相^ニ聚^リ結^ス寢^ニ傍^ニの郡を。於是尾代、從家來^ニ會

524 蝦^エ蜷^ニ於^テ娑^サ婆^ハの水^ミ門^ニ合^ニ戰^ス而射。蝦夷等。或は踊、

525 或は伏、能避^{サリ}脱^{サル}箭。終に不可射。是以尾代、空^ニ彈^ス

526 弓^ニ弦^ヲ於^テ海^ニ濱^ニ上^ニ射^ス死踊^ニ伏者二^{フタ}隊^ヲ。二^{フタ}藥^ヲ之

527 箭、既盡。即喚^ス船人^ヲ前^ニ。船人恐^ニ而自退^ス。尾

528 代乃立^テ弓^ヲ執^ス而歌^フ曰^ク。瀾^ニ致^ス爾^ニ阿賦耶^ヲ鳴

529 之慮^ニ能^ク古^ノ阿母^ヲ爾^ニ曾^ニ枳^ヲ舉^ス曳^ニ儒^ヲ阿羅^ヲ每^ニ

(上) 爾^ニ播^ス枳^ヲ舉^ス曳^ニ底^ニ那^ヲ唱^フ訖^テ自斬^ス數^ノ人^ヲ。更

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

531 追^テ至^ニ丹波國^ノ浦^ヅ掛^{カケ}水^ミ門^トて盡^ニ逼^メ殺^ス之^ヲ 一^ニ追^テ至^ニ浦^ニ云

532 掛^{カケ}て遣^ハ人^ヲを^シ盡^ニ殺^ス之^ヲ

533 日本書紀卷第十四

「陰」
位置・「か」

1 日本書紀卷第十五

2 白髮廣國押稚日本根子天皇 清寧天皇

3 雄計天皇 顯宗天皇

4 億計天皇 仁賢天皇

5 ●白髮武廣國押稚日本根子天皇 清寧天皇

6 白髮武廣國押稚日本根子天皇 大泊瀨

7 幼武天皇第三子也母曰葛城の韓媛。天生

8 而白髮。長而愛民。大泊瀨天皇於諸子の中に

9 特靈異。廿二年立爲皇太子。廿三年八

大泊瀨天皇崩。吉備稚媛陰に謂幼子星

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

11 川、皇子^{ミコ}曰^{イハレ}欲^{タカミ}登^{ノボ}天^{アマ}下^{シタ}之位、先、取^{トル}大藏之官^{オホソコノミヤ}。

12 長^{コノナミ}子^{ミコ}盤城^{イハキ}之皇子、聽^ミ母^{イロハノヤササキ}大人^{オホタニ}之教^{ヲシラフ}其幼子^{コノミコ}、語^{コト}之曰^{イハレ}、

13 皇太子、雖是我弟^{イモ}、安^{ヤス}可^カ欺^{ウソ}乎。不^{シカ}可^{ハス}爲^{ヘカラス}也。星

14 川皇子、不聽^ミ輒^ハ、隨母之夫人之意^{イハヒノホシキマ}、遂^ス取^{トル}大藏之

15 官^{ミヤ}。鑠^{サシ}閑外^{ホカト}門^{カド}之式^セ、備^{ツク}乎難^{ナガヒ}。權勢^{イキホヒノホシキマ}自由^{ヨウ}費^{ツキ}用^{ヨウ}物^{モノ}。

16 官^{ミヤ}於^ケ是、大伴之室屋大連^{オホトモノムロヤタリ}言^{イハ}於^ケ東漢^{ヤマトノミナミ}之掬^{ツカ}直^{ナカ}曰^{イハレ}、

17 大泊瀬天皇之遺^{ノチミコトシ}詔^{ミコトノリ}、今□□矣。宜從遺詔^{ミコトノリ}。

18 奉^{ツカマツル}皇太子^{ミコ}乃、發軍^{ツク}土^{ツチ}國^{クニ}繞^{カクム}大藏^{オホソコ}自外^{ミナモト}拒^{フセキ}閑^{カド}。

火^ヒ燔^{ヤク}殺^{コロス}。是時^{コトノトキニ}吉備稚媛^{キキノハルヒメ}、盤城^{イハキ}之皇子^{ミコ}、異^{コト}父^{コトノチ}之

20 兄^ニ、君^{ミコ}城^キ之丘^{ツカ}前來^{クダリ}目隨^メ星^{ホシ}川^{カハ}之皇子^{ミコ}而^{シテ}被^レ燔^{ヤク}。

誤「盤」、「磐」ノノ

21 殺焉。惟^レ河内^ノ三野^ノ縣主[、]小根^ネ。然^ハ振^{ツノ、キ}怖^テ避

22 火^ヲ逃^テ出^ル。抱^{ウタ}草香部^ノ吉士漢^{アヤヒコ}彦^ヲ脚^{カアシ}因^レ使^シ祈^{ノミマセ}生

23 於^レ大伴^ノ室屋大連^ニ曰^{ハク}、奴^ヤ、縣主小根[、]事^{ツカマ}こは星川

24 皇子^ニ者[、]信^{マコトナリ}。而無有背^{ソムヤタマツル}於^レ皇太子^{。コフ}。乞[、]降^{オホイナル}洪^{恩^ヲシテ}

25 救賜[、]他^{ヒト}命^{イノ}。漢彦[、]乃具^ニ爲^ニ、啓^マ於^レ太伴大連^ニ不

26 入^ル刑^{コロスツ}類^{トナリ}。小根[、]仍^テ使^シ漢彦^ヲ啓^テ大連^曰、大伴大

27 連[、]我君[、]降^ル大慈^{メクミ}、慫^{セマレル}促[、]短^{イノチ}之命[、]既^{ツキ}續^{延^{ノ、ヘ、}長^テ獲}

28 觀[、]日^{ヒカリ}色^ヲ輒^{ヒカリ}、以^テ難波^ノ來^ク目^メ邑^{ムラ}、大井戶[、]田十町^ニて

9 於^レ大連^{。又}以^テ田地^{トコロ}與^{アタ}于^レ漢彦[、]以^テ報^ユ其^ヘ恩^ヲ。

3 月[、]吉備^ノ上道^{臣^{オム}等[、]聞^{ミカ}朝^ト作^{ナス}亂^ヲ思^ハ救^フ其^ヘ腹^{ハラ}に}

- 31 所^{ウツレマセル}生、星川皇子^{ミコ}率船^{イフナ}師^{イフナ}冊^{サツ}艘^{フナ}來浮於海。既^ニ
- 32 而^レ聞被^レ燔殺^セ自海而歸。天皇、卽遣^ツ使^セ噴^セ讓
- 33 於上道^ノの臣等^ヲ而奪其所領^ヲ山部^ヲ。冬十月己
- 34 巳朔壬申、大伴室^屋大連^{オム}率^率臣^臣連^連等奉^奉麗^麗
- 35 於皇太子
- 36 元年春正月戊戌朔壬子、命^{ミコトオホセ}有司^{ツカヤク}設^設壇^{マツリトノ}場^{タカミクワ}
- 37 於盤磐^{イミセケチ}余^{ミカ}甕^{クワリ}栗^栗陟^{アハツヒツキ}天皇位^ニ。遂^ニ定官焉。尊葛
- 38 城^ノ韓^韓媛^{ミコ}爲皇太夫人。以大伴^ノ室^室屋大連^{オム}爲^爲大連^{大連}。平^平
- 39 羊^ノ眞^マ鳥^鳥大臣^{オホミ}爲大臣。竝如故。臣連伴造等、
- 依^ニ職^{サクラヒノマ}位^{ニツカマツル}焉。冬十月癸巳朔辛丑、葬大泊

（オワ）

41 瀬天皇于丹比の高鷺原の陵。于時、隼人、晝夜、

42 哀號陵の側與食、不喫。七日而死。有司、造墓を

43 陵の北^北以^{コトワリ}禮葬之。是年也太歲庚申

44 二年春二月天皇、恨無子^{ウ放}乃遣大伴室屋

45 大連於諸國^{クニ}置白髮部の舍人、白髮部の膳^{カシハテ}夫、

46 白髮部の軀負^{ミケヒ}を翼^{ハネ}は垂遣^{シメ}の跡^{ノチ}を令觀^ミ於後^{ノチ}。冬十一

47 月に依大嘗供奉之料遣於播磨國司者山

48 部連の先祖、伊豫の來目部の小楯於赤石郡^{シ、ミ}の縮^{シ、ミ}

49 見の屯倉^{ミヤケ}の首^{オヒト}、忍海部の造、細目新室^{ミヤ}て見市邊^{ミチノヘ}の押

皇子^{ミコ}のこ、億計^{イコノハシ}、雄計^{オノノハシ}、畏敬兼抱^{オホメマツラフ}て思奉^{オモマツラフ}爲君。

51 奉^{ヒタシマツル}養^{こと}甚^カ謹^ニ以^テ私^{モノ}供^{タテマツル}給^ル。便^タ起^タ柴^{シハ}の宮^{ミヤ}を^テ權^{カリ}に奉^{マセ}安^メ置^セ。

52 乘^{ヘイマ}驛^マ馳^テ奏^{マウス}。天皇^{ミコト}愕^{オト}然^ロ驚^{ナケキタマ}歎^マ良^ヤ以^{ヒサシク}愴^{イタミオホシ}懷^テ曰^{コト}、懿^{ヨイ}

53 哉^{カナ}悅^{ユエ}哉^カ、天^{アメ}、垂^{オホイナル}博^{メクミ}愛^メを^テ賜^ニ以^テ兩^ニの兒^ヲ是^ノ月^ニ使^シ小^コ楯^{タテ}を

54 持^モ節^{シルシ}將^{シテ}左^サ右^{ミダ}の舍^ノ人^ヲ至^リ赤^{アカ}石^{イシ}に奉^{マセ}迎^{ムコフ}。語^{コトバ}は在^{アル}雄^ヲ計^{ケル}の

55 天皇^{ミコト}紀^{ミマキ}

56 三^ミ年^{ネン}春^{ハル}正^{セイ}月^{ゲツ}丙^{ヘイ}辰^{チン}朔^{シヤク}小^コ楯^{タテ}等^ト、奉^{アカメ}億^{イコ}計^{ケル}、雄^ヲ計^{ケル}を^テ

57 到^キ攝^{セツ}津^ツ國^{クニ}使^シ臣^シ連^{レン}を^テ持^モ節^{シルシ}以^テ王^{ミコ}の青^{アヲ}蓋^{カサ}車^{クルマ}を^テ迎^{ムコフ}入^ル

58 宮^{ミヤ}の中^{ナカ}●夏^{ナツ}四^シ月^{ゲツ}乙^イ酉^ウ朔^{シヤク}辛^{シン}卯^ボ、以^テ億^{イコ}計^{ケル}の王^{ミコ}を^テ爲^ス皇^{ミカド}

補入ノ「太」字、擦消セ
子^コ。以^テ雄^ヲ計^{ケル}の王^{ミコ}を^テ爲^ス皇^{ミカド}子^コ。●秋^{アキ}七^{シチ}月^{ゲツ}に飯^{イヒ}豐^{トヨ}の皇^{ミカド}女^メに

6 方^{カタ}角^{ツノ}刺^{サシ}の宮^{ミヤ}に與^{ユル}夫^{ソノ}初^{ハジメ}交^{カウ}。謂^{イハレ}人^ニ曰^{ハシ}、一^{ヒト}知^チ女^メの道^{ミチ}を^テ又^{マタ}

「於男」
ミ
ビ
ヤ
チ
敗

61 安イ可ケ異ヘ終ニ不ホ願ニシ交マ於ハ男ヲ此ニ日ハ有リ夫ヲ●九月壬

62 子朔癸丑遣臣連ヲ巡メ省ミ風クニ俗ヲ●冬十月壬午
〔注〕ホムタカラノフリカダ

63 朔乙酉詔犬馬器ロツアヒ觥ヒ不得シ獻タ上ニ●十一月辛

64 亥朔戊辰宴トヨノ臣カリス連ニ於ニ大庭賜綿帛キヌ皆マ任カ其ニ一ニ

65 自取盡チカラノ力カ而マ出カリツ是月ワタ海ホカ表ノ諸クニ蕃ク竝ニ遣マ使ヲ進メ

66 調ミツキ

67 四年春正月庚戌朔丙辰宴海表諸蕃使ツカヒ

68 者ニ於ニ朝堂賜物各有差●夏閏五月大サケノミ鋪ミ五イヅカ

69 日●秋八月丁未朔癸丑天皇親トヒガマフ錄ヲ囚ヲ徒ト是ニ

蝦夷エミシ隼人ハヤ竝ニ内附●九月丙子朔天皇御

72 五年春正月甲戌朔己丑天皇崩于宮トツミヤにニ時

73 年 若^{ソコ}干^{ハク}●冬十一月庚午朔戊寅葬于河内^の

74
坂^{サカ}
門^ト
の
原^{ハラ}
の
陵

75 ●雄計天皇 顯宗天皇

76 雄計天皇
 更の目 名は稚ワ子コ來ク
 大オ兄ヒ
 去イ來サ穗別天皇
 孫ミマコ

也、市^{イチ}の邊^ヘの押磐^ノ皇子^{ノミコ}也。母^イ曰^{ハク}「
波^ハ菟媛^{ウメノミコ}也。」此^{コノ}譜^フ曰^{ハク}「
カハミ^{カハミ}イ^イフ^フノミ^{ノミ}」

78

三弟^ニ曰^{ハク}、
男^{ヒトオコナミ}
二市^ニ
女^メを。其^レ押^メ
一^ニを。曰^{ハク}皇^{ミコ}
居^ニ子^コ、
夏^ニ娶^{ムス}
姫^メ。其^レ臣^{シノ}
二^ニ女^メ、
曰^{ハク}、莢^{ヒナ}
億^{ヒト}媛^メを。
計^ニ遂^メ
王^{ミコ}。生^ム

更名_は嶋稚子。更名_は大石尊。其三雄計王。更
 來目稚其四_を曰飯豐女王。亦名_は忍海女。

計 其五曰橋王。一本以飯ツイテクリ豐女王をて列於億
王之上。蟻臣者、葦田宿禰子也。

81 天皇、久居邊ホトリ裔リ、悉セリ知オホ百姓ノ憂ヲ、恆ニ見ミテ枉マ屈クシカレタル、コトヲオホス

82 若納ナナケイル四體ヲ溝ミツ、隱ニ布フ德イ施セ惠メ、政マツリ令コト流シキ行ハル。卹メ貧ヲ

83 養ナケイル孀ヤ、天下ヲ親ムツ附ツ。●穴アナ穗ホ天皇三年十月天皇

84 父カソノミコト市邊押磐皇子、及帳ホリ內佐伯部仲子ナカテコ、於

85 蚊カ屋ヤ野ノ爲ニ大泊瀬天皇見ミ殺コロ。因ユ埋ウツ同穴ニ。於

86 是、天皇與億計王、聞カノミコト父見ミ射イ、恐コソ懼ビ、皆逃ニケ亡テ

87 自匿。帳內早部連、使オミ主ハ也。使ハ主ハ早部連之名（平）、（平）也

88 與吾田彦、吾田彦使オミ竊ニ奉チマ天皇與億計王ニ

9 難ワカシ於丹波國ノ余社ヲ郡ヲ。○遂オミ改名ヲ、字ヲ曰田疾ト

9 尙恐見誅コロ、從茲、道入播磨、縮シ見ミ山ノ石室イハヤ

ニ
ラ

91 而^ニ自^ヲ經^キ死^ス。天皇、尙不識^シ使^メ主^ノ所^ヲ之^ヲ。勸^メ兄億

92 計^ス王^ヲ一^ニ向^キ播磨^ノ國赤石郡^ニ俱^ニ改^メ字^ヲ一^ニ曰^ク丹波小^{チラハ}

93 子^ヲ。就^テ仕^ツ於^ニ縮見^ノ屯倉^ノ首^ヲ。縮見^ノ屯倉^ノ首^ハ忍^ル吾^ロ

94 田彥^ヲ、至^リ此^ニ、不^レ離^レ一^ニ固^ニ執^シ一^ニ臣^ヲ一^ニ禮^ヲ。●白髮^ノ天皇二年

95 冬。十一月^ニ播磨國^ノ司^ノ山部連^ノ先祖^ノ、伊豫^ノ來

「新嘗」^{「ニハ}
「ナヒ」^{「ニ}
後補

96 目部小^ツ楯^ヲ於^ニ赤石郡^ニ親^シ辨^ニ新^ニ嘗^ノ供^ヲ物^ヲ一^ニ云^ク巡^ル

「祖」^{「ワカラ}
「ハ」^{「ニ}
「誤」^{「ニ}
「倉」^{「ニ}
ノ誤

97 租^ヲ收^メ也^ヲ。田^ヲ適^ニ倉^ニ縮見^ノ屯倉^ノ首^ヲ、縱^ニ賞^ヲ新^ニ室^ニ以^テ夜^ヲ一^ニ

98 繼^ニ晝^ニ爾^ニ乃^ニ天皇^ヲ謂^フ兄億計王^ニ一^ニ曰^ク、避^ナ亂^ヲ於^ニ斯^ニ一^ニ

99 年^ヲ踰^ス數^ヲ紀^ヲ。顯^ニ名^ヲ著^ニ貴^ニ方^ニ屬^ニ今^ニ宵^ニ億計王^ニ一^ニ惻^ニ然^ニ

曰^ク、其自^ニ饗^ニ楊^ニ見^ニ害^ニ、孰^ニ與^ニ全^ニ身^ニ一^ニ免^ニ厄^ニ也^ヲ。敷^ニ

101 天皇曰、吾^ハ是、去來穗別天皇之孫。而^ヲ困事^{クルシフワユツ}

102 於人、飼^カ牧牛馬^ヲ豈^{シカムヤ}若顯名^ヲ被殺也歟。遂與

103 億計王、相抱^テ涕泣^{ナク}。不能自禁^{オサフル}。億計王曰、然

104 則非弟^{イコトニ}誰能激揚^{アゲム}大節^{コトワリ}可以顯著^{アラハ}。天皇固

105 辭^{イハ}曰、僕不才^{ウツナシ}、豈敢^{イハレヒ}宣揚^{アゲム}德業^{オホイナルムキ}。億計王曰、弟、

106 英才^{カシコク}賢德^{サカシタマシマヌ}爰^ニ无以過^{ヒト}。如此相讓^{カク}而再三^ニ。而

107 果^テ使天皇^ヲ自許稱述^{ユヘアゲムト}俱就室^{ムロ}外^ニ居^リ于^ニ下^ヲ風^ニ。

108 屯倉首^{コトワセ}命^{スエ}居^{カマ}竈^{ワキ}傍^{コナタカナタ}左右^{ヒトモサシム}秉燭^ヲ。夜深酒酣^{タケナハシタワイタク}次^ヲ。

109 第舞訖。屯倉首語小楯^ニ曰、僕見^ハ此秉燭者、

人^ヲ而賤己^ヲ先人^ヲ而後己^ヲ。恭敬^{キテオモフク}樽節^ニ退讓

フ

- 111 以明禮を樽者猶移也。可謂君子、於是小楯、
- 112 撫フ絃ヒキ命秉燭者て曰、起て舞。於是、兄弟、相讓て久
- 113 而不起が。小楯、噴セ之て曰、何爲太遲キ。速に起て舞へ之。
- 114 億計王、起て舞既マ了。天皇家次起て自整衣ヒキツクロヒミソミオヒ帶を爲シ
- 115 室ムロホキ壽ス曰、築ツキ立タツル稚室ワカムロ、葛根カクネ、築立柱者は此家の長チノ
- 116 御心之鎮シツマリ也。取舉棟ムネウ梁者は此家長御心之
- 117 林也。取置椽ヘヘキ椽者は此家の長チノ御心之林也。取
- 118 置椽ヘヘキ椽者は此家の長御心之齊ト、ホリ也。取置蘆エツリ蘆
- 119 皆は此家の長御心之平也。蘆リ灌カ此云哀アハレ都ミヤコ取
- 120 結繩葛者は此家の長御壽イノチ之堅カタキナリ也。取葺フケル草カヤ葉

122
之十握ツツカシ稻シ於
淺サ薨ケ釀ヤメル酒オホ、美ミ飲ウマ、喫マ哉ラニツ
美飲ウマ此ラニツ喫ヤ哉ラニツ
云ラニツ

123

羅^ハ入^ル于^ニ。
甬^ハ平^ニ。甌^ハ。
屢^ハ平^ニ。羅^ハ。
柯^ハ上^ニ。爾^ハ。
倭^ハ上^ニ。烏^ハ。
上^ニ。野^ハ。
吾^ワ。
子^{ヒコ}。
等^{ナチ}。
之^ノ子。
通^{カゲル}者^ハ。
稱^ナ男^ヲ。
也^ナ子^ヲ。
脚^シ。
日^ヒ。
ア^シ口^ハ木^ノ。
此

124
 傍カタ (上)
 山ニ (上)
 牡サラシカノ (上)
 鹿 (平)
 之 (平)
 角ツノ
 左 牡
 烏 鹿
 子 此
 加 云
 舉サマケ
 而テ
 吾ワカ
 儼マヘシ
 者ハ
 旨ムナブ

125
酒、餌^エ香市^ニ不^ス以^カ直^{（上）}買^{（上）}、手^{（上）}掌^{（上）}摺^{（上）}高
此手
云掌
陀摺
那高

126

羅^上則^レ
こ^上舉^レ
爾^上謀^レ
（平）耶^上
拍^ウ
テウチ
上^ア
テ
賜^{タマヒ}
吾^ハ
常^ト
世^コ
等^{タチ}
壽^{ホキ}
畢^テ
乃^ハ
赴^{コトノヲリニ}
節^{アハセテ}
赴^{コトノヲリニ}
節^{アハセテ}
（平）
（平）

127
歌カ 曰イハレ 伊イ 儼ゲン 武ブ 斯ス 廬ロ 呵カ 簾レン 汧カ 比ヒ 野ノ 儼ゲン 擬ギ 寐ミ 逗ツ

128

喻	平
凱	平
麼	平
儼	平
弭	平
仝	平
於	上
己	上
陀	上
智	上
曾	上
能	上
泥	平
播	平
字	上
世	上

129
儒。小楯謂之曰、可オモシロケ。願オモハ復聞之。天皇遂シタ作

殊舞を古に謂之立出舞。立出此陀之。

131 之^テ曰倭者彼^ソの茅原淺茅原弟日、僕^{ヤツコラマ}是也。

132 小楯由是^ニ深奇異焉。更^ニ使^{イハシム}唱之。天皇誥之。

133 曰石^{イシ}の上^{カミ}振^{フル}之神^{カミ}櫛^{スギ}。須^ニ櫛^{スギ}此云^ニ伐^{カリ}本^{モト}截^ス末^{ハタヒ}、伐^{カリ}本^{モト}截^ス末^{ハタヒ}。

134 此云謨登岐利須^ニ於市邊^ニの宮^{ミヤ}治^{シラ}天下、天^{アメ}萬^{ヨロツ}國^{クニ}。

〔國、衍〕

135 國萬、押磐尊^{ミナスエヤツコラマ}御裔、僕是也。小楯大^ニ驚^{オドロ}離^ハ席^{シキキ}。

136 悵^{イタム}然^ニ再拜。承事^{ヲサメタマツリ}供給^{ヲサメタマツリ}率^{ヒキキ}屬^{ツ、シミツカマツル}於^ニ是、悉^オ發^オ。

137 郡^ノ民^{タチ}造^オ宮^{ミヤ}不^ヒ日^ヒ權^{カリ}奉^ニ安^{マセ}置^{マセ}。乃^ハ詣^ミ京^{ミヤ}都^コ求^ニ迎^オ。

138 二^ノ王^{ミコ}白髮^{ハクセツ}天皇、聞^ミ意^コ咨^{ナケイ}歎^{ナケイ}曰、朕无子也。可^シ。

爲^ニ嗣^シ與^ニ大臣大連、定策^ニ禁^{ミヤノ}中^{ウチ}仍^ニ使^シ播磨

14 國^ノ司^シ、來^ニ目^メ部^ベ小楯^{ミコ}持^テ節^{シルシ}將^ナ左^サ右^ウ的^ニ舍^セ人^{ヒト}至^ニ赤

141 石^ニ奉^テ迎^ム。白髮天皇三年春正月^ニ天皇隨億

142 計王^ニ到攝津國^ニ。使臣連^ヲ持節^ヲ以王青蓋^ヲ車^ヲて

143 迎入宮中。夏四月立億計王^ヲて爲皇太子、立

144 天皇^ヲて爲皇子。

145 ●五年正月白髮天皇崩。是月皇太子億計

146 王、與天皇、讓位^ヲ久而不處^ナ。由是^ニ天皇の姉飯^{イヒ}

147 豐^{アヲフ}の青皇女^ニ、於忍海^{オシノウミ}の角刺宮^{サシ}臨朝^{ミトマツラシタマフ}。康政。自稱^{サノリタマフ}

148 忍海の飯豐の青尊。當^{トキ}世^ノ詞^{カタ}人^ヲ、歌^テ曰、野麻^ノ登^ノ陞^ノ

149 爾、彌^ノ我保^ノ指^ノ母^ノ能^ノ婆^ノ於^ノ尸^ノ農^ノ彌^ノ能^ノ莒^ノ能^ノ陀^ノ

(平) 哥(平)紀(上)儼(平)屢(平)都(平)奴(平)娑(平)之(平)能(上)彌(上)能(上)野●冬十一

- 151 月飯豐。青の尊崩。葬葛城の埴口の丘の陵に。●十二月
- 152 百官、大に會。皇太子、億計、取天子之璽置之
- 153 天子之坐。再拜。從諸臣之位。曰。此天子之
- 154 位は有功者、可以處之。著貴を蒙。迎は皆弟之謀
- 155 也。以天下を讓天々皇に。顧讓に以弟を。莫敢即
- 156 位に。又奉白髮天皇。先欲傳兄に。立皇太子を。前
- 157 後、固辭。曰。日月出矣、而燭火不息。其於光に
- 158 不亦難矣。時雨降矣、而猶浸灌、不亦勞乎
- 159 貴爲人の弟者は。兄に謀逃脫難、照德解終
- 160 而無處也。即有處者、非弟恭之義に。雄計、不

161 忍處也。兄友、弟恭、不易之典。聞諸古老、安

162 自、獨輕皇太子、信億計。曰、白髮天皇以吾

163 兄之故、奉天下之事而先、屬我。其羞之。

164 惟大王道建利運、聞之者、歎息彰顯。帝之孫、

165 見之者、殞涕。憫、搢紳、忻荷戴天之慶。哀

166 黠首、悅逢履地之恩。是以克固四維、永

167 隆萬業、功隣造物、清猷、世超哉邈矣、粵無

168 得而稱。雖是曰兄、豈先處乎。非功而據咎

169 悔必至。吾聞、天皇不可以久曠。天命不可

拒。大王、以社稷爲計、百姓爲心。發言、

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

「流涕」、「ナカ
誤カカ

171 慨 至于流涕。天皇、於是、知終に不處、不逆兄の

172 意に乃聽而不即御坐。世、嘉其能て以實て讓て曰、

173 宜哉、兄弟、怡悦。天下歸德。篤は於親族、則民

174 興仁元。年春正月己巳朔大臣大連等、奏て

175 言、皇太子、億計の聖の德明茂奉讓天下を陛下

「唐」、「廟」ノ
誤

176 正統。當奉鴻緒て爲効。唐主て承續祖无窮之

177 列上は當天の心に下厭民の望を而不肯踐祚。遂令

178 金銀の蕃國の群僚、遠近、莫不失望。天命有屬。

太子、推讓、聖の德彌盛。福祚孔章。存孺而

180 勤。謙恭慈順。宜奉兄の命て承統大業に制て曰、可。

181 乃召公卿百寮於近飛鳥の八釣の宮にて即天皇

182 位陪位者皆忻焉或本云雄計天皇之

183 或小列郊二宮於薨栗野是月立皇后難波の小

184 野王赦天下宿禰波小野王雄朝津間稚子

185 丘稚子●二月戊戌朔壬寅詔曰先王遭難

186 離多難に殘命荒郊に朕在幼年に亡逃自匿○猥て

187 求迎に升纂大業○廣求御骨を莫能知者詔畢て

188 與皇太子億計泣哭憤惋不能自勝是月

89 呂聚蕃宿天天皇親歷問有一老嫗進て曰置

1 一、知御骨の埋處を請以奉示置目は老嫗名也

- 191 山の君の祖、倭俗宿禰の妹。名置目見下の文に於是天皇與億計、將老
- 192 嫗婦を幸于近江國の幸田架の蚊屋の野中掘出
- 193 而見、果て如婦の語の臨穴に哀號、言深更慟自古
- 194 以來、莫如斯酷。仲子之戸交橫御骨に莫能
- 195 別者。爰有磐坂皇子之乳母。奏曰、仲子者、
- 196 上の齒、墮落。以斯可別。於是、雖由乳母の相別
- 197 體、而竟に難別四支諸骨。由是仍於蚊屋
- 198 野中造起雙の陵を相似如一。葬の儀無異。詔老
- 19 置目居于宮の傍の近處に優崇賜卹使无乏
- 20 是月詔曰、老嫗、伶傳羸弱不便行歩に宜

201 張^テ繩^ヲ引^キ紼^ヲ扶^テ而^リ出^ス。入^ル繩^ノ端^ハ懸^ニ鐸^ヲ。無^ク勞^ム謁^シ者^ニ。入^リては

202 則^チ鳴^{ナル}之^ヲ。朕^ハ知^ル汝^ヲ到^リ於^ニ是^ニ。老^シ嫗^ニ。奉^ル詔^ヲ。而^リ鐸^ヲ而^リ

203 進^ス。天^ノ皇^ハ逢^ヒ聞^ク鐸^ノ聲^ヲ。歌^ハ曰^ク。阿^ハ佐^ハ賦^ハ簪^ハ。鳴^ル贈^ル

204 禰^ハ鳴^ル須^ハ擬^ハ謨^ハ。逗^ハ挖^ハ甫^ハ。奴^ハ底^ハ喻^ハ。羅^ハ俱^ハ慕^ハ。與^ル

205 於^ニ岐^ニ。每^ハ俱^ハ羅^ハ之^ヲ慕^ル。三^ハ月^ハ上^ニ巳^ニ。幸^ハ後^ニ苑^ニ。曲^ニ水^ニ

206 宴^ス。夏^ハ四月^ハ丁酉^ハ朔^ハ丁未^ハ。詔^ス曰^ク。凡^ハ人^ハ主^ニ之^ヲ所^ニ

207 以^テ勸^ム民^ヲ者^ハ。惟^ニ授^ケ官^ヲ也^ニ。國^ノ之^ヲ所^ニ興^ス者^ハ。惟^ニ賞^ム功^ヲに

208 也^ニ。夫^ハ前^ノ播^ク磨^ク國^ノ司^ハ來^リ目^ヲ部^ノ小^ハ楯^ハ。更^ニ名^ヲ求^メ迎^ムて

209 擊^ツ朕^ハ厥^ノ功^ヲ茂^シ焉^ニ。所^ニ志^ス願^ム。勿^レ難^シ言^フ。小^ハ楯^ハ。謝^ス曰^ク。

の官、宿^{モトヨリ}所^ニ願^ハは乃^ハ拜^シ山^ノ官^ニ。改^メて賜^フ姓^ヲ。山^ノ部^ノ連^ハの氏^ニ。

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

- 211 以吉備の臣トシツヒシカヒ爲副ツキ以山守部ヤマモリ爲民。哀善アサナ顯功イサヲ、
- 212 酬ム恩オン答厚。寵愛メウ絕ス、富莫能ヒ壽。五月狹々城の
- 213 山君、韓フクロ宿禰、事連カ、リヌ謀殺皇子押磐オシイハ。臨誅ミテ
- 214 叩頭、言詞、極哀。天皇、不忍コロシメタマフ加戮ミテ充陵戸ニ、兼テ
- 215 守山ヲ削除ヘノムタ籍帳ヲ隸山部連ニ。惟倭ニ宿禰、因
- 216 妹イ置目之功イサ、仍賜本姓カ狹々城山君氏。●六
- 217 月幸避暑スシキ殿ニ奏樂ウタマヒ會羣臣ヲ設タマフ以酒食イニ。是
- 218 年也大歲乙丑
- 9 年春三月上巳幸後苑ノ、曲水宴。是時トキ喜ヨロコビ
- 21 身公卿大夫、臣、連、國造伴造ヲ爲宴。群臣頻ニ

221 稱萬歲。秋八月己未朔天皇謂皇太子億

符
222 曰、計^レ吾父先王、無罪。而大泊瀬天皇、射殺

223 棄骨^ミ郊野^ノ至今^ニ未獲^テ憤歎^イ、盈懷^ミ臥泣^{フシツ、ナキニク}行號^{ワラヒ}

224 志^{オモフ}雪^{ホコシト}讎^{ハチ}恥^{ハチ}吾聞父之讎^{アタ}不與^{トモ}共戴^イ天^ヲ兄弟

誤
〔及、反ノ〕
225 之讎^ハ不及^ズ兵^ヲ交遊^ニ之讎^ハ不同^ニ國^ヲ夫、匹夫^{イサシキヒト}之

226 子、居父母之讎^ニ寢^ネ苦^ト枕^マ干^{タテ}不仕^{ツカヘ}不與^{トモ}共國^ヲ

227 遇^{トモ}諸市^{イチ}朝^{ミヤコ}不反^ス兵^ヲ而便鬪^タ況^タ吾立^{タル}爲^{ミカト}天子、
「ハ元來²²⁵」
「遊²²⁵」
「左訓²²⁵」
「交²²⁵」
「ナ²²⁵」
「ラ²²⁵」
「ム²²⁵」

228 二年于今矣。願^ハ壞^コ其陵^ヲ摧^{クダキ}骨^ヲ投^{ナゲ}散^{チラヤム}今以此^ニ

229 報^ム不亦孝^{オヤニシタヤ}乎。皇太子億計^{ミコ}、獻^{ナケイ}秋^イ不能^{コタ}答^ヲ乃

て曰、不可^{アタラス}。太泊瀬^ノ天皇、正統^{タシ}方^{フナ}機^ヲ臨^{ミテ}照^ス天^ヲ万^ニ敷

- 231 下^{ミヤコ}に^{ミヤコ}華^{ミヤコ}夷^{ミヤコ}欣^{ミヤコ}仰^{ミヤコ}は天皇之身也。吾父の先王は雖是、
- 232 天皇之子、遭遇^{ナヤマシキ}速^{ナヤマシキ}遭^{ナヤマシキ}て不登^{ナヤマシキ}天位^{ナヤマシキ}に^{ナヤマシキ}以此^{ナヤマシキ}て觀^{ナヤマシキ}之、
- 233 尊卑惟別。而^{ミヤコ}忍^{ミヤコ}て壞^{ミヤコ}陵^{ミヤコ}墓^{ミヤコ}を計^{ミヤコ}誰^{ミヤコ}を^{ミヤコ}人^{ミヤコ}主^{ミヤコ}以^{ミヤコ}奉^{ミヤコ}天
- 234 之靈^{ミヤコ}。其不可^{ミヤコ}毀^{ミヤコ}一^{ミヤコ}也。又天皇、與億計^{ミヤコ}曾^{ミヤコ}に^{ミヤコ}不^{ミヤコ}
- 235 蒙^{ミヤコ}遇^{ミヤコ}白髮^{ミヤコ}天皇の厚寵殊恩^{ミヤコ}に、豈臨寶位^{ミヤコ}に^{ミヤコ}大泊
- 236 瀬天皇は白髮天皇之父也億計、聞^{ミヤコ}諸老^{ミヤコ}こ
- 237 賢^{ミヤコ}に^{ミヤコ}曰^{ミヤコ}、言^{ミヤコ}て无^{ミヤコ}不^{ミヤコ}訓^{ミヤコ}、德^{ミヤコ}无^{ミヤコ}不^{ミヤコ}報^{ミヤコ}。有恩^{ミヤコ}て不^{ミヤコ}報^{ミヤコ}、敗
- 238 俗^{ミヤコ}之深者也。陛下、饗國^{ミヤコ}て德^{ミヤコ}行^{ミヤコ}、廣聞於天下。
- 9 毀^{ミヤコ}陵^{ミヤコ}翻^{ミヤコ}て見^{ミヤコ}於^{ミヤコ}華^{ミヤコ}裔^{ミヤコ}億計、恐其不可以莅
- 24 國^{ミヤコ}子民也其不可毀二也。天皇曰、善哉^{ミヤコ}て令

241 罷役エタチ。九月置目老困ク乞還マウシ。曰イハ、氣力衰邁オト。老

242 髦ホシ虛ツカレタリ。要ウツケタリ假トモ扶カ、ル繩ナハ不能進步。願カヘリマカリ歸モトクニ桑梓モトクニ以以

243 送厥終（モレルチ）。天皇、聞メシ惋イタミタマ痛マ賜物千段ムラアラカシメ。逆傷イタム岐路ワカレ

244 重感ナケイタマフ難（ト）期（ミ）。乃賜歌（上）曰、於岐（上）每慕（平）與阿甫（平）彌（上）

245 能（平）於岐（上）每阿須（平）用利（上）兼（上）彌（上）野磨（上）我（上）俱（上）利（上）底（上）

246 彌曳（平）孺（上）智（平）謨（平）阿羅牟（上）。冬十月戊午朔癸亥、宴

247 群臣（平）。是時（上）天下安平（平）民無徭役（上）。歲比（平）登稔（上）

248 百姓殷富（平）。稻斛（上）、銀錢一文（平）。○馬牛被野（上）。

49 三年春二月丁巳朔阿閑臣、事代、衡命（上）出（上）

于任那（上）。於是、月（上）神、著人（上）謂（上）之曰、我祖、高

251 皇產靈、有預ソレ造アヒイタセリ天地之功。宜以民地カキトコロ奉ヲマツレ

252 我月神ツキノカミ若依マ請コヒ、獻ハ我、當福慶サヨロコヒアラム。事代由是コト還

253 京ミヤ具奏。奉ニ以歌ウタ荒アラ櫟ス田ミ。歌ウタ荒櫟ス田ミ者ヲ在山背國葛野郡也。

254 壹伎ヒツの縣主祖、押見宿禰、侍祠ニ。●三月上巳幸

255 後苑ニ曲水ノ宴。●四月丙辰朔庚申、日ノ神、著カ人ニて

256 謂阿閼臣、事代ニ曰、以磐余ノ田ヲ獻タテマツレ我高皇產

257 靈ノミコト事代便奏。依ニ神ノ乞、獻田十四町ヲ對馬ノ下

(「持」、「侍」誤)

258 縣直、持祠ニ。戊辰、置福草ヤキクサ部。庚辰天皇崩于

59 八ヤ釣宮ヅリ。是歲、紀ノ生磐宿禰イハ、跨アトコヒ據ヨリ任那ニ交通カヨフ

麗ミ將西ニ王キミ三韓カラク整脩宮府ツカサ、自稱ナノル神聖。用

- 269 ●億 計 天皇 仁 賢 天王
計 天 皇 諱 大 脚 更 名 大 爲 自 餘 諸 天 皇 獨 自
- 268 肖 等 三 百 餘 人
- 267 自 任 那、歸。由 是 百 濟 國、殺 佐 魯 那 奇 他 甲
- 266 皆 破。以 一 當 百。俄 而 兵 盡、力 竭。知 事 不 濟
- 265 於 是、生 磐 宿 禰 進 軍 逆 擊。膽 氣 益 壯 所 向、
- 264 古 爾 解 內 頭 莫。古 解 等 率 衆 趣 于 帶 山 攻。
- 263 斷 運 粮 津 令 軍 飢 困。百 濟 王、大 怒 遣 領 軍
- 262 爾 解 於 爾 林 爾 地 也 築 帶 山 城 距 守 東 道。
- 261 任 那 左 魯 那 奇 他 甲。肖 等 計 殺 百 濟 適 莫。

怨^リノ^リ

271 書^{シル}者^セは 據^{コト} 字 嶋^{ウツ}○雄^ヲ計 天皇の 同 母 兄 也。幼^{ワカ}而 聰^{サト}

272 頻^{マシ}才^{カト} 敏^テ多 識^{サリ}壯^ツ而 仁 惠^ニ謙^{イタリ}怒^{ナタメ}溫^{ヤハラク}慈^{ヒマ}及 穴 穗

273 天皇 崩^ニて避 難^セ於 丹 波 國 余^コ社^サ郡。白 髮 天皇

274 元 年 冬 十 一 月^ニ播 磨 國 司 山 部^{ヤマト}連 小 楯 詣

275 京^ミに求 迎。白 髮 天 皇、尋^{ツイ}遣 小 楯^{スナハチ}持 節^{シルシ}將 左 右^ノ

276 舍 人^ニ至 赤 石^ニ奉 迎。二 年 夏 四 月 遂^ニ立 億 計

277 天 皇^を爲 皇 太 子 事 具 雄 計 五 年 白 髮 天 皇

278 崩。天 皇 以 天 下^を讓 雄 計 天 皇^に爲 太 子 如 故

9 事 具 雄 計 三 年 夏 四 月 雄 計 天 皇 崩

28 年 春 正 月 辛 巳 朔 乙 酉、皇 太 子。於 石^{イシ}上^ノ

- 281 廣高宮、即天皇位。或本云、億計天皇之宮、
其殿柱、至今未朽。●二月辛亥朔壬子、立前
282 妃、春日大娘皇女爲后。春日大娘皇女大泊
283 君之所生、遂產一男、六女。其一曰高橋大
284 娘皇女。其二曰朝孀皇女。其三曰手白香
285 皇女。其四曰樟氷皇女。其五曰橘皇女。其
286 六曰小泊瀬稚鷦鷯天皇。及有天下、都泊
287 瀬列城。其七曰眞稚皇女。一本以樟氷天
288 手白香皇女列于次和珥臣日爪女、糠君
289 生一女。是爲春日的小田皇女。一本云、和
珥臣、日爪女、糠君

291 女大糠娘、生一女。是爲山田大娘皇女。更
名は赤見皇女。雖稍異、其實一也

292 ●冬十月丁未朔己酉葬雄計天皇于傍

293 丘磐杯丘の陵に○是年也大歳戊辰

294 二年秋九月難波小野の皇后、恐宿不敬を自
モトリヤナカリシコトニテオソリテ

295 死雄計天皇の時、皇太子億計の侍宴に取瓜を將
喫、無刀子。雄計天皇親執刀子を命其夫

〔誅ノ上ニ〕
脱

296 人小野で傳進夫人、就前て立。置刀子を於瓜盤。
是日に更に酌酒て立、喚皇太子を。緣斯の敬て誅て自死

297 三年春二月己巳置石上部の舍人

298 四年夏五月的臣、蚊嶋、穗瓮君兄此有罪て

9 下獄て死人二

30 五年春二月丁亥朔辛卯普求國郡に散亡

301 佐伯部も。以佐伯部仲子之後を爲佐伯造佐伯

302 部仲子、事見雄計天皇紀ヒ

203 六年秋九月己酉朔壬子遣日鷹吉士を使

304 高麗ニ召巧ヲ手ヒト者を是秋、日鷹吉士、被遣使後、

305 有女人ニ居于難波御津ニ哭テ曰オホ於ニ母ニ亦モ兄セ、於アレニモセ

306 吾亦兄。弱草ヲ吾夫何怜矣言於母亦兄於

307 云ニ慕ニ阿ニ上ニ慕ニ是ニ阿ニ例ニ尼ニ慕ニ是ニ言ニ吾夫何怜矣此

308 弱草ニ爲夫故以哭聲甚哀テ令人ニ斷腸。菱城邑の

09 人、鹿父カ呼父ハ爲ハ柯ニ曾ニ聞而向前ニ曰、何哭

哀、甚若此乎。女人答テ曰、秋葱之轉雙重

311 納^を、可思惟矣。鹿父^の曰、諾^セ。卽、知所^を言矣。有^{トモ}同^{トモ}。

312 伴者^て不悟其意^を問^て曰、何以知乎。答難波玉

313 作郡^の鰺^{フナ}魚女^{言鰺魚此云}嫁^於韓^{カラマノ}白^{ハタケ}水^郎

314 嘆^{ハタケ}言韓白水郎^{言鰺魚此云}嘆^{ハタケ}耕麥田也^{言羅摩}生哭^と女。

315 嫁^於住^ス道^チ人、山杵^{ヤス}生飽田女。韓白水郎

316 嘆與其女、哭女、曾既俱死。住道人、山杵、上

317 姦玉作部^の鰺魚女^て生龐^と寸^を。娶飽田女^を。

318 於是龐寸、從日鷹^の吉士^に發^{タチ}向^{ユク}高麗。由是^に其

飽田女、徘徊^{シノヒ}頸^ヒ戀^て失緒、傷^ヤ心^を哭聲尤切、

32 今人^を腸斷^{玉作部の鰺魚女與韓白水郎嘆}爲夫婦^て生哭女^を。住道人、山杵^と婆

爲、右
朱點ハ修
ニウツリ
ノ

十

北大文学部紀要

尊て爲
皇太子

329	七年春正月丁未朔己酉立小泊瀬稚鷗	328	皮高麗、是其後也	327	(平)奴流枳等。今大倭國の山部邊郡の額田邑 カハツシ ノ熱	326	是歲、日鷹の吉士、還自高麗て獻工匠、須流枳 (平)	325	兄。吾亦兄也。古者不言兄弟長幼、女は以男て稱耳	324	與女。山杵。父兄淫。兄弟鮑。田女。呼夫。龐。寸。曰。於	323	寸。曰。異父兄弟之故。哭女。嫁之。山杵。生。鮑。田	322	更。共。後。夫。前。大。韓。白。水。郎。嘆。生。器。女。○。與。鮑	321	哭妻。哭女。鮑。曾。既。娶。鮑。田。女。或。本。云。玉。作。部
-----	------------------	-----	----------	-----	--	-----	--	-----	-------------------------	-----	-----------------------------	-----	---------------------------	-----	-----------------------------------	-----	---------------------------------

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

331 八年冬十月百姓言、是時に國中無事ツカサて吏稱

332 其官アノシタ海內歸仁、民安其業。是歲五穀オヒニ登タカナリ衍トシユて

333 蠶麥善收。遠近清平オホムタカラ戸口マ滋殖ウマハル焉

334 十一年秋八月庚戌朔丁巳天皇崩于正

335 寢オホトノ。冬十月己酉朔癸丑葬ハニ埴生ハニ坂本の陵

336 日本書紀卷第十五

- 1 諸^{□ラキ}酷^{マツリコトハ}刑^リ無^{ト云}不^ミ親^ヲ覽^{オコソ}國^{ミコトハ}內^ノ居^居人^{百姓}威^威皆^皆震^震怖^怖十
- 2 十一年八月億計天皇崩大臣平群眞鳥^{トリ}
- 3 臣專擅國政欲^{公トアラム}王^{ヤマト}日^ニ陽^{イロ}爲^テ太子^{ツクルマヘス}營^ヲ宮^{ミヤ}了^了
- 4 卽自居^{毎事}觸^ニ事^ニ驕^マ慢^マ都^{□ラキ}無^{□ツコラマノ}臣^臣節^節於是太子武
- 5 烈天皇爲^爲太子時思^{ホシ}欲^欲聘^{アトヘム}物部^{フセ}鹿^{フカ}火^ヒ大^大
- 6 連女影媛遣媒^{ナメタテ}人^人向^向影媛宅^カ期^キ會^{ヘム}影媛^{影媛}曾^{イムサスニ}
- 7 奸眞鳥大臣男^{ヲカサレタリ}鮪^{シヒ}口^口云^云恐違^{コトヲ}太子^{太子}所^所期^期
- 8 報^{返申}曰^{ヤツコ}妾^妾望^望奉^{ラム}待^待海^海柘^ツ榴^{リウ}市^シ巷^{カウ}由^由是^是太子^{太子}欲^{イカマセムトス}
- 9 主^{チキリ}期^期處^處遣^遣近^近臣^{奉仕ル}侍^侍舍^舍人^人就^{シメ}平群大臣宅^宅奉^{アゲ}
- 1 子^子命^命求^{コトニシム}索^索官^{ツカヒ}馬^馬大^大臣^臣戲^タ言^言陽^{イノロヲ}進^進曰^曰官^官馬^馬

〔爲、去聲ハ〕
〔破音〕

11 爲カヘヤ誰ミコトノミ、飼イ養イ。隨ミコトノミ命イ而ヒサシ已ヒサシ久ヒサシ之不ヒサシ進ヒサシ。太オモテ子ヒ懷オモテ恨ヒ。御ミコトノミ

12 忍ミコトノミて不ミコトノミ發ミコトノミ。顏ミコトノミ果ミコトノミ之ミコトノミ所ミコトノミ期ミコトノミ立ミコトノミ歌ミコトノミ場ミコトノミ衆ミコトノミ多ミコトノミ。我ミコトノミ此ミコトノミ岐ミコトノミ云ミコトノミ

13 執ミコトノミ影ミコトノミ媛ミコトノミ袖ミコトノミ躑ミコトノミ躑ミコトノミ從ミコトノミ容ミコトノミ。俄ミコトノミ而ミコトノミ鮪ミコトノミ臣ミコトノミ來ミコトノミ排ミコトノミ太ミコトノミ子ミコトノミ、

14 與ミコトノミ影ミコトノミ媛ミコトノミ間ミコトノミ立ミコトノミ。由ミコトノミ是ミコトノミ太ミコトノミ子ミコトノミ放ミコトノミ影ミコトノミ媛ミコトノミ袖ミコトノミ移ミコトノミ廻ミコトノミ向ミコトノミ

〔鳴、上聲點〕
〔蟲損ナラム〕

15 前ミコトノミ立ミコトノミ直ミコトノミ當ミコトノミ鮪ミコトノミ歌ミコトノミ曰ミコトノミ之ミコトノミ哀ミコトノミ世ミコトノミ能ミコトノミ儼ミコトノミ鳴ミコトノミ理ミコトノミ鳴ミコトノミ彌ミコトノミ

〔蘇、上聲點〕
〔蟲損ナラム〕

16 黎ミコトノミ麼ミコトノミ阿ミコトノミ蘇ミコトノミ寐ミコトノミ俱ミコトノミ屢ミコトノミ思ミコトノミ寐ミコトノミ我ミコトノミ窺ミコトノミ多ミコトノミ泥ミコトノミ爾ミコトノミ都ミコトノミ摩ミコトノミ

17 陀ミコトノミ氏ミコトノミ理ミコトノミ彌ミコトノミ喻ミコトノミ一ミコトノミ本ミコトノミ以ミコトノミ之ミコトノミ哀ミコトノミ鮪ミコトノミ答ミコトノミ歌ミコトノミ曰ミコトノミ飲ミコトノミ瀾ミコトノミ瀾ミコトノミ

18 能ミコトノミ古ミコトノミ能ミコトノミ耶ミコトノミ耶ミコトノミ陞ミコトノミ智ミコトノミ羅ミコトノミ智ミコトノミ枳ミコトノミ瑜ミコトノミ屢ミコトノミ世ミコトノミ登ミコトノミ耶ミコトノミ瀾ミコトノミ古ミコトノミ

〔梨、上聲〕
〔誤〕

9 子ミコトノミ歌ミコトノミ曰ミコトノミ飲ミコトノミ哀ミコトノミ陀ミコトノミ擲ミコトノミ鳴ミコトノミ多ミコトノミ梨ミコトノミ播ミコトノミ枳ミコトノミ多ミコトノミ擲ミコトノミ氏ミコトノミ

2 哥ミコトノミ儒ミコトノミ登ミコトノミ慕ミコトノミ須ミコトノミ衛ミコトノミ婆ミコトノミ陀ミコトノミ志ミコトノミ氏ミコトノミ謀ミコトノミ阿ミコトノミ波ミコトノミ夢ミコトノミ登ミコトノミ

〔茹、聲點蟲〕

21 茹^ノ 於^平 謀^平 賦^上 鮑^上 臣^上 答^上 歌^上 曰^上 飫^平 哀^上 枳^上 彌^上 能^上 耶^平 陸^上

〔彌〕

22 能^平 矩^平 彌^平 枳^平 智^上 梅^平 騰^平 謀^平 儼^平 鳴^平 阿^平 摩^平 之^平 耳^上

23 彌^平 智^上 農^上 俱^平 彌^平 柯^平 枳^上 太^上 子^上 歌^上 曰^上 彌^平 彌^平 能^平 姑^上

24 能^上 耶^上 賦^上 能^平 之^平 魔^平 柯^平 枳^上 始^上 陀^上 騰^上 余^上 彌^上 那^平 爲^上 我^上

〔梨、誤〕

25 與^上 蓋^平 據^去 魔^平 耶^平 梨^平 夢^上 之^平 魔^平 柯^平 枳^上 能^上 一^上 本^上 云^上 耶^上 賦^上 枳^上

〔太、右横ノ〕

26 易^上 陸^上 智^上 羅^上 太^上 子^上 贈^上 影^上 媛^上 歌^上 曰^上 舉^上 騰^上 我^上 彌^上 爾^上

〔朱點ハ修理時〕

27 枳^去 謂^上 屢^平 箇^平 皚^上 必^上 謎^上 杓^平 摩^平 杓^上 儼^平 羅^平 磨^平 啊^上 我^上 哀^上

〔爲、去聲ハ〕

28 屢^上 杓^平 摩^平 能^平 啊^上 波^平 寐^平 之^平 羅^平 陀^平 魔^平 鮑^去 臣^去 爲^去 影^去 媛^去

9 客^上 歌^上 曰^上 於^平 哀^上 枳^上 彌^上 能^上 彌^上 於^上 寐^上 能^上 之^平 都^上 婆^上 杓^上

〔梨、二字ノ誤〕

〔平〕 須^上 寐^平 陀^上 梨^上 陀^上 梨^上 耶^上 始^上 登^上 謀^平 阿^上 避^上 於^平 謀^平 婆^上

31 儼(上)俱(上)儼(上)。太子甫ヘシ知ス鮪イムサキ曾事得得影影媛媛悉サトリ覺結父子子。

32 無キヤナキ敬敬之之狀ツ赫オホ然テ大大怒怒。此夜速速向向大伴大伴。金村金村。

33 連連宅宅會會兵兵計計策策。大伴連大伴連將將數數千千之之傲傲於於。

34 路路戮戮鮪鮪臣臣於於乃乃樂樂山山一一本本云云鮪鮪宿宿影影是是時時。

35 影媛影媛逐逐行行戮コロサル處處見見是是戮戮已ハッル驚驚惶カシコ失失所心速悲悲淚淚。

36 盈盈目目遂遂作作歌歌曰曰伊伊須須能能箇箇瀾瀾賦賦屢屢鳴鳴須須擬擬。

37 底底舉舉慕慕摩摩矩矩羅羅杳杳箇箇播播志志須須擬擬慕慕能能娑娑播播。

38 儼儼於於哀哀野野該該須須擬擬播播屢屢比比箇箇須須我我鳴鳴須須擬擬。

19 豆豆摩摩御御慕慕屢屢鳴鳴佐佐哀哀鳴鳴須須擬擬杳杳摩摩該該儼儼播播。

比比佐佐倍倍母母理理杳杳摩摩慕慕比比儼儼瀾瀾逗逗佐佐倍倍母母。

「屢」聲點蟲

「杳」平聲蟲

41 理。儼。岐。曾。哀。遲。喻。俱。謀。柯。尋。比。謎。阿。婆。例。
(平)(上)(平)(上)(上)(平)(上)(平)(上)(平)(上)(平)(上)(平)(上)

42 於是影媛收埋(と)既畢(て)臨欲(に)還(と)家(に)悲(ム)鯁(セヒ)面言

43 苦(ク)哉(カ)今日失(ツル)我(我)愛(ウル)夫(ヲ)即(即)便(便)灑(イサ)涕(タ)愴(イタ)矣(ヤ)纏(ムス)心(ホレ)亡(ビ)

44 歌。曰。娵。烏。爾。與。志。乃。樂。能。婆。娑。摩。爾。斯。
(平)(上)(平)(上)(平)(上)(平)(上)(平)(上)(平)(上)(平)(上)(平)(上)

45 貳。暮。能。彌。逗。矩。陸。御。暮。梨。彌。儼。曾。矩。思。
(上)(平)(平)(上)(上)(上)(上)(上)(上)(上)(上)(上)(上)(上)(上)(上)

46 寐。能。和。俱。吾。鳴。阿。婆。理。逗。那。偉。能。古。多。十。
(平)(平)(平)(平)(平)(上)(平)(上)(平)(上)(上)(上)(上)(上)(上)(上)

47 一月戊寅朔戊子大伴金村連謂(カ)太子(マ)曰、

48 眞。鳥。賊。可。擊。請。討。之。太子曰天(ノ)下將亂(ナ)非(ハ)

世(セ)之(シ)雄(ユ)不(コ)能(セ)濟(セ)也(ヤ)能(セ)安(セ)之(ヲ)者(ハ)其(ハ)在(ル)連(ニ)乎(カ)。
(上)

50 自與(ニ)定謀(ヲ)於(ニ)是大伴(ノ)大連率(兵)自將(軍)圍(大)

51 臣の宅。縱火を燔之。所搗、雲に靡。眞鳥の大臣恨事の

52 不^{ラム}こと^を濟^テ知^ス身^ノ難^{コト}を免^ル。計窮望絶。廣、指鹽^{ウシ}を^テ詛^ノ。遂被

53 殺戮。及、其子^{サヘ}弟^ニ。詛時に唯、忘角鹿の海の鹽^ヲを^テ不^レ以^テ

54 爲^ノ詛^{ハス}。由是^ニ角鹿鹽^ハ爲^ル天皇所^{オホ}食^ノ、餘海^{アタシ}之^ノ鹽^ハ

55 爲^ル天皇所^{御忌トス}。忘^ル。十二月大伴金村連平定^ニ賊^ヲを

56 訖^テ反政^ヲを太子^ニ。請^申上^{進ラムト}尊^{御名}號^ヲを^テ曰^ク今億計^ノの天皇の子^{ミコ}

〔攸〕、〔欣ト〕
紛ハシキ字體

57 唯、有^{マス}陛下^{君ノミ御財ノ}。億兆攸歸^{ヨリタテ}、曾無與^{又フタレ}二^{ミ玉冬ニシ}。又賴皇^{アメ}天^ノの

58 翼^{タノミ}戴^{イタ、ク}淨^{ハラヒソキツ}除^{アタ}凶^{俊タル}。英^{ハカリ事}略^{ヲ、シキ}雄斷^{タハカリセリ}、以^ニ盛^{アマツイキホヒ}天^{アマツシツ}威^ヲ、天^ニ祿^ヲを^テ。

59 日本^ニは必^{マス}、有^キ主^{マサムニ}。日本^ニ者、非^{（平）}陛下^ニ而^テ誰^ツ。伏願

下仰^{申給}答^{神道}靈^祇祇^弘宣^大景^命光^{テリ}宅^{マシマセ}日本^ニ。誕^{オホ}受^ケ

61 銀^{タカラノ}郷^を。於是太子命有司^{高御座}以^に設^て壇^を於泊瀬^{セノ}列^{ナミキ}

62 城^に陟^{シロシメス}天皇位。遂定都焉。是日^以大伴金村

63 連^{にて}爲大連

64 元年春三月丁丑朔戊寅立春日^{イラツコ}の娘子^を爲

65 皇后子^{未詳}之^父娘是年也大歳己卯

「胎」「ネ」ハ
「元來」「子」ト記
サレシモノ
66 二年秋九月^{サレシモノ}朝^イ孕^イ婦之腹而觀其胎^{ネノ}狀

「預」「ウサ」ハ
「ハ」「ウモ」ノ誤
67 三年冬十月解^{スキ}人之指^{ツメ}甲^を使^イ掘^イ暑^イ預^{ウサ}。十一月

68 詔大伴室^{モル}屋^ヤ大連^{にて}發^オ信濃國^の男^ヲ丁^{ホホロ}作^{ツクレト}城^ノ像^{マフ}狀

9 水派^{マダノ}邑^に仍^て曰^{ウヘ}城^の上^と也。是月百濟^オ意^意多^多一郎^{一郎}
(平)(去)(平)(平)

7 葬^ニ於高田丘^の上^に

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

71 四年夏四月拔人の頭の髮（タノシヒ）て使昇樹（ノボリ）の嶺（タテ）。斫（キ）倒樹（タラシ）の	72 本（オトシ）て落（コロス）死（シ）昇者（ノボリ）爲（タノシヒ）快（タノシヒ）是歲百濟末（ハツ）多王（ハツ）無道（ハツ）て	73 暴（シヒリヤス）虐（シヒリヤス）百姓（シヒリヤス）國人（シヒリヤス）遂除（ス）而（ス）立（ス）嶋（カシ）王（カシ）是爲武寧（ハツ）（平）	74 王（ハツ）百濟（ハツ）新撰（ハツ）曰（ハツ）末多王（ハツ）立（ハツ）諱（ハツ）斯（ハツ）麻（ハツ）王（ハツ）是（ハツ）琨（ハツ）支（ハツ）王（ハツ）國（ハツ）（平）	75 子（ハツ）之（ハツ）子（ハツ）。則（ハツ）末多王（ハツ）異（ハツ）母（ハツ）兄（ハツ）也（ハツ）。琨（ハツ）支（ハツ）向（ハツ）倭（ハツ）時（ハツ）（平）	76 至（ハツ）筑紫嶋（ハツ）。生（ハツ）斯麻王（ハツ）。自（ハツ）嶋（ハツ）還（ハツ）送（ハツ）不（ハツ）至（ハツ）於（ハツ）京（ハツ）（平）	77 所（ハツ）産（ハツ）嶋（ハツ）。故（ハツ）因（ハツ）名（ハツ）焉（ハツ）。今（ハツ）各（ハツ）羅（ハツ）嶋（ハツ）。今（ハツ）案（ハツ）嶋（ハツ）王（ハツ）是（ハツ）（平）	78 蓋（ハツ）嶋（ハツ）王（ハツ）之（ハツ）子（ハツ）也（ハツ）。末多王（ハツ）是（ハツ）琨（ハツ）支（ハツ）王（ハツ）是（ハツ）（平）	79 五年夏六月使人（ハツ）入（ハツ）塘（ハツ）械（ハツ）口（ハツ）出（ハツ）於（ハツ）外（ハツ）。持（ハツ）（平）	年秋九月乙巳朔詔曰、傳國（ハツ）之機（ハツ）立子（ハツ）、
--	---	--	---	---	---	--	--	--	---

「刃」ニテ「矛」ト
「爲」墨點
「或イハ去聲
アルモ不案

「暴虎」ノ誤
「暴」

81 爲貴朕無繼嗣。何以、傳ツク名ナ。○依天ツク皇舊フル例レに置

82 小泊瀬シメヨトノタマツ舍ム人トシをシメ使爲代ナの號ナに萬歲マンサイ難忘者ナ也。●十

83 月百濟國、遣麻（平）那（平）君（上）をシメ進調。天皇以爲、百濟

84 歷年ミツキ不脩奉也貢職。雷ミツキ而不放三ルシツカハス

85 七年春二月使人シ昇シ樹ニ以弓ニ射ニ墜ニ而シ唉。夏

86 四月百濟王ヨキシ遣（平）斯我（平）君（平）をシメ進調。別文表ニ曰ニ前レ進ハ

87 調ミツキ、使ツカヒ麻那（平）者非百濟國兩林之主ヤカラニ。骨族也。故謹（平）て

88 遣シ斯我（平）奉ダテマ事カヘ於朝ミカト。遂有子（入）。曰（上）。法師（上）君。是倭（上）の

89 君之先祖也也。未詳

年春三月使女ヒタハをシメ裸ニ形ニ坐ヒラ平（上）板（上）上（上）に牽馬イタシをシメ就

91 前フルヒセシム遊ヒ牝メ。觀ミ女メの不ホト、コロウルヘル淨ス、沾ツル濕シ者ハは殺コロス。不ス濕シ者ハは沒ヌケル爲ナリ爲ナリ

92 官ツカ婢メ。以ツカ爲ナリ樂ガク。及ツキ是ノ時トキ穿ス池ヰ起トキ苑エン以ツキ盛ミツ禽トリ獸ケ。

〔走〕〔レ〕〔誤カ〕
93 而シテ好ス田リ獵シ走シ狗イヌ試タラフ馬ウマ出デ入イリ不ス時トキ不ス避ヒク大オホ風カゼ

〔誤〕〔忽〕〔忘〕〔ノ〕
94 甚ヒサシ雨アメ衣キ濕シ而シテ忘シ百ヒャク姓セイ之ノ寒サムイ食クハフ美ミ而シテ忽トキ天アメノ下タラシ

95 之ノ飢ウツシ大オホ進シ侏ヒキ人儒ニョウ倡ウセ優ウエ爲ナリ爛タリカハシキ漫マン之ノ樂ガク設セツ奇キ偉ヒ

96 之ノ戲シ縱ホシマ、ニヌタハシキ靡ヒ之ノ聲コエ日ヒト夜ヨ常ツネニ與ヨリ宮ミヤ人ヒト沈シヅム湎ミヅ于ニ

〔破音〕〔去聲ハ〕
97 酒サケ以ツキ錦キン繡シウ爲ナリ席シキキト衣キタル以ツキ綾アヤ紈ウ者ノ衆シ冬フユ十ジュウ二ニ月ゲツ

98 壬辰朔己亥崩于ナムキノ列城リョウシヤウ宮ミヤ

1	願 ミウツクシヒ 天 ア 恩 リ 判 リ 還 ヘ 本 國也 屬 ニ ●秋八月癸未朔□□□□
2	濟太子 守 淳陀 ミウス 墓 ミウス ●九月勾大兄□□□□
3	日皇女 ミコ 於 ニ 是月夜 ミナカダリシ 清 ミナカダリシ 談 ミナカダリシ 不 オロカニ 覺 ニ 天 ア 曉 ケ 斐 ミ 然 フ 文 ミ 作 ミ □□□□
4	藻忽 ニ 形於言 ニ 乃 クツ 口 ア 唱 ミ 日 ミ 野 ミ 純 ミ 磨 ミ 俱 ミ 爾 ミ □□□□
5	□□□泥 ミ 底 ミ 播 ミ 屢 ミ 比 ミ 能 ミ 呵 ミ 須 ミ □□□□
6	俱 ミ 波 ミ 絶 ミ 謎 ミ 烏 ミ 阿 ミ 利 ミ 等 ミ 枳 ミ 底 ミ 與 ミ 慮 ミ 志 ミ 謎 ミ 鳴 ミ
7	阿利等 ミ 枳 ミ 底 ミ 葬 ミ 紀 ミ 佐 ミ 俱 ミ 避 ミ 能 ミ 伊 ミ 陀 ミ 圖 ミ 烏 ミ
8	飫斯毗羅 ミ 枳 ミ 倭 ミ 例 ミ 以 ミ 梨 ミ 魔 ミ 志 ミ □□□□
9	魔怒唎 ミ 純 ミ 底 ミ 魔 ミ 俱 ミ 囉 ミ 圖 ミ 唎 ミ 都 ミ 魔 ミ 怒 ミ 唎 ミ 純 ミ 底 ミ
	慕 ミ 我 ミ 堤 ミ 鳴 ミ 倭 ミ 例 ミ 爾 ミ 魔 ミ 柯 ミ 斯 ミ 每 ミ 倭 ミ 我 ミ 堤 ミ 鳴 ミ

損「倭」、聲點

20	18	17	16	15	14	13	12	11
(上)致。	(上)麼。	(上)駄。	(平)母。	(上)播。	(上)枳。	(上)爾。	(平)阿。	(上)魔。
倭	(上)喇。	(上)開。	(平)喇。	(平)孺。	(上)蟻。	(上)播。	(平)藏。	(上)伊。
(上)我。	(上)爾。	(上)能。	(平)矩。	(上)底。	(上)天。	(上)都。	(上)播。	(上)慕。
(平)彌。	(上)儺。	(上)以。	(平)能。	(上)阿。	(上)播。	(上)等。	(平)梨。	(上)爾。
(上)細。	(上)須。	(平)矩。	(上)簸。	(平)開。	(平)等。	(上)喇。	(平)矢。	(上)魔。
(平)麼。	(上)美。	(平)美。	(上)覩。	(上)爾。	(平)余。	(平)柯。	(平)泊。	(上)柯。
(平)都。	(上)母。	(平)娜。	(上)細。	(上)啓。	(上)武。	(上)稽。	(平)矩。	(上)絶。
(平)奴。	(上)慮。	(平)開。	(上)能。	(平)梨。	(上)娑。	(上)播。	(上)矢。	(平)每。
(上)娑。	(上)我。	(平)余。	(上)智。	(平)倭。	(上)絶。	(上)儺。	慮	(上)魔。
(上)播。	(上)紆。	(平)囊。	(平)波。	(上)蟻。	(上)稽。	(平)俱。	(平)于。	(上)左。
(上)符。	(平)陪。	(平)開。	(平)庾。	(平)慕。	(平)矩。	(上)儺。	(平)魔。	(上)棄。
(上)以。	(上)爾。	(平)謨。	(平)那。	妃、	(平)謨。	(平)梨。	(平)伊。	(上)逗。
(平)簸。	(上)能。	(平)等。	(上)峨。	和	(平)伊。	(平)奴。	(上)禰。	(平)囉。
(平)例。	(上)朋。	去	(上)例。	唱。	(上)麻。	(平)都。	□	(平)多。
(平)能。	(上)梨。	(上)陸。	(平)俱。	曰。	(上)娜。	(上)等。	(上)度。	(上)企。
□	(平)陀。	(上)都。	(上)屢。	(平)莒。	(上)以。	(上)利。	(上)爾。	

29	28	27	26	25	24	23	22	21
戢 音集 支 て 獻	勅 ベクミ 以 己 汶 滞 沙 て 賜	巴委 佐 伴 跛 既 殷 奚 及 竹 音軸 次至 等 奏 マツタマハリス 宣 恩	文貴將軍 國名也 斯 シラキ 羅汶 得 至安羅辛 音夷 已 如字 奚 貴 及 貴	一月辛亥朔乙卯於朝 ミタ 庭 ミタ 引 召也 列百濟 の 姐彌	例 上 夜 上 矢 上 比 上 等 上 母 上 紆 上 陪 上 爾 上 提 上 那 上 皚 上 矩 上 冬 上 十	細 上 屢 上 娑 上 佐 上 羅 上 能 上 美 上 於 上 寐 上 能 上 武 上 須 上 彌 上 陀 上	皚 上 矩 上 野 上 須 上 美 上 矢 上 倭 上 我 上 於 上 朋 上 枳 上 美 上	開 上 能 上 美 上 那 上 矢 上 馱 上 府 上 紆 上 鳴 上 謨 上 紆 上 陪 上 爾 上
辛巳朔戊子詔曰朕承天 ツス 緒 て 獲保 タ 宗 こと 朝 て	汶之地而終不賜●十二	伴跛國遣						

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

(返點、不審)

31 兢オソリ業アヤフム聞コ者ロ天ニ下ロ安コ靜シ海ウミ內ウチ清スガシ平ヘラ屢シバシバ致ツケ

32 豐ウル年ニ頻シ使シ饒ニギハヤヒ國クニ懿ヒコト哉ヤ摩マ呂ロ古コ示シ朕ミコト心ココロ於ニ八ヤ

33 方オモ盛セキ哉ヤ勾マカリ大オホ兄ニ光ミツ吾ミ風フウ於ニ萬マン國クニ日ヒ本ホ的ニ邕ヤハラクテ處ニ

34 名ナ擅シ天アメノ下タラシ秋アキ津ツ赫セキ響ヒビ重オモシ王ミコ識シ所トコロ寶タカラ惟タガハ賢サカシヤヒト

(「言」、「文」)
誤

35 爲シ善ヨシ最モトモト樂ユキ聖ミコト化カ憑オモフケ依ヨ茲ココ遠トホ扇アヒ言コト功イサ藉シ此ココ長ナガ懸ツリ

36 寔シ汝ニ之ノ力チカラ宜ヨシ處ニ春ハル宮ミヤ助タモフ朕ミコト施セ仁ニギハヤヒ翼ハネ吾ミ補ホフ闕ヒツマツ

37 八ヤチ年ネン春ハル正タラシ月ツキ太タ子コ妃ハハ春ハル日ヒ皇ミコ女メノ晨アサ朝アサ晏ヤス出デ

38 有アル異ヒト於ニ常トコ太タ子コ意イ疑ウタガハシ入イリ殿ミヤ而シテ見ミ妃ハハ臥フシ床シヤ而シテ涕ナミ

惋アツカヒ痛イタシ不ス能ス自ミヅカ勝カサ太タ子コ恠イカサ問ト曰イハレ今イマ旦アサ涕ナミ泣ナリ

40 有アル何ナニ恨ウラミ乎ヤ妃ハハ曰イハレ非アラハ餘サマシ事コト也ヤ唯タガハ妾メカ所トコロ悲カナシ者モノ飛トトリ

〔其〕愛、右
下ノ朱點ハ修
理時ニウツリ

〔妬〕、右肩ノ
朱點ハ修理時
ニウツリシモ

〔兼〕、〔無〕ノ
誤

〔跋〕、〔跋〕ノ
誤

41 天^一也^一鳥、爲^{ウツクシフ}愛^一養^一兒^{オノカコヤ}樹^一巔^{ミエ}作^{ラフ}櫟^一。其^一愛^{フカミ}深^ミ矣^{セリ}。伏^{ハフ}！

42 地^ニ之^一蟲^モ、爲^{（去）}護^{マモリ}衛^{ワサメ}子^{オノカコヲ}、土^ニ中^ニ作^{ハル}窟^{アナ}、其^一護^{マモリ}厚^{アツミ}焉^一。乃^一

43 至^一於^一人^ニ、豈^一得^レ無^ク慮^一。無^一嗣^一之^一恨^一、方^ニ鍾^ス太^一子^ニ。妾^カ

44 名^一隨^テ絕^ル。於^一是^一太^一子^一感^{イタミ}痛^ミ而^一奏^{アウ}天^ニ皇^ニ詔^シ曰^ク朕^ミ

45 子^一、麻^{（平）}呂^{（上）}古^{（上）}、汝^メ妃^メ之^一詞^一、深^{カヘリ}稱^一於^一理^ニ、安^イ得^レ空^{ムナシ}爾^ト

46 兼^一答^一慰^レ乎^一。宜^一賜^一匠^サ布^ハ屯^一倉^ヲ表^ハ妃^メ名^ヲ於^一萬^一代^ニ

47 ●三^一月^一伴^一跋^一築^ニ城^ヲ於^一子^一吞^{音屯}帶^{（平）}沙^{（平）}而^一連^{ツケ}滿^一奚^一、置^一

48 烽^{トフヒ}候^一、邸^一閣^{舎也}以^テ備^一日^一本^ニ。復^一、築^一城^ヲ於^一爾^{（平）}列^{（平）}比^{（平）}麻^{（平）}

49 次^須比^{（平）}而^一絙^{ワタル}麻^{（平）}且^{（平）}奚^{（平）}推^一封^ニ、聚^{イクサヒト}士^一卒^一兵^一器^ヲ以^テ適^一

羅^一駟^{カラメトラヘ}略^{ヲノコメ}子^一女^{メノコ}剥^{サキカス}掠^{フレン}村^一邑^ヲ。凶^一勢^一所^一加^一、罕^一有^{（一）}

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

「度」、「虛」ノ

51 遺^ノ類^モ。夫、暴^{シヒツサン}度、奢^{オコリ}侈^{スサヒシ}、惱^{オヤマシツコナヒ}害、侵、清、誅^{ツクミナヘ}殺^{こと}尤乎。不

52 可詳載

53 九年春二月甲戌朔丁丑百濟使者、文^(去)貴^(平)

54 將軍等請罷^マ仍勅^マ副物部連^ヲ遺^{ツカハス}罷^{ツカハス}歸之

55 百濟本記云是月到于沙都^(平)嶋^(平)傳聞、伴跋^(平)

56 人、懷恨^{フシキ}、銜^{ホシマ}毒^{こと}、恃^{サカシマ}縱^{こと}虐^{こと}。故物部連、卒舟師五

57 百^マ詣^マ帶沙^ノ江^ニ。文貴將軍自新羅、去^{マカス}。四月物

58 部連於帶沙^ノ江^ニ、停^{ト、マリ}住^{こと}六日。伴跋、與師^マ往^マ伐。

脱^{ハキ}衣^{ハキ}、裳^{カスミ}、劫^{カスミ}掠^{ハキ}所^{モタル}、賫^{マカ}盡^{こと}、燒帷^{ヤメ}幕^{マカ}。物部連等、

「次」、「汶」ノ誤

60 怖^イ畏^イ逃^マ遁^マ。僅^イ存^マ身^マ命^マ泊

汶^{音文音門}慕^(平)羅^(平)嶋^(平)次慕羅^は名也

〔來、右下ノ
朱點ハ修理時
ニウツリシモ
ノ〕

〔「天子」、「奈」
ノ誤〕

61 十年夏五月百濟遣（去）前（平）部（入）木（入）不（平）麻（入）甲（去）尙（去）て

62 迎（平）勞（平）物部連等（平）於（平）已（平）次（平）而（平）引（平）導（平）て入（平）國（平）に○郡臣

63 各、出衣（平）裳（平）、斧（平）、鉞（平）、帛（平）布（平）て助（平）加國物（平）に積（平）置（平）朝庭（平）に

64 慰（平）問（平）、慰（平）勸（平）。賞（平）祿（平）は、優（平）節（平）●九月百濟遣（平）州（平）利（平）即（平）ッ

65 次、將軍（平）て副物部連（平）て來（平）謝（平）賜（平）こと（平）を已（平）次（平）之地（平）。別（平）に貢

66 五經轉士漢（平）高（平）安（平）茂（平）て請（平）代博士（平）段（平）物（平）爾（平）に○請（平）依（平）マ

67 代之。戊寅百濟遣（平）灼（平）莫（平）古將軍（平）日本（平）の斯大（平）

68 子（平）奈（平）奴（平）阿比多（平）て副高麗（平）の使、安定等（平）て來（平）朝（平）て結（平）好（平）

69 十二年春三月丙辰朔甲子遷（平）都弟國（平）に

7 七年夏五月百濟王武寧薨（平）

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

「近江」「ア
ミ」「ノ」「ア
ハ後補

- 71 十八年春正月百濟の太_ミ子_{シム}明_ミ、即位_ニ
- 72 廿年秋九月丁酉朔己酉遷_テ都磐余_ノ玉穗_ニ
(平)(平)
- 73 一本云
七年也
- 74 廿一年夏六月壬辰朔甲午、近_ミ江_ミの毛野_ナ臣、
- 75 率_イ衆_サ六萬_ヲ欲_ニ往_ニ任_ニ那_ニ復_ニ爲_ニ、與_ニ建_ニ新羅_ニ所破、
- 76 南_{アリヒシノ}、加_ミ羅_ミ、喙_{音得}己_{音胡}而_{音屯}合_ミ任_ミ那_ミ。於是筑紫國造
- (平)(上)(平)(平)
- 77 磐井_ミ、陰_ニ謨_ニ叛_ニ、逆_ミこと猶_ミ預_ミ經_ミ年_ヲ恐_ミ事_ノ難_ミ成_ニ恆_ニ、伺
- (上)(上)
- 78 聞_ミ隙_ヲ新羅知_ミ是_ヲ密_ニ、行_ミ貨_ヲ略_ヲ于_ニ磐井_ニ所_ニ而_ニ勸_ニ
- 79 方_{タヘヨハト}遏_ミ毛野_ノ臣_ノ軍_ヲ。於是磐井_ミ、掩_ミ據_ミ火_ノ豐_國二_國國_ニて
- 使_ミ修_ミ職_ヲ。外_ニは邀_ミ海_ヲ路_ヲ誘_ミ致_ミ高麗百濟新羅
- 不奉仕也

「侶」、「詔」ノ
誤

「近」、「兵」ノ
誤
「事」、「上」ノ
誤
「聲」、「元」ノ
誤
「合」、「今」ノ
誤

81 任那等の國の、年に、貢職、船を、内は、遮遣任那に毛野臣

82 軍をて亂語、楊言て曰、今、爲使、者、昔、爲吾、伴て摩肩、

83 觸時、共器にて同食。安、得率爾、爲使と俾余を自伏

84 爾前て遂戰て而不受。驕て而自矜。是以毛野臣

85 乃、見防退中、途淹滯。天皇召大伴の大連金

86 村、物部大連鹿火、許勢大臣男人等て曰筑

87 紫の磐井反掩て有西戎之地。今誰可將者。大

88 伴連等僉曰、正直仁勇通於近事、合、无土

89 出於鹿鹿火右。天皇曰、●秋八月辛卯朔

曰、咨、大連、惟、玆、磐井、弗率。汝、俱て征。物部

91 鹿鹿^ロ火の大連再拜^ヲ言、嗟夫磐井は西戎之姦^{カマシキ}！

92 猾^{奴也}。負川^{タノ}阻^{サカシキ}て而不庭^{ツカフ}。憑山^{ツカフ}峻^{アツ}て而稱^{イハ}亂^を。敗^{イハヒ}德^をて反^{ソム}。

93 道^{ミチ}侮^{アソリ}。婢^{オコリ}自賢^{トオモヘリ}。在昔道^{ミチ}之臣^{ミコ}、奚^ニ及^ミて室^{ムロ}屋^ヤ、助^マ帝^{ミカド}而^ニ而^ニ。

94 罰^{ウツ}。拯^{スツ}民^を塗^{スツ}炭^{スツ}に。彼此^モ一^ナ時^{トキ}。唯^ナ天^{アメ}之所^ニ贊^{タメ}臣^{ミコ}、恆^{トナリ}所^{ナリ}。

95 重^オ。能^オ不^{ラン}恭^ヤ伐^ツ。詔^{ミコト}曰、良將之軍^ツ也、施^メ恩^を推^メ惠^を、

96 怒^{オホヘカリ}己^を治^を人^を攻^を。如^ニ河^{カハ}之決^{サグ}。戰^を如^ニ風^{カゼ}之發^{ハツ}。重^ツ。詔^{ミコト}曰、大^{オホ}。

(「將」^{ノ下ニ}「民」^脱) 97 將^ハ之^ノ内^ノ命^{ミコト}。社稷^{イハ}存^ツ亡^ヲ。於^ニ是^ニ乎^ニ在^ニ。日^{ツトメ}勗^ヲ哉^ニ。恭^ツて

(「罰」^ハ「ツミ」^{ノ誤}) 98 行^ハ天^{アメ}之^ノ罰^{ミツ}。天皇親^{ミコト}、慘^{ツリ}斧^ヲ鉞^ヲ授^メ大連^{オホムスヒ}曰、長門以^ニ！

(「來」^{ノ誤}「東」^{ノ誤}) 99 來^カ。朕^{ミコト}、制^{カトラム}之^を。筑紫以^ニ西^ニ汝^{カトレ}制^{カトラレ}之^を。專^{タクメ}行^ヲ賞^{タマフ}罰^ヲ。勿^ナ。

頻^フ申^{カモト}奏^{カモト}也^ニ。

誤、「傷」
「場」ノ

101 廿二年冬十一月甲寅朔甲子大將軍物

102 部大連鹿鹿火、親、與賊師、磐井、交戰於筑
アタノヒトコノカミ
イロロ
相也

103 紫御井郡旗鼓相望埃塵相接決機兩障
アリ
定計也
イクサ

104 之閒不避萬死之地遂に斬磐井て果て定壘傷を。
可也
所也

105 ●十二月筑紫君葛子、恐坐父て誅てを獻糟屋屯
ロメコ
カソツミニヨリ
ニ
父に誅てを
ミヤ

106 倉て求贖ことを死罪
申也
ム

107 廿三年春三月百濟國王謂下多唎の國の守穗
コキシ
コウシ
アルシ
ミセケチ

「使」
アリ
轉倒符

108 積の押山の臣に曰、夫朝貢、侍者、使、恆避嶋曲を、謂
ミツキアツ
ミヤ
ミヤ

09 中嶋曲崎岸也。
云美佐祁
毎に苦風波に因茲て濕所賣て全に
ウルワシ
モタルトコロノモノヲ
ミヤ

(上)(平)(平)

11 無危と請、以加羅的多沙津て爲臣朝貢、津路
ナヒ
シ
國
ミヤ
ミヤ
ミヤ

111 是以押山^{オホヤマ}之臣、爲^カ請^{カモツ}聞^{カモツ}奏^{カモツ}。是月遣物部伊勢

112 連、父根^カ、吉士老^{オキナ}等^{オキナ}以津^ツ賜^カ百濟王^カ。於是加

113 羅^カ之王、謂^カ勅^{カモツ}使^{カモツ}云、此津^ツ從^カ置^カ官^{ミヤケ}家^カ、以來爲^カ臣^カ。

114 爲^カ臣^カ朝^カ貢^カ津^ツ涉^{ワタリ}。安^カ得^カ輒^カ改^カ賜^カ隣^カ之國^カ違^カ元^{ヘシメ}所^カ。

115 封^{ホシタマヒシ}、帳^カ之地^カ勅^カ使^カ父根^カ等^カ因^カ斯^{カタミ}之難^カ以^カ面^{マノ}賜^カ却^カ還^カ。

116 大嶋^カ別^カ遣^カ錄^カ史^カ佐^サ官^カ果^カ賜^カ扶^フ余^カ由^カ是^カ加^カ羅^カ結^カ儻^{トモカヲ}。

117 新羅^カ生^カ怨^カ日^カ本^カ加^カ羅^カ之王^カ娶^カ新羅王女^カ遂^カ有^カ。

118 兒^カ息^カ新羅初^カ送^カ女^カ時^カ并^カ遣^カ百^カ人^カ爲^カ女^カ從^{トモヒト}受^カ。

19 而^カ散^{アカチ}置^カ諸^カ縣^カ令^カ着^カ新羅衣^カ冠^カ阿^カ利^カ斯^カ等^カ、嗔^カ。

變^{カヘル}服^{カモツ}遣^カ使^カ還^カ。新羅大^カ羞^{ハチ}醜^カ欲^カ還^カ女^カ曰^カ、前^カ。

「時ノ」
「モ」

121 承 汝ナハハシ聘ヒシ吾、便ニ許ユルシ婚ハセ。今 既ニ若ハ斯、請 還メセ王ノ女ヲ。加（平）

122 羅（上）。已（平）。富（平）。利（平）。知（上）。伽（上）。詳 未 報（回）云（タ）。配（ア）合（ヘ）夫 婦（ニ）。安（安）得（得）更（更）に

123 離（サ）亦、有 息（息）兒。棄（テ）之 何（イ）往。遂（ニ）於 所（所）經、拔（平）刀（刀）伽（平）

124 古（平）。跛（平）。布（平）。那（平）。牟（平）。羅（平）。三（三）。城（ヤ）。亦 拔（拔）北 境（境）。五（五）。城（城）。是 月

125 遣 近 江 毛 野 臣（ニ）使（使）于 安 羅（安）。勅（勅）新 羅（新）。更（更）に、建

126 南（南）。加（加）。羅（羅）。喙（喙）。己（己）。吞（音）。百 濟（百）。遣 將 軍（將）。君（伊）。貴（貴）。麻 那（麻）。甲（甲）。

127 肖（肖）。麻 鹵（麻）。等（等）。往（往）。赴 安 羅（安）。式（式）。聽 詔（オ）。勅（モ）。新 羅（新）。恐 破（破）。

128 蕃（蕃）。國（國）。官 家（官）。不 遣 大 人（大）。而 遣 夫 智 奈 麻 禮 奚（夫）。

29 麻 禮 等（麻）。往（往）。赴 安 羅（安）。式（式）。聽 詔 勅（詔）。於 是、安 羅

1 起（起）。高 堂（高）。一（一）。引（引）。昇 勅（勅）。使（使）。國 王 隨 後（隨）。一（一）。昇 階（階）。國 內

「官家」
「ヤケ」
「ハ」
「ミヤ」
「ケ」
「ノ」
「誤」

- 131 大人 預クハ、リて昇堂ト者、一、二、百濟リの使、將軍君等、在
- 132 於堂の下。凡テて數アマタ月再、三、謨ハカル乎堂上ウエニ將軍君（平）
- 133 等、恨在（平）庭（平）焉。夏四月壬午朔任那の王、己（平）能（平）
- 134 末（入）多（上）干（去）岐（上）來朝 蓋言（平）己能末多者（平）是（平）啓（平）大伴大
- 135 連金村（平）曰、夫海（平）の表、諸蕃（平）、自胎（平）中（平）天皇（平）、置（平）內（平）
- 136 官家（平）不棄本王（平）因（平）て封（平）其地（平）を、良以也。今新羅
- 137 違（平）元（平）、所賜（平）、封（平）の限（平）に數、越統（平）以（平）來侵。請、奏天皇（平）
- 138 救（平）助（平）臣國（平）。大伴大連依（平）乞（平）、奏（平）聞（平）。是月（平）遣使（平）て
- 39 己能末多干岐（平）并（平）詔（平）在任那（平）、近江（平）の毛野（平）
- 1 推問所（平）奏（平）和（平）解（平）相疑（平）於是、毛野（平）之臣、次（平）于（平）

25

- 151 比^ヒ 夫^フ 禮^レ 知^チ 率^ソ 衆^{イサ} 三^ミ 千^チ 來^テ 來^テ 請^{マウ} 聽^ミ 勅^ヲ 毛^モ 野^ノ 臣^シ 遙^ハ 比^ヒ 夫^フ 禮^レ 知^チ 率^ソ 衆^{イサ} 三^ミ 千^チ 來^テ 來^テ 請^{マウ} 聽^ミ 勅^ヲ 毛^モ 野^ノ 臣^シ 遙^ハ
- 152 見^ミ 兵^{ヘイ} 仗^{シヤウ} 之^ノ 圍^ヰ 繞^ニ 衆^{イサ} 數^ス 千^チ 人^ニ 自^{ヨリ} 熊^{クマ} 川^{カハ} 入^リ 任^ニ 那^ナ 己^ミ 見^ミ 兵^{ヘイ} 仗^{シヤウ} 之^ノ 圍^ヰ 繞^ニ 衆^{イサ} 數^ス 千^チ 人^ニ 自^{ヨリ} 熊^{クマ} 川^{カハ} 入^リ 任^ニ 那^ナ 己^ミ
- 153 叱^ヒ 己^ミ 利^リ 城^{シヤウ} 伊^イ 叱^ヒ 夫^フ 禮^レ 智^チ 干^{カン} 岐^キ 次^ジ 子^シ 多^タ 羅^ラ 叱^ヒ 己^ミ 利^リ 城^{シヤウ} 伊^イ 叱^ヒ 夫^フ 禮^レ 智^チ 干^{カン} 岐^キ 次^ジ 子^シ 多^タ 羅^ラ
- 154 原^{ゲン} 不^フ 敬^{ケイ} 歸^キ 待^{タイ} 三^{サン} 月^{ゲツ} 頻^{ヒン} 請^{セイ} 聞^{ブン} 終^{シュウ} 不^フ 肯^{ケン} 宜^イ 伊^イ 叱^ヒ 原^{ゲン} 不^フ 敬^{ケイ} 歸^キ 待^{タイ} 三^{サン} 月^{ゲツ} 頻^{ヒン} 請^{セイ} 聞^{ブン} 終^{シュウ} 不^フ 肯^{ケン} 宜^イ 伊^イ 叱^ヒ
- 155 夫^フ 禮^レ 智^チ 所^{ショ} 將^{サウ} 士^シ 率^ソ 等^{トウ} 於^コ 聚^ク 落^{ラク} 乞^キ 食^{シヤク} 相^{サウ} 過^カ 毛^モ 夫^フ 禮^レ 智^チ 所^{ショ} 將^{サウ} 士^シ 率^ソ 等^{トウ} 於^コ 聚^ク 落^{ラク} 乞^キ 食^{シヤク} 相^{サウ} 過^カ 毛^モ
- 156 野^ノ 臣^シ 倭^{トモナルヒト} 人^ニ 河^{カハ} 內^ニ 馬^バ 飼^シ 首^{シユ} 御^ミ 狩^{カリ} 入^リ 隱^{イン} 他^タ 門^{モン} 野^ノ 臣^シ 倭^{トモナルヒト} 人^ニ 河^{カハ} 內^ニ 馬^バ 飼^シ 首^{シユ} 御^ミ 狩^{カリ} 入^リ 隱^{イン} 他^タ 門^{モン}
- 157 待^{タイ} 乞^キ 者^{シャ} 過^カ 捲^{ケル} 手^テ 遙^ハ 擊^{キツ} 乞^キ 者^{シャ} 見^ミ 云^{クニ} 謹^{キン} 待^{タイ} 三^{サン} 月^{ゲツ} 待^{タイ} 乞^キ 者^{シャ} 過^カ 捲^{ケル} 手^テ 遙^ハ 擊^{キツ} 乞^キ 者^{シャ} 見^ミ 云^{クニ} 謹^{キン} 待^{タイ} 三^{サン} 月^{ゲツ}
- 158 行^{コウ} 聞^{ブン} 勅^ヲ 旨^シ 尙^{カヘス} 不^フ 肯^{ケン} 宜^イ 惱^{ノウ} 聽^ミ 勅^ヲ 使^シ 乃^ノ 知^チ 欺^キ 誑^{サウ} 行^{コウ} 聞^{ブン} 勅^ヲ 旨^シ 尙^{カヘス} 不^フ 肯^{ケン} 宜^イ 惱^{ノウ} 聽^ミ 勅^ヲ 使^シ 乃^ノ 知^チ 欺^キ 誑^{サウ}
- 159 誅^{シュ} 戮^{リツ} 上^{ジョウ} 臣^シ 矣^ヤ 乃^ノ 以^{ヨリ} 所^{ショ} 見^ミ 具^{クニ} 述^{シュツ} 上^{ジョウ} 臣^シ 抄^{セウ} 誅^{シュ} 戮^{リツ} 上^{ジョウ} 臣^シ 矣^ヤ 乃^ノ 以^{ヨリ} 所^{ショ} 見^ミ 具^{クニ} 述^{シュツ} 上^{ジョウ} 臣^シ 抄^{セウ}
- 1 四^シ 村^{ムラ} 云^{クニ} 多^タ 羅^ラ 須^ス 那^ナ 羅^ラ 和^ワ 多^タ 費^ヒ 智^チ 爲^シ 四^シ 四^シ 村^{ムラ} 云^{クニ} 多^タ 羅^ラ 須^ス 那^ナ 羅^ラ 和^ワ 多^タ 費^ヒ 智^チ 爲^シ 四^シ

161 也 村 盡に 將人 物をて入^ス 其 本國に[○]或の 曰、多羅等の 四の 村

162 之 所は 掠者、毛野臣之 過也。秋九月巨勢男

163 人 大臣 薨^{いづ}

164 廿四年春二月丁未朔詔曰自磐余彦之^{神武天皇也}

165 帝、水聞城王、皆賴博^{神武天皇也}物之臣、明^{サカシ}哲之佐^{タスケ}に[○]故、

166 道の臣、諫^{ハカリ}諛^{コト}而^テ神日本^{神武天皇也}以て盛。大彦、申^{計也}略^ヲ而^テ膽^イ

167 瓊^{崇禰天皇也}殖^{用て}隆^{ニマシ}及乎^キ繼^{ヲホト}體之君、欲立^{ナカ}中^コ興^{コレ}之^(平)

168 功^{イタヘリ}者、曷嘗不む賴賢^ヲ一哲之謨^{ヘカ}一謀^ニ乎。爰以降小泊

169 瀬の天皇之王^ヤ天下^ニ幸^ニ承^テ前^ノの聖^ニ隆^{サカシ}平日^{ヲハルコト}久^シ。俗^{人ニ}

に 蔽^{クラ}て 而 不 瘡^{サメ}。政、浸^ニ衰^ニて 而 不 改。但 須^{マツ} 其 人 各

171 以類（進）。有（大）略者。不問其所（短）。有高才者。

172 不非其所失。故、獲宗廟（家也）。不危社稷（國也）。由是觀之。

173 之、豈非明佐。朕、承（業）。於今廿四年。天の下

174 清泰（ミ）。内外無虞。土地膏腴（タナワモノ）。穀稼有實（ミツル）。竊

175 恐（御財）。元（由）。期（生）。俗（常也）。藉（此）。成（驕）。故令人舉廉（キヨクカチキヒト）。

176 節（宣）。楊大道（シキ）。流（通）。鴻（オホイナル）。化（能）。官（事）。之。事。自古爲

177 難。爰（贅）。朕身（一）。豈不愼歟。秋九月。任那（の）。使奏て

178 云。毛野（の）。臣。遂（於）。久斯牟羅（シ）。起（造）。舍（宅）。一宅（一）。淹（トマリヌム）。畱（こと）。

歲（一）。本云三歲（ト云）。者（コソシム）。也。懶聽（ニ）。政（焉）。爰、以日本

180 與（との）。任那人（人）。頻（に）。以兒息（コメル）。諍（アヲカフコト）。訟。難（を）。決（元）。元（ハシ）。無能（コトウル）。判（こと）。

「誓湯」ハ「ク
カタケ」ハ「ク
カタチ」ノ誤

181 毛野臣巨樂^{コノミ}置誓^{ウケヒ}湯^{ウケヒ}曰^{コト}實^ミ者^{モノ}は不^レ爛^{タレ}。虛^{イツハラ}者^{モノ}、必^ズ、

182 爛^ハ是^{コト}以^テ投^入湯^ニ。死^シ者^{モノ}衆^シ。又^モ殺^ス吉備^{キキ}韓^{カン}子^コ、那^ナ ^(平)

183 多^タ利^リ、斯^ス布^フ利^リ大^{オホ}日^ヒ本^{ホン}人^ニ聚^{トリク}蕃^{フキ}女^メ恆^ト惱^{ウレ}人^ニ民^ヲ ^(平)

184 於^{ケル}无^ク和^ハ解^カ。於^{ケル}是^{コト}天^{アメノミコ}皇^{ミコ}、聞^ク其^ノ行^{ユク}狀^{サマタリ}遣^ハ人^ヲ徵^メ入^ル。 ^(平)

185 而^{シテ}不^レ肯^ズ來^ル。顧^シ以^テ河^{カハ}內^ノ母^{オモ}樹^キ馬^{ウマ}飼^カ首^ヲ、御^ミ狩^リ奉^ル ^(平)

186 詣^ミ於^ニ京^{ミヤ}而^{シテ}奏^シ曰^ク、臣^{シノミヤ}未^ダ成^ル勅^{ノミヤ}旨^ヲ還^{マナ}入^ル京^{ミヤ}御^ミに、勞^ヲ ^(平)

187 往^{ユク}て虛^{ソノ}歸^ル。慙^{ハツカシク}安^ニ措^ス。伏^ス願^フ、陛^{シノミヤ}下^ニ待^{マシ}成^ル國^{ノミヤ}命^ヲ入^ル朝^ニ ^(平)

188 謝^{ウヘナヒマウサムヲ}罪^ヲ奉^ル使^ヲ之^ヲ後^ニ、更^ニ自^ラ謏^シ曰^ク其^ノ調^ヲ吉^キ士^シは亦^モ是^{コト} ^(平)

189 皇^{ミヤコノ}華^ハ之^ヲ使^ヲ若^カ先^ニ吾^ガ取^リ歸^ル依^{マニ}實^{アル}奏^{マセ}聞^ク吾^ガ之^ノ罪^ヲ ^(平)

「守」「む
或イハし」
必^ズ應^ズ重^シ矣^{ナリ}。乃^ハ遣^ハ調^ヲ吉^キ士^シ率^シ衆^ヲ守^ル伊^イ斯^ス枳^キ ^(平)

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

191 牟羅の城。於是阿利斯等、知其細粹タヘシタ、タタシキ、爲事ヲコトて不

192 務所ヲ期キ、頻ヒシに勸歸カヘリマツタナキ朝、尙不聽、還。由是ユニテ悉シに知行アルカタチ一

193 迹ヲて心ココロに生翻シ背セ。乃遣ノチ久禮斯コニ已コ母モて使シ于新羅ニテ

「請」^カ「む」^ハ
或「ハ」^カ「しむ」^ハ

194 請ム兵ヲ。奴須ヌス久利コリ、使シ于百濟ニテ請兵ヲ。毛野臣聞

「來」^カ「と」^ハ及墨線
點「と」

195 百濟の兵來キて迎討ムコト。背セ評ハ己コ富里フナリ也ナリ。能傷シ死

「捉」^カ「ハ」^ハ「イ」^ハトセリ

196 者の半。百濟則捉カス奴須ヌス久利コリ、使シ于百濟ニテ請兵ヲ。毛野カナツカラ而共ニ

197 新羅ニテ圍城ヲ。責ツク罵ノ阿利斯等ヲ曰ク萬出毛マンシュモ、野

「固」^コ「む」^ハ及墨線
點「む」

198 臣シノ、嬰ヒ城ヲ自固ミツ勢、不可擒トリウ。於是二國ニハ圖ハ

便ニ地ヲ淹ヒ雷ライ弦シ晦ミ。築城ヲ而還ニテ。號ナ曰ク久禮牟コリム

20 羅城ヲ。還ニテ時觸ミナナラシ路ヲに、拔ヒ騰利枳牟羅、布那牟雌ハナナラシ

- 201 枳^(平)牟^(平)羅^(平)、阿^(平)夫^(平)羅^(平)久^(平)知^(上)波^(平)多^(平)枳^(平)五^(平)城^(平)。冬^(平)十^(平)月^(平)
- 202 調^(平)吉^(平)士^(平)至^(平)自^(平)任^(平)那^(平)。奏^(上)言^(平)毛^(平)野^(平)の臣^(平)爲^(上)人^(平)傲^(上)。很^(上)。
モトリ イスカシ
- 203 不^(平)閑^(上)治^(上)體^(上)。竟^(上)無^(上)和^(上)解^(上)。擾^(上)亂^(上)。加^(上)羅^(上)。偶^(上)儻^(上)任^(上)意^(上)。
ナラハ 政也
ホラフコト サヘカシツ
カスホニ
- 204 而^(平)、恩^(上)不^(上)防^(上)患^(上)。故^(上)遣^(上)目^(上)頼^(上)子^(上)。徵^(上)召^(上)、是^(上)歲^(上)毛^(上)野^(上)
- 205 臣^(上)被^(上)召^(上)。到^(上)于^(上)對^(上)馬^(上)。逢^(上)疾^(上)而^(上)死^(上)。送^(上)葬^(上)。尋^(上)河^(上)、入^(上)
- 206 而^(上)近^(上)江^(上)。其^(上)妻^(上)歌^(上)曰^(上)、比^(上)攞^(上)。弩^(上)駄^(上)喻^(上)輔^(上)。曳^(上)枳^(上)
- 207 能^(上)朋^(上)樓^(上)河^(上)符^(上)美^(上)能^(上)野^(上)愷^(上)那^(上)能^(上)倭^(上)俱^(上)吾^(上)伊^(上)輔^(上)
- 208 曳^(上)符^(上)枳^(上)能^(上)朋^(上)樓^(上)目^(上)。頼^(上)子^(上)初^(上)到^(上)任^(上)那^(上)。時^(上)在^(上)彼^(上)
- 209 郷^(上)家^(上)等^(上)。贈^(上)歌^(上)曰^(上)、柯^(上)羅^(上)屢^(上)爾^(上)鳴^(上)以^(上)柯^(上)爾^(上)輔^(上)居^(上)
- 所^(上)梅^(上)豆^(上)羅^(上)古^(上)枳^(上)駄^(上)樓^(上)武^(上)智^(上)左^(上)履^(上)樓^(上)以^(上)祇^(上)

(天・亥、
行補入、
脱)

- 211 能^(平)和^(上)馱^(上)喇^(上)鳴^(上)梅^(平)豆^(平)羅^(上)古^(上)枳^(上)馱^(上)樓^(平)
- 212 廿五年春二月天皇病^召甚^{重也}。丁未天皇崩于
- 213 磐余玉穗宮^に。時年八十二●冬十二月丙申
- 214 朔庚子葬^(平)藍^(平)野^(平)陵^(上)。或本云天皇廿八年
- 215 廿五年歲次辛亥^上。崩者^は取百濟本記^を爲^る文^を。
- 216 乞毛城^に。是月^に高麗^に弑^す其王^を安^を。又聞日本之
- 217 日本紀卷第十七
- 天皇及太子皇子俱崩^り。薨^り由是而言辛亥

- 1 泊瀬部天皇
- 2 橘豐日天皇
- 3 橘の豐日天皇は天國排開廣庭の天皇の第四子
- 4 也母は堅鹽媛天皇、信佛法、尊神道十四年
- 5 秋八月淳中倉太珠敷天皇崩●九月甲寅
- 6 朔戊午、天皇、即天皇位。宮於磐余。名曰池
- 7 邊雙槻宮。以蘇我馬子宿禰爲太臣、物部
- 8 弓削守屋連爲大連、竝如故。壬申詔曰、云
- 9 以酢香手姫の皇女を拜伊勢の神宮奉日
- 1 祀是皇女、自此。天皇の時、速乎炊屋姫の天

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

- 11 炊屋姫天皇シマキ紀キ或ワ本ホ云クモ州シマ七ナナ
- 12 元年春正月壬子朔シラタ立穴穗部アサナホ閑人ヒト皇女ミコ一ヒトて
- 13 爲皇后アヘミヤコ是生ナマ四男ヨロミコ其一ヒト曰イハ廐戸皇子ウマヤトミコ豐トヨ更マシ名ナて
- 14 聰トウ聖セイ德トク或ワ名ナ豐トヨ聰トウ耳ミミ是皇子初居マシマシキ上カミツ宮ミヤ後ノチに
- 15 移斑鳩イカルガ於ニ豐御食炊屋トヨミケカシヤ天皇ミコノミヤ位ミコノミヤ居ニ東宮ミコノミヤ摠アツリ握コトヲササカハリ
- 16 攝萬機ミカトワヤシタマフ行ユク天皇ミコノミヤ事コト語コト見豐御食炊屋天皇トヨミケカシヤミコノミヤ
- 17 紀キ其ミ二ニ曰イハ來目クメ皇子ミコ其ミ三ミ曰イハ殖栗ホクリノ皇子ミコ其ミ
- 18 四ヨ曰イハ茨田マタ皇子ミコ立蘇我大臣キミ稻目イナメ宿禰ムスミ女メスメ
- 19 石寸イシサナ名ナ爲ナ嬪ヒメ是生田目シラタメ皇子ミコ更マシ名ナ豐トヨ葛城カキ城シロの
- 磐村イハムラ女メスメ廣子ヒロミコ生ナマ一ヒト男オコ一ヒト女メスメ男オコは曰イハ麻呂マロ子ミコ

「點ハ二字下
「子。」ノ誤

21 皇子此當麻公之先也。女曰酢香手姫皇

22 女。歷三代以奉日之神。●夏五月穴穗部皇子、

23 欲^{トシ}奸炊屋姫皇后而自強入於殯宮、寵臣^{モカリノミヤ}

24 三輪君逆、乃喚兵衛重璅宮門而拒勿入。

25 穴穗部皇子問曰、何人在此。兵衛答曰、三

26 輪君逆在焉。七呼開門。遂不聽入。於是、穴

27 穗部皇子、謂大臣與大連曰逆、頻無禮矣。

28 於殯庭誅曰、不荒朝庭、淨^{キヨ}如鏡面。臣治平

29 奉仕。卽是無禮。方今、天皇子弟、多在。兩

待。詎得恣情、專言奉仕。又余、觀殯內拒

- 31 不聽ニルシ入自、呼開ヨハヘトモ門ミカト、七廻ナハタヒ、不應コタヘ願ハ欲オホフ斬ヤラムト之。兩の
- 32 大臣曰、隨マ念ミコトノ命ミコトノ於ニ是穴穗部皇子、陰謀ヒンカ王ヤミダラ
- 33 天下之事而口詐イロハリタモテリ在於殺イフ逆君ミセケチ遂與物部
- 34 守屋大連、率兵テ圍カクム繞盤余の池邊逆君、知之ニ
- 35 隱カクレヌ於三諸之岳モロ是日之夜半ヒツカ潛自山、出隱於
- 36 後宮ヤサノ業ミ是名海シヘイ石イシ櫛シ市宮逆之同ウカラ姓、白提ツ、ミ與
- 37 横山、言逆君カ在處アル穴穗部皇子、即遣守屋
- 38 大連オホムス或本アミ云クハリ穴穗部皇子與泊瀬部曰、汝イハシ應往ユク
- 9 寸逆君、并其二子フタリ大連遂率兵ユク去。蘇我馬
- 4 宿禰、外聞斯ミ計マウツシカ謂皇ミ子ミモト所、即逢アヒス門底カトモト謂皇

〔馬〕
〔子〕
〔脱〕
〔下二〕

41 子の家の門也。將之○連の所に○時に諫曰、王者不近刑人。不

42 可自往。皇子不聽而行。馬子宿禰、即便隨て

43 去到於磐余。行て至於池邊。而て切諫之。皇子乃從

44 從諫に止。仍て於此處て踞坐。胡床て待大連焉。大
(ミセケテ)

45 連良久。而至。率衆て服命。曰、斬逆等を、訖云。或本

46 穗部皇子。於て是、馬宿禰、惻然頽嘆。曰、天下

47 之亂は不久矣。大連聞而答て曰、汝小臣之所

48 不識也。此の三輪の君逆者。譯語。田天皇之所

9 姫皇。后穴穗部皇子也。是年也。太歲丙午

年夏四月乙巳朔丙子、御新當を於磐余の
(ミセケテ)

〔部〕
〔物〕
〔上〕
〔二〕
〔脱〕

51 河上^{カミ}。是日^ニ天皇^{オホミコ}得^{トク}病^{ヤマト}還^{マゼ}入^{トク}於^ニ宮^{ミヤ}。羣臣^{オホミヤ}侍^{ハヒ}焉^ニ。

52 天皇^{オホミコ}詔^{ミコトノコト}羣臣^{オホミヤ}曰^{イハク}、朕^{ミケ}思^{オモフ}欲^ム歸^{カヘ}三^ミ寶^{タカラ}。卿^{キミ}等^ノ議^{ハカレ}之^ヲ。

53 羣臣^{オホミヤ}入^{イリ}朝^{アサヒ}而^{シテ}議^{ハカレ}。物部^{モノベ}守屋^{モリウチ}大連^{オホムスヒ}與^{ヨリ}中臣^{ナカミチ}勝^{カチ}

54 海連^{ウミノミ}、詔^{ミコトノコト}違^ヒ議^{ハカレ}曰^{イハク}、何^{ナニ}、背^セ國^{クニ}神^{カミ}敬^{ヤス}他^ヒ神^{カミ}也^{ナリ}。由^{ヨリ}來^{キタ}、

55 不^{シラ}識^{シラ}若^ニ斯^カ、事^{コト}矣^{ナリ}。蘇我^{スヘ}馬子^{ウマコ}宿禰^{スネ}大臣^{オホミヤ}曰^{イハク}、可^カ

56 隨^ス詔^{ミコトノコト}而^{シテ}奉^{マツ}助^{ササ}詎^ナ生^{ナマ}異^イ計^ケ於^ニ是^{コノ}皇^{ミコ}子^コ者^{ナリ}。穴^{アナ}穗^ホ部^ベ子^コ

57 皇^{ミコ}子^コ。即^{ソレ}天^{アメ}皇^{ミコ}引^{ヒキ}豐^{トヨ}國^{クニ}法^{ホウ}師^シ也^{ナリ}。闕^{ケツ}名^ナ入^{イリ}於^ニ內^{ウチ}裏^リ。部^ベ

58 守屋^{モリウチ}大連^{オホムスヒ}、耶^ヤ睨^ニ大^{オホ}怒^{イデ}。是^{コノ}時^{トキ}押^{オシ}坂^{サカ}部^ベ史^シ毛^モ尿^ソ、

59 急^{アワテ}來^{キタ}密^ヒ語^{コト}大連^{オホムスヒ}曰^{イハク}、今^{イマ}羣臣^{オホミヤ}圖^{ハカル}二^ニ卿^{キミ}復^マ將^マ斷^{タテマ}路^{ミチ}也^{ナリ}。

連^{ムスヒ}聞^ク之^ヲ即^{ソレ}退^ヒ於^ニ阿^ア都^ト大^{オホ}連^{ムスヒ}之^ノ別^{ワケ}集^ミ

- 263 -

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

71 不離畫夜、守護大臣マモル、大根曲の家マモル者也、天皇之瘡ミヤマヒ轉イロク

72 盛サカナリ將スル欲ウセタマヒナム終シ時トキ鞍クラツクリ部ハ多（平）須（平）奈（上）司（去）馬（平）達（平）進而

73 奏アソ曰（イ）臣、奉オホ爲タメ天皇（イ）、出（イ）家（イ）、脩オホナハム道（イ）。又奉マシラム造ツクリ丈六（イ）の

（今、轉倒符アリ）

74 佛ミカド像（イ）及寺。天皇爲タメ之悲ヒ慟（イ）。南ミナミ今淵（イ）の坂田寺

75 木キの丈六（イ）の佛（イ）像（イ）、挾（イ）侍（イ）の菩薩也。癸丑天皇崩于

76 大オホ殿（イ）。●七月甲戌朔甲午葬（イ）于磐余池（イ）上（イ）陵（イ）

77 泊瀬部天皇

78 泊瀬部天皇天國排開廣庭天皇の第十二子

9 母イロハハ曰（イ）小（イ）姉（イ）君也。稻目宿禰（イ）女（イ）。●三年夏四月

8 豐日（イ）的天皇崩。●五月物部大連（イ）軍（イ）衆（イ）三度（イ）、

81 驚駭^{トモヘ}大連^{ヲシ}元^{ヘシメ}欲^ス去^リ餘皇子^ヲ等^ヲ而立穴穗部

82 皇子^{ミコ}爲^セ天皇^{ミコト}於今望因遊^{カリ}獵^ス而謀^ハ替^{カヘ}立^{ツル}密^{シノヒ}

83 使人^{ツカヒニシテ}於穴穗部皇子^{ミコ}曰願^ハ與^フ皇^{ミコ}將^ハ馳^{カリ}獵^ス於

84 淡路。謀泄^{モリス}●六月甲辰朔庚戌蘇我馬子宿

85 禰等^{ミナモト}奉炊屋姬尊^{ミナモト}詔佐伯連^{ミナモト}丹經^ニ手^{ミナモト}土師^{ミナモト}

86 連磐村^{イハムラ}的^{イタハ}臣^{ミナモト}眞^マ嚙^{クヒ}曰汝等^{ミナモト}嚴^{ミナモト}兵^{ミナモト}速往^{ミナモト}誅殺^{ミナモト}

87 穴穗皇子^{ミナモト}與宅部皇子^{ミナモト}是日夜半^{ミナモト}佐伯連

88 丹經手等圍穴穗部皇子^{ミナモト}的宮^{ミナモト}於是衛士^{ミナモト}先

89 登樓^{タカトノ}上^{ウヘ}擊穴穗部皇子^{ミナモト}的肩^{ミナモト}子^{ミナモト}落於樓^{ミナモト}下^{ミナモト}走

偏室^{イササヒ}衛士^{ミナモト}等舉^{ミナモト}燭^{ミナモト}而誅^{ミナモト}辛亥誅宅部皇

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

91 子^を宅^部皇子^は檜^限天皇^之善^{ウルハシ}穴穗部皇子。

92 故^{コロス}誅^ヲ甲子^{（平）}、善^{（平）}信阿尼等、謂^{カタリ}大臣^{にて}曰、出^{イヘテ}家^之之。

93 途^は以^{イム}戒^{セテ}爲^{コト}本^と。願^ハ向^{マカリ}百濟^{にて}學^{ウケム}！受^{ウケム}戒^の法^を。是^は月^に百

94 濟^{ミツキ}調^{ミツキ}使^{マツケリ}來^{マツケリ}朝^ヲ。大臣^ヲ謂^{ツカヒ}使^{マツケリ}人^{にて}曰、率^ハ此^ニ尼^等を^て將

95 渡^{ワタ}汝^ニ國^に令^ラ學^{マツ}戒^ヲ法^を了^{ハリ}時^に遣^{タテマツセ}遣^{タテマツセ}。使^{マツ}人^ヲ答^{コタヘ}曰、臣^{ヤシ}曰、臣^{カレ}

〔久。遲、補〕
〔入符號アリ〕

96 等^ト歸^{カヘ}蕃^ニ先^{マサ}導^{イヘム}國^の主^{キミ}而^ハ後^ニ發^{タチツカハストセ}遣^{タチツカハストセ}久^ヲ遲^ヲ也。●秋七

97 月^{ツキ}蘇^ソ我^ガ馬^マ子^コ宿禰^{スミ}大臣^ヲ、勸^{カマサシメ}諸^{シロ}皇^{ミコ}子^ヲ與^ト羣^{グン}臣^ヲて

98 謀^{マカ}滅^メむ^{コト}物^{モノ}部^ヲ守^{モリ}屋^ヤ大連^ヲ。泊^{トモ}瀨^セ部^ヲ皇^{ミコ}子^ヲ竹田^{タケノタ}皇

廄^{ウマヤ}、戶^ド皇^{ミコ}子^ヲ、難^{タガハシ}波^ハ皇^{ミコ}子^ヲ春^{ハル}皇^{ミコ}子^ヲ、蘇^ソ我^ガ馬^マ子^コ

100 宿禰^{スミ}大臣^ヲ、紀^キ男^ヲ麻呂^{マロ}宿禰^{スミ}、巨勢^{コセ}臣^ヲ比良^{ヒラ}夫^ヲ、

ハ
シノ

101 膳臣(上)賀拖夫(上)葛城臣(上)烏那羅(平)俱ニ率軍旅ヲ進ス

102 計大連ヲ大伴連齒、阿倍臣人、平羣臣人、平(ミセケチ)

103 羣臣〇神手、坂本臣糠手、春日臣關名俱ニ率率

104 軍兵ヲ從志紀志郡、到澁ノ阿家ニ。大連親、率子一

105 弟與ヲ奴軍ニ築稻城ヲ而戰。於是、大連、昇衣ノホリ一措ス

106 朴枝一間マ臨射シ如雨ノ。其軍強盛ニ填家ニ溢野ニ。皇

107 子等ノ軍、與羣臣イサ衆、怯弱恐怖ニ。三廻劫還。是

108 時ニ廐戶皇子東ヒサコハナシ東ヒサコハナシ於一髮一額額古ヒト俗ヒト年一少一兒ワラハ年一十十

109 子七八八聞ハ分分爲角而隨軍後。自付ハ度度曰、將無

敗、非願ネガヒ難成。乃斷ヤリトリ取白膠スリナ木トク疾作四天

「髪」轉倒符
「アリ」
「て」墨點

「段ハ」「段ニ」
()

111 王の像に置於頂髮而發誓言、白膠木此今若

112 使我勝敵、安當奉爲護世四王、起立寺塔。

113 蘇我臣馬子大臣又發誓言、凡諸天王大

114 神王等、助衛於我使獲利益、願當奉爲諸

115 天與大神王、起立寺塔流通三寶誓已嚴

116 種々の兵而進討伐爰有迹見赤擣射隨大

117 連於枝下而誅大連并其子等由是起大連

118 之軍忽然自敗。合軍悉披皂衣馳獵廣瀬

原而散。是役大連兒息與眷屬、或有逃

120 匿葦原改姓、換名者。或有逃亡不知所向

121 者。時人相謂て曰、蘇我大臣之妻は是物部守

122 屋大連之妹也大臣妄に用妻の計て而殺大連を

123 矣平亂之後、於攝津國造四天王寺を分大

124 連の奴半與宅を爲大寺の奴、田莊を以田一萬頃を

125 賜迹見首赤擣。蘇我大臣亦依に本願、於飛

126 鳥地起法興寺。寺物部守屋大連資人、
(ミセケチ)

127 捕鳥部萬□名將一百人守難波宅を而聞

128 大連滅て騎馬に夜逃向茅渟の縣の有眞香邑。仍

129 過婦宅而遂に匿山。朝廷議て曰、萬懷逆心を故

此山中に早須滅族を可。不怠敷。萬、衣裳弊

131 垢^{アカツキ}形^{カホ}一色^{カシケ} 懔^{カシケ}一悴^ケ 持^チ弓^{キウ} 帶^{オビ}劍^{ケン}一獨^{ドク} 自^{ミヅカサ}出^デ來^キ。有^{アル}司^シ遣^{ツク}

132 數^{モ、アツリノイサヒト}百^{ヒト}衛^エ一士^シ一圍^ヰ 萬^{マン}を。ミ 即^{ソレ}驚^{オドロク}て匿^{カクレ} 篁^{ハス}一藁^{カサ}に。以^{ヨリ}繩^{ヅナ}一繫^ヰ 竹^{タケ}一て

133 引^{ヒキ}動^{ユル}て令^{ヒト}他^タ一惑^{マヨ} 己^ミか所^{コロ}入^{イル}。衛^エ士^シ等^ト、被^レ詐^{アヤムカ}て指^{ササグ}搖^{ユル} 竹^{タケ}一て

134 馳^チて言^{コト}、萬^{マン}在^{アル}此^{コノ}に。萬^{マン}即^{ソレ}發^{ハツ}箭^ヤを。一無^{ナシ}不^レ中^{チウ}。衛^エ士^シ等^ト

135 恐^{オソ}て不^レ敢^{カン}て近^{チカ}。萬^{マン}、便^{ツキ}施^セ 弓^{キウ}一て挾^{カキハサム} 腋^{アキ}一て向^{ムク} 山^{ヤマ}一に走^{ハシ} 去^{ユク}。衛^エ士^シ

136 等^ト、即^{ソレ}來^キ 阿^ア一追^{ツグ}射^セ。皆^{みな}不^レ能^{ケル} 中^{チウ}。於^{コノ}是^ニ、有^{アル}一^{ヒトリ}衛^エ士^シ一て

137 疾^{チキ}馳^チて先^{サキ} 萬^{マン}に。而^{シテ}伏^{フス} 河^{カハ}の側^{サナハ}一に擬^{カサナフ}て射^セ。中^{ナカ} 膝^{ヒザ}に。萬^{マン}即^{ソレ}拔^{ヒキ}箭^ヤを。

138 張^{チヤウ} 弓^{キウ}一て發^{ハツ} 箭^ヤを。伏^{フス} 地^チに。而^{シテ}號^{セウ}曰^{イフ}、萬^{マン}は爲^{ナリ} 天^{テン}皇^ス之^ノ 楯^{タテ}一て將^{マカス}

其^{ソノ}勇^{ユウ}を 而^{シテ}不^レ推^{オシ} 問^{トヒ}。翻^{カヘリ}て致^{イダシ}。逼^{オソ}迫^セ 於^{コノ}此^ニ窮^{キウ}矣^{ナリ}。可^ヤ

141 其^{ソノ}語^{コト}者^ヲ 來^{キタル}。願^{ネガフ}聞^クむ 殺^{コロス}虜^ロ之^ノ 除^{ヲキ}を。衛^エ士^シ等^ト競^{キョウ}馳^チて射^セ

- 141 萬を、便ヘラヒ拂フ、捍アセイ飛ヒ矢を、殺テ三十餘人。仍モト以テ持ツル劍を、
- 142 三ミキタニ截ニ其ウチケル弓を。還オモケ屈ケ其ナケイル劍を、投カハナカニ河ハ水ニ裏ニ。別ニ以テ刀を子を、
- 143 刺ミ頸を、死ス焉。河カハナカニ內ニ國ニ司シ以テ萬を、死ス狀を、上マウシアク朝ミカトと
- 144 庭ニ。下タマヒ符オシテフミ、僞を、斬ツ之ハ八キタ段ニ、散チラシ梟ク。八セ國ニ。河カハナカニ內ニ國ニ
- 145 司シ即ツ依オシテフミ符の旨ミ、臨ミ斬ツ梟ニ時ニ、雷カハナカニ鳴ル大雨ヒチサメフル。爰カハナカニ萬を、養カハル
- 146 白シロ犬イヌ。俯ミ仰ミ、廻マヒ吠ウ於ニ其ノ屍ニ。側ニ。遂スエ嚙カハル舉ミ頭を、收ツ置ケル
- 147 古コ家ニ。横ヨコ臥フシ机ツヅミ、側ニ。飢ウツシ死ス於ニ前ニ。河カハナカニ內ニ國ニ司シ尤トカメ異アヤシヒ
- 148 其ソノ犬イヌ、上ウラシ朝アサと庭ニ。哀イトホシカリタマフ不レ忍ミ聽ミ。下オシテフミ符を、稱ホム曰ハク、
- 149 此コノ犬イヌ世ニ所ナリ希メダシヤ聞ク。可シメス觀ミ於ニ後ニ。須ス使セ萬カ族ヲ、作ツク墓を、
- 葬ナラヘ。由ユ是ニ、萬カ族ヲ、雙ツクリ起ス墓を於ニ有アル眞マコト香カ邑ニ、葬ナラヘ萬カ

151 與^セ犬焉。河內國言、於餌香の川原有被斬人。

152 計將數百、頭^{ムクロ}身既爛^{タレ}姓^{カヘネ}字^ナ難知。但以衣^カ色^ヘ取^テ

153 取身者。爰^ニ有櫻井田部連膽^イ淳^ス所^カ養^{ヘル}之犬。

154 嚙續身頭^{ムクロ}て伏側^ニ固守。使収己主^ニ乃起行之。

155 ●八月癸卯朔甲辰炊屋姬尊與羣臣、勸^ス進^メ進^{タチマツリ}

156 天皇^{ミコ}て即天^{シロシメサシム}皇^{アマツヒメ}之^ノ位^{ミカド}。以蘇我馬子宿禰^{スル}て爲^ス大

157 臣^{ミコ}如故^{セトノ}。卿^{マサキミ}大^ニ夫之位、亦如故。是月^{ミヤツクル}宮於倉

158 梯

年春三月立大伴糠手連^{ハス}女^メ小手子^{ミコ}て爲^ス

160 妃^{ミコ}是生蜂子皇子與^ニ錦代皇女。是歲百濟

- 161 國遣使并ホウシ僧ソウ惠ヱ摠トウ令リョウ斤キョウ惠ヱ寔シツ等ト獻ケン佛舍利ハツレツ。
- 162 百濟國遣テシ恩オン率ソツ首信ソウシン德トク率ソツ蓋カシ文モン那ナ率ソツ福フク富フ。
- 163 味ミ身ミミ等ト進シン調テウ并ヘ獻ケン佛舍利ハツレツ僧ソウ聆リョウ照テウ律師リツシ師シ令リョウ。
- 164 威ヱ惠ヱ衆シュウ宿シュク道ダウ嚴エン令リョウ開カイ等ト寺シ工コウ太タイ良リョウ未ミ太タイ文モン。
- 105 賈カ古コ子シ鑪ロ盤パン博士ホツシ將ショウ德トク白ハク昧メイ淳シュン瓦カ博士ホツシ麻マ。
- 166 奈ナ文モン奴ヌ陽ヨウ貴キ文モン俊シュン貴キ文モン昔シヤク麻マ帝テイ彌ミ畫エ工コウ白ハク。
- 167 加カ蘇ソ我ガ馬マ子シ宿シュク禰ミ請テイ百濟僧等ハツセソウト問モン受ジュ戒ケツ之シ。
- 168 法ホフ以ヨリ善ゼン信シン尼ニ等ト付ツケ百濟國使ハツセコクシ恩オン率ソツ首信ソウシン等ト。
- 69 發遣ハツテン學ガク問モン壞ヘ飛鳥衣縫造祖ヒトリイフウゾソ樹ジュ葉エフ之家ノイ始ハジメて。
- 1 法興寺ホフキョウジ此地名飛鳥眞神原コノナメヒトリマコトノハラ亦名飛鳥。

171 苦田。是年也、歲戊申

172 二年秋七月壬辰朔に遣近江臣蒲モウ於東ヤ山マ

173 道チの使テて觀蝦國夷の境を。遣宋人臣鴈ウ於東海道ウミツ

174 使テて觀東方濱ソヘル海に諸國クニの境を。遣阿倍臣ツカヘシ於北陸グルカ

175 道の使テて觀越等の諸國の境を三年春三月學モノナラヒ問尼

176 善信等、自百濟、還住櫻井寺に。●冬十月に入山ニて

〔「村」、「材」ノ誤〕

177 取寺村を。是歲度イヘテセル尼大伴狹手彥連ムスメ女、善德

178 本伴コノノ狛夫イロエ人新羅媛善妙ミオサツ百濟媛ミオサツ妙光又

179 漢人善聰善通妙德法。定照智聰善智惠善光（去）

鞍部司馬達等（去）子多須奈同時イヘテス出家名

181 曰（平）德（平）齋法師

182 四年夏四月壬子朔甲子葬（平）譯（平）語田（平）天皇（平）

183 於磯シ長ナカホ陵。是其妣イハ皇后の所葬ハツラレタマヒシ之陵也。●秋八

184 月庚戌朔天皇詔羣臣（平）曰、朕思欲建（平）任那（平）。

185 卿イマシ等何如。羣臣奏（平）言、可建任那（平）宮官（平）家、皆（平）

186 同階（平）下（平）の所に（平）詔（平）。●冬十一月己卯朔壬午、差紀男

187 麻呂宿禰巨勢（平）狹（平）○臣（平）、大伴嚙連、葛城烏奈

188 良臣（平）爲大將軍。率氏（平）、臣連爲裨將部（平）隊（平）。

189 領（平）二萬餘（平）の軍（平）を出居筑紫（平）。遣吉士金（平）於新羅、

吉士木（平）蓮（平）子（平）於任那（平）問任那（平）の事（平）。

「須」、「頸」

- 191 五年多十月癸酉朔丙子、有獻山猪。天皇
- 192 指猪を詔曰、何の時に如斷此の猪之頸斷朕所嫌
- 193 之人を多設兵仗有異於常。壬午蘇我馬子
- 194 宿禰、聞天皇の所詔て恐嫌於己。招聚儻者て謀
- 195 弑天皇是月起大法興寺の佛堂與出廊。●十
- 196 一月癸卯朔乙巳、馬子宿禰、詐於羣臣て曰
- 197 今日進東國之調を乃使東漢直駒て弑于天
- 198 皇或本云東漢直駒は是日葬天皇于倉梯
- 99 島陵人或本云大伴續小手子恨龍之衰て使
- 、人。天皇指猪而詔て曰、如斷猪の須を、何時斷朕
- 思人。且於内裏て大作兵一伏を。於是馬子宿禰

206 日本書紀卷第廿一

- 201 驚^{ツカヘン}聽^{ヘイマ}而^テ之^ヲ丁^{ツカヘン}未^{ツカヘン}遣^{ツカヘン}驛^{ヘイマ}使^ヲ於^ニ筑^{ツカヘン}紫^{ヘイマ}將^{ツカヘン}軍^{ヘイマ}所^ニ謂^フ曰^ク、依^{ツカヘン}
- 202 於^ニ内^ノ亂^ヲ莫^{ナクモリシ}忘^ル外^ノ事^ハ是^レ月^ニ東^ノ漢^ノ直^ニ駒^ノ、偷^ニ隱^ニ蘇^ノ
- 203 我^ハ嬪^ニ河^ノ上^ニ娘^ニ爲^ル妻^ニ河^ノ上^ニ娘^ハ蘇^ノ我^ハ馬^ニ子^ニ宿^ニ
- 204 禰^ハ忽^ニ不^レ知^ル河^ノ上^ニ娘^ハ爲^ル駒^ノ所^ニ偷^ニ而^テ謂^フ死^ニ去^ル駒^ノ
- 205 汙^{ケカセル}嬪^{ヒメ}事^ハ顯^ニ爲^ル大^ニ臣^ノ、所^ニ殺^ス

圖書寮日本書紀永治二年頃點

1 日本書紀卷第廿二

2 豐御食炊屋姫天皇 推古

3 豐^{トヨ}御^ミ食^ケ炊^{カシ}屋^ヤ姫^{ヒメ}の天皇は天國□□□□□□

4 中^{ミナ}女^メ也。橘豐日天皇の同□□□^幼曰額^田

5 部皇女。恣^{ミカホ}色^{カラ}端^{シク}麗^{ミフルマヒ}、進^{ヲサ}止^{クシ}軌^ニ制^テ。年□□歲^ニて立

6 爲淳中倉、太玉敷天皇之皇后。卅四歲^テ淳

7 中倉太珠敷天皇崩。卅九歲^テ當于泊瀬部^ノ

8 天皇の五年の十一月^ニて天皇、爲^ニ太臣馬子宿禰、

9 見^{シメ}殺^{ラセ}嗣^{タマヒス}位既空。羣臣^{マウメ}請淳中倉太珠敷天

之皇^{レタマヒス}后額田部皇女^ニ、以將令^{アマツヒツキシラセム}踐祚^ニ皇^ヲ后

「辭」ハ「イナサ」

11 辭讓之。百寮上表て勸進。至于三乃從之。因

12 以て奉天皇之璽印。●冬十二月壬申朔己卯

13 皇后、即天皇位に於豐浦宮

「雨」ハ「丙」ノ誤

14 元年春正月壬寅朔雨辰以佛舍利て置于

15 法興寺の刹の柱の礎中に。丁巳建刹柱を●夏四月庚

16 午朔己卯立厩戸豐聰耳皇子て爲皇太子と。

17 仍て錄攝政以萬機て悉委焉。橘豐日天皇の第

18 二子也。母皇后を曰穴穗部間人皇女。皇后

9 襲妊開胎之日、巡行禁中て監察諸司を。至于

2 官て乃當厩戸而不勞て忽に產之。生而能言。

- 21 有^{サトリ}聖^の智。及^{フツコサカリ}壯^て一、聞^十十^ノ人。訴^テ以^{アヤマチタマハス}勿^一失、能^辨辨。兼^テて
- 22 知^{ニクサキノコト}未^一然。且、習^{ノリ}內^ノ教。於^{高麗}高麗^ノ僧^{慧慈}慧慈^ニ、學^{トッ}外^ノ典^{フミ}典。を
- 23 於^{博士}博士^ノ覺^ハ。覺^ハ。駕^ハに^ハ竝^ハ悉^{サトリタマヒス}達^ハ矣。父^ハの^ハ天皇^ハ愛^ニ之^ハ令^ハ居^{ハムヘラ}居。
- 24 宮^{オホミヤノ}南^ハ上^ハ殿^ハに^ハ故^{タヘ}稱^ハ其^ハ名^ハを^ハ謂^ハ上^ハ宮^ハ廐^ハ戸^ハ豐^ハ聰^ハ耳^ハ
- 25 太^ハ子^ハ。●秋^ハ九^ハ月^ハ、改^ハ葬^ハ橘^ハ豐^ハ日^ハ天^ハ皇^ハを^ハ於^ハ河^ハ內^ハ礪^ハ
- 26 長^ハの^ハ浚^ハ。是^ハ始^ハて^ハ造^ハ四^ハ天^ハ王^ハの^ハ寺^ハを^ハ於^ハ難^ハ波^ハの^ハ荒^ハ陵^ハに^ハ。是^ハ年^ハ
- 27 也^ハ太^ハ歲^ハ、癸^ハ丑^ハ
- 28 二^ハ年^ハ春^ハ二^ハ月^ハ丙^ハ寅^ハ朔^ハ詔^ハ皇^ハ太^ハ子^ハ、及^ハ、太^ハ臣^ハに^ハて^ハ令^ハ
- 9 隆^ハ三^ハ寶^ハ。是^ハ時^ハ諸^ハの^ハ臣^ハ、連^ハ等^ハ、各^ハ、爲^ハ君^ハ親^ハ之^ハ恩^ハの^ハ、
- 3 造^ハ佛^ハ舍^ハ。即^ハ是^ハを^ハ謂^ハ寺^ハ焉^ハ

誤「浚」、「陵」

31 三年夏四月沈チム水、漂ヒレリ着於淡路の嶋。其大ヒトタキ一

32 圍イタキ嶋ミの人不知沈水ミ以交カチ薪タキ於竈。其烟ミの氣

33 遠薰カオル則異ケナリトシ以ミて、獻之。●五月戊午朔丁卯高麗ミ

34 僧惠慈歸マウオセ化ミ則皇太子師之。是歲百濟ミの僧、

35 慧聰マウケリ來之此兩僧弘演ミノリ佛教ミ於茲ミ爲三寶之

36 棟梁。秋七月將軍等至自筑紫

37 四年冬十一月法興寺造竟則、以大臣ミの男

38 善德ミの臣ミ拜ミ兩司ミ是日慧慈惠聰ミ二僧、始ハ住於法

39 興寺

年夏四月丁丑朔百濟ミの王、遣王セシム子ミ阿ミ佐ミ

(平) (平)

41 朝貢。冬十一月朔甲子遣吉士磐イハ金カネ於新

42 羅に

43 六年夏四月難波吉士、盤金、至自新羅而

44 獻鵲カサ、キ二隻。乃、俾養カベ於難波ノ社ミヤ。因ユ以巢枝スグヒ而

45 產コウム之。●秋八月己亥朔新羅、貢孔雀一隻。●冬

46 十月戊戌朔丁未越國獻白鹿一頭を。

47 七年夏四月乙未朔辛酉ナキフリ地動テ舍屋ヤカス悉破コホレス。

48 則令四方モ俾祭地ナキノ一震一神を。秋九月癸亥朔百

貢駱ウサキム駝一一匹、○羊一匹二頭、白雉一隻を

50 八年春二月新羅與任那、相攻。天皇、欲救

- 51 任那。是歲、命境部^{サカ}の臣^{ミコ}爲^{シテ}大將軍。以穗積臣^{ホシキミ}爲副將軍^{サヘトシ}。竝^{ナラニ}則、將萬餘^{マンヨリ}衆^{イグサ}爲^{シテ}任那の擊新
- 52 羅。於是直指新羅^{シラ}以泛^{フネカフ}海往之。乃到于新
- 53 羅^{シラ}。攻五^イ城^シ而拔^{ハキ}。於是、新羅王惶^{カシコ}之^ヲ。舉白旗^{ハクシ}以
- 54 到于將軍之麾下^{シムシノヘノモト}而立、割多^タ々^ニ羅、素奈羅^{スナラ}
- 55 弗^ハ知^ラ鬼、委陀^{キタ}、南迦羅阿^{ナカラア}羅^ラ々^ニ六^ム城^シ以請^{マツロハム}服^{フク}
- 56 時^{トキ}將軍共議^{ヘカガリ}曰、新羅、知罪^{シツミ}服^{フク}之。強^{ミヨク}擊^{ウツ}不^レ可^シ。
- 57 則奏上。爰天皇、更^ニ遣難波吉師神^{ナニハキシノカミ}於新羅。
- 58 復、遣難波吉士木蓮^{イタヒ}子^コ於任那竝^{ナラニ}檢校^{ケンギョウ}事^{コト}の
- 59 爰新羅、任那玉二國、遣使^テ貢調^{コウテウ}。仍^{モト}奏表^{ソウヘ}

61 之^て曰、天^{アメ}上有神。地^{ツチ}有天皇。除^{オイ}是^ハ二^{ヘシ}神^{カミ}を、何亦

62 有^{カシコナ}畏^{コト}乎。自今以後、不有相攻且、不乾^{カヘカ}船^{カネ}柁^{カサ}を^て

63 每歲必朝^{マウコ}。則遣使^{マツ}以召還將軍^{ミコ}。將軍等至

64 自新羅、卽新羅亦、侵任那^{ミナ}。

65 九年春二月皇太子初^{フクシタマフ}興^{ミヤ}宮^{ミヤ}室^{ミヤ}于斑^{イカルカ}鳩^カ。●三

66 月甲申朔戊子遣大伴連^{クヒ}嚙^ミ于高麗、遣坂

67 本臣糠手^{ヌカテ}于百濟^{ヒヤクセイ}以詔^{ミコトノコト}之曰、急救任那^{ミナ}。●夏

68 五月天皇居于耳^{ミミ}梨^シ行^{カサ}宮^{ミヤ}。是時^{ヒトサメフル}大雨。河水

蕩^ミ滿^ミ于宮^{ミヤ}庭^ニ。●秋九月辛巳朔戊子新羅

70 之^ミ閒^ミ謀^ミ者^ミ、迦^ミ摩^ミ多^ミ、到^ミ對馬^ミ。則捕以貢之。流

(平) (平) (上)

71 上野^ノ。●冬十一月庚辰朔甲申議攻^{こと}新羅

72 十年春二月己酉朔來日皇子^{をて}爲擊新羅^を

73 將軍。授諸^{カムトモノ}神部。及國造、伴等、并^て軍衆^{イクサ}二萬

74 五^{イフナ}千人^を。●夏四月戊申朔將軍、來目皇子、到

75 于筑紫。乃、進^て屯^イ嶋郡^に而聚船^{フナ}。船^を、○軍^の糧^を。●六月

76 丁未朔己酉大伴連嚙坂本臣糠手、共^に至

77 自百濟。是時^に來目皇子、師^{イサヒ}病^ヲ以不果征討^ヲ。

78 ●冬十月^に百濟^の僧^{ホウシ}觀勒^{（平）（入）}來之。仍^{（平）（入）}貢曆本^{タメシ}及^{（去）}天^{（去）}

79 文^{（平）（平）}地理^の書并^て遁甲^{（平）（入）}方術^{（去）（入）}之書也。是時選書^{フムヒト}。

三四 人^を以^て俾^マ學習^ナ於觀勒矣。陽胡^の史^の祖、

81 生陳、習曆コロイ法を。大友の村スクリ主、高聰學天文遁甲を。
(去)(上)(平)

82 山背臣日竝ヒ立ニ學方術を皆學以て成業ミギ。●潤十

83 月乙亥朔己丑高麗僧、(平)隆、雲聰共マウオモト來歸。
(平)

84 十一年春二月癸酉朔丙子來目皇子、薨ウセマシス。

85 於筑紫。仍マシ驛マシ使マシ以奏マウシ上。爰マシ天皇聞之マシ大に驚て

86 則召皇太子、蘇我大臣マシ謂之曰、征新羅ナリス、太

87 將軍、來日皇子、薨マシ之。其臨大事ナリス而不遂トケ矣。

88 甚悲乎。仍マシ殯于周芳(上)娑婆(平)。乃遣土師連猪(上)

令掌殯マシ之事を。故猪手連之孫曰娑婆マシ連、其

90 是之緣コシ也。後マシ葬於河內マシ。埴生マシ的山崗マシ上マシ。●夏四

91 月 壬申朔更以來目皇子之兄、當麻皇子をて

92 爲征新羅將軍を。●秋七月辛丑朔癸卯當麻

93 皇子、自難波發船。丙雨午當麻皇子、到播磨に

94 時に從妻、舍人の姬王オホキミ、薨於赤石。仍葬于赤石

95 檜ヒノ笠の崗の上に乃當麻皇子返之。遂不征討。冬

96 十月己巳朔壬申遷于小墾田ハタタ宮に。●十一月

97 己亥朔皇太子、謂諸大夫に曰我有尊佛像。

98 誰か得是像を以恭拜ウヤヒ。時に秦造河勝カサ進て曰、臣拜ウヤヒ。

99 之。便受佛像を因て以造蜂岡寺ハチノカミ。是月に皇太子、

于天皇以て作大楯及鞞由岐此云又繪エカク于

(上) (上)

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

101 旗^{ハタ}・幟^{ハタ}。十二月戊辰朔壬申始行冠位。大德^{師説云今之四位也}。

102 小德大^{五位也}仁^{五位也}、小仁大^{六位也}禮^{六位也}、小禮大^{七位也}信^{七位也}、小信大^(平)義、

103 小義^{正八位也}、大智^{正初位也}、小智^{トシナアマリフタシナ}、并^テ十二階^{竝ニ}。竝以當色^{キヌ}の絶^{キヌ}縫^ミ。

104 之。頂^トは撮^ト摠^スて如囊^{ツケタリ}而^テ着^{モトホリ}緣^{モトホリ}焉。唯、元日^{キヌ}着^{ウス}髻^{ウス}花^{ウス}。

105 髻^{ウス}花^{ウス}此^云于^于孺^孺。

106 十二年春正月戊戌朔始賜冠位^(平)於諸臣^(平)。

107 各有差。夏四月丙寅朔戊辰皇太子^{ミツカラ}親^{ハシメ}、肇^{ミツカラ}て

108 作^{ツクリタマフ}憲^{イフクシキ}法^{トウチアフイナ、ミ}、十七條^{一ニ}。一曰以和^{ヤヘラキン}爲^テ貴^{サカフル}と無^カ忤^カと爲^テ宗^{ミタ}と。

皆有^{タム}黨^{タム}。亦少^{サト}達^{サト}者。是以^{以テ}或^ハ不^カ順^カ君^カ父^カに作^{ミタ}。

110 違^{サト}于^{サト}隣^{ナリ}里^{ナリ}。然、上^ヤ和^ヤ、下^{ムツヒ}睦^{ムツヒ}、諧^{カナフルトキハ}於^{アケツラフ}論^{コト}事^{コト}、則^{コト}事^{コト}理^{コト}。

111 自カヨフ通。何事カ不ム成。二曰、篤アキ敬キョウ。(三)寶ホウ、者シテ、佛ホトケ

112 法ノリ僧ホウシ也。則スレバ四ウマレノ生之終ヨリトコロ歸、萬國之極宗ナリ。何世

113 何人カ非ム貴ミコリ是之法ミノリ人スナシハナヘタアシキモノ鮮オシフルツデ尤オシ惡ワルシ能ヲ教ヲ從ス之。其、不

114 歸三寶、何ニ以テ直マカレル枉マカレル、三曰、承ミコトノリては詔ミコトノリを必ズ謹メ。君ミコトノリは則スレバ天アメトス

115 之シ。臣ミコトノリ是則スレバ地ツチトス之。天アメ覆フク地ツチ載オス。四ヨロ時、順オホヒ行ユクて萬マン氣キ得エ

116 通カヨフ地ツチ欲ホシ覆フク天アメ、則スレバ致オス壞ワル耳。是コト以テ君ミコトノリ言イハス臣ミコトノリ承ウケル。上

117 行ユク下シタ靡ナヒ。故ナニガ承ウケては詔ミコトノリを、必ズ慎メ。不レは謹メ、自ミコトノリに敗マカむ四曰、羣マツキミツグ卿、

118 百寮ツカサ、以テ禮オヤ爲ニ本ホト。其治民ミコトノリ之本ホト、要カナラヌ在乎禮レ。上

119 不ナヒ禮レ而、下シタ非ス齋ト、ノホラ。下シタ無ハ禮レ以テ必ズ有ル罪。是コト以テ羣

一有禮、位ツイテ次ツキ不亂ナヒ百姓トキハ有禮アヘノシタ、國家アヘノシタ自マレ治ル。五

- 121 曰、絶^{アチヘヒノムサホリ}、饗^{タカラノホシミ}、棄^{欲をて}明^辨。訴^{ウタヘ}訟^を。其百姓之訟、一日に
- 122 千^{アリ}事。一日、尙^{スラ}爾^{シカル}、況^{カサネテ}乎^{ヲヤ}。累^{カサネテ}歲^ヲ。須^{カサネテ}治^ヲ訟^を者得^{タホサ}利^をて
- 123 爲^{アリ}常。見^{マヒナヒ}賄^を、聽^{キ、コトワリマウス}讞^便。有^有財之訟、如^モ石^{をて}投^{ナクル}か水^に。乏^{トモシヤ}
- 124 者^{ヒト}之^ハ訴^ハ似^モ水^{をて}投^に石^に。是以^{以て}貧民則不知所由。
- 125 臣^ノ道亦於^{コ、ニ}焉^に闕^ス。六曰懲惡^を、勸^ハ善^を、古之良典^{ノリナリ}。
- 126 是以^{以て}無^ス匿^{カクサ}人之善^を。見^ハ惡^を必^{タ、ス}匡^ヘ。其諂^{ヘツラヒアサムヲ}詐^者、則爲
- 127 覆^{タツカヘス}國家之利器^ト。爲^ハ絶^{オホム}人^民之鋒劍^{スラレタルツルヤ}。亦佞媚^{カタマンシコアル}
- 128 者、對^ト上^上則、好^{コナム}說^{トキ}下^下之過^を、逢^テ下^下則誹^{ソシル}謗^上。上^{アヤマシ}之失^を。其
- 129 日此人皆无忠^{イサウシキ}於君、無仁^{メクミ}於民。是大亂之
- 1 也、七曰、人各有任^{ニサンツカサトル}。掌^{こと}宜不濫^{ミダシ}。其賢哲^{サカシキヒト}、任^{ニサストキハ}

131 官ホムルに、頌カマヤシキ人 晉則起タモツトキ。姦者タモツトキ有官ヲモツトキ、禍亂則繁ウマレナカラ。世少生

誤

132 知シルこと。尅シ念ヒトて作ナル聖事無イサ、ケト大少、得人ヲモツトキて必治ナクむ。時無急ナクは、

133 緩ユルと、過カナリ賢ユル、カナリにて自寬ユル、カナリ。因此ユル、カナリ國一家永久タニ社稷カラス勿危カラス。故

134 古キミの聖王キミ、爲キミに官ミの以求ヲモツトキ人ヲモツトキ。爲キミに人不求ヲモツトキ官ミ。八曰ハ羣

「監」ミセケ
チアリ

135 卿、百寮、早朝マキリ晏退マカテモ。公事コノシ摩ナシ監ミ終日難盡ミセケ。

136 是以マイトキハ遲朝マイトキハ不逮スミヤカナル于急トキハ。早退トキハ必事不盡ミセケ。九曰

137 信マコト是義コトワリ之本。每事ヘシ有信ヘシ。其善惡成敗カナラス、要在カナラス于

138 信。羣臣共信オモテノイカリ。何事オモテノイカリか、不成オモテノイカリ。羣臣無信オモテノイカリ、萬事悉

139 敗オモテノイカリ。十曰絕オモテノイカリ忿オモテノイカリ。棄オモテノイカリ願オモテノイカリ。不怒オモテノイカリ人違オモテノイカリ。人皆有心オモテノイカリ。こ

「敗」ミレ
チアリ

有執トレルこと。彼カレ是ハは則ミセケ敗ミレ。我ハ非ミセケ我ハ是ハ則ミセケ彼ハ非ミセケ我ハ必ミセケ非ミセケ

「舉」
「ナヘ」ハ「マコ
コナヘ」ノ誤

- 141 聖^ニ彼^ニ必^ニ非^ニ愚^ニ共^ニ是^ニ凡^ニ夫^ニ耳^ニ。是^ニ非^ニ之^ニ理^ニ、詎^ニ能^ニ、
- 142 可^ニ定^ニ。相^ニ共^ニ賢^ニ愚^ニ、如^ニ鑑^ニ无^ニ端^ニ。是^ニ以^ニ彼^ニ人^ニ雖^ニ瞋^ニ、
- 143 還^ニ恐^ニ我^ニ失^ニ我^ニ獨^ニ雖^ニ得^ニ、從^ニ衆^ニ同^ニ舉^ニ。十^ニ一^ニ日^ニ、明^ニ
- 144 寮^ニ功^ニ過^ニ賞^ニ罰^ニ必^ニ當^ニ。日^ニ者^ニ賞^ニ不^ニ在^ニ功^ニ罰^ニ不^ニ在^ニ
- 145 罰^ニ執^ニ事^ニ羣^ニ卿^ニ、宜^ニ明^ニ賞^ニ罰^ニ。十^ニ二^ニ日^ニ國^ニ司^ニ、國^ニ造^ニ、
- 146 勿^ニ斂^ニ百^ニ姓^ニ國^ニ非^ニ二^ニ君^ニ民^ニ无^ニ兩^ニ主^ニ。率^ニ土^ニ兆^ニ民^ニは
- 147 以^ニ王^ニ爲^ニ主^ニ所^ニ任^ニ官^ニ司^ニ皆^ニ是^ニ王^ニ臣^ニ何^ニ敢^ニ與^ニ公^ニ、
- 148 賦^ニ斂^ニ百^ニ姓^ニ十^ニ三^ニ日^ニ、諸^ニ任^ニ官^ニ者^ニ、同^ニ知^ニ職^ニ掌^ニ或^ニは
- 病^ニ或^ニは使^ニ有^ニ闕^ニ於^ニ事^ニ然^ニ得^ニ知^ニ之^ニ日^ニ、和^ニ如^ニ曾^ニ
- 15 謂^ニ其^ニ以^ニ非^ニ與^ニ聞^ニ勿^ニ防^ニ公^ニ務^ニ十^ニ四^ニ日^ニ、羣^ニ臣^ニ百

151 寮、無有^{コト}嫉妬^{ウラヤミネタム}。我既嫉人^ハ、亦嫉我^ヲ。嫉妬之

152 患、不知其極^{マリ}。所以^ヲ、智勝^{サトリマサル}於己^ニ、則不悅^レ。才優^{カトマサル}。

153 於己、則嫉妬^{ネタム}。是以^ニ、五百^{イホトセ}之乃今^{イマシ}遇賢^{サカシレト}千載^ニ。

154 以難待^ト一聖^ヲ。其不得賢聖^ヲ、何以^ニ治國^ヲ。十五

155 曰、背私^ヲ、向公^ニ、是臣之道^{ナリ}矣。凡人有^レ私、必有

156 恨。有憾^{トキウラミ}必非^{ラス}同^{トノホ}。非同^ニ、則以私^ヲ妨公^ヲ。憾起^{トキ}則

157 違制^{コトワリ}、害法^ヲ。故章^{クダリ}云、上下和諧^{フマニト、ハハレ}其亦是情^{コトヨナルカナ}歟。

158 十六曰、使民^ヲ以時^{スル}、古之良典^{ヨリナリ}。故冬月^ニ有聞^{イダマ}

59 以可使民^ヲ。從春、至秋^{ナリハヒ}、農桑之節^{トキナリ}。不可使民^ヲ。

1 不^{ナリハヒ}農^{ナニ}、何^{ナニ}か食^ヲ。不^{ナニ}桑、何服^キ。十七曰、夫事不可

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

「入」、「こと」
ハ或ハ「とき」
ノ名殘カ

- 161 獨斷。必與衆、宜論。少事是輕。不可必衆。唯
- 162 逮論。大事。若疑有失。故與衆、相辨。辭則得
- 163 理。●秋九月改朝。禮。因以詔之。曰、凡、出入宮
- 164 門、以兩の手。押地に、兩の脚。跪之。越柵。則立行。是
- 165 月に始て定黃畫。畫師山背の畫師を
- 166 十三年夏四月辛酉朔天皇詔皇太子、大
- 167 臣、及諸臣、共に同發誓願。以始造銅繡の丈六の
- 168 佛の像。各各一軀。乃、命鞍作の鳥。爲造佛之工。
- 169 是時に高麗國の大興王、聞日本國の天皇、造佛
- 170 作て貢上黃金三百兩。●潤七月己未朔皇太

171 子、命諸臣シム俾シ着ヤ褶ヒラヒ。●冬十月皇太子、居斑イカルカ鳩カの

172 宮ミヤに

173 十四年夏四月乙酉朔壬辰、銅繡銅繡の丈六の佛の

174 像、竝造ツヘス竟ハス。是日也、丈六の銅の像を坐於元興寺の
(去) (上)

175 金堂金堂。時上に佛、像高於金堂戸以不得納イル堂ニ於
(去)

176 是、諸の工人等、議ヘカリ曰、破堂コホの戸を而て納む之。然に鞍作の

177 鳥之秀スグレタル工こと以タラミナル不壞戸ゴホタ得入こと堂ニ。即日、設ツカミス齋。於

178 是、會ツトヘル集人衆ヒト、モ、不可勝テ數。自是年、初ハジメ毎ニ寺、四

79 月八日、七月十五日設齋。●五月甲寅朔戊

1 勅鞍作の鳥ニ曰、朕オモフ欲興隆內典を。方ニ將建佛。
(入)

- 181 利。^{ヘシメ}求^入舍利。^{オホサ}時に汝祖父、司馬達等便獻舍
- 182 利。^{オホサ}又於國、無僧尼。於是汝父多須那爲橘
- 183 豐日。天皇出家。^{ツンシミヤマ}恭敬佛。^{ミソリ}法。又汝姨嶋女、初て
- 184 出家。^{トシ}爲諸尼の導者。以脩行釋教。^{ホトア}令朕、爲造^{ツクリヤツラム}
- 185 丈六の佛。求好佛の像。汝之所獻佛の本則合朕
- 186 心に。又造佛の像。既訖。不得入堂。諸工人、不能
- 187 計^{こと}以將^サ破^{コホサ}堂の戸。然に汝、不破戸而得入^{こと}。皆汝
- 188 之功也。卽賜大^{イホヘリ}仁^ニ位。因以給近江國坂田
- 189 水田廿町焉。鳥、以此田爲^ニ天皇、作金剛
- 1 是今、謂南淵坂田の尼寺。●秋七月天皇、請

誤「合」「令」

- 191 皇太子合講トカ勝平縵去經。三日に說ス竟キ之。是歲、皇
- 192 太子、亦講法華經ヲ於岡本の宮。天皇大ニ喜ビテ
- 193 播磨國の水田百町、施オクル于皇太子。因テ以納于
- 194 斑鳩寺
- 195 十五年春二月庚辰朔定壬生部。戊子詔テ
- 196 曰朕聞之、曩ムカシ者我カ皇祖ミマ天皇等タチ之ヲ寄オサメタマヘル世ミセ也、跼セクハマリ
- 197 天スキ、踏フミ地ニ就ツク禮ケリ神祇アミナタ周ヲ祠ミヤ山川ヘルカ、幽カミ通アミ乾ツチ坤ニ是
- 198 以ヰテ陰ナツ陽ヲ、開ナツル和ニ造ナシ化こと共ニ調トシ。今、當イハヒ朕カ世ニ祭テ禮神
- 199 祇ミコト、豈有怠乎。故羣臣、爲ニ竭ツク心ヲ宜ニ拜神祇ヲ甲
- 皇太子及大臣、率百寮ヲ以祭拜神祇ヲ。秋

圖書寮日本書紀永治二年頃點

〔「丈」、「大」ノ〕

201 七月戊申朔庚戌丈禮小野臣、妹子イセコ遣於ヲ

(平)(平)

202 大モロコシ唐。以鞍作の福利フキ爲ニ通ツ事サ。是歲冬、於倭國、

203 作高市池藤原池、肩岡池菅原池、山背國、

204 堀カル大溝ヲ於栗隈クリ。且、河內國、作戶刈池、依網イ

〔「食」、ミセケ
チアリ〕

205 池。亦毎ニ國、置屯ミヤケ食ミヤケ倉

206 十六年夏四月小野臣妹子、至自大唐モロコシ。

207 國、號ナツケ妹子臣ミコ曰蘇ソ因高。即大唐、使ツカヒ人斐ヒ一世一世。

(平)(平)(平)

(平)(去)

208 清シモヘ、下シモヘ客十二人、從妹子臣ミコ至於筑紫。遣難

(平)

〔「客」ノ句點
ハ讀點ノ誤〕

吉士、雄成オスナリ召大唐客斐世清等ヲ爲唐客。

〔「上」、「讀」
ハ誤〕

211 更ミナリ造新館ニヒシキムロツミ於難波、高麗館之上、等泊オホ干難

(ミセケチ)

211 六月壬寅朔丙辰客等、泊^{ト、レリ}于難波の津。是日、

212 以飭船卅艘^を迎客等^を于江口^{ヘハ、ラシム}安^一置新館^に。於

213 是、以中臣宮地連摩呂、大河^{オホシ}内直糠手船

214 史王平^を爲^{マラトノツカヒト}掌客^を。爰^に妹子臣、奏之^を曰、臣參還^{マシ}

215 之時^に、唐帝^{オウミ}、以書^を授^テ臣^に。然^に經過百濟國^を之日、

216 百濟人、探^{カスミ}以^テ掠取^を。是以^テ不得^上。於是、群臣

217 議之^を曰、夫使^{ツカヒタル}人^は雖死^と之、不失^を旨^を。是^の使^を矣、何

218 怠^テ之^を失^テ大國之書^を哉。則坐^{ツミスル}流刑^に。時^に天皇勅

219 之^を曰、妹子、雖有失書^を之罪^{タハヤス}、輒^{ハヤ}不可^レ罪。其大

の客等聞^{こと}之、亦不^{サカナシ}良。乃救之^を不^レ坐也。●秋八

221 月辛丑朔癸卯、唐客入京_に。是日、遣飭騎七

222 十五返て而迎唐客を於海フハキ石キ榴市のチマタ術額田部

223 連、比羅夫、以告禮の辭を焉。壬子、召唐客を於海。

224
(イ) 石 朝 庭^て合 奏 使^の 旨^を時^に 阿 倍 鳥 臣、物 部 依 網

225 連抱二人_を爲客之導者_{ヒト}也。於是、大唐之國_{タニツカヒノ}

226 信物置於庭中。時に使主斐世清、親持書オホニハて兩

227 度、再ワカム拜テ言上使の旨を而て立之。其書曰、皇帝、間

史、朱
墨ニテ
上、去
訂ス

倭スメラの皇を使人、長史・大禮・蘇因高等、至て具懷。朕

承寶の命をて臨仰區アメノシタ一宇思弘德イキホヒ一化をて覃被含コミツモノ一靈。

231 愛育之情、無隔遐邇トホクチカキに〇知す皇、介居海表ホカにて撫寧

231 民庶^を。境內安樂^て。風俗^{シツヤ}融和。深氣^{コ、ロ、ハ}至^ニ誠^ニ。遠脩^{カタク}

232 朝^{カヨフ}。貢^を。丹款^を之美^{ミヤツ}。朕有嘉焉。稱^{ニアタ}。暄^{ハカサリ}比^を。如常也。

233 故遣^{（平）（平）（去）（上）（入）}鴻臚^の寺常客。斐世清等^を。稍^ニ宣往意^を。并^テ

234 送物如^{コトタリ}別^の時。河倍臣^を。出進^を。以受其書^を。而^テ進

235 行。大伴嚙連^を。迎出承^ニ書^を。置於大門^の前机^上。

236 而^テ奏之。事畢而退焉。是時^ニ皇子諸王、諸臣、

237 悉^ニ以金^を。髻^{ウス}花^を。著^{ヤセリ}頭^ニ。亦衣服皆^を。用錦紫繡織

238 及五色綾^{ウスハタ}。羅^を。一云^ハ。服色^を。丙辰饗^を。唐客等^を。於

239 朝。●九月辛未朔乙亥饗客等^を。於難波^の大群。

巳唐客斐世清、罷歸。則復以小野妹子

- 241 臣セ爲ニ大ツカヒト使ト。吉士雄成爲セ小コ使ト。福利爲ニ通ツヤ事ト。
- 242 副ソ于唐客而遣之。爰ニ天皇、聘トフラフ唐ノ帝ヤミ。其辭曰、
- 243 東ノ天皇敬テ白ニ西ノ皇キミ帝ヒ。使人鴻臚寺の掌客、斐
- 244 世清等、至テ久憶方に解。季秋薄カシコトコロ治ヲ尊ヲ何如。想ニ
- 245 清オタヒカテラム念ニ。此ハ即如常。今遣大禮因高、大禮上乎上那
- 246 利等往。謹白、不具。是時遣於唐國、學フムヤワラハ生、倭平
- 247 漢眞、福入因奈羅平譯フサ語平。惠明高向平漢人玄理
- 248 新イマキ漢人平大國入學問僧、新平漢人入日去文、南淵平漢
- 49 人請安忘賀去漢人平慧隱、新漢人平廣齊等、并
- 人也。是歲、新羅人、多マウオモムケリ化一來

251 十七年夏四月丁酉朔庚子筑紫の大宰、奏

252 上言、百濟僧道欣惠彌(平)爲首カウヘて一十人、俗人シロヤス

253 七十五人、泊于肥後國の葦北の津。是時に遭難

254 波の吉士、德摩呂、船の史、龍をて以問之、曰、何來也マイコシ

255 對て曰、百濟の王、命て以遣於吳國。其國有亂て不

256 得入こと。更返於本郷。忽逢暴風アカシマ、風にて漂タ、ロフ蕩海中。然

257 有大幸而て泊于聖帝之邊ホトリ境。以て勸嘉ウレシキニ。●五月

258 丁卯朔壬午、德摩呂等、復カヘリコトヲウス奏之。則返德摩

259 呂、龍二人を而て副百濟人等にて送本國に。至于對ツシマ

て以道人等十一オノナフを皆請之にて欲留。乃上表て而

261 上表^て而^て畱^る之。因^て令^て住^す元興寺。●秋九月小野

262 臣妹子等、至自大唐。唯通^{ツヤ}事福利は不來。

263 十八年春三月高麗王、貢上僧^{（去）}雲^{（平）}徵^{（入）}法^{（平）}定^{（平）}

〔紙疊、
墨〕ノ誤

264 雲^{（入）}徵^{（入）}知^{（入）}五^{（入）}經^{（入）}。且能作彩^{シメモノ}色及紙疊。并^て造^{ツクス}碾^{（平）}

265 磴。蓋造碾磴于是時^に敷^す。●秋七月新羅使人、

266 沙喙^{（入）}。部奈末竹^{（平）}。世士^{（去）}與經那^{（入）}使人、喙^{（平）}。部大^{（平）}

267 舍首智^{（平）}買^{（去）}。到于筑紫。●九月^に遣使^て召^す新羅、任^{（平）}

268 那^の使人。●冬十月己丑朔丙申、新羅任那^の使

、臻於京。是日、命額田部連比羅夫^て爲^て迎

27 新羅^の客^を莊馬^{サカリ}之長。以膳臣大伴^て爲^て迎^て任那^の

271 客莊^{サカリ}馬之長。卽安置^(平)阿斗河邊^(上)の館。丁酉客
 272 等、拜朝廷。於是、命秦造河勝、土部連菟^ニ爲
 273 新羅導者。以聞人連鹽蓋^{フタ}、阿閉臣大籠^ニ爲
 274 任那^ノ導者。共^ニ引^テ以自南門、入^ニ之^ニ立^テ于庭中^{オホヘ}。
 275 時^ニ大伴咋連、蘇我^ノミ豐浦^ノ蝦夷^ノ竝^ニ坂本糠
 276 手臣、阿倍鳥子臣、共^ニ自位、起^ニ之^ニ進^ニ伏^ニ于庭。
 277 於是、兩國客等、各再拜^テ以奏^マ使^ノの旨。乃四^ノ丈
 278 夫、起^テ進^テ啓^マ於大臣。時^ニ大臣、自位起^テ立^テ廳^ノ前^ニ。
 279 而聽焉。既而賜^{タマフ}祿^ノ諸客^ニ。各有差。乙巳^{フヘタマフ}饗^ニ使
 ハ等^ニ於朝。以河內^ノ漢^ノ直贄^ニ爲新羅^ノ共食^{フヒタケ}者。

281 錦織首久僧爲任那の共食者。辛亥客禮畢ミナて

282 以歸焉

283 十九年夏五月五日、藥獺於菟田の野。取鷄アカ一

284 鳴時アケホて集于藤原池の上以會アケホ明アケホて乃往之。粟田の

285 細目の臣爲前の部ト領ト額田部の比羅夫の連爲後、

286 部ト領ト是日ト諸臣、服キモノの色皆隨冠サセリの色ト各著ウス髻ウス花。

287 則大德小德竝用金。大仁小仁は用豹の尾ヲ。大

288 禮ミヤ以下ハ用鳥の尾ヲ。秋八月新羅、遣沙喙ハ部ハ奈

89 末ハ北ハ叱ハ智ハ任那、遣習ハ部ハ大舍親ハ智ハ周ハ智ハ共ハに

一貢
一タテマツル

〔者〕
誤
〔者〕

291 廿年春正月辛巳朔丁亥置酒^{オホキミシノトヲアカリ}宴群卿。是

292 日^ニ大^{オホキミ}臣、上^{タテマツ}壽^テ歌^テ曰、夜酒^ニ彌^ニ志^ス斯^ニ和^ニ餓^ニ於^ニ朋

293 者^上彌^上能^上。訶^上句^上理^上摩^上須^上。阿^上摩^上能^上。椰^上蘇^上訶^上礙^上。異

294 泥^上多^上。須^上彌^上蘇^上羅^上烏^上。彌^上禮^上摩^上豫^上呂^上余^上珥^上訶^上

295 勾^上志^上茂^上。餓^上茂^上。知^上余^上珥^上茂^上。訶^上勾^上志^上茂^上。餓^上茂^上。知^上

296 余^上珥^上茂^上。訶^上勾^上志^上茂^上。餓^上茂^上。訶^上之^上胡^上彌^上弓^上菟^上伽

297 倍^上摩^上都^上羅^上武^上。烏^上呂^上餓^上彌^上弓^上菟^上伽^上倍^上摩^上都^上羅^上

298 武^上。宇^上多^上豆^上紀^上磨^上都^上流^上。天^上皇^上和^上曰、摩^上蘇^上餓^上豫^上

299 蘇^上餓^上能^上古^上羅^上破^上。宇^上摩^上奈^上羅^上麼^上。譬^上武^上伽^上能^上古^上

。多^上智^上奈^上羅^上麼^上。勾^上禮^上能^上摩^上差^上比^上宇^上倍^上之^上訶^上

302 羅志枳●二月辛亥朔庚午改葬皇太夫人
(平) (平)

堅^{カタシ}一鹽^を媛^を於^を檜^を隈^をの大^を陵^を第一^を是^をの^を日^を誅^を於^を輕^を術^を。

304 第一に阿倍の臣、鳥、誅天皇之命。則奠靈明。

305 器明^{ミケン}一衣之類、萬五千種也。第^{ツキ}一二に諸皇子等、

306
以
次^{ツイテ}一^を第^一て各^各誅^{シノヒコトマウス}之^ヲ。第^三三^{ツキニ}中^中臣^臣之^之宮^宮地^{トコロ}之^ノ連^連烏^ウ摩^マ侶^侶。

307 誅太臣之辭。第四に太臣引^{ヒキ}率^率八腹^ノ臣等^等て便

308 以境部臣摩理勢て令誅氏カヘネ姓之本矣。時の人

云、摩理勢、烏摩侶、二人、能誅。唯鳥_の臣、不能

也●夏五月五日、藥獺之て集于羽田。以相

- 311 連マキル參趣於朝。其裝束ヨソビ、如菟田之獵。是歲、自
- 312 百濟國、有化來者。其面身皆斑白。若々有
- 313 白癩者ヘタ乎。惡其異ヘタ於人ケナル。欲コト棄海中嶋。然其
- 314 人曰、若惡臣之斑皮者、白斑牛馬、不可畜
- 315 於國中。亦臣有小才。能構山岳之形。其畱
- 316 臣而用則爲國有利。何空之棄海嶋耶。於
- 317 是、聽其辭以不棄。仍令構須彌山之形、及吳
- 318 橋於南庭。時人號其人オホヘ曰路子。工亦名芝
- 19 摩呂。又百濟人、味摩之歸化。曰、學于
- 得伎樂舞。則安置櫻井而クラレ集ワラヘ少年コト令習

〔父〕〔文〕
興

321 伎樂舞_を。於是眞野_の首、弟子_(平)新漢齊父_(上)二人、

322 習_之傳其舞_を

323 廿一年冬十一月作掖_の上池、畝傍池。和珥

324 池又自難波、至京_に、置大道_を●十二月庚午朔_に

325 皇太子、遊_{イデマス}行於片岡。時_に飢者_{ウエタルヒト}、臥道_{フセリ}垂_{ホトリ}。仍て間

326 姓名_を而_を不言_{マウサ}。皇太子、視_ミ之_ヲ與_{タマフ}飲_ミ食。即脫衣_{ステイミケン}一

〔脱〕〔スケ〕
〔イ〕ト訂ス

327 裳_ヲ覆_{オホヒ}飢者_に而_テ言_{ノタマハタヤスク}安臥_{フセシ}歌_ヲ之_ヲ曰、斯_(上)那_(上)提_(上)流_(上)。箇

328 多_(平)烏_(平)簡_(平)夜_(平)摩_(平)爾_(上)。伊_(平)比_(上)爾_(上)惠_(上)旦_(上)。許_(上)夜_(上)勢_(上)屢_(上)諸

29 多_(上)比_(上)等_(上)。阿_(平)波_(上)禮_(上)於_(上)夜_(上)那_(上)斯_(上)爾_(上)那_(上)禮_(上)奈_(上)理_(上)

〔夜〕〔句點〕
ル位置ヲ左ニ

迷_(上)夜_(上)佐_(上)須_(上)陀_(上)氣_(上)能_(上)枳_(上)彌_(上)波_(上)夜_(上)那_(上)祇_(上)伊_(上)比_(上)

- 331 爾^(上)惠^(平)旦^(上)。許^(平)夜^(上)。雷^(平)。諸^(上)能^(上)多^(上)比^(上)等^(平)。阿^(平)波^(上)禮^(上)。辛未
- 332 皇太子遣使^を令視飢者^を。使者還來^て之曰、飢
- 333 者既死。爰^に皇太子、大悲之。則因以葬埋^{シム}於
- 334 當處。墓^{ツカ}固^{ツキ}封^{カラム}也。數^{ヒイヘテ}日之後、皇太子、召近習^{ツカマツル}
- 335 先^の者^を謂^て之曰、先^の日臥于道、飢者、其非^{タ、ヒト}凡人^に。
- 336 爲必眞^{ヒシリナラムトノタマ}一人也。遣使^を令視。於是、使者、還來^て之
- 337 曰、到於墓所而視^レ之。封埋^{カタメウツイルトコロ}勿^{カス}動。乃開^て以見^レは
- 338 屍^{カヘネ}骨^に。既^{ムナシクナリタリ}空^に。唯衣^{キモノ}服^{ヲ、ナリ}疊^テ置^キ棺^の上^に。於是、皇太子、
- 39 复返使^を者^を令取其衣^を。て如常^ノ、且服^{キタマフ}矣。時^ノ人大
- 3 之^ニ曰、聖之知聖、其實^{マコトナルカサトイヒ}哉^{イロク}。逾^{カシコマル}惶

- 341 廿二年夏五月五日、藥獵也。六月丁卯朔
- 342 己卯遣犬上_ノ君、御田_{（上）}（_上）_{（上）}、矢_{（上）}、田部造_{（上）}、_{（上）}關_{（上）}於_{（上）}大_{（上）}。
- 343 唐●秋八月大臣臥_{（上）}病_{（上）}爲大臣而男女并_{（上）}一
- 344 千_{（上）}人、出_{（上）}家_{（上）}。
- 345 廿三年秋九月犬上君御田_{（上）}、矢田部造、
- 346 至自大_{（上）}唐_{（上）}。百濟使、則從犬上_{（上）}君_{（上）}而_{（上）}來_{（上）}朝_{（上）}。●十
- 347 一月己丑朔庚寅_{（上）}、百濟_{（上）}客_{（上）}癸卯高麗_{（上）}僧_{（上）}
- 348 慧慈_{（上）}歸_{（上）}于_{（上）}國_{（上）}。
- 49 十四年春正月桃季_{（上）}實_{（上）}之。三月_{（上）}掖_{（上）}玖_{（上）}人_{（上）}、三_{（上）}
- 歸_{（上）}化_{（上）}●夏五月夜勾人七口來之。●秋七月

351 亦掖玖人、廿口來之。先後并て卅人。皆安^{ヘラシム}置

352 於朴井。未及還^{マカ}て皆死焉。●秋七月新羅、遣奈

353 末竹。世^{ミカタ}士^{ミカタ}貢佛^{ミカタ}の像

354 廿五年夏六月出雲國言、於神戸の郡、有菰。

355 大如^{ホトキ}缶。是歲五^{タナツモノ}の穀登^{ミノレリ}之

356 廿六年秋八月癸酉朔高麗、遣使^{タニツ}て貢方物。

〔玖〕
誤
〔夜〕

357 因^イて以言、隨^イの煬^イ帝、與卅萬^イの衆^イて玖我^イを返^イ之^イて爲我^イか

358 所破。故貢^{タマフ}獻^{タマフ}俘^{トリゴ}虜^{トリゴ}貞公^イ普通^イ二人、及鼓^{ツエ}、吹^{ツエ}、

359 弩^{ホカニミヘシキ}抛^イ石^イ之類^イ、十物^イ、并^イて土物^イ、駱^イ駝^イ一匹^イ。返^イ。是年、

河邊^イの臣^イ名^イ關^イ於安藝國^イて令造^イ船^イ。至山^イに^イて覓^イ船^イ

361 材。便得^ヤ好材^ヲ。以^テ名^ヲ將^ハ伐^ス時^ニ有^リ人^ニ曰^ク、霹^{カミ}靄^{トキ}木

362 也。不可^レ伐。河邊^ノ臣^ハ曰^ク、其雖^モ雷^イ神^{ナリ}、豈^ニ逆^キ皇^ミ命^{ミコト}

363 耶^{ヤトイフ}多^{イハヒマツ}祭^{ミナツク}幣^ヲ。帛^ヲ遣^ハ人^ヲ夫^ヲ令^セ伐^ス。則^チ大^ヒ雨^{サメ}雨^{フリ}て雷^{イカツチナリ}電^{イナヒカリ}之^ヲ。

364 爰^ニ河邊^ノ臣^ハ案^{トリシハリツルヤ}劔^ヲ曰^ク、雷^ヲ神^ナ、無^{オカシ}犯^ス人^ヲ。夫^ヲ當^レ傷^{レトイヒ}我^ガ

365 身^ヲ而^テ仰^テ待^テ之^ヲ。雖^モ十^{トコロ}餘^{カミトキスト}霹^{カミ}靄^{トキ}、不^レ得^ズ犯^ス河邊^ノ臣^ヲ。

366 卽^チ化^{ナリ}少^{チヒサイ}魚^{イラ}以^テ狹^{ハサ}樹^ツ之^ヲ枝^ノ。卽^チ取^リ魚^ヲ焚^ス之^ヲ。遂^ツ脩^{ツクリツ}理^ヲ

367 其^ノ船^ヲ

368 廿七年夏四月己亥朔壬寅、近江國言、於

9 生^{カマ}河、有^リ物。其形如^シ人。●秋七月攝津國有

37 渟^ヲ父^ヲ沈^{オケリ}罾^{アミ}於^ニ堀江。有^リ物^ヲ入^リ罾^ニ。其形如^シ兒^{ワカコ}非

371 魚^{ニモ}非^{ニモ}人^{ニモ}不^{ニモ}知^{ニモ}所^{ヲツケム}名^{ヲツケム}

372 廿八年秋八月掖玖人二口、流來於伊豆

373 嶋。冬十月以砂^{サ、レン}礫^を葺^{シク}檜^{ヒノ}隈^{クマ}の陵^の上^に。則域^{ミナトリ}外^に積

374 土^を成^セ山^を。仍^ニ每^ニ氏^ノ、科^{オホセ}之^を。建大柱^を於土^の山^の上^に。時^に

375 倭^の漢^の坂上直^カ樹^{タテタル}柱^ノ勝^{スグレ}之^を。大^{ハナハタ}高^ニ。故時^にの人^ノ號^{ナツケ}之^を。

376 曰^ハ大柱^{オホハシ}の直^の也^ト。●十二月庚寅朔天^に有^ル赤氣^{シルシ}。長^サ
(上)(上)

377 一丈餘。形以碓^{ウス}尾^に。是歲皇太子、嶋^の大臣、共^ニ

378 議^シ之^を。錄^{シルス}天^ス皇^{ミコ}の記^ノ、及^ツ國^{オムノ}記^ノ、臣^ノ、連^ノ、伴^ノ、造^ヲ國^ノの造^{モ、トモノヲアマリヤソ}、百^一

379 八十部^{トモ}の并^テ公^{オホムタカラ}民^{タカラ}等^ノ本^ノ記^ノ

九年春二月己丑朔癸巳の半^{ミナ}夜^カに^ニ既^{ムマ、ト}戸^{トモ}豐^{トモ}

381 聰^ト耳^ミの皇子^{ミコ}の命^{ノミコト}、薨^ヌ于斑^{イカルカ}鳩^カの宮^{ミヤ}。是時^{コトノトキ}、諸王^{モロノミヤ}、諸臣^{モロノミヤ}、

382 及天下^{タラシキ}の百姓^{ヒヤクシヤウ}、悉^{オホキナ}に長^{ナガ}老^{ホシ}は如失^{ニガク}か愛^{メクイ}兒^コを、而鹽^{シホ}酢^サ之^ヲ

383 味^{アジ}在^{レトモ}口^{クチ}不^ナ嘗^{ツカ}。少^コ幼^シ者^{モノ}如亡^{ナシク}父^{チチ}を慈^ミの母^{ハハ}に以^テ哭^{ナクイ}泣^{ナク}

384 之聲^{ノコエ}、滿^ミ於行^{ユク}路^{ミチ}。及耕^{ウツ}夫止^{トモ}耕^{ウツ}、春^{ハル}女不^ナ杵^{ウシ}〇〇皆^{ナニモモトモ}

385 曰^{イハレ}、月^{ツキ}失^{ナシク}輝^{ヒカ}を天地^{チノチ}既^スに崩^{クズレ}。自今^{コノイマ}以後^{ノチ}、誰^{タレ}か恃^{タノム}哉^ヤ。是

386 月^{ツキ}に葬^{ナシ}上宮^{カミミヤ}太子^{ミコ}を於磯^{イソ}長^{ナガ}の陵^{リヤウ}當^{タリ}是時^{コノトキ}に高麗^{コウレイ}僧^{ソウ}

387 慧慈^{ケイジ}、聞^{キコ}上宮^{カミミヤ}皇太子^{ミコ}薨^ヌて以大^{オホ}悲^{カミ}之^ヲ。爲^{ナリ}皇太

388 子^{ミコ}の請^{マセ}僧^{ソウ}を而^{シテ}設^{ツカミ}齊^{ミツ}。仍^{オホ}て親^{ミナ}說^{セツ}經^{キヤウ}之^ノ日^ヒに誓^{チカヒ}願^{ガハシ}て曰^{イハレ}、於

本^{マシマ}國^ス、有^ア聖^{ヒヤシ}人^{ヒト}。曰^{イハレ}上宮^{カミミヤ}豐聰耳^{トヨヒコ}皇子^{ミコ}國^{クニ}に天^{アメ}

39 仙^{セン}縱^{ソウ}。以^テ玄聖^{エンセイ}之^ノ德^{トク}を以^テ生^{ナリ}日本^{ヤマト}之^ノ國^{クニ}。苞^ホ貫^{クワン}三^ミ統^{トウ}を、

〔墓、纂〕
誤

391 墓^{ツキ}先聖之宏猷^グ、恭敬三寶^{ホトケ}、救黎^{オホムカウ}一元之厄^{タシナミ}。是

392 實^ニ太聖也。今太子既^ニ薨^ニ之。我雖異國^{アタシ}、心在

393 斷^{ムツマシキ}金^ニ。其獨生^{イクリトモ}之、何^ニ益^{シルシカラム}矣。我以來年二月五

394 日^ニ必死^ニ。因^ニ以過上宮太子^ニ於淨土^ニ。以^ニ共^ニ化^{ワタカム}。

395 衆生^ヲ。於是、慧慈、當于期日^{チキリ}而^ニ死^ニ之。是以^ニ時

396 人之、彼此共^ニ言^ニ、其獨非上宮太子之聖^ニ。慧

〔彌、句點
ハ次字「買」
「を」ノ誤〕

397 慈亦聖也。是歲、新羅遣奈未伊彌^{（平）}買朝貢^{（平）}。

398 仍以表^ヲ書^ミ奏^ミ使^ヲ之旨^ヲ。凡^ニ新羅^ニ上表^{オウマツル}、蓋始起于

399 此時歟

一年秋七月^ニ新羅遣大使^ヲ。奈未智洗爾^{（平）}。

- 401 任那、遣達^(入)。奈未智^(平)竝^(平)來^(マウケリ)朝。仍^(平)貢佛像一
- 402 具、及金塔并^(平)舍利且大觀頂の幡一具、小幡
- 403 十二條。卽^(ス)佛像^(マセシム)居於葛野秦^(ヘタ)寺。以餘^(アタリ)舍利、
- 404 金塔、觀頂幡等^(平)皆納于四天^(平)王寺。是時^(モロコシ)大
- 405 唐學^(モノナラヒト)問者^(ホウシ)惠濟^(平)惠光^(平)及鑒^(クメシ)惠日^(平)福因^(平)等
- 406 竝^(平)從智洗^(平)爾等^(平)來之。於是、惠日等、共奏聞^(平)
- 407 曰、畱^(ル)于唐國^(平)、學者、皆學^(平)以成^(セリ)業^(ミナ)應^(ヘシ)喚^(メス)。且其、
- 408 大唐國者法^(リ)式備定之。珎^(平)國也常^(平)須達^(カコフ)。是
- 9 新羅^(ミ)、伐任那^(ミ)。と附新羅^(ミ)於是、天皇將
- 41 新羅^(ミ)謀及大臣^(ミ)、詢^(トウラフ)于群卿。田中臣、對^(ミ)曰、

(「合符」ノ誤點)

411 不可急に討。先察狀^{シタカハヌ}以^テ知^ル逆^{サカサ}後^ノ擊^ツ之不^レ晚^{オソカラ}也。

412 請^{コト}試^シ遣^{ハシ}使^ヲ覩^ミ其^ノ消息^{ソウシ}。中^ノ臣^ノ連^リ、國^ノ曰^{ハク}、任^シ那^ハ是^ニ

413 元^ハ我^ガ內^ノ官^ノ、家^ノ。今^ハ新羅人^ノ、伐^ツ而^モ有^リ之^ヲ。請^フ戒^メ戎^ヲ、

414 旅^ニ征^シ伐^ス新羅^ヲ以^テ取^ル任^ヲ那^ヲ附^シ百濟^ニ。寧^モ非^ズ益^ニ有^リに

415 于^ニ新羅^ニ乎^カ。田^ノ中^ノ臣^ノ曰^{ハク}、不^レ然^ニ。百濟^ハ是^ニ多^ク反^リ覆^ス、

416 之^ノ國^ノ。道^ノ之^ノ間^ニ、尙^モ詐^ス之^ヲ。凡^ソ彼^ノ所^ノ請^フ、皆^モ非^ズ之^ヲ。故^ニ

417 不^レ可^ク附^シ百濟^ニ。則^チ不^レ果^シ征^ス焉^ニ。爰^ニ遣^{ハシ}吉士^ノ磐^ノ金^ヲ

418 於^ニ新羅^ニ、遣^{ハシ}吉士^ノ倉^ノ下^ヲ於^ニ任^ヲ那^ニ令^シ問^フ任^ヲ那^ノ之^ヲ

(「丈」、「大」ノ誤)

419 事^ヲ。時^ニ新羅國^ノ主^ヲ、遣^{ハシ}八丈^ノ夫^ヲ啓^シ新羅國^ノ事^ヲ於^ニ

金^ヲ。且^チ啓^シ任^ヲ那^ノ國^ノ事^ヲ於^ニ倉^ノ下^ニ。因^テ以^テ約^ス曰^{ハク}、任^ヲ

421 那小國、天皇、附^{ホトスカノミナリ}庸[○]何新羅、輒、有之。隨^ス常、定

422 內官家^を願[○]無煩矣。則遣奈^{（平）}末智^{（平）}洗^{（去）}遲^{（平）}遲^{（平）}於

423 吉士磐金。復以任那人、達^{（入）}率^{（入）}奈^{（平）}未遲^{（平）}遲^{（平）}於

424 吉士倉下。仍貢兩國之調。然磐金等、未及

（「大」、轉倒符アリ）

425 于還^て即年以○德大^{（平）}境部臣、雄摩侶、小德中

426 臣連國^て○爲大將軍。以小德河邊臣^{（平）}、禰^{（平）}受、小

427 德物部依綱連^{（入）}乙^{（上）}等、小德波多臣廣庭、小

428 德近江脚^{（平）}身臣飯蓋^{（平）}、小德平羣臣宇志、小

大伴連、名^{（平）}小德大宅臣軍^{（平）}爲副將軍^{（平）}。率

431 萬衆^{（平）}以征討新羅^{（平）}。時磐金等、共會於津^{（平）}。

「搢」、原本ニ
ハハ偏ニ胃ト
誤ル

431 將發船^{ダチ}以候風波^{カシ}。於是船師、滿海^{ミツ}以多至。兩

432 國^{ツカヒ}の使^{オセリ}一人望^{カシ}一瞻^{カシ}之^{カシ}。愕^{カシ}然^{カシ}て乃還^{カシ}。更代堪遲

433 大倉^{（平）}を爲^{（平）}任^{（平）}那^{（平）}の調使^{（平）}と而^{（平）}て貢上^{（平）}。於是、磐金等、相

434 謂^{（平）}之^{（平）}曰、是軍起^{（平）}之^{（平）}。既^{（平）}に違^{（平）}前^{（平）}の期^{（平）}。是以^{（平）}て任^{（平）}那^{（平）}之

435 事は今亦不成^{（平）}矣。則發船而渡之。唯將軍等、

436 始^{（平）}て到任^{（平）}。那^{（平）}に而^{（平）}て議^{（平）}之^{（平）}。欲襲^{（平）}新羅^{（平）}。於是、新羅國^{（平）}の

437 王、聞軍多至^{（平）}而^{（平）}て豫^{（平）}懼^{（平）}之^{（平）}。請^{（平）}服^{（平）}。時^{（平）}に將軍等、共^{（平）}に

438 議^{（平）}て以上表^{（平）}之^{（平）}。天皇聽^{（平）}矣^{（平）}。●冬十一月磐金倉

39 下等、至自新羅。時^{（平）}に大臣、問其狀^{（平）}。對曰、新羅

4 命^{（平）}て以^{（平）}驚懼^{（平）}之^{（平）}。則竝差^{（平）}專使^{（平）}。因以貢兩國

- 441 之調_を。然見船師至_と而_て朝貢使人更還耳。但
- 442 調猶貢上。爰大臣曰、悔乎早遣_{こと}師_を矣。時_の人_の
- 443 曰、是軍事者、境部_の臣、阿曇_の連、先多_{サハ}得新羅_の
- 444 幣_{ヒナヒ}物_を之故_に又勸大臣_を。是以_て未待使旨_を而_て早
- 445 征伐耳。初、磐金等、渡新羅_に之_て曰比及津_に、莊
- 446 船一艘、迎於海_の浦。磐金、問之_て曰、是船者、何
- 447 國迎船。對曰、新羅_の船也。磐金亦曰、曷_イ無任
- 448 那之迎船。卽時_に更_に爲任那_の、加一船。其新羅、
- 49 迎船二艘_を始于是時歟。自春至_{マデ}秋霖_{ナカメシ}雨_で
- 水_{ミヅ}。五穀不登_{ミナク}焉

「至」、「て」ハ
「次字」秋「ノ」
「に」ノ誤

451 卅二年夏四月丙午朔戊申有一僧ヲテ執斧ヲテ

452 毆ウツ祖オヤ父ヲ時ニ天皇聞之ニ召大臣ヲ謂之ニ曰夫出

453 家ヒト者ヒタフル頓歸三寶ニテ具懷グヤツ戒法ヲ何无グイ懺イム忌コト輒犯

454 惡逆ヲ。今朕聞有僧ニテ以毆祖父ヲ。故悉聚諸寺ノ

455 僧尼ヲ以推カウカヘトフ問之。若事實ナラ者重罪トモ之。於是集

456 諸僧尼ヲ而推之。則惡逆僧及諸尼ノ竝將罪。

457 於是百濟ノ觀勒（平）（入）僧表ホウシ上以言夫佛法自西ノ

458 國至于漢モロコシ經三百歲ヲ乃傳之ニテ至於百濟國

9 百ニテ僅ニ一百年ニナリス矣。然我王サミ聞日本ノ天皇之賢サカシキ

41 而貢タテマツンヨリ上ニ佛僧及內典ヲ未滿ナラ百歲ニ故當今

461 時^ニ以^テ僧尼未^レ習^ル法^ノ律^ニ以^テ輒犯惡逆^ヲ。是以^テ諸僧

462 尼惶懼^ニ以^テ不知^ル所^ヲ如^ク。仰^テ願^フ其除惡逆^ヲ者^ヲ以^テ

463 外^ノ僧悉^ニ赦^ス而勿^レ罪^ヲ。是大功^ノ德^ヲ也。天皇、乃聽^ス

464 之。戊午詔^シ曰、夫道人^ハ尙犯^ス法^ヲ。何以^テ誨^ム俗人^ヲ。

465 故自今已後、任^シ僧^正僧^都仍應檢校僧尼^ヲ。
(去) (平) (去) (上)

466 壬戌、以觀勒僧^ニ爲^ス僧正^ト、以勒部德^ヲ積^メ爲^ス僧

467 都。卽日、以阿曇連^ノ名^ヲ爲^ス法頭^ト。秋九月甲戌
(入) (上)

468 朔丙子、校寺及僧尼^ヲ具^ニ錄^シ其所造之緣^ヲ、亦

469 僧尼^ノ入^リ道之緣、及度^イ之年月日^ヲ也。當是^ノ時^ニ以^テ

寺冊六所、僧八百十六人、尼五百六十

471 九人、并て一千三百八十五人。冬十月癸卯

472 朔大臣、遣阿曇連名 關阿倍臣摩侶二。臣て令

473 奏于天皇曰、葛城縣者元臣之本ウツスナ居也。故

474 因其縣て爲姓名。是以冀之常に得其縣て以欲

475 之本居也。此以下故因其縣て爲姓名。是以冀之、常に

476 其縣て以欲爲臣之封縣。於是天皇詔曰、今

477 朕則自蘇何、出は之大臣亦爲朕舅ワケ也。故大

478 臣之言ハは夜、言ハは夜(消)矣。夜セ不明、日言ハ矣。日不曉。何

不レ用。然モ今朕之世に頓ニ失ハ是縣、後君ノタマハク曰オロカナル愚一

48 嬖婦メノコ一人臨天下に以て頓ニ亡ホ其縣。豈獨朕不レ賢ワカナカラ賢ワカナ

481 耶。大臣セ亦不忠ツタカラム。是後レ葉之ハ惡ナラムトイフ名テ則不聽キ

482 卅三年春正月壬申朔戊寅高麗王、貢僧

483 惠灌（平）（平）。仍任僧正ニ

484 卅四年春正月桃李花ハナサケリ之ヲ。三月ニ寒マ以霜降フ。

485 ●夏五月戊子朔丁未大臣薨。仍葬于桃原

486 墓。大臣ハ則稻目宿禰之子也ヒト、ナリ。性有武略。亦

487 有辨ワイマヘ才。以テ恭敬三寶ヲ。家於飛鳥河之傍。乃

〔庭〕、〔中〕
〔ハ次字〕
〔ノ誤〕

488 庭ハレリ中開ハレリ小池池ガ。仍與小嶋ヲ於池中。故時人、曰

89 鳥ノ大臣。●六月ニ雪フレリ也。是歲自三月、至七月ナカメフル霖一

天下大に飢之。老者、噉クラヒ草根而死于道垂ホトリ。

491 幼者、含乳^を以母子共死。又強盜竊盜、竝^ニ大^ニ

492 起^テ之^ヲ不可止^ム

(「比」、「化」)
誤
493 卅五年春二月陸奥國^ニ有^ウ貉^ナ比^{ナリ}人^ニ以歌之。

494 ●夏五月有^ベ蠅^コ聚^ル集。其凝^{コリカサナレ}果^{トツエ}十丈^{マリヘ}之。浮^{オホソラ}靈^ニ以^テ

(「東至」、「衍」)
495 越信濃坂^を。鳴音如雷。則東至東至上野國^ニ

496 而^テ自^レ散

497 卅六年春二月戊寅朔甲辰天皇、臥病^{ミヤヒシマフ}。●三

498 月丁未朔戊申日有^ベ蝕^{ツキタル}盡^{こと}之。壬子天皇痛^{こと}

49 止^テ之^ヲ不可諱。則召田村皇子^ヲ謂^フ之^ヲ曰、昇天^{タカシラサ}

50 仁^ニ而^テ經論鴻基^を、馭萬機^{マツリコト}以^テ亭育^{ヤシナフ}是^{こと}は黎元^ヲを、本非

501 輒言_ハ恆之所重。故汝愼_テ以察之。不可輒言。

502 卽曰、召山背の大兄_ヲ教_テ之曰、汝肝_{キモ}椎_{ワカシ}之。若雖

503 心_ニ望、而勿_{ナトコサツ}一誼_ヲ言。必待羣_ノ言_ヲ以宜從。癸丑天

504 皇崩之_{年時}七十五卽_{モカリヌ}殯_ヲ於南庭_{オホニハ}。夏四月壬

505 午朔辛卯_{アラレ}雹_{フル}零。大如桃_モ子。壬辰雹零。大如

506 李子。自春至夏_ニ旱_ヌ之。●秋九月己巳朔戊子

507 始_テ起天皇_ノ喪_モ禮_{コト}。是時群臣各誅_{シノヒコトマウス}於殯宮。先

508 是、天皇_ノ遺_{ノチ}詔於羣臣_{ニテ}曰、比年五穀不登_{ミナラ}。百

09 生_テ太飢。其爲朕、興陵以勾厚葬_ヲ。便宜葬于

田皇子之陵。壬辰葬竹田皇子之陵_ニ

「姓」、「
ハ次字」太
ノ「に」ノ

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

〔卷第二十三舒〕

1 我、蒙是大恩而一は則以懼、一則以悲。踊ホトハシリ躍、

2 歡シレ喜シレて不知所を（如仍以爲社稷宗朝重事也）

3 我妙ワカウシテ少ワカウシテ以テ不レ賢。何□當焉當は是の時ニて思フ欲ム語ヲ

4 叔父、及、羣卿等ニ。然ニ未レ有可イフ嚮イフ之時、於イマ、テ今サラシ非ハ

5 言イハ耳。吾イムサキ曾ニ將トフ訊（叔父之病）ニ向イ京ミヤコ而シテ（居）豐トヨ浦

〔爲〕、去聲ハ
破音

6 寺ヒ。是の日、天皇、遣八口采女ヲ鮪女ヲ詔之曰、爲（去）

7 汝イマシ叔父の大の臣の常ニ爲（去）汝イマシ愁言、百歲之後ニ嗣の位

8 非、當レ汝ニ乎ヤ。故ニ慎（以自愛矣既分）（去）明（去）有（去）是事。

疑ア也。然我豈養天下ヲ唯、顯アラハセリ聆キ事ヲ耳。則、天アメ

10 神地（去）祇、共ニ證（去）之。是（去）以（去）冀正（去）欲知天皇之遺

- 11 勅^{ミコトノミコト}。亦、大臣所^{レタル}遣^{ツカヘ}羣^ヲ□者從來^{モト}、如^{イカシ}□^ハ嚴^シ此^レ云^フ牙
- 12 伊^イ簡^{カン}之^ヲ取^{ナカトリ}中^{コト}事^ノ而^ニ奏^{ウケテ}請^{コト}人^ヲ等^{トモナリ}也^{ナリ}故^ニ、能^ヲ宜^{イカニ}白^マ
- 13 叔^モ父^ニ。既^ニ而^ニ泊^フ瀨^ノ仲^ノ王^{ミコ}別^ニ喚^フ中^ニ臣^ヲ連^レ、河^{カハ}邊^ノ臣^ヲこ
- 14 謂^フ之^ヲ曰^ク、我^オ等^ラ父^{カフ}子^ヲ竝^ニ自^{ヨリ}蘇^ソ我^ガ出^{タリ}□□下^{ナリ}所^ヲ
- 15 知^ル。是^レ以^テ如^シ高^{タカ}山^ノ、恃^{タシム}之^ヲ願^{ハシ}、嗣^ス位^ヲ、勿^{マデ}輒^{イラ}言^フ。則^{レバ}令^ホ
- 16 三^ミ國^ノ之^ノ王^ヲ、櫻井^ノ之^ノ臣^ヲ嗣^ス羣^ヲ卿^ヲ而^ニ遣^ツ之^ヲ曰^ク、欲^ハ聞^ク還^ル
- 17 言^フ。時^ニ大^{オホ}臣^ノ、遣^ツ紀^キ臣^ヲ、大^{オホ}伴^ノ連^ヲ謂^フ三^ミ國^ノ王^ヲ、櫻井
- 18 臣^ニ曰^ク、先^ニ日^ニ、言^フ訖^ニ。更^ニ無^{ケナシ}異^{コト}矣^{ナリ}。然^{レバ}臣^ハ、敢^テ之^ヲ輕^{イラレ}誰^ノ
- 19 王^ヲ也^{ナリ}、重^ニ誰^ノ之^ノ王^ヲ也^{ナリ}。於^ニ是^ニ、數^ヘ日^ヲ之^ノ後^ニ山^ノ背^ノ大^{オホ}兄^ヲ、
- 遣^ツ櫻井^ノ之^ノ臣^ヲ告^フ大^{オホ}臣^ニ曰^ク、先^ニ日^ニ之^ノ事^ヲ陳^シ聞^ク。耳^ヲ。

21 寧違^ニ叔父^ニ。^〇哉^也。是日、大臣^ノ病^ヲ、動^{オコリ}以て不能^{タリ}面言^{こと}。

22 於櫻井臣。明日^{アシノ}、大臣、喚櫻井^ノ。〇。卽、臣^ヲ遣^{マタ}阿倍

23 臣、中臣連、河邊^ノ臣、小墾^{ヘタ}田臣、大伴連^ヲ啓^ケ山

24 背大兄^ニ言^{ハシ}、自磯城嶋宮御^{アノシタシラシ}宇天皇之世^ニ、及^マて

25 近^コ之世^ニ者、羣卿、皆、賢^{サカ}一哲也。唯^{イマ}、今^{イマ}臣、不^{オホク}賢^ワ而^テ遇^{タマサカニ}

26 當乏人之時^ニ、誤^テ羣居^{ヘロ}臣之上^ニ耳。是以^テ不得^タ定^{こと}

27 基^ヲ然^ニ是、事重也不能^タ傳^{マウ}。故、老^{オホナ}臣、雖^{イタハレ}勞、面^ニ

28 啓^{マウサ}之。其、唯、不^シ誤^テ遣^ノ勅^ヲ者也。非^レ臣^ノ私^ノ意^ニは〇。既^ニ而^テ

臣、傳阿倍臣、中臣連^ニ更^ニ問境部臣^ニ曰、誰^{イハレノ}

30 王^カ爲^{タラ}天皇。對^テ曰、先^ニ是^ハ、大臣親問之日^ニ、僕^{ヤツカ}、啓

31 既^ニ訖^ス之。今、何、更^ニ亦、傳^フ以^テ告^グ耶^ヤ。乃、大^ニ忿^ス而^テ起^ス

32 行^{イヌ}之。適^{アタ}是^レの時^ニに蘇^ス我^レの氏^ノ諸^{ヤカラ}族^{トモ}等^ト、悉^{シテ}集^ス爲^ニ嶋^ノ大^ニ

33 臣、造^{ハカ}墓^ヲ而^テ次^{ヤトリ}于^ニ墓^ノ所^ニ。爰^ニ摩^マ理^リ勢^セ臣、壞^{コボ}墓^ヲ所^ヲ

34 之^ノ廬^{イホ}而^テ退^{マカリテ}蘇^ス我^レ田^{ナリト}家^{コロ}而^テ不^レ仕^ス。時^ニ大^ニ臣、慍^{イカ}之^ヲ遣^ス

35 狹^サ身^ム君^ノ若^{カクシ}牛、錦^{キン}織^シ首、赤^{アカ}猪^ヲ而^テ誨^{フシ}曰^ハ、吾^レ、知^{レトセ}汝^{イハカ}

36 言^{コトヲ}之^ヲ非^ヒ、以^テ于^{コノカミ}友^{ヲト}之^ノ義^{コトハリ}不^レ得^{ヤフル}害^{コト}。唯^{ヒト}、他^ニ非^{ンシ}汝^ニ是^ハ

37 我^ガ、必^ズ、忤^{タカ}他^ニ而^テ從^フ汝^ニ。若^シ、他^ハ是^レ汝^ハ非^ハ我^ニ當^ニ乖^{ヒヤ}汝^ニ而^テ從^フ

38 他^タ地^チ。是^レ以^テ汝^ニ、遂^ニ有^ハ不^レ從^フ者、我^ガ、與^ニ汝^ニ、有^ハ瑕^{ヒヤ}。則^{レバ}、國^{クニ}

39 亦^モ亂^ミ。然^{レバ}、後^{ヒト}生^{マシ}之^ヲ、吾^ガ二^ニ人、破^ヤ國^ヲ也。是^レ後^ノ

之^ノ惡^{アリ}名^{ナリ}焉。汝^ガ、慎^シ以^テ勿^レ起^ス逆^{サカヘタル}心^ヲ。然^{レバ}、猶^モ、不^レ從^フ

41 而^マ遂^マ赴^マ于斑鳩^マ。住^マ於泊瀨^マ。王^マ宮^マ。於是^マ、大臣、

42 益怒^マ乃遣羣卿^マ。請^マ于山背大兄^マ。曰、頃者^マ、摩^マ (上)

43 理勢^マ、違^マ臣^マ。匿^マ於泊瀨^マ。王^マ宿宮^マ。願^マ得^マ摩 (上)

44 理勢^マ。欲^マ推^マ其^マ所^マ由^マ。爰^マ大兄王^マ、答^マ曰、摩理勢^マ、

45 素^マ聖^マ。皇^マ所^マ好^マ。而^マ暫^マ來^マ耳。豈^マ違^マ叔父^マ之情^マ耶。

46 願^マ勿^マ。瑕^マ。則^マ、謂^マ摩理勢^マ曰、汝^マ、不忘^マ先^マ王^マ之^マ恩^マ。 (上)

47 而^マ來^マ。甚^マ愛^マ矣。然^マ、其^マ、因^マ汝^マ一人^マ。而^マ天下^マ、應^マ亂^マ。

48 亦^マ、先^マ王^マ臨^マ。沒^マ謂^マ諸^マ子^マ。等^マ曰、諸^マ惡^マ。莫^マ作^マ。諸^マ善^マ。 (上)

行^マ余^マ、承^マ斯^マ言^マ。以^マ爲^マ、永^マ戒^マ。是^マ以^マ雖^マ有^マ私^マ情^マ、

「永と、朱と、
墨點ニテ」
ト訂ス

50 忍^マ。以^マ無^マ怨^マ復^マ、我^マ、不^マ能^マ違^マ叔父^マ。願^マ是自^マ今^マ以後^マ、

51 勿^{ヘ、カル}憚^{こと}改^{意を}意從^{マナ}羣^{マナ}而^{マナ}无^{マナ}退^{こと}是^{こと}の時^{こと}大^{マナ}夫^{マナ}等^{マナ}、且^{ワレ}誨^ハ

52 摩理勢^の臣^に之^て曰^ふ、不可^レ違^フ大兄^{キミ}王^{オホムコト}之^の命^{こと}。於^{こゝ}是^{こゝ}、

53 摩理勢^の臣^に進^スて無^レ所^ニ歸^ル乃^ハ泣^{イササ}哭^テ更^ニ還^ス之^を居^{こと}於^{こゝ}

54 家^に、十^{トウカ}餘^{アマリ}日^ニ、泊^ス瀨^ニ王^ニ、忽^{オコリ}發^ス病^{ウセマシ}薨^ス。爰^ニ摩理勢^の臣^に、

55 曰^ふ我^{イケリト}生^{タノ}之^ヲ、誰^{タノ}か恃^ム矣^ナ。大^{コホヤム}臣^ニ、將^シ殺^ス境^ノ部^ノ臣^ニ而^テ興^ス

56 兵^を遣^ハ之^ヲ。境^ノ部^ノ臣^に、聞^ク軍^ニ至^{ヒキキ}率^{ナカチニアタル}仲^ナ子^ナ阿^ア榔^ト出^デ于^ニ

57 門^ニ坐^ス胡^{アフ}床^{クラ}而^テ待^ツ。時^ニ軍^ニ至^テ乃^ハ令^{ノリコト}來^ル目^ニ物^ノ部^ノ伊^イ

58 區^ク比^ヒ以^テ紋^{クヒラシム}之^ヲ。父^ニ子^ニ共^ニ死^ス。乃^ハ埋^ス同^ニ處^ニ、唯^{コノカミニアタル}兄^ニ子^ニ

59 毛^モ津^ツ、逃^{ニテ}匿^{カクル}于^ニ尼^ニ寺^ニ。瓦^ヤ舍^ニ即^フ、姦^{フカシツリ}一^ニ二^ニの尼^ニ於^ニ是^ニ、一^ニ

ウヘナリネタミシテ
嫉^ハ妬^ハ令^テ顯^ス圍^ニ寺^ニ將^ト捕^ト乃^ハ出^デ之^ヲ入^ル敵^{ツネヒ}傍^ニ山^ニ。

61 因 以て深^{アナクル}山^を。毛^ケ津^{（人名）}走^{ニケ}て無所入。刺頸^を而て死山中^ニ。

62 時。人歌^テ曰、于泥^{（上）}備^{（上）}椰^{（上）}摩^{（上）}。虛^{（上）}多^{（上）}智^{（上）}、于須^{（上）}家^{（上）}。苔^{（上）}。

63 多^{（平）}能^{（平）}彌^{（平）}介^{（平）}茂^{（上）}。氣^{（上）}菟^{（上）}能^{（上）}和^{（平）}區^{（平）}吳^{（平）}能^{（平）}。虛^{（平）}茂^{（平）}邏^{（平）}羅^{（上）}勢^{（上）}。

64 利^{（平）}祁^{（平）}牟^{（平）}。

65 元年春正月癸卯朔丙午、大臣、乃、羣卿、共^ニ

66 以天皇之璽^{（ミシルシ）}印^{（を）}獻於田村の皇子^{（ミナモトノミコ）}。則、辭^{（イナヒ）}之^{（を）}曰、

67 宗^{（タニイ）}廟^{（ハ）}重事矣。寡人^{（オノレ）}不^{（フ）}賢^{（ヲサナシ）}。何敢^{（カ）}て當^{（タマ）}乎。羣臣、伏^{（フス）}て

（墓）
誤「纂」ノ

68 固^{（マウシ）}請^{（テ）}曰、大^{（オホ）}王^{（ミカド）}先^{（ハ）}朝^{（ミカド）}、鍾^{（シメツ）}愛^{（ミコトオモヒ）}て幽^{（カミモヒト）}顯^{（ミカド）}屬^{（ツケタリ）}心^{（ココロ）}。宜^{（ヨシ）}、墓^{（イタマヒ）}皇^{（キミ）}の

光臨^{（オホミタカラフ）}億兆^{（ヒトビト）}。即日、即^{（ツケタリ）}天^{（アメノミコト）}一^{（ヒト）}皇^{（ミカド）}位^{（ミカド）}。夏四月辛未

70 朔、遣^{（タタカフ）}田部連^{（タテベノムスヒ）}、闕^{（カケ）}於^{（ニ）}掖^{（エヒ）}玖^{（ク）}。是年也、太歲己丑

「客」マ
「ト」ノ「ラ」
轉倒符アリ

北大文学部紀要

- 71 二年春正月丁卯朔戊寅、立寶の皇女（女をて爲す）皇
- 72 后（と）后、生（ア）二男、一女（を）。一を曰葛城皇子（近江の大津宮にて御）
- 73 宇天二曰閒人の皇女（と）三を曰大海皇子（原宮にて御）
- 74 御宇（オ）夫一人（オ）蘇我の嶋、大臣の女（を）、法提（イ）郎媛、生（古）
- 75 人の皇子（平）更（ア）は名大又、聚吉備國の蚊屋（ヤ）采女（を）て生
- 76 蚊屋の皇子（を）三月丙寅朔、高麗の大使（音晏）、宴（音）子（音）拔（音）
- 77 小使（ソ）若德、百濟の大使恩率、素子、小使德率（去）
- 78 武德、共朝貢（ミ）秋八月癸巳朔丁酉、以大仁（平）
- 79 犬上君、三田相（上）大仁藥師（惠）日（平）遣於大唐（モ）
- 子、養（ア）高麗、百濟の客（マ）於朝（ミ）九月癸亥朔丙

- 81 寅、高麗百濟の客、歸于國^ニ。是月、田部連等、至
- 82 自掖玖[●]。冬十月壬辰朔癸卯天皇、遷於飛
(平)(平)
- 83 鳥の崗の傍^ニ。是を謂崗本宮^ト。是歲、改て脩^{ツクル}理難波^ノ。大^{口ホ}
- 84 郡、乃、三韓^{カラトハノツミ}の館^ミを
- 85 三年春二月辛卯朔庚子、掖玖人歸化^{マウケリ}。●三
(平)(平)
- 86 月庚申朔^{百濟コホシ}○王義慈^{タテマツリイレ}入王^{タテマツレ}子豐章^{ムカヘリ}爲^ニ質^ヲと●秋九
(平)(平)
- 87 月丁巳朔乙亥、幸^{イタマス}于津國^ニ。有間^ニの溫^ユ湯^ニ。●冬十
- 88 二月丙戌朔戊戌、天皇自溫湯^{至マス}
- 89 四年秋八月、大唐^{モロコシ}遣高表仁^{モロコシ}送三田^ス相^ヲ共^ニに
(平)(平)
- 90 于對馬^{レリ}。是時^ニ學問僧^{モノナラフホウシ}靈雲^{リョウウン}僧^ニ是及勝^{カタ}鳥^ニ

〔吹〕、「フミ」
ハ「フ」エ「ノ」誤

91 養、新羅の送使等、從之。●冬十月辛亥朔甲寅、

92 唐の國の使一人、高仁表等、泊于難波の津に則、遣大

93 伴連馬養を迎於江口に船卅二艘、及、鼓、吹、旗

94 幟、皆具に整飭。便、告高表仁等て曰、聞天子の所

95 命之使、到于天皇の朝にて迎之。時に高表仁、對曰、

96 風寒之日、飭整船一艘を以て賜迎之、歡愧也。於

97 是、令難波吉士、小槻大河内の直、矢伏て爲導

98 者て到于館前に乃、遣伊岐史乙等、難波の吉士

〔須〕、「酒」ノ、
誤

牛を引客等て入於館に即日、給神須

11 年春正月己卯朔甲辰、大唐の客高表仁

- 101 等、歸國^に。送使、吉士雄摩呂、黑^{麻呂}等、到對
- 102 馬而^て還之
- 103 六年秋八月長星見南方^に。時の人曰彗^{ハ、イ}星
- 104 七年春三月、彗星、廻見于東^に。●夏六月乙丑
- 105 朔甲戌、百濟、遣達^率。^(入)柔^{ニウ}等^(去)朝貢。●秋七月乙
- 106 未朔辛丑、饗百濟^の客於朝^に。是月、瑞蓮^{アイレンキ}、生於
- 107 劔^ツ池^の。一莖^{モト}二花^{アリ}
- 108 八年春正月壬辰朔、日蝕^{ケエ}之。●三月^{ハニタリ}、悉^{カムカヘ}、劾^{ワカセル}奸
- 09 臣女者^を皆罪^す之。是^の時^に三輪^ツ之君、小鷦鷯^{サ、ヤ(人名)}苦其^の
- 1 鞫^{ケル}刺頸^を而^て死。●夏五月、霖^{ナカメ}雨^て大水。●六月、災^{ヒツケリ}

誤「皇」、「星」ノ

111 岡本の宮に。天皇遷て居田中宮に。●秋七月己丑朔、

112 大派マタノ王、謂百豐浦大臣に曰、羣卿、及、百寮、朝ミカサ

113 參マリスルコト已ことに懈自今以後、卯の始に朝之マカテて已の後に退之ミカテ。因て

114 以鐘カネて爲節セヨ然とに大臣、不從。是歲大旱天下、飢イヒウエ

115 之

116 九年春二月丙辰朔戊寅、大皇、從東、流西血に。(ミセケチ)

117 便有音オトて似雷。時の人、曰、流星之音オトナリ。亦曰地ツの雷イと。

118 於是、僧を旻僧を曰、非流星に是、天アマキヲ狗也其吠聲ホユル、

19 以雷に耳。●三月乙酉朔丙戌、日蝕ハニカリ之。是歲、蝦

1 一、坂マウテ以て不朝。即、大仁上毛野の君形名カタナて爲將イササノキミト。(平)(去)

〔爲、去聲ハ〕
破音

121 軍ウタて令討。還ウタて爲爲に蝦夷エミシ、見敗ミケ而ニ走走入ソコ壘壘。遂ニ爲爲に賊賊の

122 所マル圍ヒト、モ。軍衆イクサノヒトセ、悉ヒトに漏モて城空キ之。將軍迷セムて不知スヘ所所如如。

123 時ニ日暮ムス。踰ニケムト垣垣て欲ニケムト逃逃。爰ニ方名ツマの君君妻妻、歎ウレタキカナ曰曰、慷ウレタキカナ哉哉、

〔爲、去聲ハ〕
破音

124 爲爲蝦夷エミシ、將スルコト見殺見。則カ、謂ヲ夫夫て曰イマシ、汝祖オヤタチ等等、渡アラウナハラ蒼蒼海海、

125 跨アトコヒ萬上ホキミテ里上ホキミテ。平ムケ水水表表。政（去）以カシコタタケキ威威武武傳傳於ニ後後の葉葉。今イマシ、汝汝、

126 頓ヒタフルニタシカハササ屈屈先先祖祖之之名名、安必、爲（ミセタチ）（去）後後世世の見。乃フナヘ酌酌酒酒。強シヒ

〔親、上ハ〕
或イハ上ハ
而ノ上ハ
カ

127 之令飲夫夫。而親親に、佩夫佩之之劍劍。張ツ十十弓弓。令ノリコ女女人人

128 數タラフマリ十十。俾ナサ鳴鳴弦フル。既既而而夫夫更タチ起起。之之取取仗（モ）。而而進進。之之

129 取取伎セケセ蝦夷エミシ、以オ爲（ヒト）軍衆サヘナリトオヒテ。獨サヘナリトオヒテ多多而而稍稍引退引退之之。於於

散アラケタルイクサ卒卒、更（ヒト）聚イクサトノフ。亦亦、振振旅旅焉焉。擊擊蝦夷エミシ。大大に敗敗。以以て悉悉に

131 虜^{トリコス}。

132 十年秋七月丁未朔乙丑、大^{カセフイ}に風^{カセフイ}之^ニて析木^{コホツ}、發^{コホツ}

課「陽」、「溫」ノ

133 屋^を。●九月霖雨^{ナカアメ}桃李^{ハナサケリ}花^{ハナ}。●冬十月幸^{イデマ}有^{イデマ}聞^{イデマ}の溫陽^{ユノ}

134 宮^{ミヤ}に○是歲百濟、新羅、任那、竝^{ミツキタケマツル}に朝^{ミツキタケマツル}一貢^{ミツキタケマツル}す

135 十一年春正月乙巳朔壬子、車^{クルマ}一駕^{ミコト}、還^{カヘ}自溫^ユ

136 湯。乙卯新嘗^{ニハナヒヤコシメス}。蓋^{カサ}、因^{オハシマセ}幸^{オハシマセ}有^{オハシマセ}聞^{ニハナヒ}以^{ニハナヒ}て闕^{ニハナヒ}新嘗^{ニハナヒ}を敷^カ。丙

137 辰、無雲而^{ナル}雷^{ナル}。丙寅、大^{オホ}に風^{カゼ}而^ニ雨^{アメ}。巳^イ長星見

138 西^{イヌキノスミ}北^{キタ}。時^{トキ}に晏^{ヒヤシ}師^シ曰^{イハス}、彗^{ヘビ}星^{ホシ}也^{ナリ}見^ミは則^{スガ}飢^{イヒウヘス}之^ヲ。●秋七月

39 濟^{ツクラ}て詔^{ミコトノリ}て曰^{イハス}、今年、造^{ツクラ}作^{ツクラ}大宮、及^{ヨリ}、大寺^{オホテラ}を。則^{スガ}、以^ニ百濟

1 側^{ホトリ}て爲^{ナス}す宮處^{ミヤドコロ}。是^{コト}以^ニて西^ニの民^{タチ}は造^{ツクラ}宮^{ミヤ}を、東^ニの民^{タチ}は作^{ツクラ}寺^{テラ}を便^{マテニ}、

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

- 141 以書直縣フムノアタヒニアワダテ爲ス大匠タカミト。●秋九月大唐モノナラフ學問僧惠。(平)
- 142 隱(平)惠(平)雲、從新羅の送使マイル入京。●冬十一月庚子
- 143 朔、饗新羅フヘタマフの客於朝ミカト。因ニ給冠カプリ一位ヒトシナ。●十二月
- 144 己巳朔壬午幸于伊豫溫湯宮ニ。是月、於百
- 145 濟川ホトリ側タツ建九重コシの塔を
- 146 十二年春二月戊辰朔甲戌、星入レリ月。●夏四
- 147 月丁卯朔壬午、天皇、至カヘリ自伊豫オシマス、便ステ居マシマス廐坂ヒナヤカ
- 148 宮ニ。●五月丁酉朔辛丑、大設日ミス齋イミス。因ニ以マテ請マナメ惠(平)隱(平)
- 149 僧ホシ令テ說セ无量壽經を。●冬十月乙丑朔乙亥、大
- 學問僧フムヤワラハ清安(平)學生、高向(去)漢人、玄理ツタヘリ傳新(平)

〔誅〕、「誅」ノ
誤

151 羅而至之仍て百濟、新羅ミツキタアマツル之使、共に從て來マウケリ

152 之。則、各、賜カフリ爵一級ヒトシテ。是月、從於百濟の宮に

153 十三年冬十月己丑朔丁酉、天皇崩カミアカリマシス于百

154 濟の宮に丙午、殯モカリス於宮の北に。是謂イ百濟の大殯オホモカリ。是の時に

155 東マウケノキミ宮ミヤ開ヒラカス別ワケノ皇子年十六而誅ツシヒコトシタマフ之

156 日本書紀卷第廿三

（紙縫）

（紙縫）

永治二年三月廿七日以彈正弼大江朝臣

卷末識語、尾
欠。此ノ識語
ハ元來ハ此ノ
位置ニハモ
リシモノ
同卷ノ卷
白ヲ切リ
シモノカ
ヘ

(卷第二十四皇
紀、針て)

- 1 元年春正月丁巳朔辛未皇后即天皇位
 - 2 以蘇我臣蝦夷（こと）爲大臣、如敵大臣兒入鹿
 - 3 鞍（更）名（作）自、執國の政（威）勝（イキホヒマサレリ）於父（カフ）由是（ススヒト）盜賊（オチヒシ）恐懾（て）
 - 4 路（ト）不拾遺（オチモノ）乙酉百濟（ツカヒ）使人、大仁阿曇連比
 - 5 羅夫（上）、從筑國乘（ヘイマ）百濟（上）
 - 6 皇崩（カタマタナリ）奉遺弔（ト、ヲラヒ）使臣隨弔（ヤウカレ）使（使）到筑紫（紫）而臣
 - 7 望仕（ツカマツラムト）於葬。故先獨來也。然其國者今大に亂
 - 8 矣。●二月丁亥朔戊子遣阿曇山背連比（上）良（上）
- 草壁告磐金（カ）倭の漢の書直縣（カ）遣百濟（上）
- 10 問彼の消（アルカタチ）息。弔使報（カヘリコトマウ）言、百濟國の主謂臣（コニキシヤウカレイヒ）言、塞

- 11 上、恆に作す惡之。請付還使、天朝不許百濟の帛。
マウス、サツタマヘム、スエラミコト、タルシタマ
- 12 使係人等言去年十一月大佐平智積卒。
イハク、ミヤカリマ
- 13 又百濟の使一人、擲峨嵒嶮。□□□今年□□
ツカヒ、ナゲ、イロ
- 14 國の主の母薨。又弟王子の兒翹岐及其母一妹女。
コニキン、オモ、ミウセス、ダイ、(去)平、(平)子、コ、キ、ヘ、ヘチカラ
- 15 子四人内佐平岐味、有高名之人卅餘、被
(平)平、(平)岐、(平)味、(平)
- 16 放於嶋。壬辰高麗の使人、泊難波の津。丁未遣
シマ、マレ
- 17 諸の大夫於難波の郡て檢高麗國の所貢金銀□
カムカヘシム、タマツレル
- 18 并て其獻物を使人貢獻。既訖而諮云、去年の六
タマツツ、タマツル、カマツル、マツシ
- 19 月に王子薨。秋九月大臣伊梨柯須彌殺大
ミウセス、オホキナシ、イ、リ、コ、ミ、ロニキンム
- を、并て殺伊梨渠世斯等百八十人を仍て以弟
(平)平、(平)梨、(去)世、(平)斯、(平)等、(平)百、(平)八十、(平)人、(平)仍、(平)以、(平)弟

圖書寮本日本書紀永治二年頃點

21 王^ノ兒^ヲ爲^ス王^ト以^テ己^カ同^ク姓^ヲ都^ヲ須^ル流^ル金^ノ流^ル爲^ス大^ニ□

22 戊申^{アヘタマフ}饗^ニ高麗^ニ百濟^ニ於^テ難波郡^ニ詔^ス大臣^ニ曰^ク以^テ

23 津守^ノ連^ノ大海^ニ可^ク使^ス於^テ高麗^ニ以^テ國勝^ニ吉士^ノ水^ニ

24 鷄^ノ可^ク使^ス於^テ百濟^ニ水^ニ鷄^ニ此^ニ云^フ以^テ草壁^ニ吉士^ノ眞^ニ跡^ニ

25 可^ク使^ス於^テ新羅^ニ以^テ坂本^ニ吉士^ノ長^ニ兄^ニ可^ク使^ス於^テ□

26 那^ノ庚戌^ノ召^ス翹岐^ニ安^ニ置^ス於^テ安曇^ニ背連^ニ家^ニ辛

27 亥^{アヘタマフ}饗^ニ高麗^ニ百濟^ニ客^ニ癸丑^ノ高麗^ノ使^ス人^ノ百濟^ノ使^ス人^ノ

28 竝^ニ罷^ス歸^ス三月^ノ丙辰^ノ朔^ニ戊午^ノ無^ク雲^ニ而^テ雨^ス辛酉^ノ

「與^ニ使^ス」
字補入

羅遣^{タテマタ}賀騰^{ヒツキ}極^ニ使^ス人^ノ罷^ス歸^ス是^ニ月^ニ霖^ニ雨^ス夏^ノ四^ノ月^ノ

30 丙戌^ノ朔^ニ癸巳^ノ太^ニ使^ス翹岐^ニ將^ス其^ノ從^ス者^ノ拜^ス朝^ス乙

〔敏〕
〔敵〕
〔誤〕

31 未蘇我大臣、於敏傍の家ミヒて喚ミヒ百濟翹岐等ミヒて親、

32 對モノカタリて語ミナ一話ヒトツ、仍モトて賜ミタ良馬ヘタ一疋、錢ヘタ廿餘ミセケチ。唯不ミセケチ喚ミヒ塞ミヒ

33 上ミ是月ミ霖雨ナカメス。五月乙卯朔己未、於河內國の

34 依ミサム網の屯ミサム食ミヤケ倉ミヤケ前ミヤケ召ミヤケ翹岐等ミヤケて令觀射ウツム獵ミ。庚午百

35 濟國の調使ミツサの船與吉士の船、俱ミツサ泊トモ于難波津。蓋吉

36 於ミツサ士前ミツサ奉ミツサ使ミツサ壬申百濟使人進。調吉士服命カヘリコトマウス乙

37 亥翹トモ從ヒト者一人死去シメ丙申翹岐兒死シメ去。是

38 時翹岐與妻、畏忌兒コの死シメて果ミ不臨喪ミ。凡百濟

39 新羅の風俗クニワケ有死亡者シメ、雖父母兄弟夫婦妹イモウト

、永不自看。以此ヒタスラ而觀ミ無ミ慈之甚、豈別コトナ○獸ケモノに○

41 丁丑アカル熟稻始ミ見。戊寅翹岐、將其妻子ミ移於

42 百濟の大井の家。乃遣人ミ葬ヘ兒ミ於石川。●六月乙

43 酉朔庚子微雨。是月大旱。●秋七月甲寅朔

44 壬戌客星入月。乙亥、饗百濟ミ使人大佐ミ平

45 智積等於朝ミ。或本云百濟使人大佐平智ミ積ミ

46 乃命健兒ミ相撲於翹岐前。智積等宴畢ミ

47 而退拜翹岐門。丙子蘇我臣入鹿豎者獲

48 白雀ミ子。是日同時有人ミ白雀ミ納籠ミ而送

大臣。戊寅群臣相謂ミ之曰。隨村々祝部ミの

50 所ミ教、或は殺牛馬ミ祭ミ諸社の神。或は頻に移市。或禱ミ

「上」字「禱」を「は」ノ誤カ

59 姓 俱ニ稱ゴロコヒ一萬歲テ曰、至德イキホヒマシマス天皇ナリ。己丑百濟使ナリ參

等 罷 歸。仍^て賜 大^{ツム}一 舶 與 同 船^{ハシフネ}、三^{ミツ}一 艘

61 是日^ノ夜半^ニ雷鳴^ル於西南^ニ角^ニ而風雨^ニ參官等^ニ

62 所乘^ノ船舶^ニ觸岸^ニ而破^レ。丙申^ニ以小德^ニ援百濟^ノ

63 質^{ムカヘリ}達^ニ率^ニ長福^ニ中客^ニ以下^ニ援位^ニ一級^ニ賜物^ニ各

64 有差^ニ。戊辰^ニ以船^ニ賜百濟^ノ參官等^ニ發遣^ニ己亥

65 高麗使人罷歸。己酉百濟新羅使罷歸。●九

66 月癸丑朔乙卯天皇詔大臣^ニ曰、朕^ニ曰^ニ曰^ニ朕^ニ

67 思欲^ニ起造^ニ大寺^ニ宜發^ニ近江與越之^ニ丁^ニ百濟^ニ

68 復課^ニ諸國^ニ使造^ニ船舶^ニ辛未天皇詔大臣^ニ曰、

是月^ニ限十二月^ニ以來^ニ欲營宮室^ニ可於國

70 取^ニ殿屋^ニ材^ニ然東限遠江^ニ西限安藝^ニ發^ニ造^ニ

〔内。〕句點ハ
誤點

71 宮 丁^{ミホロ}。癸 酉 越^{ホトリ}邊 蝦^{ニヒス}蟻 數 千 內^{マウキツク}附。●多 十 月 癸

72 未 朔 庚 寅、地^{ナリフリ}震 而^{アメフル}雨。辛 卯 地 震。是 夜 地 震

73 而 風^{カセフク}。甲 午 變^{アヘタマフ}蝦 蟻 於 朝^{ミカト}。丁 酉 蘇 我 大 臣、設^{アヘス}

74 蝦 夷 於 家。而 躬^{ヤスメ}慰 問。是 日 新 羅^{トワラヒ}弔 使 的 船 與

75 賀 騰^{ヨココフレヒツキ}極 使 的 船、泊^{トマデリ}于 壹 岐 嶋。丙 午 的 夜 中 地 震。

76 是 月 行^{マツリコト}夏 的 令^{マツリコト}無 雲 而 雨。●十 一 月 朔 癸 丑、大^{ヒサメフリ}雨 而 雷

77 丙 辰 的 夜 半^{イヌキ}一、鳴 於 西^{イヌキ}北 的 角。己 未 雷 五、鳴 於

78 西 北 的 角。庚 申 天 的 暖^{アタ、カナル}如 春 的 氣^{シルノ}辛 酉 雨 下^{フル}。壬 □

79 天 暖^{オコ}如 春 的 氣。甲 子 雷 一 鳴 於 北 方 而 風 發^{オコ}。丁

天 皇 御^{ミコシマスニハヒ}新 嘗^{ニハナヒ}。是 日 皇 子 大 臣、各 自 新 嘗^{ニハナヒシキ}。

- 81 ●十二月壬午朔天暖如春氣。甲申雷五、鳴ナリ
- 82 於晝、二、鳴於夜ヨル。甲午初て發息オキ長足ナカダシ日廣額ヒロヒ
- 83 天皇の喪ミセ是日小德巨勢臣德ミコトノリ太ミコトノリ代大派の皇
- 84 子に而て誅シノヒコトタマフ次小德栗田臣細目ホソメ、代輕皇子に而て
- 85 誅シノヒコトタマフ次小德大伴連馬飼カヒ、代大臣而誅。乙未
- 86 息オキ長山田の公奉誅日嗣ヒツキ辛丑雷三、鳴於東
- 87 北角ウシトクノ。庚寅雷二鳴於東而風雨フキフル壬寅葬ハフリマツル息
- 88 長足日廣額天皇于滑谷ナメヘサ崗。是日ニ天皇遷ウツリタマフ
- 19 多於小墾田の宮或本云遷於東宮南庭之權宮辰雷一、鳴ル
- (夜ヨル。其聲若裂サク。辛亥天暖コト如春氣シルシ是歲、蘇

91 我大臣蝦蟇、立祖オヤマツリヤ廟ミヤ於葛城、高宮而爲八ヤ

92 侑ユ之舞マヒ。作歌ウタて曰、野ヤ麻マ騰ト能ノ飫オ斯シ能ノ毗ヒ稜ロ栖セ

93 鳴ナリ倭ヤマト拖羅タラ務ム騰ト阿ア庸ユ比ヒ拖タ豆ツ矩コ梨リ舉コ始ハジメ豆マメ

94 矩コ羅ラ符フ母モ。又盡モトメ發ハツ國クニ之民、并ナニ百八十ヤチ部ハタテ曲マギて

65 預造雙フタツ墓ハカ於今來イマキ。一ヒトは曰イハレ大陵オホミサ爲大臣之墓ハカ。一

96 曰小陵コミサ爲入鹿イルカ之臣墓ハカ。望死之後ナケム勿ナケム使シ勞イダヘラ人

97 更ミタヘ悉シ聚カムツ上宮ミヤ之民ミタマ。云イハレ美ミ部フ此コ役ツカフ使シ營ヘカ一ヒト挑ヒキ

98 所トコロ於ニ是コト、上宮カミツ大娘ノオホイラツ姬メ王ミコ、發ムツカ憤フ而シテ歎ナゲ曰イハレ蘇我

19 臣ミコ專タクメ擅ハシ國クニ之政サセテ多サヘ行ス無禮キヤナワサ。天アメ無二フタ日ヒ。國クニ無二フタ王キミ。

由ユ任マニ意コト、悉シ役ツカハム封民フサセル。自茲コトヨリ結恨ムスミ而遂シテ取サシ俱トモ亡ナシ

101 是年也太歲壬寅 二年春正月壬子の朔の

102 旦五色の大雲ナル滿イヘミ覆オホヘリ於天。而タリ闕トラノトコロ於寅。一色の青

103 霧イタリ周オコリヌ起於地。辛酉オホカセフク大風。●二月辛巳朔庚子、

104 桃花始ミユ見。乙巳アラレフリヤフレリ雹傷草木花葉。是是月フキ風

105 雷イカツチナリ雨ミソレフル氷オコナヘナリ行冬マツリコト令カムナキ國內の巫一ツキ魂等折取枝シハの葉シテ懸シテ

〔「挂」〕〔「シテ」〕
106 挂シテ木ユフ綿ウカヒ伺ヒ候大臣の渡橋ハシ之時マウス争マウスて陳神語の入

107 微タヘナ之コトハ說ヲ其巫ニ甚ニ多ヘサて不可ニ悉ニ聽●三月辛亥朔

108 發ヒツケリ亥災難波の百濟ムロツミの客ハ館堂、與ニ民の家室。乙亥

109 傷シモフリ草木の花葉ヤフレリ是月風雷ミソレフル雨ナリ氷ニ行冬ニの令ヲ●夏

〔「風」〕〔「雨」〕
1 月庚辰朔丙戌大ニ○而風フキ雨。丁亥風起テ天

111 寒。己亥西の風フイ而アラレ雹レル。天寒テ人着カル綿袍ハス三領ミツ。庚

112 子筑紫の大宰オホミコトモチノツカサ馳ハイマシ驛ハヤシ奏テ曰、萬百濟國コニヤシの主ノ兒コ翹岐

113 (去)弟トモ王子ハミ共トモ調マツケリ使シ來キ。丁未チミ自ガリ權宮カミ移テ幸アス飛鳥カ。

114 板蓋ニヒ新宮ニヒ甲辰ニヒ近江國アラレ言レ雹レ下リ。其大オホサ徑寸。

(「一」轉倒符アリ)

115 一●五月庚戌朔乙丑月有蝕ハニタル之。●六月卯朔

116 辛卯筑紫の大宰ハイマ馳驛マ奏テ曰、高麗遣使マダシ來マツサシム朝

(「羊」「年」ノ誤)

117 群マチキミミタテ卿ニ而カタリ謂フ之ヲ曰、高麗自己マウコス亥ノ羊ハ不朝ス。而今

118 年朝マケリ也辛丑百濟進調船泊于難波津●秋

(「於」百、六ノ字補入)

9 二月己酉辛亥遣數ツカハシ一マチキムタテ大夫ヲ濟國於調與郡獻物カヘシム。

1 是マチキムタテ大夫問調マケリ使タテマツレル曰所進國調欠ミツキモノ一少タラス前例アヒ。

- 121 送大臣物、不改去年所^{カヘセル}還之色^セ。送群卿^ニ物。
- 122 亦^{モヘラ}全^ス不^{モテ}將^{マウコ}來。皆^{タカニタリ}違^ス前^ノ例^ニ。其狀何也。大使^{オホツカニ}違^ス
- 123 率^ス自^オ副^ス使^ス恩率^ス軍^ス善^ス俱^ニ答^{マウシ}謫^ス曰、卽今可備
- 124 自^ス斯^ス質^{ハカヘリ}達^ス率^ス武子^ノ之^カ子^{コナリ}。是月^ニ茨田池^ノ水大^ニ
- 125 鼻^{タサリ}小^ス蟲^ス覆^{オホヘリ}水^ニ。其蟲黑而身^ハ白。●八月戊申朔
- 126 壬戌、茨田池^ノ水變^{カヘリ}如藍^ノ汁^ノ。死蟲^ス覆^ス水^ニ。溝^ク瀆^{ツク}
- 127 之流^ユ、亦復凝^{コホレリ}結^サ。厚^{ミキ}三^{ヨキ}四^{ヘカリ}寸^ノ。大^ニ小魚^ノ鼻^{タサレ}如夏
- 128 爛^{タレ}死^シ。由^ユ是^ニ不^ス中^{アタラス}喫^シ焉^ニ。●九月丁丑朔壬午葬
- 129 息長足日廣額天皇^ヲ于押坂^ノ陵^ヲ。或^モ本^ニ云^フ呼^{マウシ}廣^ノ額^ヲ天皇^ヲ爲^ス高^{タカ}廣^ノ
- 也^ニ天^ノ丁^ノ亥^ノ吉^ノ備^ノ嶋^{スメ}皇^{ミコヤ}祖^ノ母^ノ命^ノ薨^ス。癸巳詔土

131 師の娑婆の連猪^キ手^テに視^{ミシム}皇^{スメ}祖^{ミオヤ}母^ノの命^ノの喪^{ミセ}を。天皇自皇

132 祖母命^{ミヤマヒシタマヒシ}の臥病^ノ、及至^{イタルマデニ}發^{ミハフリ}喪^ニに、不避^{サリタマヘス}床^{モト}側^コを、視^{フサメタマフ}養^ヲを無

132 倦^{オコタル}乙未葬^{ハフリヤウル}皇祖^{スメ}母^{ミオヤ}の命^ノを于檀弓^{マエミノ}の崗^ノ。是日大雨^{ヒサメフリ}

134 而雹^{フラインガル}。丙午罷造^{ヤム}皇祖母命^{ミハカ}墓^{ニタチ}、役^ニ。仍賜^{ミテ}臣連

135 伴造^{キミ}帛布^{キヌ}、各有差。是差。是月茨田^{キヌ}の池の水^{ミヅ}漸^{ヤスニ}

136 漸變^{カヘリ}成白色^ノ。亦無^{クサキ}鼻氣^ノ。冬十月丁未朔己

137 西饗^{アヘ}賜羣臣^{マチキムタチ}伴造^{キミ}於朝堂^{ミカド}庭^ニ。而議授^{タマハム}位^ニ。詔^{ミコト}

138 國^{ミコト}司^セ、如前^{ミコトノシケル}所勅^ノ更^ニ無改換^{カフル}。宜^{ヨカリ}之^ノ。厥^{マカリタ}任^{ヘルトコフ}一^{シメ}慎^{イマシ}爾^カ

39 所^ヲ治^ヲ。壬子蘇我大臣蝦夷^{ヤマト}緣^{ヨリ}病^ニ不朝^{マナラ}。私^ニ授

1 冠^ハ於^ニ子^コ入鹿^{ナスラフ}擬^ニ大臣^ノ位^ニ。復呼^{ヨビ}其弟^ヲ、^ミ曰^{ハク}物

- 141 部大臣。大臣之祖母は物部の弓削大連之妹。
 142 故因母に財にて取威イホヒ於世に。戊午蘇我臣入鹿獨、
 143 謀將スル廢上宮の王等タチ而立古大人兄オホホ爲天皇。
 144 于時、有童一謠。曰、伊波能杯ヘ爾。古佐屢ル渠梅メ
 145 多上爾母多礙上底騰上哀上囉上栖上歌上麻上之上能上鳥上
 146 賦上蘇我臣入鹿深忌上宮の王等上是月上茨田池上
 147 水還上清上。十一月丙子朔蘇我臣入鹿遣小
 148 德巨勢德太臣、大仁土師婆婆連ミツネ掩山背
 149 兄王等ミコ於斑鳩イカガ或本云、以巨勢德太臣、
 1 奴ヤシ三成、與數十舍人、出而拒戰。土師婆

151 婆連中^ナ箭^ヤ而^ニ死^ス。軍^{ヒト}衆^セ恐^レ退^ル。軍^{ヒト}中^ノ之^ノ人^ノ相^カ謂^リ。

152 之^ニ曰^フ、一^{ヒトリ}人^{ヒト}當^{ナミトイフハ}千^チ、謂^フ三^{サン}成^セ敷^シ。山^{ヤマ}背^ノ大^{オホ}兄^ケ仍^{モトモト}取^ル。

153 馬^{ウマ}之^ノ骨^{ハネ}而^ニ投^{ナゲ}置^{ケル}。内^{ウチノ}寢^ネ之^ノ途^{ミチ}率^{スベテ}其^{ソノ}妃^メ并^ニ子^コ弟^ニ等^ト而^ニ得^テ開^{ヒラ}之^ヲ。

154 逃^{ニケ}出^デ而^ニ隱^{カクレ}。膽^{イデ}駒^{コマ}之^ノ山^{ヤマ}に三^{サン}輪^{リン}之^ノ文^{オモ}屋^ヤ之^ノ君^{キミ}、舍^{ヤメ}人^{ヒト}田^タ目^メ之^ノ連^{レン}。

155 及^ツ其^{ソノ}女^メ菟^ウ田^タ之^ノ諸^{モロ}石^{イシ}、伊^イ勢^セ阿^ア部^ハ之^ノ豎^{カタ}經^ヱ從^{ミトモニツカハル}焉^ヲ。巨^{キョウ}

156 勢^セ德^{トク}大^{ダイ}臣^{シン}等^ト、燒^{ヤク}斑^{イカルガ}鳩^カ之^ノ宮^{ミヤ}之^ノ灰^{ハイ}中^ノ見^ミ骨^{ハネ}而^ニ誤^{アヤ}謂^フ王^{ヤミ}。

157 死^{ウセマシ}解^{カク}圍^ミ而^ニ退^ヒ出^デ。由^ユ是^ニ而^ニ山^{ヤマ}背^ノ大^{ダイ}兄^ケ王^{ミコ}等^ト、四^{ヨク}五^{イフ}日^{ニチ}之^ノ。

158 閒^{ヘスミタマヒ}淹^ヒ留^ル於^ニ山^{ヤマ}而^ニ不^セ得^ズ喫^ク飲^{イン}。三^{サン}輪^{リン}文^{オモ}屋^ヤ君^{キミ}進^{シン}而^ニ而^ニ。

159 勸^{スベ}之^ヲ曰^フ、請^{コト}移^ヒ向^{ムク}於^ニ深^{フカイ}草^ノ屯^ツ倉^{クラ}而^ニ從^ツ茲^{コレ}、乘^{ノリ}馬^{ウマ}而^ニ詣^キ東^{ヒガシ}。

之^ニ以^テ乳^{ミツ}部^フ而^ニ爲^シ本^ホ而^ニ興^{キョウ}師^シ而^ニ還^{ヘン}戰^{ケン}其^{ソノ}勝^{カタク}也^{ナリ}必^{カナラシ}矣^{ナリ}。山^{ヤマ}背^ノ。

〔田〕
ノ誤
〔由〕

161 大兄王^{オホニ}等^{タチ}、對^{タテマツ}曰^{イハレ}、如卿所^{イニカニ}、其勝^{イカサマ}必^{シカラム}然^{シカラム}。但吾

162 情^ニ冀^ハは十年不^シ役^{ツカヘ}百姓^{ヒョウシヤ}。以一身之故^ニ、豈^{ワツラハシ}煩^{イタハラシム}勞^ム。

163 萬^{マン}の民^{ミン}又^{マタ}於^ニ後^ノの世^セ、不^シ欲^ホ民^{ミン}の言^{コト}。田^{イヘム}吾^ニ之^ノ故^ニ、喪^{ホロホセリ}已^カ。

164 父^フ母^ボを○豈^{ナラニ}其戰勝^{セキセン}之後^ノに方^ニ言^{イハ}丈夫^{マサラト}哉^ヤ。夫損^ス身^ミ。^{二を}

165 固^{カタクセム}國^{クニ}を、不^レ丈夫^{マサラ}者^ヤ歟^ヤ。有^ア人^ニ逢^ヒ見^ミ上^ニ宮^{ミヤ}の王^{ミコ}等^{タチ}を於^ニ

166 山^{ヤマ}中^ニ。還^{マゼ}、蘇^ソ我^ニ臣^シ入^ニ鹿^カ。聞^ク而^{シテ}大^{オホ}に懼^{オソ}。

167 速^{イササ}に發^{ハツ}軍^{イクサ}旅^ツて述^セ王^{ミコ}の所^ヲ在^{マシマス}於^ニ高^{タカ}向^{ムカフ}の臣^シ國^{クニ}押^{オシ}て曰^{イハレ}速^{イササ}

168 可^カ向^{ムカフ}山^{ヤマ}に求^{モトメ}捉^{カスツ}彼^ノ王^{ミコ}。國^{クニ}押^{オシ}報^{コタヘ}て曰^{イハレ}、僕^{ヤツカレ}は守^{モリ}天^{アメノ}皇^{ミコ}の宮^{ミヤ}をて

敢^{カウ}て出^デ外^{ソトニ}。入^{イル}鹿^カ。即^{ツキ}將^{トメ}自^{ミカ}往^{ユク}。于^ニ時^{トキ}、古^{コノ}人^{ヒト}大^{オホ}兄^ニ皇^{ミコ}

17 子^コ喘^{イワケ}息^ク而^{シテ}來^{イク}問^{トハタ}向^{ムカフ}何^ニ處^ヲ。入^{イル}鹿^カ具^ニ說^セ所^ニ由^{ヨリ}。古^{コノ}皇^{ミコ}

「經」ハ「ワタ
キ」ハ「ワナ
キ」ノ誤

171 人皇子曰、鼠は伏穴に而て生、失穴を而て死。入鹿由

172 是にて止む行を遣軍の將等にて求於膽駒。竟に不能覓^{モトメウル}於

173 是、山背大兄^{オホヒホ}の王等、自山、還入斑鳩寺に。○將等^{軍のヤミ}

174 卽以兵を圍寺於是、山背大兄王、使三輪^{〇ミセケチ}文

175 文屋君を謂軍將等にて曰、吾起兵を伐入鹿を者、其

176 勝むと定之。然に由一身之故に不欲傷て殘^{ヤフリソコナヘム}ことを百姓を。是

177 以て吾之一身を賜於入鹿。終に與與子弟^{ウカヲ}妃妾^{ミメ}

178 一^{モロトモ}時に自經^{ワタキ}て俱に死也。于時五色の幡蓋種^{キメカサ}の伎^{オホシロイコエ}樂、

179 照^{テリ}灼^{ヒカリ}於空にて臨垂^{タレリ}於寺。衆人^{モロヒト}仰觀て稱嘆^{ホノ}遂に指

於入鹿。其幡蓋等變^{カヘリナリタリ}て爲黑雲。由是にて入鹿

181 不能得_レ見_レ蘇我臣蝦夷、聞山背大兄王等、

182 惣_レ亡_レ於入鹿而_レ嗔_レ罵_レ曰、噫、入鹿極_レ甚愚癡_ニ

183 專行暴_ニ爾_ノ之身_ニ命_ニ不亦殆乎。時人、說前_ノ謠_ヲ

184 之應_ニ曰、以_レ伊波能杯_ニ爾_ノ而_レ喻_ニ上_ノ宮_ニ。以_レ古佐

185 屢_ニ而_レ喻_ニ林臣_ニ也。入_ニ以_レ渠_ニ梅野_ニ俱_ニ而_レ喻_ニ燒_ニ上

186 宮_ニ。以_レ渠梅拖_ニ爾_ノ母_ニ陀_ニ礙_ニ底_ニ騰_ニ哀羅羅_ニ栖_ニ柯

187 麻_ニ之_ニ能_ニ鳴_ニ賦_ニ而_レ喻_ニ山背_ニ王之頭_ニ髮_ニ斑_ニ雜_ニ

188 毛_ニ似_ニ山_ニ羊_ニ。又曰棄_ニ捨_ニ其宮_ニ、匿_ニ深山_ニ、相_ニ也。是

百濟_ノ太子_ニ餘_ニ豐_ニ以蜜_ニ蜂_ニ房_ニ四枚_ニ放_ニ養_ニ於

190 三輪_ノ山_ニ而_レ終_ニ不蕃_ニ息_ニ

191 三年春正月乙亥朔以中臣鎌子連メス カムツカサノ爲拜神

192 祇伯カミに再シ三キリに固辭イナヒて不就ツカマツラ。稱疾マウシて退ハヘリ居ミ三嶋シマに。于時

193 輕皇子、患アソノ脚ヤマヒシ不朝マキリ。中臣鎌子連、曾イムヤキヨリ善於輕

194 皇子。故詣マウテ彼宮ノ而將ハラム侍宿トノキ。輕皇子、深、識中

195 臣鎌子連之意コ、ロヘ氣ヘ高逸スグレ。容止難コトを犯ナレ。乃使タマフ寵メクムタマヒ

196 妃阿倍ミヤ氏ノ淨掃キヨメ別殿ヘラヘ。高鋪トノ新ニヒシキ幕ネトコ。不云具ツカ給ホヤマヒ敬

197 重フカメタマフ特ケナリ異ナリ。中臣鎌子連、便カマケ感ル所ニ遇メクマ。而語舍人ニ曰、

198 殊ウケタマハル奉ミツクシ恩ニ澤ミ、過ヤサヨリ前ニ所ニ望シ。誰能（平）不キミトマシマサ使王天下ニ耶ヤ

199 謂ツルヒ充アツ舍人ノ也。舍人、便以所語ヲ陳皇ミコ子ミ。大に

中臣鎌子連爲人ナリと、惠正タシ有匡濟心スナハ。乃憤イフヒ

201 蘇我臣入鹿^ハ失^シ君^{ミコ}臣^{ミヤ}長^{ナガ}幼^コ之^ノ序^スて挾^{カサ}關^カ關^カ社^ヤ一

202 稷^セ之^ノ權^{ケン}歷^レ試^シ援^{ケン}於^ニ王^{キミ}室^{ミヤ}宗^{ミヤ}之^ノ中^{ナカ}而^{シテ}而^{シテ}求^{モトメ}可^カ也^ヤ

203 立^タ功^{コト}一^{ヒト}名^ナ哲^{サカシキ}主^ミ便^ニ附^{ツキ}心^{ココロ}於^ニ中^{ナカ}大^{オホ}兄^{ヒト}疏^{ハカリ}然^{シテ}未^{ナラ}獲^{トク}展^{ノブ}也^ヤ

204 其^{ソノ}幽^{フカイ}抱^{カキ}偶^{タマ}預^{サカ}中^{ナカ}大^{オホ}兄^{ヒト}於^ニ法^{ホウ}興^{キョウ}寺^ジ槻^キ樹^{ジュ}之^ノ下^カ

205 打^ウ毬^キ之^ノ侶^{トモ}而^{シテ}候^{マゼリ}皮^ミ鞋^{タビ}隨^マ毬^キ之^ノ脫^マ落^{オツ}取^{トル}置^{オケ}掌^テ中^{ナカ}一^{ヒト}

206 前^{マエ}跪^{ツクシム}恭^{ヒツ}奉^{ホウ}中^{ナカ}大^{オホ}兄^{ヒト}對^{タテマツ}跪^{ツクシム}敬^{キョウ}執^{シツ}自^{ミヅカ}茲^{ココ}相^{アイ}善^ニ俱^ニ

207 迹^{アト}所^{コロ}懷^{オモフ}既^{スデニ}無^{ナシ}所^{コロ}匿^{カクレ}後^{ノチ}恐^{オソ}他^{ヒト}嫌^{ムコト}頻^{マシハル}接^{ツグ}而^{シテ}俱^ニ把^{トリ}

208 黃^{ワウ}卷^{マキ}自^{ミヅカ}學^{マナブ}周^{シュウ}孔^{コウ}之^ノ教^{キョウ}於^ニ南^{ナン}淵^{エン}先^{マエ}生^{シヨウ}所^{コロ}遂^{スヘ}於^ニ

上^{ミチノサマ}、往^{カヨフ}還^{カヘル}之^ノ閒^{マダラ}竝^ナ肩^{カド}潛^{ヒソカ}圖^ス無^{ナシ}相^{アイ}不^レ協^{キョウ}於^ニ

210 於是^{ココニ}中^{ナカ}臣^{ミヤ}鎌^{カネ}子^コ連^{ツグ}議^ギ曰^{イハレ}謀^{マカ}是^{ココ}大^{オホ}事^ジ者^{モノ}不^レ如^カ有^{アル}は

211 輔^{タスケ}。請^{コフ}、納^{メシイレ}蘇我倉山田^{スミヤカ}之麻呂^{マロ}長女^{ヒメ}爲^{ヒメ}妃^{ミメ}而^{ナサ}成^{ナサ}む

212 婚^{アゴ}姻^{コト}之^{コト}昵^{アツヒ}。然^オ後^{ノチ}陳^{チン}說^{トイ}欲^{ホト}與^{ヨリ}計^ハ事^{コト}成^{ナリ}功^{イダハ}之^ノ路^{ミチ}、

213 莫^ナ近^{チカ}於^ニ茲^{ココ}。中^{ナカ}大^{オホ}兄^{ケイ}、聞^キ而^{シテ}大^{オホ}悅^{エタシ}。曲^{マギ}從^ツ所^{トコロ}に議^ギ。中^{ナカ}

214 臣^シ鎌子^{カマコ}連^{レン}、即^{ソレ}自^{ミづ}往^{ユク}て謀^{カタク}要^{カタク}事^{コト}。訖^ス而^{シテ}長女^{ヒメ}所^チ期^{キリ}之^ノ

215 夜^ヨ、被^レ偷^{ヌスマ}於^ニ族^{ヤカラ}。族^{ヤカラ}臣^シ也^{ナリ}。由^ユ是^ニ倉山田^{クラヤマタ}臣^シ、憂^{ウレ}惶^{カシコマ}、

216 惶^{ウレ}仰^{オホセ}臥^フて不知^{シラ}所^{トコロ}爲^ス。少^ウ女^メ恠^カ父^コ之^ノ憂^{カシコマル}惶^{ウレ}而^{シテ}問^トて

217 曰^{イハレ}、憂^{ウレ}悔^{クハ}何^{ナニ}也^{ナリ}。父^カ陳^{チン}其^ノ由^ユ。少^ウ女^メ曰^{イハレ}、願^{コフ}勿^{ナク}爲^ス以^テ

218 我^{オレ}奉^{タテマツ}進^{マツ}、亦^モ復^シ不^シ晚^{オソカラ}。父^コ便^オ大^{オホ}に悅^{エタシ}遂^ス進^{マツ}其^ノ女^メ。奉^{タテマツ}

219 以^キ赤^{アカ}心^{ココロ}更^ニ無^{ナシ}所^{トコロ}忌^ヒ。中^{ナカ}臣^シ鎌子^{カマコ}舉^ス佐伯^{サハヒ}連^{レン}子^コ

呂^ロ、葛^カ木^キ之^ノ稚^チ犬^{ケン}養^{ヤウ}。連^{レン}網^{ワウ}田^{テン}於^ニ中^{ナカ}大^{オホ}兄^{ケイ}。曰^{イハレ}云^ク。云^ク。

圖書寮日本書紀永治二年頃點

221 ●三月に休^{イヒトリ}雷^{イヒトリ} 休^{イヒトリ}留^{イヒトリ}茅^{イヒトリ} 産^{コウイリ}子^{コウイリ}於^{コウイリ}豐^{コウイリ}浦^{コウイリ}大^{コウイリ}臣^{コウイリ}大^{コウイリ}津^{コウイリ}の

222 宅^ノ倉^ノ倭^ノ國^ノ言^ノ頃^ノ者^ノ菟^ウ田^タの郡^ノ人^ノ押^{オシ}坂^{サカ}の直^{チキ}名^ナ關^{カン}將^{セウ}將^{セウ}

223 一^ニ童^{ウレシヒ}欣^{ウレシヒ}遊^{ウレシヒ}雪^{ウレシヒ}上^{ウレシヒ}登^{ウレシヒ}菟^{ウレシヒ}田^タの山^ノ便^ニ見^ミ紫^{ムラサキ}菌^{キノコ}挺^{タテ}雪^{ユキ}

224 而^{シテ}生^{タリ}高^{タリ}六^{タリ}寸^{タリ}餘^{タリ}滿^{タリ}四^{タリ}町^{タリ}許^{タリ}乃^{タリ}使^{タリ}童^{タリ}子^{タリ}採^{タリ}取^{タリ}

225 還^{ミス}示^{ミス}隣^{ミス}家^{ミス}摠^{ミス}言^{ミス}不^{ミス}知^{ミス}且^{ミス}疑^{ミス}毒^{ミス}物^{ミス}於^{ミス}是^{ミス}押^{ミス}坂^{ミス}

226 直^{タラフ}與^{タラフ}童^{タラフ}子^{タラフ}糞^{タラフ}而^{タラフ}食^{タラフ}之^{タラフ}大^{ヘナヘタ}有^{カウヘンキ}氣^{ヘビ}味^{ハヒ}明^{タツル}日^{タツル}往^{タツル}見^{タツル}

227 都^{カッテ}不^{ナシ}在^{ナシ}焉^{ナシ}押^{カッテ}坂^{ナシ}直^{カッテ}與^{カッテ}童^{カッテ}子^{カッテ}由^{クラヘル}喫^{タケ}菌^{タケ}藥^{タケ}無^{タケ}病^{タケ}

228 而^{イノチナカ}壽^{イノチナカ}或^{イノチナカ}人^{イノチナカ}云^{イノチナカ}蓋^{カニヒト}俗^{カニヒト}不^{カニヒト}知^{カニヒト}芝^{イフ}草^{イフ}而^{イフ}安^{イヘル}言^{イヘル}菌^{タケ}耶^カ

六月癸卯朔^ニ大^{カヒ}伴^{カヒ}馬^{カヒ}飼^{カヒ}連^{カヒ}獻^{カヒ}百^{ヒヨリ}合^{ヒヨリ}花^{ヒヨリ}其^{ヒヨリ}

230 莖^サ長^サ八^サ尺^サ其^サ本^サ異^サ而^サ末^サ連^{アヘリ}乙^{アヘリ}巳^{アヘリ}志^シ紀^キ上^{カム}郡^{カム}

231 言、有人て於三輪、山に見猿の晝睡。竊に執其臂て不

232 害其身。猿猶合一眼て歌て曰武舸都鳥爾陀底

233 屢制我。爾古彌舉曾倭我底鳴騰羅每

234 扞我佐基泥。基佐泥曾母野倭我底騰羅

235 須謀野。其人驚恠猿の歌て放捨而去。此は是經

236 歷數年て上宮の王等の爲に蘇我鞍作、圍於膽駒

237 山之兆也。戊申於劔池の蓮の中に有一の莖二の萼

238 者。豐浦大臣妄に推て曰、是蘇我臣か將榮之瑞

239 也。卽以金の墨て書而獻大法興寺の丈六の佛に。是

に國の巫覡等、折取枝葉て懸掛木綿て伺大

241 臣^ノ度橋之時^ヲ爭^テ陳^メ神語^ヲ入^リ微^ニ之^ヲ說^ス其^ノ巫^{サハ}甚^ニ
 242 多^ク不^レ可^ク具^フ聽^ク老^オ人^ト等^ノ曰^{ハク}移^カ風^{ハム}之^ヲ兆^{サシ}也^{ナリ}于^レ時^ニ
 243 有^リ謠^{ワサツタ}歌^ヲ三^{ツタ}首^ヲ其^ノ一^ハ曰^{ハク}波^ハ魯^ル爾^ニ渠^ヲ騰^ト曾^ソ
 244 枳^チ舉^メ喻^ユ屢^ル之^ヲ麻^ハ能^ニ野^ノ父^ハ播^ハ羅^ヲ其^ノ二^ハ曰^{ハク}烏^ハ智^チ
 245 可^ク扞^ヘ能^ニ阿^ハ婆^ハ努^ニ能^ニ枳^チ始^メ騰^ト余^ヲ謀^メ作^ス儒^ニ倭^ハ
 246 例^ハ播^ハ禰^ニ始^メ柯^カ騰^ト比^ハ曾^ハ騰^ト謀^メ須^メ其^ノ三^ハ曰^{ハク}烏^ハ麻^ハ
 247 野^ノ始^メ倭^ハ例^ハ烏^ハ比^ハ岐^ハ例^ハ底^ハ制^メ始^メ比^ハ騰^ト能^ニ於^ニ
 248 謀^メ提^テ母^ハ始^メ羅^ハ孺^ハ伊^ハ弊^ハ母^ハ始^メ羅^ハ孺^ハ母^ハ也^{ナリ}
) 七^ツ月^{ツキ}東^{マツ}國^ノ不^レ盡^ス河^{カハ}邊^ノ人^ヲ大^{オホ}生^フ部^ノ多^{オホ}勸^メ祭^{マツル}蟲^ヲ
 25 於^ニ村^ハ里^ハ之^ノ人^ハ曰^{ハク}此^ノ者^ハ常^{トコ}世^ノ神^ハ也^{ナリ}祭^ス此^ノ神^ヲ者^ハ

- 251 致富與壽。巫^{カムナキ}殞^イ等遂^{アサム}詐^テ託^ニ於^ニ神語^{コト}。曰^{コト}、祭^ハ是^ト常^ト。
- 252 世^セ之神^{カミ}者^ヲ貧^ヒ人^ニは致富^ヲを、老^{オホナ}人^ニは還^{マカ}て少^{コト}。由^{ヨリ}是^ニ加^{マシ}勸^メ捨^ス。
- 253 民^{タタ}の家^ノ財^{ツカ}寶^ヲ陳^{アル}酒^{サケ}陳^{アル}菜^ナ六^{ムツ}の畜^{ケモノ}於^ニ路^ノ側^ニ而^テ使^シ呼^ハて。
- 254 曰^{コト}、新^{ニヒキ}富^ヲ入^ル來^キ都^{ミヤコ}鄙^{ヒナ}之人^ノ、取^{トル}常^ニ世^ノ蟲^ヲ置^{ケル}於^ニ清^{シキ}。
- 255 座^カ歌^カ舞^{マシ}求^{モト}福^ヲ、棄^ス捨^ス珍^メ財^ヲ。都^{カヅテ}無^ク所^ヲ益^{マサル}損^{オトリ}費^ヲ。□
- 256 甚^シ。於^ニ是^ニ葛^カ野^ノ秦^シ造^ス河^{カハ}勝^{カツ}、惡^{ニム}民^ノ所^ヲ惑^{マシ}て打^ウ大^{オホ}生^フ。
- 257 部^ヘ多^{オホ}其^ヲ巫^{カムナキ}殞^イ等^ヲ恐^{オソ}て休^ユ其^ヲ勸^メ祭^{イハヒ}。時^{トキ}人^{ヒト}便^{ツキ}作^ス歌^ヲて。
- 258 曰^{コト}、禹^ユ都^ト麻^マ佐^サ波^ハ。柯^カ微^ミ騰^{トウ}母^モ柯^カ微^ミ騰^{トウ}。枳^シ舉^{キョ}曳^エ。
- 259 俱^ク屬^{ロク}。騰^{トウ}舉^{キョ}豫^ヨ能^ノ柯^カ微^ミ乎^カ。宇^ウ智^チ岐^キ多^タ麻^マ須^ス母^モ。
- 蟲^{ムシ}者^ヲ常^ニ生^{ナル}於^ニ橘^ノ樹^ノ。或^ハ生^{ナル}於^ニ曼^{ホソキ}椒^ノ。云^{コト}曼^{ホソキ}椒^ノ此^ニ。褒^{ホウ}曾^{ソウ}。

261 (平) 紀 其長四寸餘。其大如頭オホコウヘ指許。其色綠而

262 有クロマタナリ黑點。其兒全似養蠶セハ蠶ヒ。●冬十一月蘇我大臣

263 蝦夷カ兒入鹿臣、雙ツラヘ起家タツ於甘アマ檮カシ崗カシ。稱ヨビテ是大臣の

264 家を曰宮門ウヘミカド入鹿家を曰谷宮門ハサノミカド。波佐麻ハサノ稱ヨビテ男女ヲノコメノコ

(平)(平)(平)

265 曰王ミ子コ。家外作城カキ。門カキ傍ホトリ作兵庫タカラ。每門置

266 盛イル水舟一、木鉤カキ數十トホアマリ以備火災ツサハヒ。恆ヒト使力人ヲ持

267 兵ヲ守家を。大臣使長アタヒユ直ヲ於大丹穗オホニホ山ノ造梓ハコ削ス

268 寺ヲ更ニ起家を於畝傍山ノ東。穿池ヲ爲城キ。起庫ツヘモノクラ儲

恆ヒト將五イ十イ兵ヲ繞身メグルン出入。名健ナカヲ人ヲ曰東アツマ方

271 儻ハ從ヘ者ト氏ノ人等入侍其門。名曰祖オヤ子コ孺ワラハ

271 者。漢。直等モヘラ全侍二の門に

ヨヨ

272 四年春正月ニ或は於阜ヲカ嶺タケ、或は於河邊、或は於宮

273 寺之ニ聞ニテ遙ニ見ニ有物而ニテ聽キコル猿サル吟マヤコフ。或は一十許。或は

274 廿許。就而視レ之、物便不見ニテ尙聞鳴ナリ嘯ウナム之響オト。

275 不能獲ミル觀ミル其身ミル。舊本云是歲、移ナクム京ミヤ於ニ難ナニ時ト。

276 人の曰、此是、伊勢大神之使也。●夏四月戊戌

277 朔ニ高麗の學問僧等言、同學、鞍作得志以虎ヒトて

278 友ト學取其術ハケ。或使枯山カラ變ナラ爲青山アヲ。或使黃

279 地ニテ變爲白水ニ。種ヲ奇術ハケ、不可殫ツクシ究キハム。又虎、授

針ヘリて曰、慎ユメと矣。と勿令コト人ニ病、無不云愈イユ。果て如ニ

(恒(上))

281 所。言、治に無^云不^イ差^エ。得^(入)志^(上)恒^(上)以其針^{針を}て隱^カ置^カ柱^柱の中。

282 於後、虎析^{ツリ}其柱^{柱を}て取^ニ針^{針を}て走^ニ去^ク。高麗國、知^(入)得^(上)志^(上)。

283 欲歸之意^{意を}て與^{アツキモ}毒^毒て殺^ス之^ヲ。●六月丁酉朔甲辰中の

284 大兄、蜜^ニ謂^フ倉山田の麻呂の臣^臣て曰、三^{カラヒト}韓進調之

285 日、必將使^{イマシ}卿^卿て讀^{アケ}唱^唱其表^{表を}遂^ニ陳^チ欲斬入鹿^{鹿を}之

286 謀^モ。麻呂臣、奉許焉。戊申天皇御大極^ホ殿^ニ。古

287 人大兄、侍^ベ焉。中臣の鎌子連、知蘇我の入鹿^鹿の臣^臣か

288 爲^{ナリ}人、多疑^テ晝夜持^{ベケル}劍^劍而^{ダチ}教^ヲ俳^{ワサヒト}優^ニ方^{タハカリ}便^ニ令^ヲ解^ス

鹿臣、咲而解劍^{劍を}入^モ侍于座。倉山田麻呂

29 臣進而讀唱三^{カラヒト}韓表^{フミ}文^文於是、中大兄、戒衛^{イマシメ}衛^{ムクヒノ}衛^{ツカサ}

291 門カシノ府モトて一ニ時トに俱ニ鑣シカ十ニ通ト十二通ト門カシノて勿ナ使セ往ハセ！

292 來。召聚衛門ニケ府ニ於一ニ所ニて將給祿モク。時ニ中大兄、

293 卽自執長槍ホコ隱ヌ於殿ノ側。中臣鎌子連等、持

294 弓矢ニ而テ爲助衛マモル。使海犬養連勝麻呂ニ授ハ箱ハコ

295 中兩劍ニ於佐伯連子麻呂與ニ葛城稚犬養

296 連網アミ田ニ曰、努ヌメミ力チカラ急イサ須應斬。子麻呂等、

297 以水ミヅ送ス飯イ恐而反吐タマヒツ。中臣鎌子連、噴セメ而使

298 勵ハゲ倉山田麻呂臣恐唱表フミ文、將盡而子麻

299 呂等不レ來イッ流汗アセ浹ウル身ニ亂聲、動手ワナ。鞍作臣佐

て問ヒて何故ナニ掉戰ハルヒ。山田麻呂對コタ曰、恐カシノ近チカクことハ天皇ニ、

301 不覺^{オホカ}流汗。中大兄、見子麻呂等^ニ畏入鹿^{イナカ}威^{イナカ}。

302 便^{メクラヒ}旋^テ進^メ。曰、咄^ヤ。嗟。卽共子麻呂等出其不

303 意^{ユクリモナキ}以^ニ劔^ヤ傷^カ割^サ入鹿頭肩^カ入鹿驚起。子麻呂^{（イナカ）}

304 呂運手^ヲ揮^フ劔^ヲ傷^ヤ其一脚^ヲ。入鹿轉^{マヒ}就御座^{ミツ}叩^イ。

305 頭^テ曰、當^{マシマス}居^ル嗣^ノ位^ニ、天之子也。臣^{ヤコ}不知罪^ヲ乞^{コフ}垂^ス。

306 審^{アキラヘ}察^{サツ}。天皇大^ニ驚^テ詔中大兄^ニ曰、不知所作^{スル}、有

307 何^{ナニ}の事^{コト}耶。大兄伏地^{フシ}奏^{マツ}曰、鞍作盡^ニ滅^メ天宗^{ヤマトノミコ}將

308 傾^{ヒツキ}日^ノ位^ヲ。豈^{ナラニ}以^テ天孫^{アメノミコ}代^{カヘ}鞍作^ニ耶。更名^ニ鞍作^{カサキ}鹿^カ。

9 卽^ト起^テ入於殿中。佐伯連子麻呂、稚犬養

31 是^{コト}網田、斬入鹿^ノ臣^ヲ。是日雨下^{フリ}潦水^{イサナミツ}溢^{イヘリ}庭^ニ。以

〔夷、を〕
〔に〕ノ誤

311 席障アシロ一子シトミを覆オホフ鞍作カサ屍ビ古人大兄見走入私宮シミヤにて

312 謂於人ヒトニ曰韓人殺鞍作臣ヲ謂カガシ因ユヘ韓カシ政シ而ニ誅ツキ吾心痛矣。

313 卽入臥ボト內ノ杜サシ門ヲ不レ出。中大兄卽入法興寺ホフキウジ

314 爲城キ而備。凡諸の皇子、諸の卿大夫、臣、連、伴の造、

315 國造、悉ミツクニ皆隨ミツセ侍。使人ヲ賜鞍作カサ臣カ屍シ於大臣

316 蝦夷エミ於是、漢の直等、摠スヘ聚ヤカラ眷ヲ屬ヲ、擐キ甲ヨロヒ、持兵ヲ助

317 大臣ヲ處設軍陣イササ中大兄使將軍臣ヲ勢德陀

318 臣ヲ以天地ツミ開ヒラケシ闢キヨリ君臣始キミヤツコラカ有ミ說トカシメ於賊黨アサダマ令知

319 所起。於是高向臣國押サシ、謂漢直等ニ曰吾等、

等ヒケチ由君キミ大郎オホノロ應オウシ當被レヌ戮。大臣亦、於今日

(去)
(平)

〔畫〕
〔畫〕
〔畫〕

321 明日、立タチトコロ俟マツル其ツミ誅ツミ決ウツムマシ矣。然則誰か空戰レム畫レム被レム刑ツミ。

322 乎ヤト言ヤト畢スキ解スキ劍ツリ投ツリ弓コ捨セ此セ而シテ去セ。賊セ之セ徒セ亦セ隨テ散サリ。

323 走ウラ己ミ酉ウ蘇ス我ガ臣シ蝦夷等ムトシ臨コト誅コト悉シテ燒ヒ天皇ミコ之ノ記ミ。

324 國クニ記ミ珍メ寶ホノ船フネ史シ惠ヱ尺シ。即トキ疾トキ取ツ所ヤカル燒ヒ國クニ記ミ而シテ。

325 奉ホウ中ナカ大オホ兄ケイ。是コト日ヒ蘇ス我ガ臣シ蝦夷及鞍作カサノリ屍シ許ヨリ。

326 葬ムスビ於ニ墓ハカ。復ナホ許ヨリ哭ナク泣ナク。於ニ是コト或シテ人ヒト說ハシメ第ハシメ一ハシメ謠ウタ歌ウタ而シテ。

327 曰イハレ其ノ歌ウタ所ニ謂フ波ハ魯ル爾ニ渠ニ騰ト曾ソ枳シ舉キ喻ヨ屢ル。

328 之ノ麻マ能ノ野ノ父フ播ハ羅ラ此コト即トキ宮ミヤ殿テン接マセ起タテ於ニ嶋シマ之ノ大オホ。

9 家イ而シテ中ナカ大オホ兄ケイ與ト中ナカ臣シ鎌カ子コ連ツ蜜ミ圖ツ大オホ義ギ而シテ。

32 歌ウタ之ノ所ニ消シ。入イル鹿カ之ノ兆サシ也。說フキ第ハシメ二ハシメ謠ウタ歌ウタ而シテ曰イハレ其ノ歌ウタ之ノ所ニ消シ。

〔「磨」誤「麼」〕

331 謂、鳥智可挖能阿婆努能枳^{（上）}始^{（上）}騰^{（上）}余謀^{（上）}

332 佐儒倭例播^{（上）}禰始柯騰比^{（上）}騰曾^{（上）}騰余謀^{（上）}須^{（上）}

333 此即^{（上）}上宮^{（上）}王等^{（上）}性順^{（上）}都^{（上）}無有罪^{（上）}而爲^{（上）}入鹿^{（上）}

334 見害^{（上）}雖不自報^{（上）}天使人^{（上）}誅之^{（上）}兆^{（上）}也。說第^{（上）}三^{（上）}

335 謠歌^{（上）}て曰、其歌^{（上）}所謂^{（上）}鳥磨野始^{（上）}儼^{（上）}倭例^{（上）}鳥比^{（上）}

336 以例^{（上）}底制^{（上）}始比^{（上）}騰能^{（上）}於謀^{（上）}提母^{（上）}始羅^{（上）}孺^{（上）}伊^{（上）}

337 幣母^{（上）}始羅^{（上）}孺^{（上）}母^{（上）}也^{（上）}此即^{（上）}入鹿^{（上）}臣^{（上）}忽^{（上）}於宮^{（上）}中^{（上）}

338 爲佐伯連子麻呂稚犬養連網田^{（上）}所斬^{（上）}之

339 兆也。庚戌讓位^{（上）}於輕皇子立中^{（上）}大兄^{（上）}爲皇

子^{（上）}

341 日本書紀卷第廿四

附記

本稿を成すに當り、宮内廳書陵部當局・橋本不美男先生を始めとする各位には多大の御便宜を御取り計らひ戴いたことを特記し、謝意を捧げ奉る。尚、本稿は文部省科學研究費補助金を交附された『日本書紀古訓の研究』の成果の一部であり、また北海道大學文學部に於ける演習の成果の一部でもある。困難を極める組版に御協力戴いた札幌室谷印刷株式會社の勞を多とし、また校正には北海道大學大學院學生永田信也氏・伊原信一氏・漆崎正人氏を煩せたことを、併せて記し謝意を表す。